

(公財)北九州市芸術文化振興財団
委託調査

北九州芸術劇場
事業評価調査
[報告書]

14

2018年3月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、(公財)北九州市芸術文化振興財団から委託を受けて、ニッセイ基礎研究所が実施した「北九州芸術劇場 事業評価調査(その14)」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっており、地方公共団体においても、政策評価から施策評価、事務事業評価という評価体系が定着している。しかし、文化施設や文化事業の評価には、その特性を踏まえた独自の評価体系や指標が必要であるという認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

北九州芸術劇場は、そうした動きに先立ち、2003年度の開館当初から独自の事業評価調査に継続的に取り組み、かつ、その成果を公開しており、公立文化施設の事業評価モデルとして全国から注目されている。

14年目にあたる2016年度調査では、継続調査として①劇場の運営データの分析、②主催事業および提携・協力事業公演の観客アンケート調査、③貸館利用に関するアンケート調査、④経済波及効果とパブリシティ効果の試算を実施した。その結果からは、これまでと同様に、北九州芸術劇場が着実に成果をあげ、北九州市の芸術文化の創造拠点・発信拠点として、鑑賞者や利用者から広く認知、支持されていることがうかがえる。また、今年度は⑤テーマ調査として、「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査」と題し、北九州芸術劇場の劇場内で行われる公演事業や、劇場外で行われる事業の関係者を対象としたグループインタビューを実施した。北九州芸術劇場が、まちづくりや地域経済の活性化に、どのような役割を果たしてきたのか、過去14年間の成果や波及効果の検証を行った。

末筆ではあるが、2003年度以降、14ヶ年にわたり、この貴重な調査の機会を与えていただいた(公財)北九州市芸術文化振興財団、劇場スタッフの方々、ならびに調査にご協力いただいた観客や利用者の方々に心より感謝申し上げるとともに、本調査の成果が今後の北九州芸術劇場の運営に有効に活用され、より一層、意義のある事業や活動が展開されることを願うものである。

2018年3月
ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室

◎ 目次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
-----------------------------	---

[本編]

第1章 2016年度事業の概要と実績	3
第2章 観客の特性と観客からみた評価	19
第3章 貸館利用者からみた評価	29
第4章 経済波及効果とパブリシティ効果	34
第5章 まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との 関わりに関する調査	40
第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果	50

[資料編]

資料Ⅰ 観客調査結果	資-1
資料Ⅱ 貸館利用者調査結果	資-55
資料Ⅲ 経済波及効果	資-85
資料Ⅳ パブリシティ一覧	資-99
資料Ⅴ まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との 関わりに関する調査	資-107

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査研究は、2003年8月に開館した北九州芸術劇場について、毎年、事業や運営の評価に関する調査を行うとともに、その調査結果に基づいて、より良い劇場運営のあり方を検討することを目的としている。

14年目にあたる2016年度は、03年度あるいは04年度から継続して実施している、次の4つの調査(「継続調査」)

- ①劇場運営に関する基礎データの収集・分析
 - ②公演に来場した観客を対象としたアンケート調査による公演事業に関する評価
 - ③貸館利用者を対象としたアンケート調査による施設利用に関する評価
 - ④北九州芸術劇場の経済波及効果とパブリシティ効果の算出
- を実施した。さらに、16年度の「テーマ調査」として、

⑤まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査と題し、実績調査とヒアリングによる調査を実施した。

(2) 調査の内容

①劇場運営基礎データの収集・分析

事業数、公演回数、入場者・参加者数、施設稼働率など、劇場運営に関する基礎データを整理し、03年度から14年間の経年分析を行なった。

②公演に来場した観客に対するアンケート調査

北九州芸術劇場の自主事業と提携・協力事業公演の観客を対象に、以下の2つの視点に基づいたアンケート調査を実施した(詳細は、p.資-1～資-54参照)。

- 事業評価の基礎となる北九州芸術劇場の施設やサービス、公演内容等に関する観客の満足度、ニーズの把握
- 劇場運営の基礎となる観客の属性(年齢、性別、居住地)、北九州芸術劇場における鑑賞行動(情報入手経路、鑑賞の動機、北九州芸術劇場での鑑賞回数)、日頃の鑑賞行動(鑑賞頻度、鑑賞ジャンル等)など、観客特性の把握

③貸館利用者を対象としたアンケート調査の分析

貸館利用者を対象に05年度から実施している「施設利用に関するアンケート調査」の結果について、16年度分をとりまとめた(詳細は、p.資-55～資-83参照)。

④経済波及効果、パブリシティ効果の把握分析

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は、p.資-85～資-97参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は、p.資-99～資-106参照)。

⑤まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査

「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査」と題し、北九州芸術劇

場が、まちづくりや地域経済との関わってきた事業の実績と推移を整理、分析した(詳細は、p. 資-109～資-120参照)。また、北九州芸術劇場の劇場内で行われる公演事業や、劇場外で行われる事業の関係者を対象としたグループインタビューを実施し、北九州芸術劇場がまちづくりや地域経済の活性化に果たした役割、成果や波及効果を検証した(詳細は、p. 資-121～資-125参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「第1章 2016年度事業の概要と実績」
劇場運営の基礎データならびに事業収支を整理した。
- 「第2章 観客の特性と観客からみた評価」
自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、①観客の属性、②公演や劇場に関する意見(公演やサービスへの満足度など)、③日頃の鑑賞行動について、整理・分析を行った。
- 「第3章 貸館利用者からみた評価」
貸館利用者に対するアンケート調査の結果から、①劇場の施設、運営や対応に関する満足度、②重視項目について、調査結果の整理・分析を行った。
- 「第4章 経済波及効果とパブリシティ効果」
産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。
- 「第5章 まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査」
実績調査とグループヒアリング調査から得られた論点を整理し、調査結果と考察をまとめた。
- 「第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果」
第1章から第5章までの調査結果を総合的に分析するため、次の評価フレームに沿って調査や評価の結果、改善のポイントなどを整理した。

A 劇場の設置目的:

鑑賞系事業、創造系事業、普及系事業、市民文化活動支援、地域への貢献

B 運営・管理: 場の提供・支援、施設のホスピタリティ・サービス、施設の維持管理

C 経営: 経営体制、リサーチ&マーケティング、経営努力

(2) 資料編

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「観客調査結果」では、16年度の自主事業と提携・協力事業公演に来場した観客を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「貸館利用者調査結果」では、09年度～16年度の8ヶ年の調査結果を、設問ごとに整理した。

- 資料Ⅲ「経済波及効果」では、16年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果、雇用効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅳ「パブリシティ一覧」では、金額換算の基礎となった16年度の新聞記事データの一覧を掲載した。
- 資料Ⅴ「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査」では、過去の事業実績の推移を整理し、グループヒアリング調査の概要を掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(研究理事・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 主任研究員)

太田真奈美(社会研究部 研究アシスタント)

北九州芸術劇場
事業評価調査
[本編]

第1章 2016年度事業の概要と実績

本章ではまず、事業評価の基本となる北九州芸術劇場の事業の概要、入場者数や稼働率、収支状況など、2016年度の事業の実績について、過去データとともに整理した。

1. 事業の実績

まず、北九州芸術劇場の事業の基本方針と16年度の事業概要は次のとおりである。

(1) 事業の基本方針

北九州芸術劇場では、開館以来「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードにした事業展開が行われてきた。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。それぞれの目的や考え方、事業の内容は次のとおりである。

- **【創る】**: 北九州発のオリジナリティのある良質の作品づくりを通じて、地域資源の発掘と北九州市のシティブランド発信に取り組む。
- **【育つ】**: 『交流』と『育成』を柱に、舞台芸術の力を活用し、地域の未来を担う人材を育成する。
- **【観る】**: 幅広いラインナップの充実を図り、市民に良質な公演を提供する。また、新たな観客づくりや、にぎわいづくりに寄与する。
- **【支える】**: 市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を積極的に行う。

(2) 事業の内容と実績、入場者数

- 16年度もこうした4つのコンセプトに基づき、自主事業全体(学芸事業、支援事業、連携事業は含まず)で、34本の事業・289回の公演・アクティビティが行われた。第1期(03年度～07年度)と第2期(08年度～12年度)の推移を見ると、09年度以降の学芸事業の実施回数が減少したことで、第1期に比べて第2期の公演数が減少し、第3期の4年目の2016年度は第2期の平均に近いアクティビティとなっている。公演事業の公演数に大きな変化はない(図表1-1)。
- 16年度では40,989人が公演鑑賞やアクティビティに参加し(図表1-2)、自主事業で総席数の設定のある公演事業の入場率は、84.7%となった(図表1-3)。
- 03年度からの自主事業における入場者数と入場率の経年の推移を見ると、入場者数は年度によって増減が大きいものの、入場率では8割以上を維持しており、09年度以降は9割前後で推移している(図表15)。

図表1-1 事業数・公演数の実績(03年度～16年度)

	創造事業		公演事業		提携・協力事業		オープニング 企画		演劇祭		公演事業 計		学芸事業 実施回数	支援事業		連携事業		総合計
	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数		事業数	公演数	事業数	公演数	
2003年度	3	35	15	35	5	8	2	2	2	9	27	89	219	—	—	—	—	308
2004年度	4	15	23	46	6	15	—	—	2	9	35	85	320	—	—	—	—	405
2005年度	6	45	24	42	6	13	—	—	2	7	38	107	297	—	—	—	—	404
2006年度	7	61	18	45	7	16	—	—	2	8	34	130	291	—	—	—	—	421
2007年度	5	24	22	49	11	28	—	—	3	8	41	109	283	—	—	—	—	392
第1期 平均	5	36	20	43	7	16	—	—	2	8	35	104	282	—	—	—	—	386
2008年度	8	41	15	33	5	12	—	—	1	28	29	114	279	—	—	—	—	393
2009年度	6	40	16	42	5	16	—	—	1	7	28	105	175	—	—	—	—	280
2010年度	5	21	17	39	9	25	—	—	1	17	32	102	178	—	—	—	—	280
2011年度	5	37	19	42	8	12	—	—	1	44	33	135	96	—	—	—	—	231
2012年度	5	22	18	43	9	20	—	—	6	17	38	102	203	—	—	—	—	305
第2期 平均	6	32	17	40	7	17	—	—	2	23	32	112	186	—	—	—	—	298
2013年度	4	21	17	46	9	30	—	—	7	22	37	119	200	—	—	—	—	319
2014年度	5	16	13	34	13	42	—	—	9	82	40	174	240	—	—	1	3	414
2015年度	5	20	20	48	9	24	—	—	7	50	41	142	135	5	75	3	14	278
2016年度	6	29	14	48	9	21	—	—	5	41	34	139	151	6	77	3	16	289
累計	74	427	251	592	111	282	2	2	49	349	487	1,652	3,067	11	152	7	33	4,719

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。

図表1-2 入場者・参加者数の実績(03年度～16年度)

	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	公演事業 計	学芸事業	支援事業	連携事業	総合計
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390	2,404	—	—	47,794
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095	4,734	—	—	41,829
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047	6,327	—	—	46,374
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289	6,758	—	—	72,047
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195	6,200	—	—	57,395
第1期 平均	11,661	26,385	7,873	—	1,566	47,803	5,285	—	—	53,088
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068	10,577	—	—	46,645
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783	5,889	—	—	42,672
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579	5,404	—	—	40,983
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716	3,568	—	—	32,284
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458	5,900	—	—	35,358
第2期 平均	8,596	18,877	3,899	—	1,949	33,321	6,268	—	—	39,588
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312	6,554	—	—	44,866
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059	6,332	—	296	42,687
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396	6,377	9,774	1,463	49,162
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745	5,496	3,113	2,385	40,989
累計	114,316	311,377	101,246	1,592	33,601	562,132	82,520	12,887	4,144	641,085

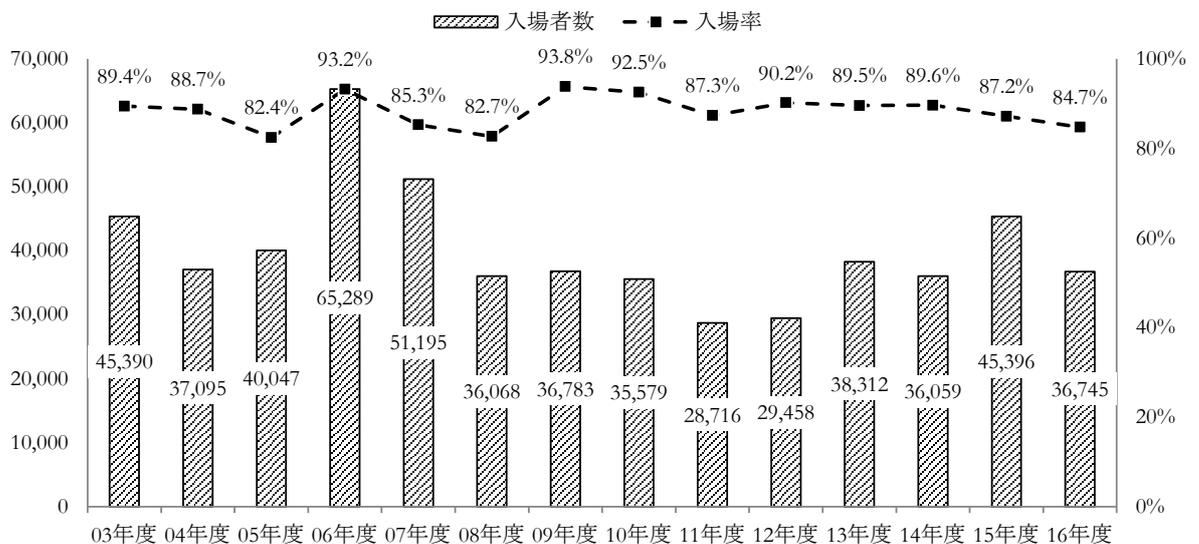
※2015年以降の総合計には支援事業、連携事業のうち再掲の事業は含めていない。

図表1-3 総席数・入場率の実績(03年度～16年度)

	公演事業の入場者数の計 (再掲含む)	総席数の設定のある公演事業の入場者数 (実数:再掲除く)	総席数	入場率
2003年度	45,390	45,390	50,756	89.4%
2004年度	37,095	37,095	41,808	88.7%
2005年度	40,047	40,047	48,575	82.4%
2006年度	65,289	65,289	70,065	93.2%
2007年度	51,195	51,195	60,036	85.3%
第1期 平均	47,803	47,803	54,248	88.1%
2008年度	36,068	34,379	41,580	82.7%
2009年度	36,783	36,783	39,225	93.8%
2010年度	35,579	35,579	38,447	92.5%
2011年度	28,716	28,716	32,885	87.3%
2012年度	29,458	25,537	28,316	90.2%
第2期 平均	33,321	32,199	36,091	89.2%
2013年度	38,312	33,657	37,585	89.5%
2014年度	36,059	30,678	34,225	89.6%
2015年度	45,396	38,781	44,494	87.2%
2016年度	36,745	35,866	42,333	84.7%
累計	562,132	538,992	610,330	88.3%

※2008年度および2012年度以降は、総座席数の設定をしていない公演を入場率の算出から除いている。

図表1-4 入場者数・入場率の推移(03年度～16年度)



- 以下、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業ごとに、事業の内容と実績をとりまとめた。(16年度事業の実績一覧を図表16に整理した。)

①創る:創造事業

- 「創る」に対応した創造事業では、
 - 北九州芸術劇場プロデュースとして、人間のデリケートな内面をシュールな笑いと絶妙なリアル感で描いた「しなやか見渡す穴は森は雨」
 - 北九州の街に長年暮らしてきた高齢者の方々の“記憶”をもとに物語を描く、5年目を迎えた「Re:北九州の記憶」
 - 第一線で活躍するアーティストがワークショップを行い、市民のみなさんと一緒に舞台

を創造する市民参加型の劇場レパートリー、合唱物語「わたしの青い鳥2016」

- 北九州市立美術館が所蔵する絵画をモチーフに演劇作品を製作した劇場と美術館のコラボレーション企画の第4弾、「モネ、逆さまの睡蓮」
- 俳句をモチーフにした演劇作品の創作の第2弾で、現代の女性から俳句を公募し、選出した6句の俳句で作品を創作した、女性の眼と句で綴る演劇「風、騒グ。」といった事業が実施された。
- 「しなやか見渡す穴は森は雨」は北九州(8回)と東京(3回)で公演が行われた。
- 16年度は6事業で29回の公演が行われ、入場者数は3,128人となっている。15年度と比べると、公演数、入場者数ともに増加している(15年度の実績は5事業、20回、2,723人)。入場率では、15年度の87%から16年度では85%と若干減少している。
- 個別の入場率では「Re:北九州の記憶」で97%、「しなやか見渡す穴は森は雨」の北九州公演が92%、「モネ、逆さまの睡蓮」で90%となっている。「わたしの青い鳥2016」が72%となっているが、それ以外の公演の入場率は80%を超え、市民からの支持の高さがうかがえる(図表1-5)。

②育つ:学芸事業

- 「育つ」に対応した学芸事業では、
 - 気鋭のダンサー、伊藤キムと GERO メンバーが一週間ほど滞在し、地元の表現者たちとワークショップを重ねて小品の創作・発表を行う、「北九州 GERO 活動プロジェクト」
 - 「アーティスト往来プログラム」として、演劇・ダンス分野から国内外の一線で活躍するアーティストを招き、地域、学校、劇場などで行う「ワークショップ」、「アウトリーチ」
 - 高校生に[的]を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただき、高校生が劇場を[的]にして集うきっかけを提供した「高校生[的]シアター」
 - 地域文化の振興を担う人材(市民、劇場・文化施設等のスタッフ、地域のアーティスト等)の育成や人的ネットワークの形成を目的に、舞台芸術分野の専門家を招いたレクチャーやワークショップなどを開催した「劇場塾2016」
 - 創造・公演(アウトリーチやワークショップ)参加として、「合唱物語『わたしの青い鳥2016』」、「Re:北九州の記憶」、「ダンスダイブウィーク」など、学芸事業全体では、創造参加も含め、14事業で151回のアクティビティが実施され、参加延人数・入場者数は5,496人となっている(図表1-5)。
- 15年度と比べると、アクティビティの回数は増加したが、参加者数は減少している(15年度の実績は135回、6,377人)。

③観る:公演事業

- 「観る」に対応した主催公演事業では、野田秀樹率いるNODA・MAPの、東京、大阪、北九州を巡る2年半ぶりの新作、第20回公演「逆鱗」をはじめ、“作・演出”KERA×“座長”古田新太、劇団☆新感線、中谷美紀主演による「猟銃」、パルコ・プロデュース「星回帰線」、山海塾などの人気の高い舞台芸術公演、子どもたちの劇場シリーズ2016「わかったさんのクッキー」や「黄色いくつしたの夢 "The Dream of a Yellow Sock"」といった子どもを対象とした公演など、幅広い観客層を対象とした公演が実施された。
- 公演事業では14事業が上演され、公演数は48回、入場者数は23,970人となっている。15年度と比べると、公演数は同数、入場者数は減少している(15年度の実績は48回、26,296人)。公演事業の入場率は85%と高い(図表1-5)。

- 提携・協力事業では、小劇場・現代演劇や落語など9事業が上演され、公演数は21回、入場者数は8,117人であった。15年度と比べると、公演数、入場者数ともに減少している(15年度の実績は42回、13,162人)。
- 創造事業、公演事業、提携等事業、フェスティバルを含めた公演事業全体の公演作品数は34本、公演数は139回、入場者数は36,745人である(再掲事業を含めた計)。15年度の年間入場者数と比べて減少しているが、第2期(08年度～12年度)の平均は上回っている。(図表1-3)。

④支える: 地元劇団等の創造活動支援、多施設との連携、貸館事業

- 「支える」に対応した主催事業では、
 - 劇場や街なかを会場に、公演やワークショップなど、国内外で活躍するアーティストによる多彩なプログラムで開催された「ダンスダイブウィーク」
 - 地域文化の発展・表現活動の支援の一環として、創造工房・稽古場を作品上演の場として使用する「演カツ!!」
 - 九州各地の劇団が短編作品を上演し勝敗を競う「劇ツ×20分」
 - 「モノづくりの都市」として栄えてきた北九州の地域資源や生活文化を活用し、演劇、ダンス、音楽、アートのプログラムをまちなかで開催した「北九州芸術工業地帯」
 - 高校生以上を対象に戯曲講座を開催した「シアターラボ」、などを行った。
- 支援事業の入場者数は3,113人(前掲の「観る:公演事業」と「育つ:学芸事業」の入場者数の計に含まれる)、設定席数のある事業の入場者数は1,497人(前掲の「観る:公演事業」の入場者数の計に含まれる)。
- 上記の事業以外に、連携事業として、
 - 北九州市立美術館とのコラボレーション企画の第四弾として、劇場と美術館との合作ならではの特別企画「モネ、逆さまの睡蓮」(前掲の「創る:創造事業」の再掲)
 - 北九州市立響ホールと連携し、一流の演奏家によるコンサートと楽しいトークを500円で提供する「ワンコインコンサート」
 - 北九州市立響ホールと到津の森公園と3館連携で開催したダンスワークショップ「どっちが動物園!？」などを行った。
- また、「支える」では市民の文化活動の支援を貸館として行い、「提案する劇場」として、使用申込みから当日までのケア、催し内容へのアドバイス、施設の安全性や非常時対応の説明等、使用者が安心して催しを開催できるように総合的にサポートした。
- 貸館事業では、市主催事業、財団主催事業も含め、公演や講演など、計246事業が開催された。公演・講演数は263回、入場者数は181,092人となっている。

図表1-5 北九州芸術劇場 自主事業実績一覧(16年度)

1 創造事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.4 「モネ、逆さまの睡蓮」	北九州市立美術館分館	5/19～22	8	480	433	90%
2	北九州芸術劇場プロデュース/市民参加企画 合唱物語「わたしの青い鳥2016」	中劇場	7/10	1	583	418	72%
3	女性の眼と句で綴る演劇「風、騒グ。」	小劇場	8/27・28	3	274	229	84%
4	北九州芸術劇場リーディングセッションvol.27 「TIMES LIVE」	小劇場	11/12～14	3	321	285	89%
5	北九州芸術劇場+市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」	小劇場	1/13～15	3	374	361	97%
6	北九州芸術劇場プロデュース 「しなやか見渡す穴は森は雨」北九州公演	小劇場	2/26～3/5	8	890	820	92%
	北九州芸術劇場プロデュース 「しなやか見渡す穴は森は雨」東京公演	あうるすぽっと	3/10～12	3	690	582	84%
	北九州芸術劇場プロデュース「しなやか見渡す穴は森は雨」小計			11	1,580	1,402	89%
創造事業 小計				29	3,612	3,128	87%

2 公演事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	NODA・MAP第20回公演「逆鱗」 (3/31～4/3 5公演のうち4公演)	大ホール	4/1～3	4	5,040	4,963	98%
2	劇団☆新感線 いのうえ歌舞伎《黒》 BLACK「乱鶯(みだれうぐいす)」	大ホール	5/8～16	10	11,910	9,445	79%
3	「猟銃」	中劇場	5/27～29	3	1,875	1,602	85%
4	「バーマ屋スマレ」	中劇場	6/11・12	2	1,204	758	63%
5	ラッパ屋 第42回公演「筋骨ナシコ」	中劇場	7/17	1	446	392	88%
6	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2016—海外編— ア・mano "A Mano/By Hand"	創造工房	7/16・17	3	180	143	79%
	黄色いくつしたの夢 "The Dream of a Yellow Sock"	小劇場	7/16・17	2	232	206	89%
	大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2016—海外編— 小計			5	412	349	85%
7	おいしいおかしいおしぼい「わかったさんのクッキー」	小劇場	8/13・14	2	264	259	98%
8	「ヒトラー、最後の20000年～ほとんど、何も無い～」	中劇場	8/27・28	3	1,860	1,705	92%
9	ダンスダイブウィーク						
	DANCE 20min.	北九州まなびとESDステーション	9/10・11	2	98	94	96%
	北九州芸術劇場×小倉昭和館連携「昭和館で、ダンスに魅せられて」ダンスパフォーマンス&ダンス映画上映	小倉昭和館	9/17	2	-	105	-
	北九州芸術劇場×北九州市身体障害者福祉協会アートセンター レインボードロップスダンス公演「探せ宝を、虹のふもとに！」	小劇場	9/18	1	120	118	98%
	夕暮れダンス「ちよいとごめんよ、じゃまするよ。」	11TAP(小倉北区飲食店)リバーウォーク北九州・野外角打ち	9/20・22	2	-	276	-
	ショーケース	小劇場	9/21・22	2	218	197	90%
ダンスダイブウィーク 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				9	436	790 409	94%
10	「sutra」	大ホール	10/8	1	858	783	91%
11	平成28年度 公共ホール演劇ネットワーク事業 「演出家だらけの青木さん家の奥さん」	小劇場	10/29・30	2	272	243	89%
12	パルコ・プロデュース「星回帰線」	中劇場	11/25～27	4	2,324	2,033	87%
13	山海塾「降りくるものななかでーとぼり」	中劇場	3/19	1	569	480	84%
14	「劇トツ×20分」2017	小劇場	3/19	1	172	168	98%
公演事業(北九州舞台芸術フェスティバルを除く) 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				48	27,642	23,970 23,589	85%

〈北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」〉

1	モノレール公演「はなれても、燈」	北九州モノレール内	12/2～4	3	354	309	87%
2	且過市場アーティストインレジデンス「写真家、浅田政志とつくるドラマチックロケーション！@且過市場」	且過市場内 スタヂオタンガ	2/5	1	-	19	-
	[写真展示]		3/1～5 3/14～18	常設展示		209	-
3	且過市場アーティストインレジデンス「且過語り物語」	且過市場内 スタヂオタンガ	2/10・11	4	140	108	77%
4	リバ・ディスコ[ワークショップ]	創造工房	3/24・25	3	-	126	-
	[本番]	リバーウォーク北九州	3/25	1	-	144	-
リバ・ディスコ 小計				4	-	270	-
5	関連企画「ぶらり♪まちなか劇さんぽ」(7劇団による公演)	小倉区内店舗等	2/4～3/11	29	680	615	90%
北九州舞台芸術フェスティバル 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				41	1,174	1,530 1,032	88%

公演事業 小計(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)	89	28,816	25,500 24,621	85%
--	----	--------	------------------	-----

※客席数を定めていないプログラムは、入場率の算定には含めていない。

3 提携等事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	【協力公演】立川志の輔独演会	大ホール	4/22	1	1,269	1,188	94%
2	久光製薬カルチャー・スペシャル 彩の国シェイクスピア・シリーズ第32弾「尺には尺を」	大ホール	6/17～19	4	5,076	4,581	90%
3	【協力公演】バルコ・プロデュース 「母と惑星について、および自転する女たちの記録」	中劇場	8/13～14	2	1,060	564	53%
4	【協力公演】葛河思潮社 第五回公演「浮標(ぶい)」	大ホール	8/28	1	800	287	36%
5	木ノ下歌舞伎「勸進帳」	小劇場	11/19・20	2	252	227	90%
6	南河内万歳一座「滅裂博士」	小劇場	12/10・11	2	260	218	84%
7	KAKUTA「愚図」	小劇場	12/17・18	3	408	352	86%
8	ブルーエゴナク第十回公演 5周年記念公演 「ふくしゅうげき」	小劇場	1/21・22	3	378	338	-
9	MONO「ハテノウタ」	小劇場	3/11・12	3	402	362	90%
計				21	9,905	8,117	82%

小計(創造・公演・提携等事業)(※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)	139	42,333	36,745 35,866	85%
--	-----	--------	------------------	-----

4 学芸事業

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	シアターラボ2016						
	[戯曲講座] ※27年度に実施	創造工房・会議室	H27.9～H28.1	10	一般	64	91
	[稽古]	創造工房	4/4～17	12		24	284
	[公演]「三途のボンズ」	創造工房	4/16～17	3		156	156
シアターラボ2016 小計				25		244	531
2	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.4 「モネ、逆さまの睡蓮」(再掲:創造事業(1)参照)	北九州市立美術館分館	5/19～22	8	一般	433	433
3	北九州GERO活動プロジェクト						
	[ワークショップ]	大手町練習場 小劇場・創造工房	5/15～21	6	一般	5	30
	[プレクチャー]『伊藤キムの軌跡』	アートライブラリー	5/21	1	一般	10	10
	[公演]	小劇場	5/21	1	一般	56	56
北九州GERO活動プロジェクト 小計				8		71	96
4	夏休み！子どもの劇場体験2016						
	[ワークショップ]	小劇場・創造工房他	7/27～31	5	小学生	30	146
	[ミニ発表会]	小劇場	7/31	1	一般	107	107
子どもの劇場体験2016 小計				6		137	253

高校生[的]シアター									
5	戯曲講座	創造工房・会議室	7/2・9・16・23	4	高校生 ・顧問	7	28		
	高校生のための演劇塾2016	大ホール・小劇場・創造工房	8/8～10	3		100	300		
	クリエイション体験 [稽古]	北九州芸術劇場 路地裏ギャラリーもじろじ	11/12～12/18, 12/19～23	15	一般	10	150		
	[公演] 「ハレハレ。」	路地裏ギャラリーもじろじ(門司区ギャラリー)	12/24・25	4		92	92		
	高校生[的]チケット 大ホール・中劇場の公演...1,500円 小劇場の公演1,000円	大ホール・中劇場・小劇場	対象公演	公演チケットの高校生価格の設定					
高校生[的]シアター 小計				26		209	570		
6	北九州芸術劇場 創造工房「演カツ!!」稽古場公演 ぐにゃり「絶海と孤島」	創造工房	10/8～9	3	一般	89	89		
劇場塾2016									
7	劇場塾2016 地域文化コーディネータークラス	創造工房	11/18・19	2	一般・ 学生・ ホール 関係者 等	10	20		
	劇場基礎クラス	小劇場・中劇場	11/28・29	2		9	18		
	オープンレクチャーvol.1 「舞台芸術に関わる著作権と肖像権入門」	小劇場	11/29	1		76	76		
	オープンレクチャーvol.2 「文化オリンピックへの展望 ー東京2020大会を地域の力とするために」	小劇場	2/3	1		51	51		
	オープンレクチャーvol.3 「『演劇』を語ろう・九州演劇の魅力 をもっと味わうために」	アートライブラリー	3/12	1		10	10		
劇場塾2016 小計				7		156	175		
アーティスト往来プログラム									
8	講師:セネグラフィカ 北九州芸術劇場×北九州市身体障害者福祉協会アートセンター レインボードロップス[ワークショップ]	創造工房、小劇場 ウェルとばた	6/19,7/16・17・ 23・24,8/19～ 21,9/3・4・16・ 17,10/1	13	一般	29	277		
	北九州芸術劇場×北九州市身体障害者福祉協会アートセンター レインボードロップス[発表] (再掲:公演事業(9)参照)	小劇場	9/17	1	一般	118	118		
	講師:有門正太郎 アウトリーチ	穴生小学校	10/3・4	2	小学生	67	134		
	アウトリーチ	城野小学校	11/24・25 11/28・29	4	小学生	99	177		
	講師:北村成美 アウトリーチ	萩ヶ丘小学校	10/4・5	2	小学生	63	134		
	アウトリーチ	三郎丸小学校	11/30・12/1	2	小学生	76	152		
	インリーチ	周望学舎	1/10	1	一般	29	29		
	アウトリーチ	松ヶ江北小学校	2/15・16	2	小学生	15	30		
	青山学院大学連携プログラム アウトリーチ	鞘ヶ谷小学校	11/1・11/8～11 11/14～16	8	小学生	36	288		
	講師:守田慎之介 アウトリーチ	西門司小学校	12/1・2	2	小学生	90	90		
	アウトリーチ	霧丘小学校	12/5・6	2	小学生	86	86		
アーティスト往来プログラム 小計				39		708	1,515		
9	東筑紫学園高等学校演劇類型との連携事業 座学講座	東筑紫学園 高等学校	12/6,1/13・19, 2/9	4	東筑紫学園 高校生	20	80		
地域のアートレパトリー創造事業									
10	講師・振付:近藤良平(コンドルズ) 振付ワークショップ	大手町練習場	1/25	1	一般	15	15		
	幼児向け振付ワークショップ	門司こぼと幼稚園	2/28	1	幼児	80	80		
	市民向け振付ワークショップ	大ホール、ミクニビル タジヤム北九州	3/11～12	2	一般	186	186		
	パフォーマンス	ミクニビル・スタジ アム北九州	3/12	1	一般	90	90		
地域のアートレパトリー創造事業 小計				5		371	371		
学芸事業(創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)を除く) ※27年度実施分は含めず				121		2,374	4,022		

〈創造・公演(アウトリーチ&ワークショップ等)参加等 その他学芸事業〉

	事業名	会場	実施月	回数	対象	受講(入場)者数	参加延人数・入場者数
1	合唱物語「わたしの青い鳥2016」						
	コーラスワークショップ	中劇場・小劇場	5/27～7/10	15	小学生～一般	75	1,065
	アウトリーチ	門司メディカルセンター	6/10	1		100	100
	わたしの青い鳥2016 小計			16		175	1,165
2	北九州芸術劇場×市民共同創作劇「Re:北九州の記憶」						
	Re:北九州の記憶 戯曲講座	創造工房・会議室	5/8, 7/16 8/3・5	4	地域の若手作家等	5	20
	[関連企画]朗読公演「読む、記憶」	中央図書館カフェテリア	12/18	1	一般	30	30
	Re:北九州の記憶 小計			5		35	50
3	女性の眼と句で綴る演劇「風、騒グ。」関連企画 北九州芸術劇場×檸檬句会 なににいれる十七音のお弁当	アートライブラリー	7/24	1	一般	9	9
4	ダンスダイブウィーク						
	レクチャー「ダンスのつくりかた」	アートライブラリー	9/16	1	一般	12	12
	協力事業:DDWワークショップ第1弾「ロイック・トゥゼダンスワークショップ」	創造工房	7/18～21	4	一般	49	49
	協力事業:DDWワークショップ第2弾「世界との出会い」	創造工房	9/17～19	3	一般	189	189
	ダンスダイブウィーク 小計			8		250	250
その他学芸事業 小計				30		469	1,474
学芸事業 小計				151		2,843	5,496

5 支援事業

	公演名	会場	公演日	公演数	対象及び設定席数	入場者数	入場率
1	シアターラボ2016〈再掲:4学芸事業(1)参照〉 [戯曲講座] ※2015年度に実施	創造工房・会議室	H27.9～H28.1	10	一般	91	-
	[稽古]	創造工房	4/4～17	12		284	-
	[公演]「三途のポンス」	創造工房	4/16～17	3		156	-
	シアターラボ2016 小計			25		531	-
2	北九州芸術劇場 創造工房 「演カツ!!」稽古場公演 ぐにゃり第5回公演「絶海と孤島」〈再掲:4学芸事業(6)参照〉	創造工房	10/8～9	3	一般	89	-
	「北九州GERO活動プロジェクト」〈再掲:4学芸事業(3)参照〉						
	[ワークショップ]	大手町練習場 小劇場・創造工房	5/15～21	6	一般	30	-
	[プレレクチャー]	アートライブラリー	5/21	1	一般	10	-
	[公演]	小劇場	5/21	1	一般 60	56 56	93%
	北九州GERO活動プロジェクト 小計			8		96	93%
4	ダンスダイブウィーク〈再掲:2公演事業(9)参照〉	市内各所・小劇場 中劇場など	9/10～22	9	一般 436	790 409	94%
5	「劇ト×20分」2017〈再掲:2公演事業(14)参照〉	小劇場	3/19	1	一般 172	168 168	98%
6	平成28年度北九州舞台芸術フェスティバル「北九州芸術工業地帯」〈再掲:2公演事業参照〉	市内各所	12月～3月	41	一般 1,174	1,530 1,032	88%
	支援事業 小計(※設定席数の上段は2015年度に実施した事業を除く入場者数。入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)			77	一般 1,842	3,113 1,497	81%

6 連携事業

	公演名	会場	公演日	公演数	設定席数	入場者数	入場率
1	北九州芸術劇場×北九州市立美術館分館vol.4 「モネ、逆さまの睡蓮」〈再掲:創造事業(1)参照〉	北九州市立 美術館分館	5/14～17	8	480	433	90%
2	ワンコインコンサート						
	vol.3 「仲道郁代～初夏を彩るピアノのひびきに包まれて」	大ホール	6/7	1	1,269	1,075	85%
	vol.8 「加藤直明～トロンボーンで紡ぐ、管楽器の世界」	大ホール	10/28	1	694	367	53%
	vol.9 「大森智子～透明感とぬくもりをあわせもった歌声を」	大ホール	1/12	1	694	343	49%
	ワンコインコンサート 小計			3	2,657	1,785	67%
3	北九州芸術劇場×到津の森公園×響ホール 3館連携事業						
	[ダンスワークショップ]「どっちが動物園!？」	到津の森公園 (小倉北区)	9/3・4	2	台風接近により中止		
	特別プログラム(9月代替ワークショップ)	小劇場	10/16	1	-	6	-
	[公演]「どこをどうぶつる」	小劇場	10/15・16	2	171	161	94%
	北九州芸術劇場×到津の森公園×響ホール 3館連携事業 小計			5	171	167 161	94%
連携事業 小計 (※入場者数の上段は各事業の入場者数の計、下段は設定席数のある事業のみの計。入場率は、設定席数のない事業を除いて算出)				16	3,308	2,385 2,379	72%
総合計 ※再掲の事業(支援事業は全て)は総計には含まず ※学芸事業は延人数ではなく参加者・入場者実数で計上 ※入場率は設定席数のない事業を除いて算出				289	45,161	40,989 37,812	84%

⑤利用者数、利用件数

- 観客だけではなく、主催事業の出演者や関係者、貸館事業の利用者などを含めた北九州芸術劇場の利用者数、利用件数は図表1-6のとおりで、16年度には自主事業、貸館事業合わせて1,676件の利用があり、利用者数は約28万人となっている。そのうち、自主事業での利用件数は578件、利用者数は約5万4,000人。貸館事業での利用件数は1,098件、利用者数は約22万3,000人である。
- 前年度と比べて、自主事業と貸館事業に共通して利用件数、利用者数がともに減少した。

図表1-6 利用者数、利用件数(03年度～16年度)

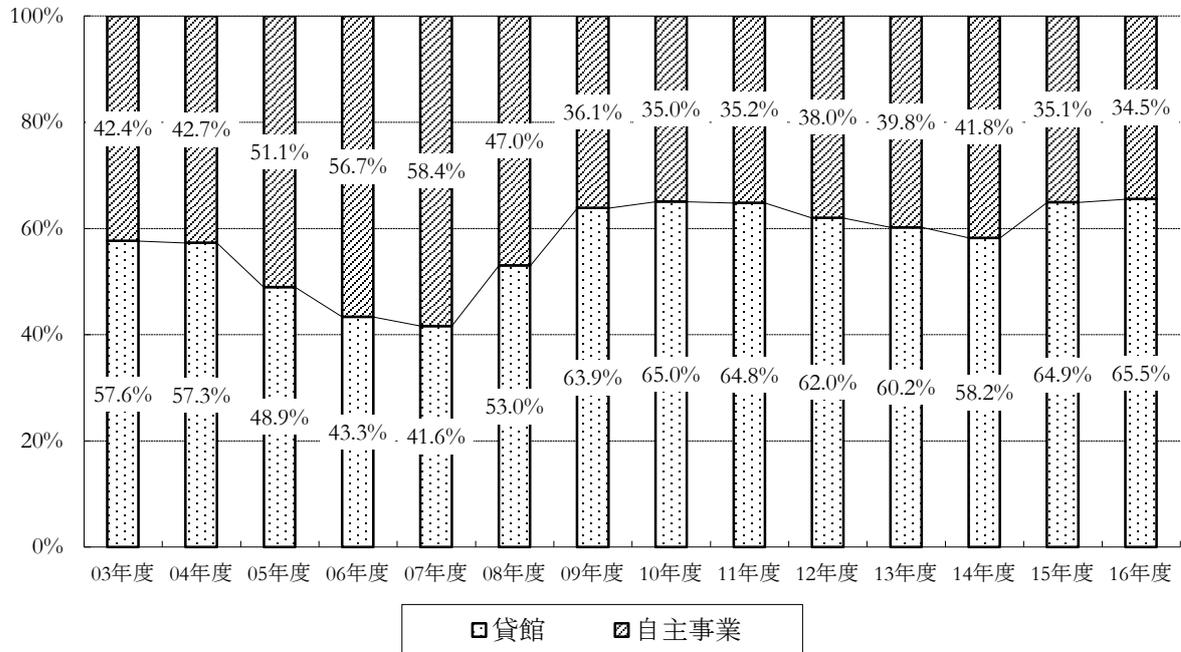
	大ホール						中劇場					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	23,937	66	93,100	205	117,037	271	22,890	143	41,524	145	64,414	288
2004年度	22,445	87	175,273	482	197,718	569	29,970	242	71,901	325	101,871	567
2005年度	13,034	102	160,673	467	173,707	569	33,153	289	55,644	229	88,797	518
2006年度	26,027	139	134,966	382	160,993	521	29,814	298	55,050	244	84,864	542
2007年度	34,015	186	132,444	381	166,459	567	29,182	325	58,491	237	87,673	562
第1期 平均	23,892	116	139,291	383	163,183	499	29,002	259	56,522	236	85,524	495
2008年度	17,877	134	133,686	365	151,563	499	17,699	217	77,324	327	95,023	544
2009年度	7,625	64	138,611	415	146,236	479	22,087	213	86,166	369	108,253	582
2010年度	21,429	104	155,767	441	177,196	545	16,140	159	88,614	367	104,754	526
2011年度	2,979	25	163,922	503	166,901	528	20,838	230	70,958	319	91,796	549
2012年度	10,696	80	139,621	470	150,317	550	18,158	197	75,782	340	93,940	537
第2期 平均	12,121	81	146,321	439	158,443	520	18,984	203	79,769	344	98,753	548
2013年度	23,017	131	131,814	452	154,831	583	15,696	158	83,956	379	99,652	537
2014年度	19,526	110	121,017	383	140,543	493	10,645	175	69,397	325	80,042	500
2015年度	25,106	139	133,240	450	158,346	589	19,581	177	81,557	424	101,138	601
2016年度	30,999	120	129,465	443	160,464	563	10,753	99	75,534	366	86,287	465
累計	278,712	1,487	1,943,599	5,839	2,222,311	7,326	296,606	2,922	991,898	4,396	1,288,504	7,318

	小劇場						利用者数・利用件数の計					
	自主事業		貸館事業		合計		自主事業		貸館事業		合計	
	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数	利用者数	利用件数
2003年度	7,402	121	10,769	99	18,171	220	54,229	330	145,393	449	199,622	779
2004年度	16,996	404	13,626	176	30,622	580	69,411	733	260,800	983	330,211	1,716
2005年度	14,592	471	10,478	130	25,070	601	60,779	862	226,795	826	287,574	1,688
2006年度	15,651	573	8,853	146	24,504	719	71,492	1,010	198,869	772	270,361	1,782
2007年度	17,837	564	10,772	148	28,609	712	81,034	1,075	201,707	766	282,741	1,841
第1期 平均	14,496	427	10,900	140	25,395	566	67,389	802	206,713	759	274,102	1,561
2008年度	14,661	462	17,281	226	31,942	688	50,237	813	228,291	918	278,528	1,731
2009年度	12,873	318	18,186	267	31,059	585	42,585	595	242,963	1,051	285,548	1,646
2010年度	12,457	316	16,967	269	29,424	585	50,026	579	261,348	1,077	311,374	1,656
2011年度	11,947	337	19,011	268	30,958	605	35,764	592	253,891	1,090	289,655	1,682
2012年度	12,954	368	18,014	241	30,968	609	41,808	645	233,417	1,051	275,225	1,696
第2期 平均	12,978	360	17,892	254	30,870	614	44,084	645	243,982	1,037	288,066	1,682
2013年度	15,563	399	13,088	210	28,651	609	54,276	688	228,858	1,041	283,134	1,729
2014年度	12,726	359	16,140	189	28,866	548	42,897	644	206,554	897	249,451	1,541
2015年度	10,555	324	19,839	310	30,394	634	55,242	640	234,636	1,184	289,878	1,824
2016年度	12,419	359	17,893	289	30,312	648	54,171	578	222,892	1,098	277,063	1,676
累計	188,633	5,375	210,917	2,968	399,550	8,343	763,951	9,784	3,146,414	13,203	3,910,365	22,987

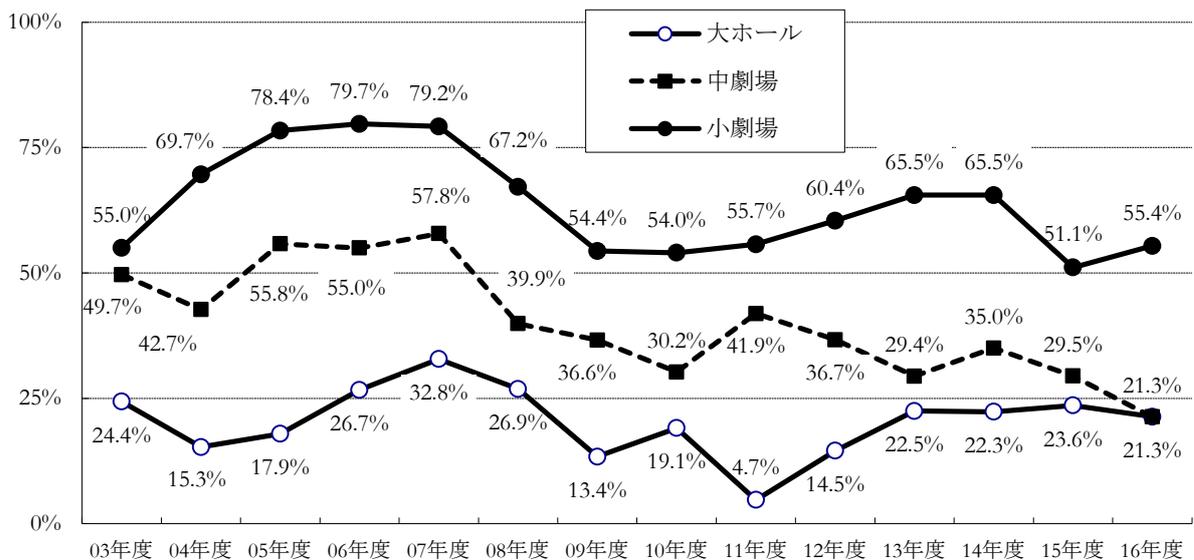
- 自主事業と貸館事業の比率を利用件数ベースで見ると、16年度は、自主事業が34.5%、貸館事業が65.5%と、貸館事業の利用割合が高くなっている(図表1-7)。
- ホールの規模別にみると、例年は大ホールで貸館事業での利用が多く、中劇場と小劇場で自主事業の利用が多くなっているが、16年度は大ホール、中劇場ともに自主事業の利用は2割で小劇場が5割となっている。16年度における中劇場の自主事業の利用割合は開館以来最も低い割合となっている(図表1-8)。

- 小劇場の自主事業比率が高いのは、創造事業・創造参加の場として、中劇場では幅広い観客層を対象とした人気の高い公演事業に活用しているためと考えられる。また、2013年度以降の第3期からは、自主事業が劇場から地域に出て展開する企画が増加しており、その分、劇場は貸館事業に利用されることが増加していると考えられる。

図表1-7 自主事業・貸館事業比率 [件数ベース] (03年度～16年度)



図表1-8 ホール別の自主事業比率 [件数ベース] (03年度～16年度)



(3) 施設稼働率

- 北九州芸術劇場の16年度の施設稼働率は、大ホールが76.8%、中劇場が70.0%、小劇場が85.7%である(図表1-9)。
- 3つのホールの稼働率は、開館年の03年度を除き、約70～80%で推移しており、2016年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70.3%)と比較して高い水準にある。
- 施設の稼働率について第1期と第2期を比較すると、中劇場の稼働率は第2期が第1期を上回っているが、大ホールと小劇場では第2期が第1期をやや下回っている。ただし、限られたスタッフ体制のもとでの施設利用の安全性を考慮すると、稼働率が100%に近づくことが望ましいわけではない。

図表1-9 北九州芸術劇場の稼働率(03年度～16年度)

	大ホール			中劇場			小劇場		
	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率	公演日数	利用対象日数	稼働率
2003年度	99	103	96.1%	100	107	93.5%	83	86	96.5%
2004年度	219	277	79.1%	207	283	73.1%	220	304	72.4%
2005年度	223	281	79.4%	189	276	68.5%	222	297	74.7%
2006年度	202	285	70.9%	199	282	70.6%	254	306	83.0%
2007年度	220	290	75.9%	205	289	70.9%	257	300	85.7%
第1期 平均	193	247	80.3%	180	247	75.3%	207	259	82.5%
2008年度	192	257	74.7%	203	260	78.1%	249	295	84.4%
2009年度	194	262	74.0%	212	260	81.5%	221	282	78.4%
2010年度	215	261	82.4%	197	267	73.8%	225	285	78.9%
2011年度	211	274	77.0%	202	273	74.0%	234	299	78.3%
2012年度	217	264	82.2%	204	276	73.9%	237	298	79.5%
第2期 平均	206	264	78.1%	204	267	76.3%	233	292	79.9%
2013年度	226	252	89.7%	204	244	83.6%	229	278	82.4%
2014年度	192	228	84.2%	188	231	81.4%	208	245	84.9%
2015年度	228	289	78.9%	225	288	78.1%	244	288	84.7%
2016年度	218	284	76.8%	177	253	70.0%	246	287	85.7%
累計	2,856	3,607	79.2%	2,712	3,589	75.6%	3,129	3,850	81.3%

注) 稼働率は「公演日数/利用対象日数」、利用対象日数は保守点検日を除いたもの

2. 事業費の内訳と収支

次に、北九州芸術劇場の事業費の財源内訳と収支について、過去13ケ年と同様の分析を行った。

(1) 事業費の財源と事業支出の内訳

- 北九州芸術劇場の16年度の事業費は約2億9,000万円となっている。前年度に比べて約1.1倍となっている。
- 財源内訳をみると、チケット収入が約1億6,500万円と全体の57.0%、市の補助金が約8,300万円と28.7%、文化庁と(一財)地域創造による外部資金が約4,100万円と14.3%となっている。事業費の財源のうちチケット収入と外部資金で事業費の約7割(71.3%)をカバーしている(図表1-10)。
- 全国平均の試算値^{*}と比較すると、16年度のチケット収入の割合は平均を上回っている。全国平均の試算値での「設置者からの補助金・委託費」(52.7%)が、北九州芸術劇場における03～16年度累計のチケット収入の割合(52.5%)とほぼ同じ比率となっている。

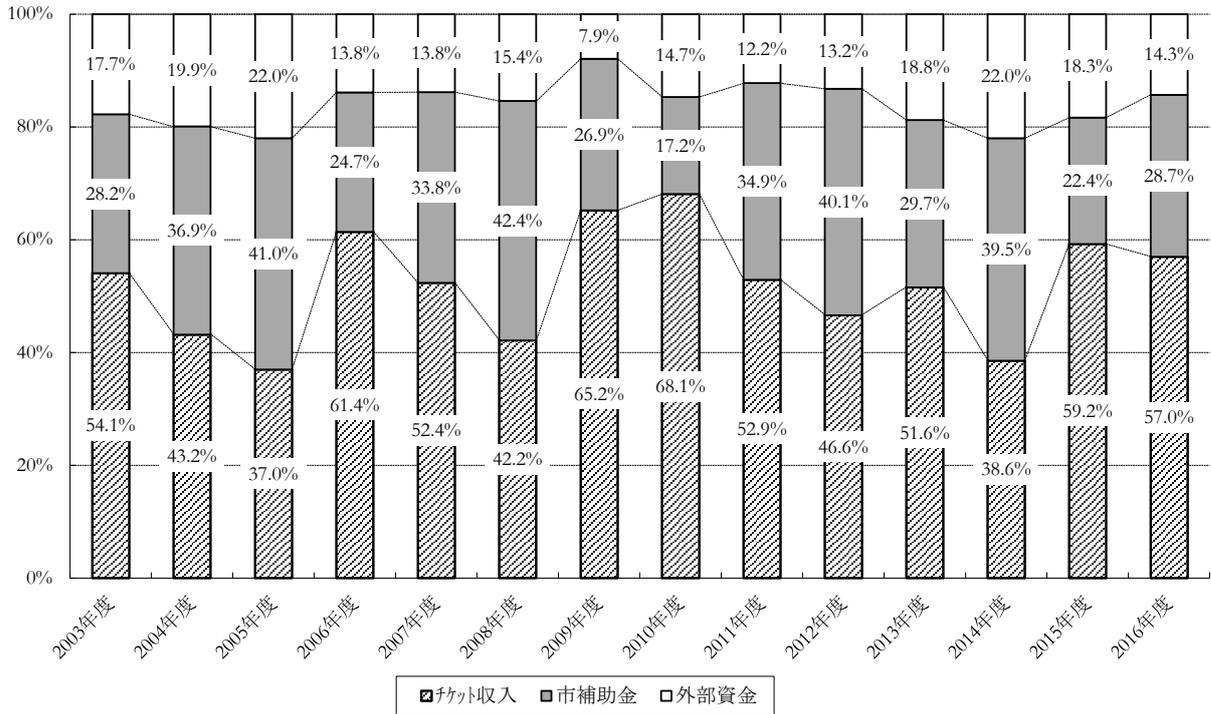
^{*}(一財)地域創造の悉皆調査結果(2015年)から、指定管理施設の事業費の財源内訳の平均金額を試算すると、「設置者からの収入」が67.0%、「事業収入」が11.7%、「設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金」が2.1%である。

※指定管理施設の平成25年度決算金額平均値の「収入」欄から、それぞれの内訳比率を算出したため、「設置者からの収入」には人件費や運営管理費の財源でもある指定管理料が含まれている。

図表1-10 事業費の財源内訳(03年度～16年度)

	上段:金額(千円)		下段:割合(%)					計
	チケット収入	市補助金	外部資金	(内訳)				
				文化庁	地域創造	その他助成金	協賛金	
2003年度	215,389	112,225	70,700	49,000	10,000	11,700	0	398,314
	54.1%	28.2%	17.7%	12.3%	2.5%	2.9%	0.0%	100.0%
2004年度	145,429	124,198	67,000	49,000	18,000	0	0	336,627
	43.2%	36.9%	19.9%	14.6%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
2005年度	110,060	121,965	65,295	45,795	19,500	0	0	297,320
	37.0%	41.0%	22.0%	15.4%	6.6%	0.0%	0.0%	100.0%
2006年度	263,901	106,363	59,517	45,800	13,717	0	0	429,781
	61.4%	24.7%	13.8%	10.7%	3.2%	0.0%	0.0%	100.0%
2007年度	197,355	127,456	52,051	36,600	15,451	0	0	376,862
	52.4%	33.8%	13.8%	9.7%	4.1%	0.0%	0.0%	100.0%
第1期 累計	932,134	592,207	314,563	226,195	76,668	11,700	0	1,838,904
	50.7%	32.2%	17.1%	12.3%	4.2%	0.6%	0.0%	100.0%
2008年度	135,979	136,854	49,579	27,400	22,179	0	0	322,412
	42.2%	42.4%	15.4%	8.5%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
2009年度	202,004	83,331	24,432	18,000	6,432	0	0	309,767
	65.2%	26.9%	7.9%	5.8%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
2010年度	149,051	37,726	32,072	11,000	10,572	0	10,500	218,849
	68.1%	17.2%	14.7%	5.0%	4.8%	0.0%	4.8%	100.0%
2011年度	123,355	81,302	28,509	26,902	1,607	0	0	233,166
	52.9%	34.9%	12.2%	11.5%	0.7%	0.0%	0.0%	100.0%
2012年度	99,616	85,741	28,262	25,349	2,165	748	0	213,619
	46.6%	40.1%	13.2%	11.9%	1.0%	0.4%	0.0%	100.0%
第2期 累計	710,005	424,954	162,854	108,651	42,955	748	10,500	1,297,813
	54.7%	32.7%	12.5%	8.4%	3.3%	0.1%	0.8%	100.0%
2013年度	111,886	64,354	40,693	33,965	6,728	0	0	216,933
	51.6%	29.7%	18.8%	15.7%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
2014年度	68,803	70,401	39,222	30,552	8,670	0	0	178,426
	38.6%	39.5%	22.0%	17.1%	4.9%	0.0%	0.0%	100.0%
2015年度	153,107	58,001	47,376	36,236	7,707	3,433	0	258,484
	59.2%	22.4%	18.3%	14.0%	3.0%	1.3%	0.0%	100.0%
2016年度	164,939	83,014	41,384	37,012	3,651	721	0	289,337
	57.0%	28.7%	14.3%	12.8%	1.3%	0.2%	0.0%	100.0%
累計	2,140,874	1,292,931	646,092	472,611	146,379	16,602	10,500	4,079,897
	52.5%	31.7%	15.8%	11.6%	3.6%	0.4%	0.3%	100.0%

図表1-11 事業費の比率(03年度～16年度)



(2) 事業収支

- 16年度の事業費について、収入の予算額と決算額の差異は事業収入で約6,010万円の減収、補助金等収入は約2,280万円の減収となっている。16年度は事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。
- 劇場の運営、事業の実施にあたって、経費節減の努力を行っていることとともに、積極的な営業努力を行なっていることがうかがえる。

図表1-12 事業収入、補助金等収入の予算額・決算額(03年度～16年度)

上段:金額(千円)／下段:割合(%)

	事業収入			補助金等収入		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	194,300 48.6%	215,389 54.1%	△ 21,089 —	205,700 51.4%	182,925 45.9%	22,775 —
2004年度	146,346 41.1%	145,429 43.2%	917 —	209,300 58.9%	191,198 56.8%	18,102 —
2005年度	130,500 37.3%	110,060 37.0%	20,440 —	219,500 62.7%	187,260 63.0%	32,240 —
2006年度	265,709 53.9%	263,901 61.4%	1,808 —	227,531 46.1%	165,880 38.6%	61,651 —
2007年度	212,173 50.2%	197,355 52.4%	14,818 —	210,800 49.8%	179,507 47.6%	31,293 —
第1期累計	949,028 46.9%	932,134 50.7%	16,894 —	1,072,831 53.1%	906,770 49.3%	166,061 —
2008年度	269,172 54.1%	135,979 42.2%	133,193 —	228,412 45.9%	186,433 57.8%	41,979 —
2009年度	157,949 44.7%	202,004 65.2%	△ 44,055 —	195,470 55.3%	107,763 34.8%	87,707 —
2010年度	110,503 43.9%	149,051 68.1%	△ 38,548 —	141,200 56.1%	69,798 31.9%	71,402 —
2011年度	140,284 45.8%	123,355 52.9%	16,929 —	166,136 54.2%	109,811 47.1%	56,325 —
2012年度	101,983 38.6%	99,616 46.6%	2,367 —	162,000 61.4%	114,003 53.4%	47,997 —
第2期累計	779,891 46.6%	710,005 54.7%	69,886 —	893,218 53.4%	587,808 45.3%	305,410 —
2013年度	84,322 36.7%	111,886 51.6%	△ 27,564 —	145,632 63.3%	105,047 48.4%	40,585 —
2014年度	46,545 27.2%	68,803 43.5%	△ 22,258 —	124,423 72.8%	89,336 56.5%	35,087 —
2015年度	155,232 56.2%	153,107 59.2%	2,125 —	120,780 43.8%	105,377 40.8%	15,403 —
2016年度	225,012 60.5%	164,939 57.0%	60,073 —	147,154 39.5%	124,398 43.0%	22,756 —
累計	2,240,030 47.2%	2,140,874 52.7%	99,156 —	2,504,038 52.8%	1,918,736 47.3%	585,302 —

補助金等収入における市補助金と外部資金の内訳(千円)

	市補助金			外部資金		
	予算額	決算額	差異	予算額	決算額	差異
2003年度	135,000	112,225	22,775	70,700	70,700	0
2004年度	135,000	124,198	10,802	74,300	67,000	7,300
2005年度	151,000	121,965	29,035	68,500	65,295	3,205
2006年度	145,000	106,363	38,637	82,531	59,517	23,014
2007年度	149,000	127,456	21,544	61,800	52,051	9,749
第1期平均	143,000	118,441	24,559	71,566	62,913	8,654
2008年度	149,000	136,854	12,146	79,412	49,579	29,833
2009年度	135,000	83,331	51,669	60,470	24,432	36,038
2010年度	108,000	37,726	70,274	33,200	32,072	1,128
2011年度	128,000	81,302	46,698	38,136	28,509	9,627
2012年度	128,000	85,741	42,259	34,000	28,262	5,738
第2期平均	129,600	84,991	44,609	49,044	32,571	16,473
2013年度	111,000	64,354	46,646	34,632	40,693	△ 6,061
2014年度	89,284	50,114	39,170	35,139	39,222	△ 4,083
2015年度	82,588	58,001	24,587	38,192	47,376	△ 9,184
2016年度	99,989	83,014	16,975	47,165	41,384	5,781
累計	1,745,861	1,272,644	473,217	758,177	646,092	112,085

第2章 観客の特性と観客からみた評価

本章では、開館以来継続的に実施している、主催事業および提携・協力事業の公演に来場した観客に対するアンケート調査の結果から、2016年度の観客の特性や、観客からみた北九州芸術劇場に対する評価を整理、分析した。

1. 観客調査の実施要領

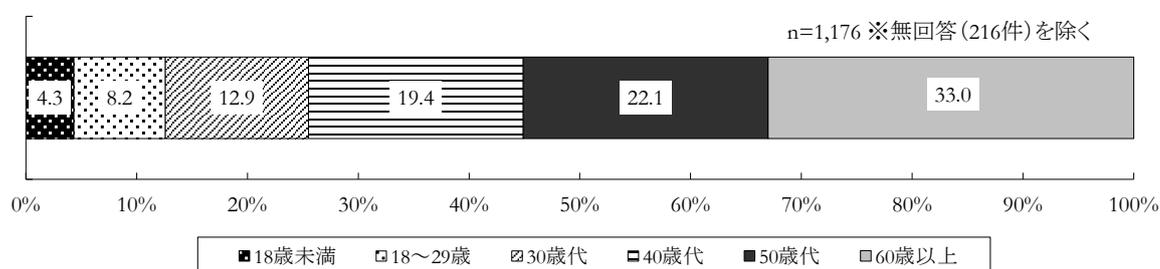
- 調査の対象:2016年度に実施した主催事業および提携・協力事業公演 32公演
- 配布・回収方法:各公演初日の開演時に配布、終演時に回収
- 実施時期:2016年4月16日～2017年3月19日
- 有効回答数(回収率):1,392件、回収率:14.0% (配布数:9,622件)

2. 観客調査の結果概要

(1)観客(アンケート回答者)の属性(p.資-10～19)

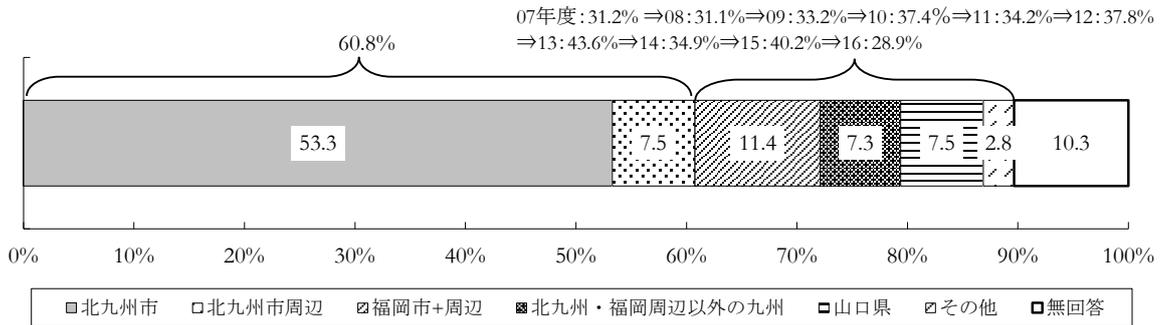
- 観客は、女性が74.8%、男性が25.2%と女性が多い。いずれのジャンルも男性に比べて女性の割合が高い。
- 平均年齢は50.3歳。年齢層に大きな偏りはなく、幅広い年齢層が来場している(図表2-1)。平均年齢に関しては、03年度が45.5歳で、04年から13年度までは40.2歳～43.4歳の範囲で40歳台前半を維持できているが、14年度が44.8歳、15年度が45.6歳、16年度は開館以降で初めて50歳を超えて最も高い平均年齢となった。

図表2-1 年齢層(16年度)



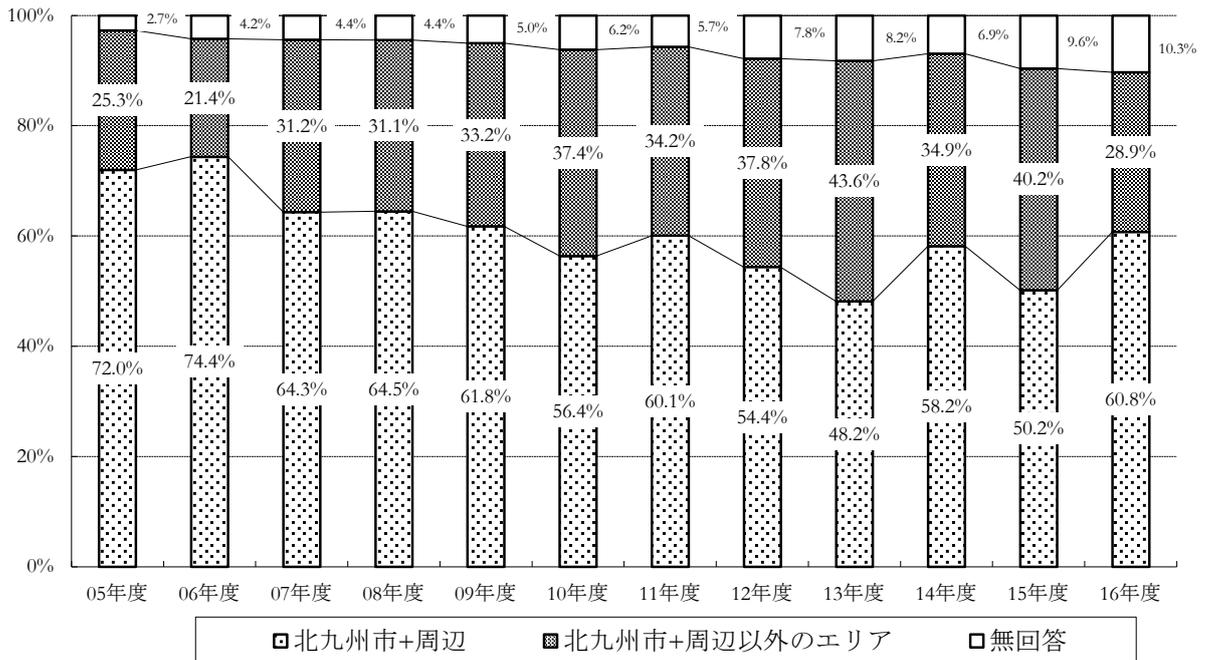
- 居住地域は、北九州市周辺を含めた市域からの来場者が60.8%(うち北九州市内が53.3%)である。福岡市域や福岡県以外の九州各県、山口県、その他からの16年度の来場者は28.9%で、07年度以降は北九州市と市周辺以外のエリアの割合が3割を超えていたが、16年度は3割を下回る結果となった(図表2-2)。

図表2-2 居住地域(16年度)



- 観客の居住地域の経年推移を見ると、07年度以降は増減があるものの、北九州市と周辺以外のエリア(福岡市と周辺、北九州・福岡周辺以外の九州、山口県など)の割合が3割を超え、北九州市+周辺が減少する傾向にあった。
- 福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県(28件)、熊本県(16件)、鹿児島県(8件)、長崎県(5件)、宮崎県(4件)、佐賀県(3件)等の記載がある。

図表2-3 居住地域の経年推移(05年度～16年度)



- チケットクラブには回答者の約5分の1(20.5%)が入会している。入会していない場合、今後入会意向があるのは12.6%である。

(2) 北九州芸術劇場での公演鑑賞の状況

① 来場公演のジャンル(p.資-22～23)

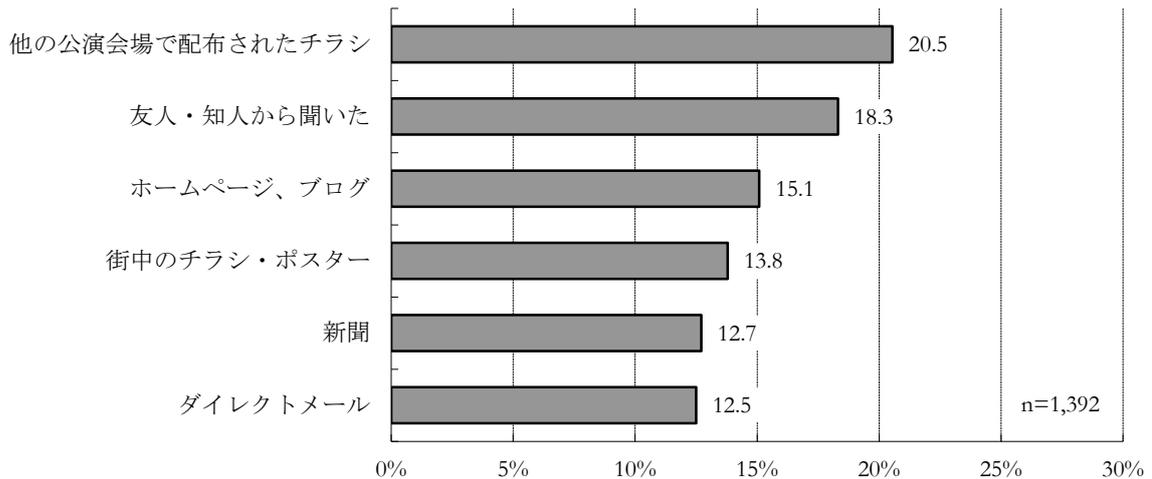
- 回答者が来場した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が約5割(47.1%)を占める。
※アンケート配布公演32公演のうち20公演が「小劇場・現代演劇」であることによる。
- 年齢別に来場公演のジャンルをみると、60歳以上では「音楽劇」が最も高い割合(68.8%)となっているが、それ以外の年代では「小劇場・現代演劇」の割合が高く、特に、18歳～29歳で高い(74.2%)。

- 北九州芸術劇場の来館経験別に見た「小劇場・現代演劇」の来場の割合は、「11回以上」の回答者の53.9%、「今日が初めて」の回答者の52.2%となっている。

②公演情報の入手経路(p.資-24~25)

- 公演情報の入手経路は、全体では「他の公演会場で配布されたチラシ」が20.5%で最も高く、続いて「友人・知人から聞いた」(18.3%)、「ホームページ、ブログ」(15.1%)となっている(図表2-4)。

図表2-4 公演情報の入手経路(16年度)



- 公演情報の入手経路を、年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別に見る(図表2-5)。まず年齢別では、18歳未満は「友人・知人から聞いた」、18~29歳は「出演者、公演関係者から聞いた」、30歳代、40歳代は「ホームページ、ブログ」、50歳代、60歳以上は「他の公演会場で配布されたチラシ」の割合が最も高い。「新聞」は年齢層が高いほど割合が高くなっている。
- また、北九州芸術劇場での鑑賞経験別にみると、北九州芸術劇場での鑑賞経験が5回以下のグループでは、「友人・知人から聞いた」が最も高く、6回以上のグループでは「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高くなっている。
- 鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」、「街中のチラシ・ポスター」の割合は多くなっている。

図表2-5 年齢別、北九州芸術劇場での鑑賞経験別 公演情報の入手経路(16年度)

n=1,392(単位:%)

		ホームページ、 ブログ	友人・知人から 聞いた	他の公演会場で 配布されたチラシ	ダイレクトメール	街中のチラシ・ ポスター	新聞
全体		15.1	18.3	20.5	12.5	13.8	12.7
年齢層	18歳未満	13.7	43.1	21.6	3.9	11.8	2.0
	18～29歳	20.6	20.6	10.3	4.1	19.6	3.1
	30歳代	28.3	21.7	10.5	10.5	12.5	4.6
	40歳代	24.6	13.6	21.9	21.5	12.7	7.5
	50歳代	14.6	16.9	21.2	12.3	16.2	13.8
	60歳以上	5.4	16.5	25.0	12.1	13.1	23.2
鑑賞経験	今日が初めて	17.7	27.9	6.2	3.1	9.3	10.6
	1～2回	9.4	18.8	15.1	13.0	12.5	17.2
	3～5回	12.7	20.5	19.8	8.8	13.8	11.3
	6～10回	16.8	16.8	20.6	16.8	15.9	14.0
	11回以上	20.6	8.4	38.3	20.6	16.2	11.5

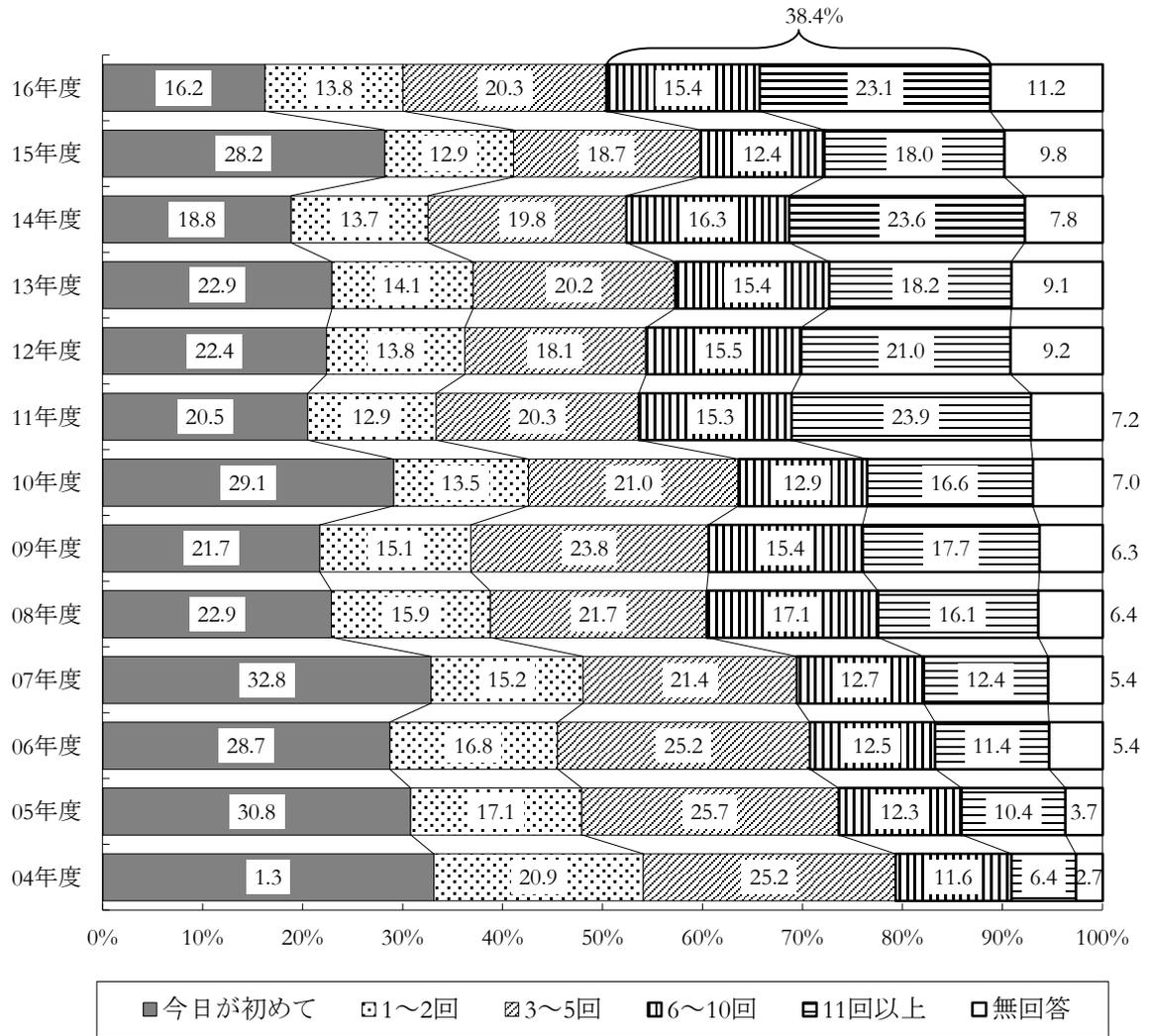
③公演に来た理由(p.資-26～27)

- 公演に来た理由は、「出演者等が好きだから」(50.1%)、「公演内容が面白そうだったから」(47.8%)への回答が多い。18歳から29歳までは「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高く、30歳以上では、「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。
- 過去調査と比較して、「公演内容が面白そうだったから」が「出演者等が好きだから」を上回ったのは03年度と14年度の2回となっている。

④北九州芸術劇場での鑑賞経験(p.資-46～47)

- 北九州芸術劇場での鑑賞経験は「11回以上」が23.1%と最も高いが、「今日が初めて」から「6～10回」まで大差はなく、来場者の鑑賞経験は幅広い。

図表2-6 北九州芸術劇場での鑑賞経験(04年度～16年度)



- 観客の北九州芸術劇場での鑑賞経験が多様であるのは04年度調査からの特徴であるが、年々劇場での鑑賞経験の多い観客(来場経験が6回以上)が増えており、16年度は4割(38.4%)となっている(図表2-6)。6回以上の鑑賞経験者の割合が高いのは、年齢別では「40歳代」である。

⑤公演前後の飲食やショッピング(p.資-28～29)

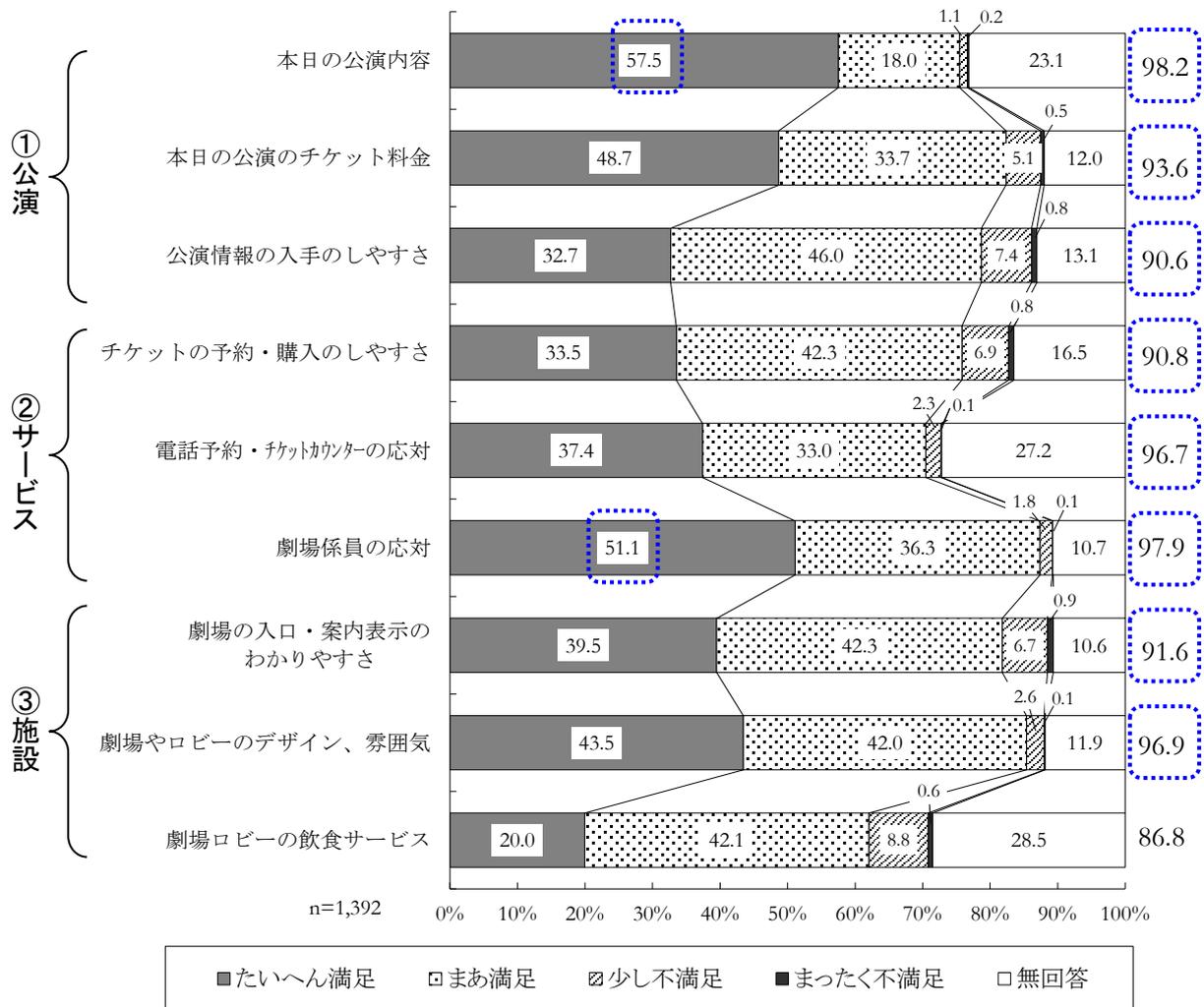
- 来場者の47.8%が公演前後に飲食あるいはショッピングをしており、平均金額は、飲食の場合が約1,531円(飲食をしている回答者の割合:全体の40.8%)、ショッピングの場合が約4,042円(ショッピングをしている回答者の割合:全体の21.6%)である。

(3) 公演や劇場に対する満足度(p.資-30～38)

- 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く)が90%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「本日の公演のチケット料金」、「公演情報の入手のしやすさ」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場係員の応対」、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の8項目である(図表2-7)。

図表2-7 公演や劇場に対する満足度(16年度)

[満足層の割合]



※満足層の割合:「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

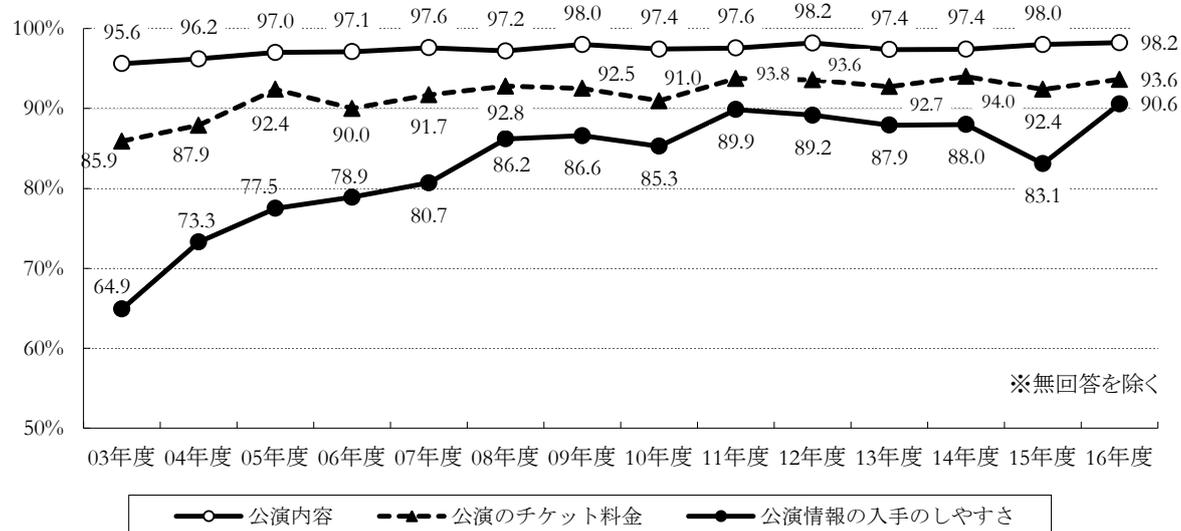
- 特に、「本日の公演内容」、「劇場係員の応対」の2項目については、「たいへん満足」の割合も、それぞれ57.5%、51.1%と高い評価となっている。
- 年齢層が高いほど満足層の割合が低くなる傾向は「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」で顕著である。
- 無回答が多い「電話予約・チケットカウンターの応対」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、利用したことがない人が多いと考えられる。
- 次に、満足度に関する9項目を、①公演、②サービス、③施設の3つに分けて、満足層の割合の経年変化を見る(図表2-8～2-10)。

①公演について(図表2-8)

- 「公演内容」については、03年度から継続して満足層の割合が顕著に高く、観客からの評価は極めて高い。
- 「公演のチケット料金」も05年度以降、90%以上の高い満足度を維持している。「公演内容」への満足度の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも大きく関わっていると考えられる。
- 開館当初満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、増減はあるものの満足度は

向上していた。15年度は満足層の割合が前年度に比べて減少し、83.1%となっているが、16年度は再び向上し、開館以降で最も高い割合(90.6%)となっている。

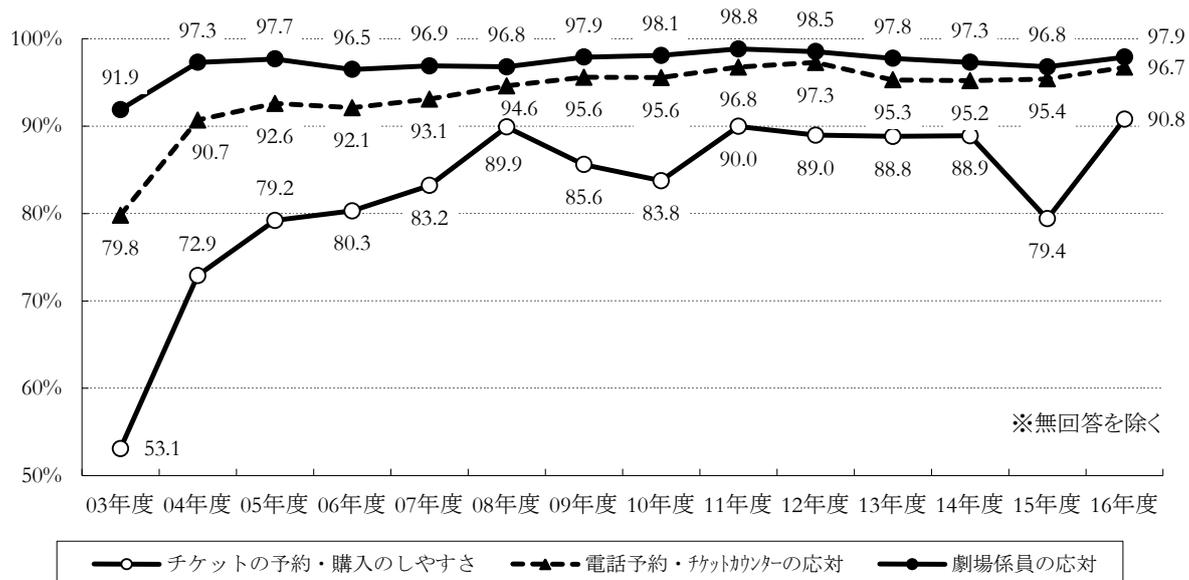
図表2-8 公演関連項目に関する満足層の割合(03年度～16年度)



②サービスについて(図表2-9)

- 「劇場係員の対応」は開館当初から、「電話予約・チケットカウンターの対応」は04年度から満足層の割合が90%を超えており、そのまま高い満足度を維持している。
- 開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、満足度の伸びが大きい。ホームページからのオンラインチケット購入が可能となった11年度は90.0%と過去最高の割合となった。15年度は前年度から減少し79.4%となったが、16年度は再び向上し、開館以降で最も高い割合(90.8%)となっている。

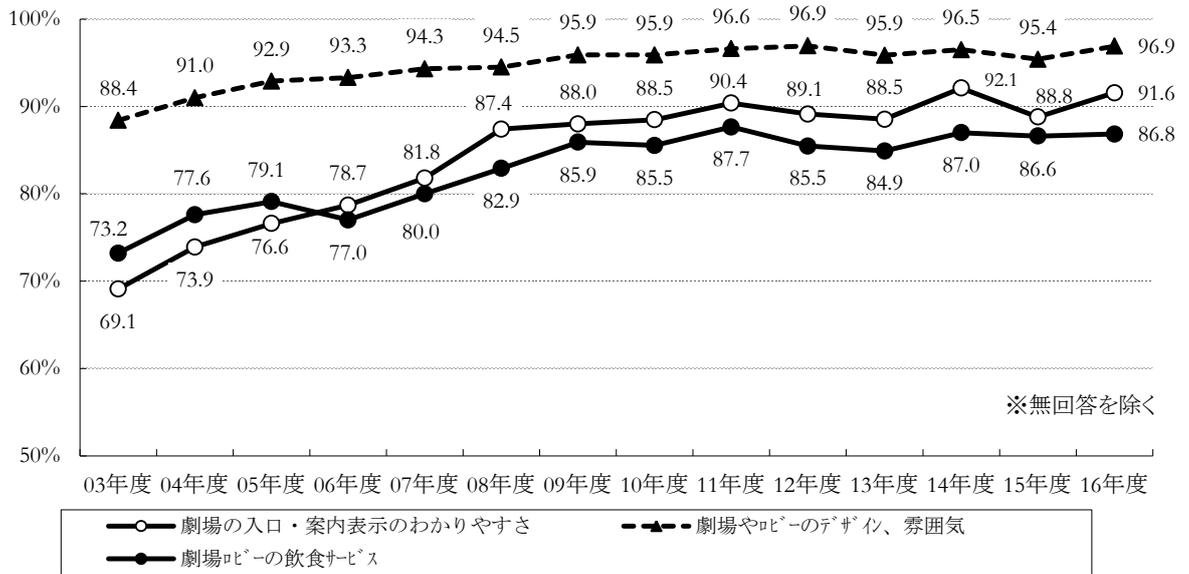
図表2-9 サービス関連項目に関する満足層の割合(03年度～16年度)



③施設について(図表2-10)

- 施設に関わる3項目のうち、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は、開館当初から満足層の割合が高く、そのまま高い水準を維持している。
- 一方、「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、複合施設である故の動線の複雑さもあり、開館当初は満足層の割合が他の項目に比べて低かったが、年々満足度が高まっており、16年度は91.6%となっている。これは、観客が慣れてきたこともあるが、案内表示の増設や既存サイン文字の大型化、駐車場エレベーター入口での音声案内など劇場側の工夫や努力の成果が大きいといえよう。

図表2-10 施設関連項目に関する満足層の割合(03年度～16年度)

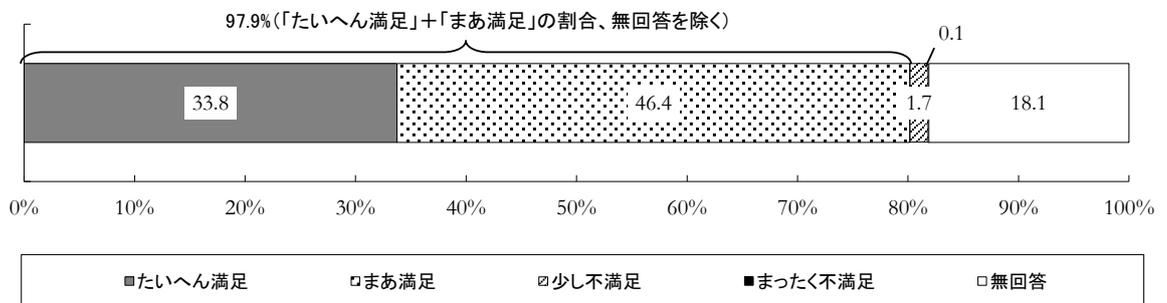


- ①公演、②サービス、③施設、いずれについても、すでに満足度が高い項目は高さを堅持している。

④総合的な満足度について

- 劇場に関する総合的な満足度は、満足層の割合が97.9%(無回答を除く)。全体では、「たいへん満足」の割合が33.8%、「まあ満足」の割合が46.4%となっている(図表2-11)。

図表2-11 総合的な満足度(16年度)



(4) 劇場の運営方針について(p.資-39~42)

- 北九州芸術劇場の基本方針の「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」については、いずれも95%以上が賛同している(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く)

(図表2-12)。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わり、16年度からアンケート調査に含めている。

- 「観る」については、「ぜひやってほしい」が74.6%と高い割合となっている(本アンケートが鑑賞者を対象としたアンケートであることには留意が必要である)。「創る」、「育つ」、「支える」については、「観る」と比べると低いとはいえ、「ぜひやってほしい」がいずれも約50%と約半数を占めている。
- 「創る」、「育つ」、「支える」は29歳以下で「ぜひやってほしい」への割合が7割程度(無回答を除いた回答)と高い。

図表2-12 運営方針への賛同度(16年度)

n=1,392

運営方針	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	賛同する人の割合	賛同しない人の割合
観る	74.6%	16.6%	0.9%	0.1%	7.8%	98.9%	1.1%
創る	49.0%	35.3%	4.0%	0.5%	11.1%	94.9%	5.1%
育つ	48.7%	35.7%	3.7%	0.3%	11.6%	95.5%	4.5%
支える	50.4%	35.9%	2.6%	0.2%	10.8%	96.9%	3.1%

※賛同する人の割合:「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

(5) 日頃の鑑賞活動について

①日頃コンサートや演劇に出かける頻度(p.資-44~45)

- 日頃コンサートや演劇に出かける頻度は、「年に3~4回程度」(22.6%)、「年に1~2回程度」(20.1%)、「年に5~9回」(13.9%)となっており、日頃の舞台芸術の鑑賞頻度は多様である。
- 北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.1%を占める。北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループでは、年に2回以下の頻度の割合が61.1%を占めている。

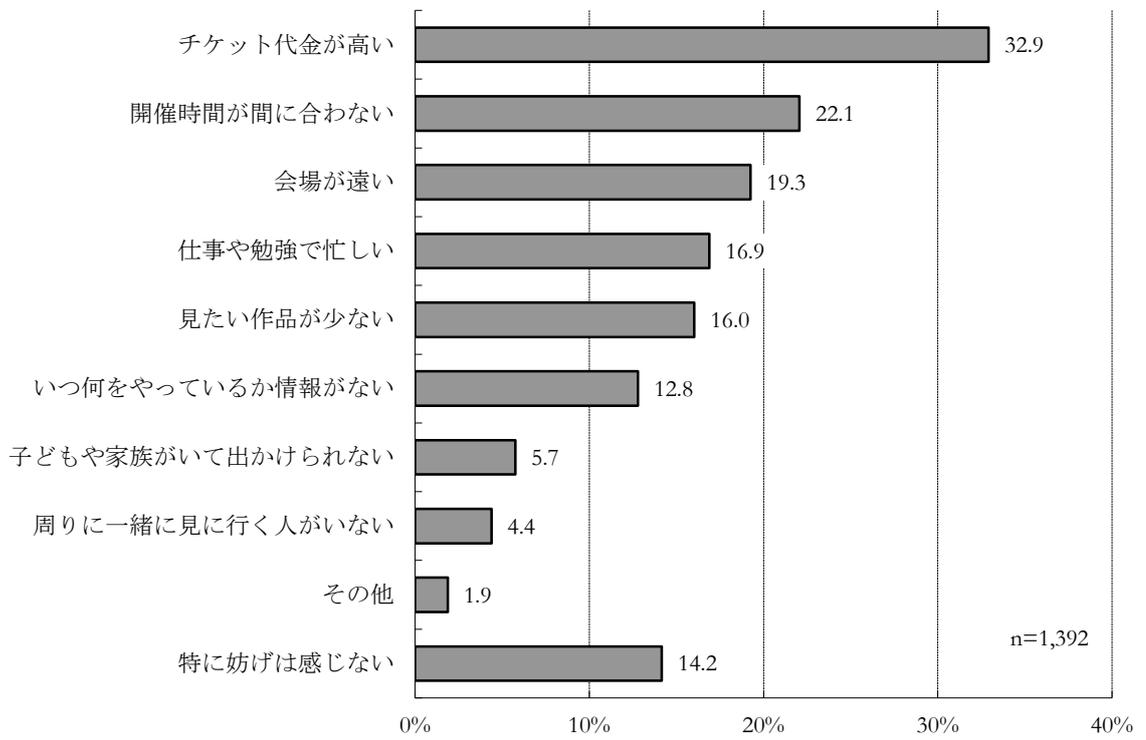
②来場の妨げになっていること(p.資-48~49)

- 来場の妨げになっていることは、「チケット代金が高い」(32.9%)、「開催時間が間に合わない」(22.1%)、「会場が遠い」(19.3%)、「仕事や勉強で忙しい」(16.9%)となっている。(図表2-13)。

※2015年度から設問を加えた。

- 18歳以上のグループで「チケット代金が高い」の割合が最も高く、18歳未満は「仕事や勉強で忙しい」の割合が最も高い。「仕事や勉強で忙しい」は、年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

図表2-13 来場の妨げになっていること(16年度)



第3章 貸館利用者からみた評価

1. 利用者調査の実施要領

- 調査の対象:2016年度の貸館利用者(団体)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:244件
- 有効回答数(回収率):171件(70.1%)

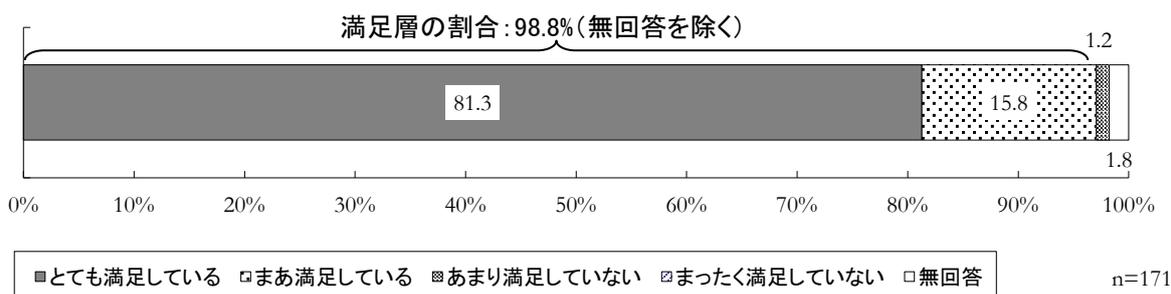
2. 利用者調査の結果概要

※本調査は、統計的な分析を目的とした調査ではなく、有効回答数も少ないため、アンケート結果の記述にあたっては、割合(%)とともに回答数を併記している。

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度(p.資-62)

- 劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足」が81.3%(139件)、「まあ満足」が15.8%(27件)で、満足層の割合(「とても満足」+「まあ満足」と回答した割合、無回答を除く)は98.8%と大変高い。

図表3-1 総合的な満足度(16年度)



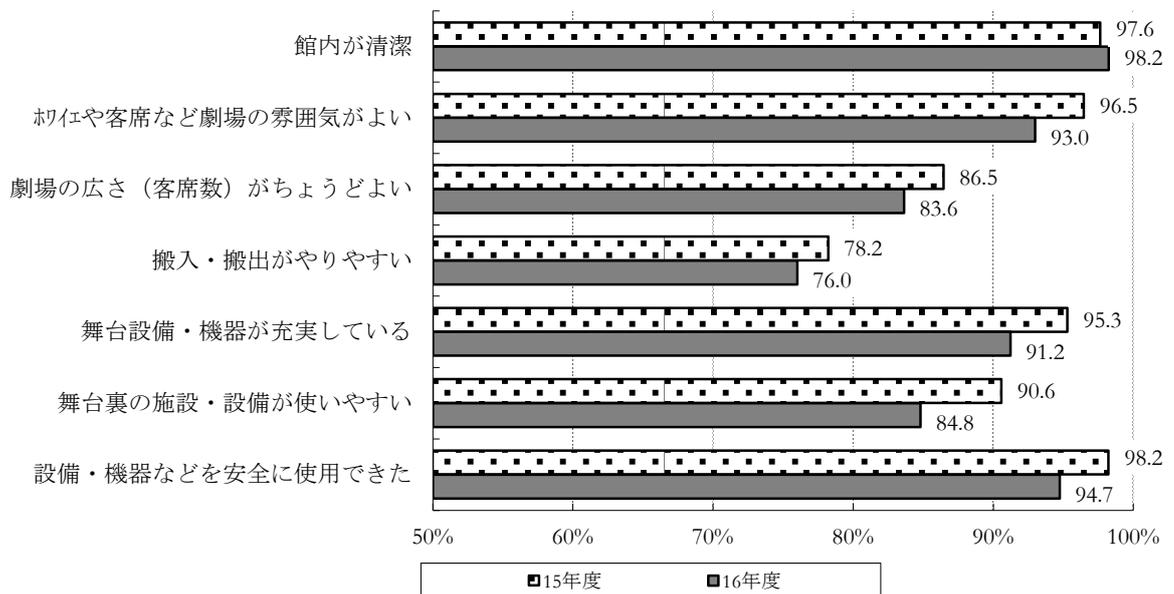
(2) 施設に関する意見(p.資-63~67)

- 施設に関する7項目については、全ての項目で肯定的な評価をしている割合(「はい」+「どちらかといえば『はい』」、無回答を除く)が95%以上と大変高い。特に「館内が清潔」、「設備・機器などを安全に使用できた」は100%となっている。
- また、「はい」という積極的な評価の割合も高く、特に「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がいよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」の4項目は、「はい」が90%以上である(図表3-2)。施設に関する評価は大変高い。(p.資-65~67)。
- 16年度は、15年度と比べて「館内が清潔」で「はい」への回答が増加している。「搬入・搬出がやりやすい」については、他の項目に比べて満足層の割合、「はい」への回答ともに少ない(図表3-2)。
※搬入・搬出については、複合施設である故の制限、駐車場からの動線の難しさ等が、意見記述欄にも課題として記入されることが多いが、打合せ時に説明・案内を周知する、施設側(リバーウォーク北九州)と協議・調整する等の対策を講じている。

図表3-2 施設(ハード)に関する意見(16年度)

n=171(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ どちらか といえば「はい」 (除無回答)
館内が清潔	98.2	1.8	0.0	0.0	0.0	100.0
ホワイヤ客席など劇場の雰囲気がよい	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6	99.4
劇場の広さ(客席数)がちょうどよい	83.6	14.6	1.8	0.0	0.0	98.2
搬入・搬出がしやすい	76.0	18.7	4.1	0.0	1.2	95.9
舞台設備・機器が充実している	91.2	7.0	1.2	0.0	0.6	98.8
舞台裏の施設・設備が使いやすい	84.8	12.3	2.3	0.6	0.0	97.1
設備・機器などを安全に使用できた	94.7	4.1	0.0	0.0	1.2	100.0

図表3-3 施設(ハード)に関する意見「はい」の回答割合比較(15年度・16年度)



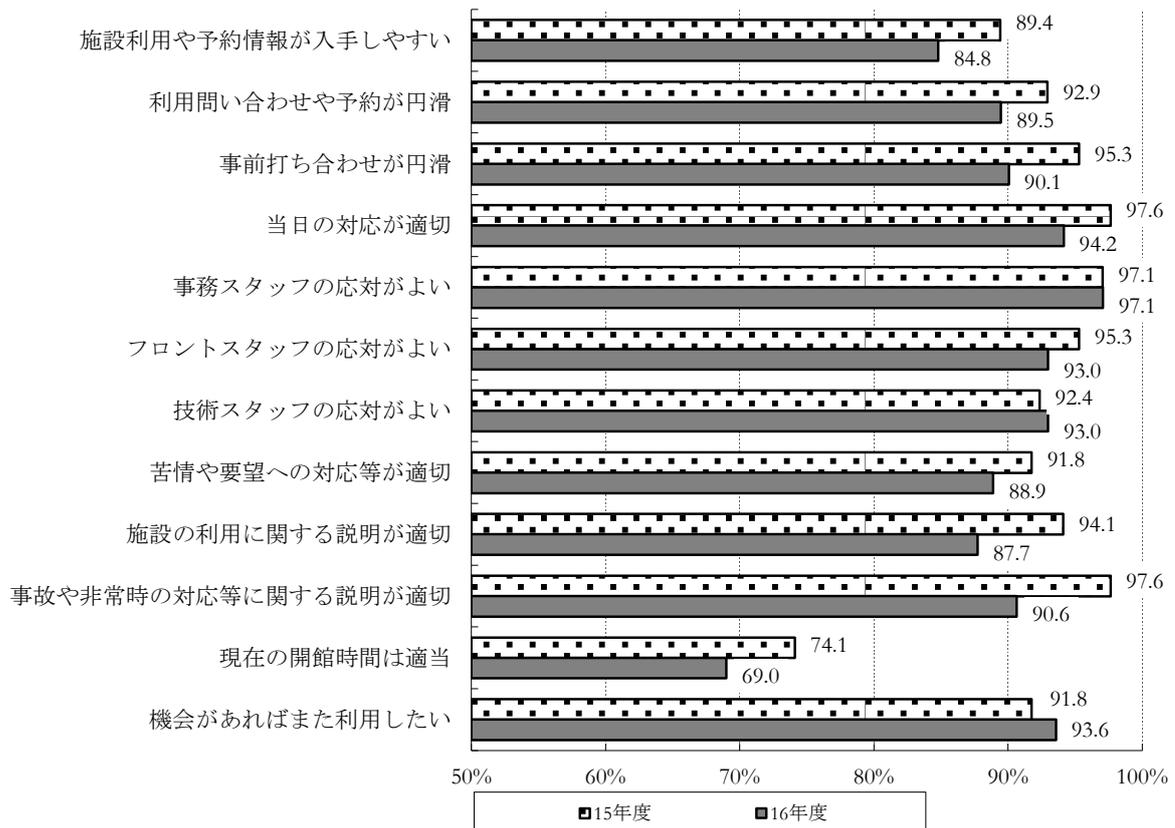
(3) 運営や対応に関する意見(p.資-68~73)

- 運営、対応に関する12項目についても、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で、肯定的な評価をしている割合が95%以上と高くなっている。また、「はい」という積極的に評価する割合も高い(図表3-4)。
- 「はい」という積極的な評価の割合については、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「フロントスタッフの対応がよい」が09年度以降8年間連続で9割以上が「はい」と回答している(p.資-71)。
- 16年度は、15年度と比べて、「技術スタッフの対応がよい」の項目で「はい」への回答割合が高くなっている一方で、「事前打合せが円滑」、「施設の利用に関する説明が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」では回答割合が5ポイント以上の下げ幅となっている(図表3-5)。
- 「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると「はい」の割合が低い。これは管理規則で10時から22時と定められており、より長い開館時間を求める意見や、仕込み等のために柔軟な利用時間の設定を求める意見があがっている。ただし、過去の推移を見ると、管理規則に対する利用者側の理解が浸透してきていることがうかがえる。

図表3-4 運営や対応(ソフト)に関する意見(16年度)

n=171(単位:%)	「はい」	どちらか といえば 「はい」	どちらか といえば 「いいえ」	「いいえ」	無回答	「はい」+ どちらか といえば「は い」 (除無回答)
	施設利用や予約情報が入手しやすい	84.8	11.1	1.8	0.0	
利用問い合わせや予約が円滑	89.5	7.0	0.0	0.0	3.5	100.0
事前打ち合わせが円滑	90.1	5.8	1.8	0.0	2.3	98.2
当日の対応が適切	94.2	4.1	0.0	0.0	1.8	100.0
事務スタッフの対応がよい	97.1	2.3	0.0	0.0	0.6	100.0
フロントスタッフの対応がよい	93.0	5.8	0.6	0.0	0.6	99.4
技術スタッフの対応がよい	93.0	4.7	0.0	1.2	1.2	98.8
苦情や要望への対応等が適切	88.9	9.4	1.2	0.0	0.6	98.8
施設の利用に関する説明が適切	87.7	8.8	1.2	0.0	2.3	98.8
事故や非常時の対応等に関する説明が適切	90.6	8.2	0.0	0.0	1.2	100.0
現在の開館時間は適当	69.0	21.6	5.3	2.9	1.2	91.7
機会があればまた利用したい	93.6	5.3	0.6	0.0	0.6	99.4

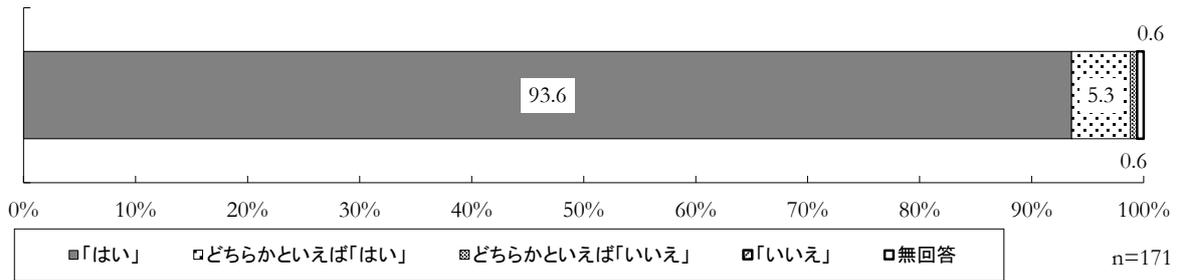
図表3-5 運営や対応(ソフト)に関する意見 「はい」の回答割合比較(15年度・16年度)



(4) 今後の利用の意向(p.資-73)

- 「機会があればまた利用したい」については、「はい」が93.6%(160件)と高い割合を占めており、「どちらかといえば『いいえ』」は0.6%(1件)、「いいえ」は0件であった。利用者の今後の利用意向は大変高い。
- 今後の利用意向の高さは、貸館事業全体への満足度の高さを示しているものと考えられる。

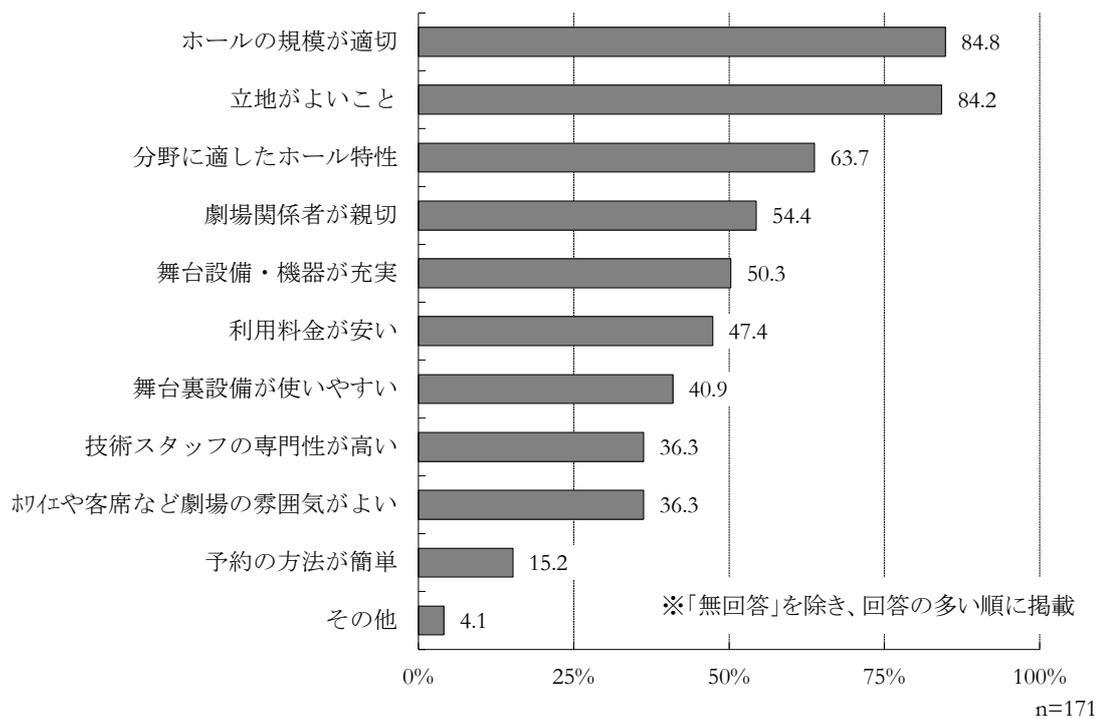
図表3-6 今後の利用の意向(16年度)



(5) 利用の際、重視すること(p.資-74~76)

- 利用の際重視することとしては、「ホールの規模が適切」(84.8%・145件)と「立地がよいこと」(84.2%・144件)とへの回答が多い。
- そのほか、「分野に適したホール特性」、「劇場関係者が親切」、「舞台設備・機器が充実」も50%以上の回答となっている。

図表3-7 利用の際、重視すること(16年度)



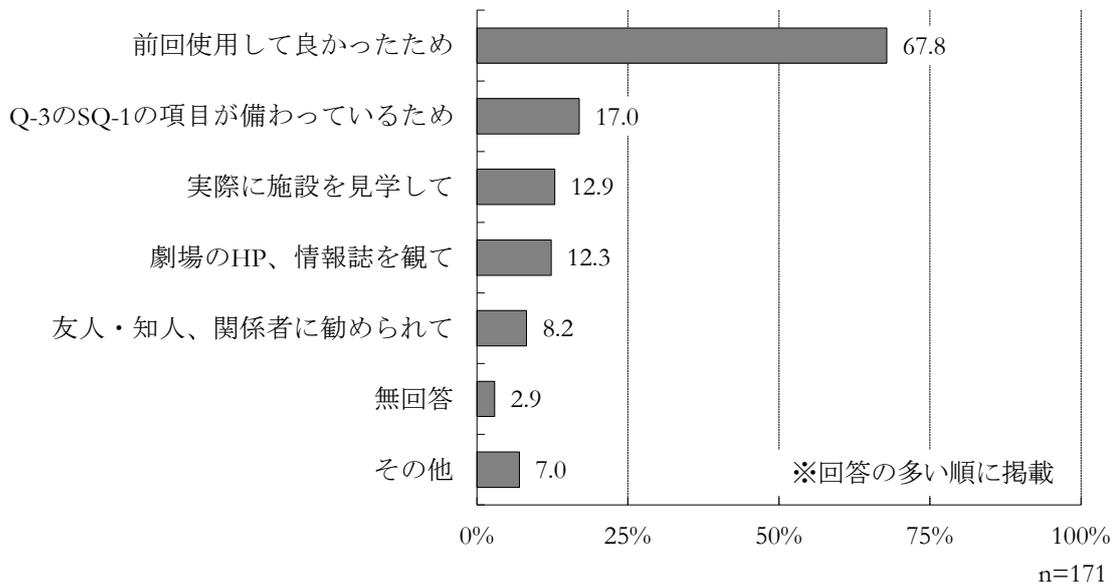
- 最も重視することは、「ホールの規模が適切」が最も多く(28.7%・49件)、次いで「立地がよいこと」(25.7%・44件)、「分野に適したホール特性」(24.0%・41件)となっている。

(6) 利用のきっかけ(p.資-77)

- 利用のきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、67.8%(116件)を占めている。利用者の劇場への満足度は高く、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。
- 次いで、「Q-3のSQ-1(利用の際、重視する)の項目が備わっているため」(17.0%・29件)となっており、「ホールの規模が適切」や「立地がよいこと」といった上位項目が劇場利用のきっかけ

かけになっていると考えられる。

図表3-8 利用のきっかけ(16年度)



第4章 経済波及効果とパブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、昨年度調査と同様、経済波及効果について、産業連関表を用いた分析を行うとともに、パブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

16年度も例年どおり、産業連関表に基づいた経済波及効果に加え、雇用効果を試算した。

(1) 北九州芸術劇場の経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表4-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の20%もしくは30%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアからの集客や、同じような消費活動を行っているとは考えにくい。⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。
- また、これらの計算結果のうち、北九州市内の経済波及効果と福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて、北九州芸術劇場がどのぐらいの雇用効果を有しているかを試算した。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果、雇用効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表4-1に示したとおりである。なお、本文中および図表に表記されている個別の項目の数値は100万円未満を四捨五入しているため、小計、合計、誘発係数には四捨五入による誤差が生じている箇所がある。
- ①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ6億4,800万円、2億8,900万円、1億8,500万円、合計で11億2,300万円となっている。そのうち、66.9%にあたる約7億5,100万円が北九州市内での最終需要である。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が9億1,300万円、②が4億7,000万円、③が2億

9,000万円、合計で16億7,300万円である。そのうち、61.6%にあたる10億3,000万円が北九州市内での経済波及効果である。生産誘発係数は、全体で1.49、北九州市内で1.37である。

- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみ)は、約6億4,200万円～7億1,200万円、生産誘発係数は1.39である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約23億1,600万円～23億8,600万円、生産誘発係数は1.46、北九州市内に限ってみると、約16億7,200万円～17億4,300万円、生産誘発係数は1.38となっている。
- また、これら経済波及効果の結果から試算した雇用効果は、就業者数(労働量)では143～151人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)で125～132人で、対事業所サービス、対個人サービス、商業などの分野を中心に雇用効果が現れている。

図表4-1 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(16年度)

	最終需要	経済波及効果	誘発係数	
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億4,800万円 (5億7,300万円)	9億1,300万円 (7億8,400万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億8,900万円 (7,200万円)	4億7,000万円 (1億円)	1.63 (1.39)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億8,500万円 (1億500万円)	2億9,000万円 (1億4,600万円)	1.57 (1.38)
	小計	11億2,300万円 (7億5,100万円)	16億7,300万円 (10億3,000万円)	1.49 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	1億200万円 ～1億5,400万円	1億4,000万円 ～2億1,100万円	1.37
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億5,700万円	5億200万円	1.40
	小計(参考値)	4億6,000万円 ～5億1,100万円	6億4,200万円 ～7億1,200万円	1.39
合計(参考値)	15億8,200万円 ～16億3,300万円 (12億1,000万円 ～12億6,200万円)	23億1,600万円 ～23億8,600万円 (16億7,200万円 ～17億4,300万円)	1.46 (1.38)	
	雇用効果 (北九州市内)	143～151人(就業者ベース) 125～132人(雇用者ベース)		

※下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館事業については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。

※図表に表記されている数値は100万円未満を四捨五入しているため、誤差が生じている箇所がある。

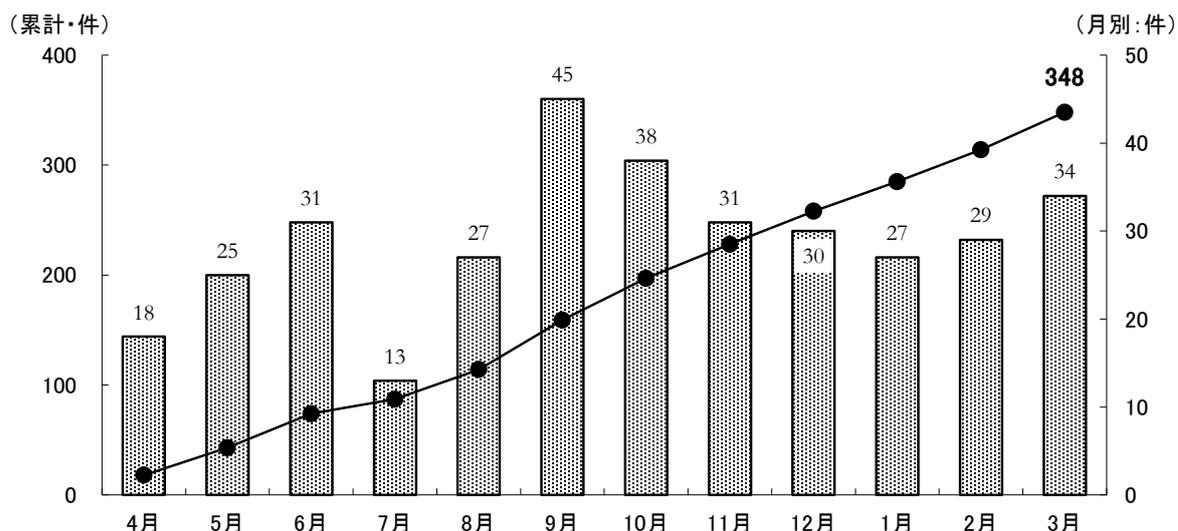
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、03年度から新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出しており、16年度も継続してパブリシティ効果の算出を行なった。

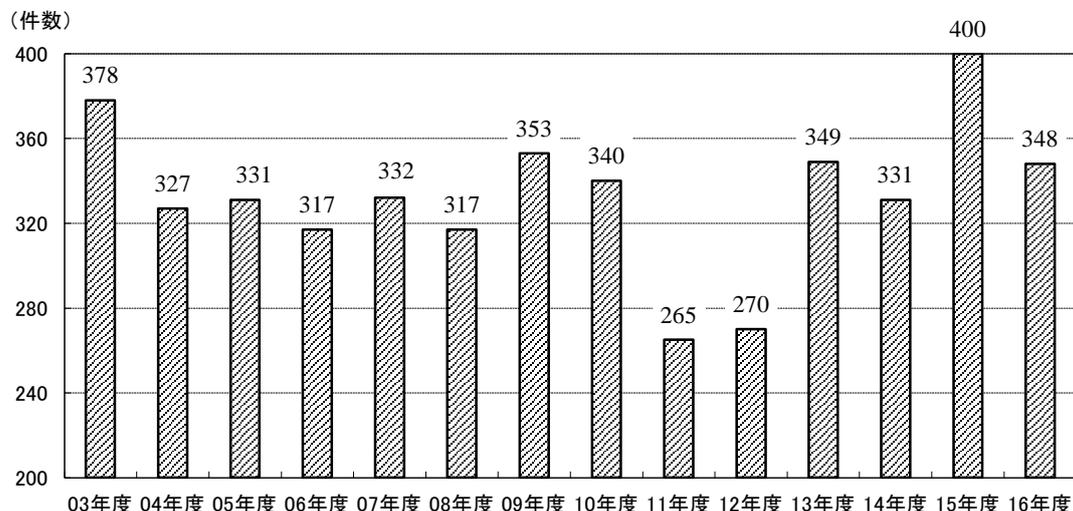
(1) 「北九州芸術劇場」をキーワードとした16年度の掲載記事の件数と内容

- 16年度についてみると、「北九州芸術劇場」をキーワードに検索された新聞記事の件数は348件(図表4-2)である。
- 03年度は開館年度ということで話題性が高く、掲載記事の件数も多かった。04年度以降は、「北九州芸術劇場」を会場とするイベントや関連記事、北九州芸術劇場の事業に関する記事がコンスタントに掲載されている。11年度は過去最少の掲載件数となったが、その要因は2011年3月11日に発生した東日本大震災を扱った記事が、長期間紙面を占めたことが考えられる(図表4-3)。

図表4-2 月ごとの掲載件数と累計(16年度)



図表4-3 年度ごとの新聞記事掲載件数の推移(03年度～16年度)



資料) 図表4-2、4-3ともに「日経テレコン」記事検索の結果より作成

- 新聞別に見ると、16年度で掲載が最も多いのは西日本新聞(163件)、次いで、朝日新聞(57件)、毎日新聞(47件)、読売新聞(39件)、日経新聞(6件)となっている。その他、九州各県をはじめとする地方新聞は36件となっている(図表4-4)。

図表4-4 新聞別件数一覧(03年度～16年度)

	西日本新聞	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	日本経済新聞	その他	計
03年度	151	78	58	40	34	17	378
04年度	147	52	31	61	32	4	327
05年度	149	48	34	46	37	17	331
06年度	149	60	20	31	37	20	317
07年度	120	74	32	28	50	28	332
08年度	119	62	33	36	41	26	317
09年度	131	80	43	45	34	20	353
10年度	146	73	30	31	35	25	340
11年度	101	59	33	28	18	26	265
12年度	111	64	27	30	17	21	270
13年度	128	73	43	36	17	52	349
14年度	120	61	38	35	30	47	331
15年度	175	61	55	50	12	47	400
16年度	163	57	47	39	6	36	348

資料) 「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① 北九州芸術劇場の公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② 北九州芸術劇場のPRキャンペーン、劇場主催事業の紹介記事
 - ③ 情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「北九州芸術劇場」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「北九州芸術劇場」)
 の5種類に分類し、北九州芸術劇場として記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、169件であった(15年度:187件)。
- その内容を、「主催/提携・協力事業」、「学芸事業」、「貸館事業」、「その他(劇場全般、劇場職員への取材記事等)」に分類すると、それぞれ、60件、16件、79件、14件であった(図表4-5)。

(2) 広告掲載料をベースとした金額換算と評価

- これら169件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億4,800万円という結果となっている(図表4-6)。
- 03年度は開館、04年度は「とびうめ国文祭」で話題性が高く、掲載記事の件数・文字量が多かったため、換算金額も高くなった。
- 05年度は全国展開型の創造事業の公演数が多く、06年度は朝日舞台芸術賞グランプリを獲得し、全国紙の掲載件数が多かった。広告の単価は全国紙で高いため、05年度と06年度は全体の掲載件数は突出して多くはないが、換算金額が高いという結果になっている。
- 07年度以降は、コンスタントに劇場事業や関係する劇団の記事などが掲載されるようになって

ている。

- 16年度の掲載内容をみると、西日本新聞、朝日新聞(西部)、読売新聞(西部)での演劇や舞台に関する批評・紹介欄で、公演事業に関する記事が掲載されている。九州他県の地方紙でも紹介されており、北九州市域外での劇場事業の定着が新聞記事からうかがえる。
- 16年度は「しなやか見渡す穴は森は雨」、「ダンスダイブウィーク」、「パーマ屋スマイル」といった公演事業や、「Re:北九州の記憶」、「高校生[的]シアター」などの学芸事業に関する紹介記事も多い。
- 16年度は貸館事業に関する紹介記事が79件と開館以降で最も多い件数となっている。紹介が多かった内容は、国際バイオリンコンクールで入賞した北九州市出身のバイオリン奏者による里帰り公演、日伊国交150周年を記念した北九州シティオペラとイタリアの歌劇場との共催公演、北九州市立文学館の開館10周年の記念イベントなどが挙げられる。
- 16年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,300万円であり、劇場事業のパブリシティ効果(約1億4,800万円)は補助金の規模を大幅に上回る成果を生み出していると言える。

図表4-5 新聞掲載記事の内容と件数(03年度～16年度)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	70	8	46	56	180
2004年度	54	5	43	61	163
2005年度	75	25	34	25	159
2006年度	88	17	35	23	163
2007年度	85	12	31	26	154
第1期 平均	74	13	38	38	164
2008年度	55	12	50	32	149
2009年度	86	11	57	23	177
2010年度	82	28	55	22	187
2011年度	41	8	42	15	106
2012年度	37	19	49	17	122
第2期 平均	60	16	51	22	148
2013年度	51	31	58	40	180
2014年度	65	28	40	25	158
2015年度	72	25	66	24	187
2016年度	60	16	79	14	169
累計	921	245	685	403	2,254

図表4-6 新聞掲載記事の内容と金額換算(03年度～16年度)

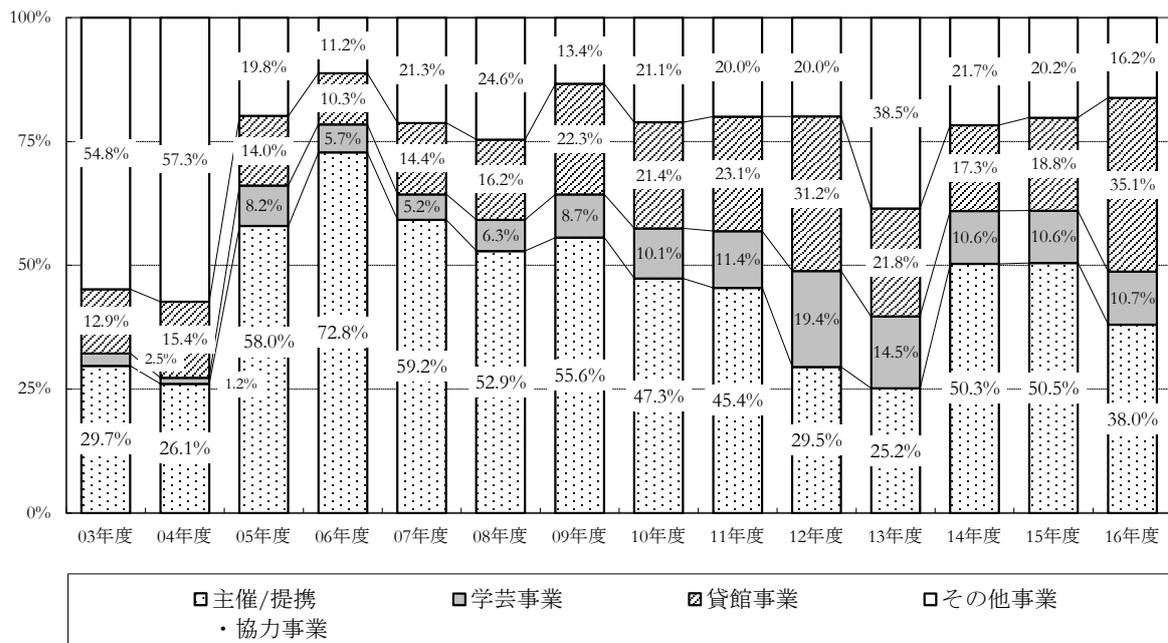
(金額:千円)

	主催/提携 ・協力事業	学芸事業	貸館事業	その他	合計
2003年度	62,140	5,331	27,072	114,683	209,226
2004年度	46,211	2,141	27,235	101,577	177,164
2005年度	110,044	15,505	26,622	37,678	189,849
2006年度	160,243	12,451	22,741	24,680	220,115
2007年度	66,027	5,777	16,056	23,737	111,597
第1期 平均	88,933	8,241	23,945	60,471	181,590
2008年度	66,588	7,926	20,392	30,961	125,867
2009年度	65,542	10,316	26,293	15,755	117,906
2010年度	64,078	13,718	28,986	28,598	135,380
2011年度	42,162	10,621	21,443	18,563	92,789
2012年度	31,969	21,021	33,825	21,646	108,461
第2期 平均	54,068	12,720	26,188	23,105	116,081
2013年度	41,879	24,104	36,272	64,035	166,291
2014年度	104,207	22,050	35,890	44,928	207,075
2015年度	97,930	20,472	36,429	39,170	194,002
2016年度	56,447	15,910	52,070	24,061	148,488
累計	1,015,468	187,343	411,326	590,073	2,204,210

※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

- また、事業ごとの掲載割合を金額換算ベースで見た場合、09年度の時点で過半数の割合だった主催/提携・協力事業の割合が年々減少し、学芸事業、貸館事業、その他事業の割合が年々増加してきたが、14年度は主催/提携・協力事業の割合が13年度に比べて大幅に増加した。16年度は貸館事業の割合が開館以降で最も高い割合となっている(図表4-7)。

図表4-7 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース](03年度～16年度)



第5章 まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査

「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに、北九州芸術劇場の劇場内で行われる公演事業や、劇場外で行われる事業(例えば学芸事業のアウトリーチや北九州芸術工業地帯など)の関係者を対象としたグループインタビューを実施した。北九州芸術劇場が、誰もが住みやすいまちづくりや地域経済の活性化に、どのような役割を果たしてきたのか、過去14年間の成果や波及効果の検証を行った。

1. 調査概要

(1) 実績調査

北九州芸術劇場が、まちづくりや地域経済との関わってきた事業の実績と推移を整理、分析し、事業の定量的なデータの推移を把握した。主な調査項目は次のとおり。

- 劇場での事業実績
- 地域での事業実績
- 経済波及効果、雇用効果の推移
- パブリシティ効果の推移
- 北九州市のまちづくりや地域経済と北九州芸術劇場 など

(2) グループインタビュー

まちづくりや地域経済の観点から、北九州芸術劇場の事業や運営と接点を持つ団体・個人に意見を聞くため、北九州芸術劇場と協議のうえ候補者を抽出し、グループインタビューを実施した。インタビューの内容は次のとおり。

- 北九州芸術劇場(の事業)に関わったきっかけ、動機について
- 北九州芸術劇場(の事業)で記憶に残っていること
- まちづくりや地域経済面における北九州芸術劇場の成果、波及効果
- まちづくりや地域経済において北九州芸術劇場に期待すること など

以下、実績調査およびグループインタビューの結果から、ワークショップ型事業や創造事業の中長期の成果や波及効果を紹介する。

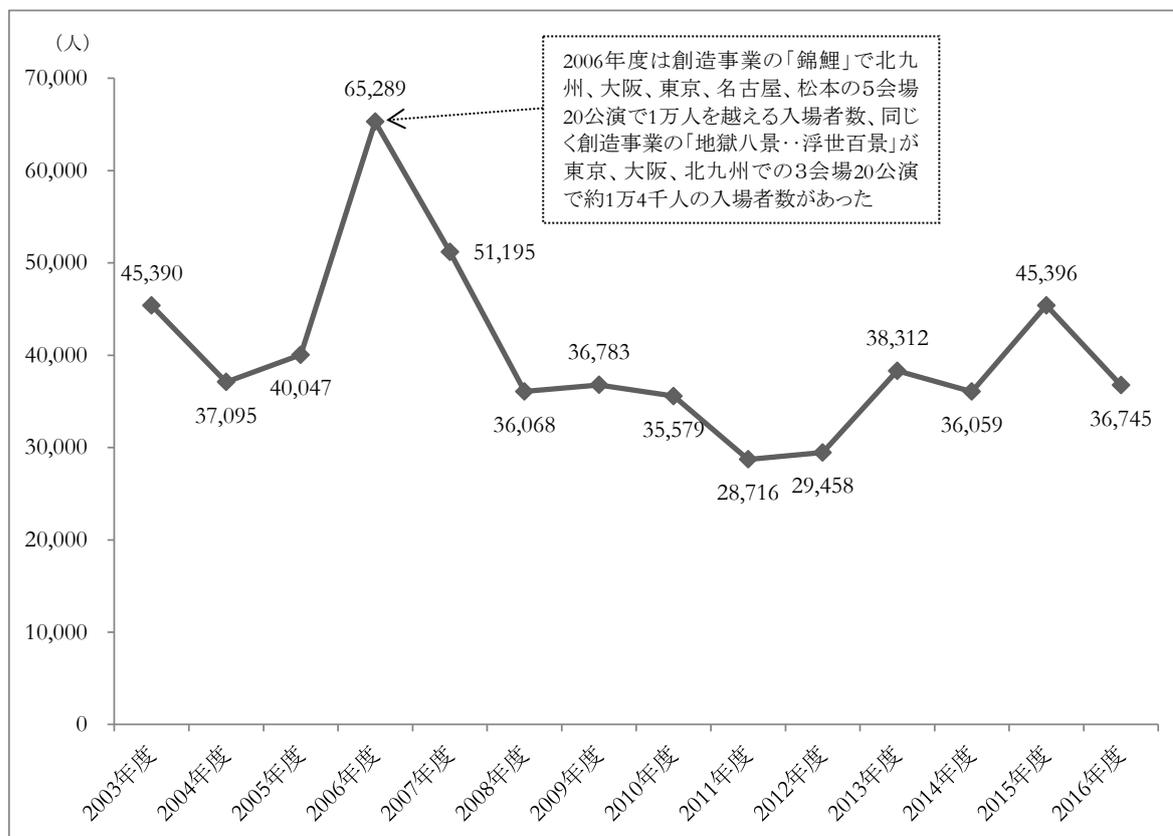
2. 実績調査

(1) 劇場での事業実績

14年間の自主事業での公演事業の累計入場者数は約56万人、487件の事業、1,652回の公演を行った。平均すると、年間で35件の事業、118回の公演、約4万人の入場者数となっている。事業実績の14年間の推移を見ると、北九州以外の都市での創造事業の巡回公演が積極的に行われた2006年度は入場者数が突出して多く、提携・協力事業が例年に比べて多かった2014年度で最も公演数が多い。

- 2003年度から2016年度までの14年間の自主事業のうち、劇場での公演事業(創造事業、公演事業、提携等事業、演劇祭等)の入場者数は、累計で約56万人、平均すると年間約4万人となっている(→図表5-1、資-109)。
- 入場者数の推移を見ると2006年度の入場者数は他の年度に比べて突出して多く、当年度は北九州以外の都市で創造事業の巡回公演を積極的に行っている点で、例年とは大きく異なっている。
- 公演数・事業数は14年間で累計487件の事業、1,652回の公演を行ってきた。年間で平均35件の事業、118回の公演となる(→資-110)。
- 公演数・事業数の推移を見ると、事業数が最も多かったのは2007年度と2015年度、公演数が最も多かったのは2014年度となっている。2014年度は提携・協力事業で13事業42回の公演が行われており、例年よりも提携・協力事業の公演数が大幅に多くなっている。

図表5-1 北九州芸術劇場の自主事業における公演事業の入場者数

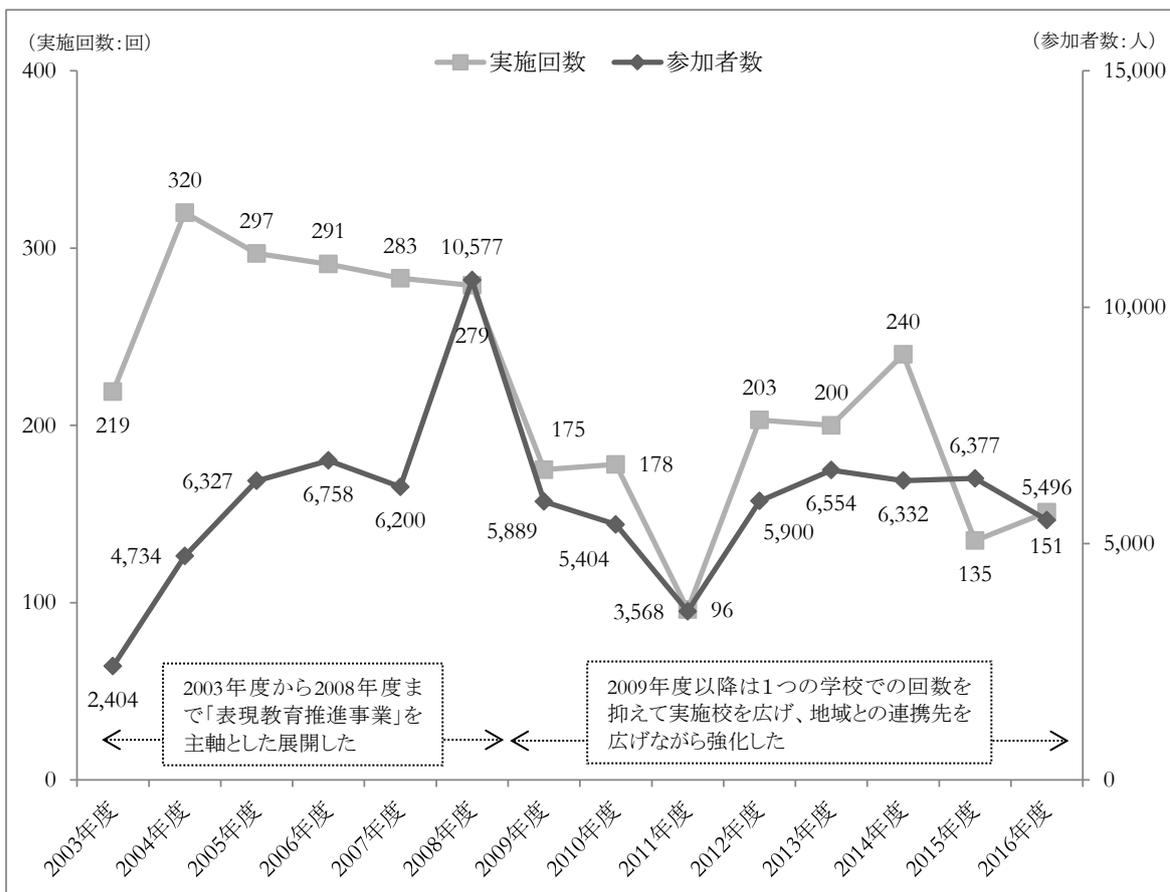


(2) 地域での事業実績

学芸事業の実績を14年間で累計3,067回のアクティビティ、82,520人の参加者延べ人数があった。平均すると、年間で219回のアクティビティ、5,894人の参加延べ人数となっている。2008年度までは「表現教育推進事業」を学芸事業の主軸としていたが、2009年度から方針転換し、実施校を広げ、地域との連携を強化する方向に転換している。

- 学芸事業での参加者数・実施回数を見ると、14年間で累計3,067回のアクティビティ、82,520人の参加者延べ人数があった。年間で平均219回のアクティビティ、5,894人の参加延べ人数となる(→図表5-2、資-111)。
- 推移を見ると、実施回数が最も多かったのは2004年度で、参加者延べ人数が最も多かったのは2008年度となっている。2003年度から2008年度まで「表現教育推進事業」が学芸事業の主軸となっていたため、同一の小学校でアクティビティの回数を重ねていたが、2009年度以降は学芸事業の方針が転換されて1つの学校での回数を抑えて実施校を広げている。また、地域との連携先を広げながら強化する方向に転換している。

図表5-2 北九州芸術劇場の自主事業における学芸事業の参加者数・実施回数

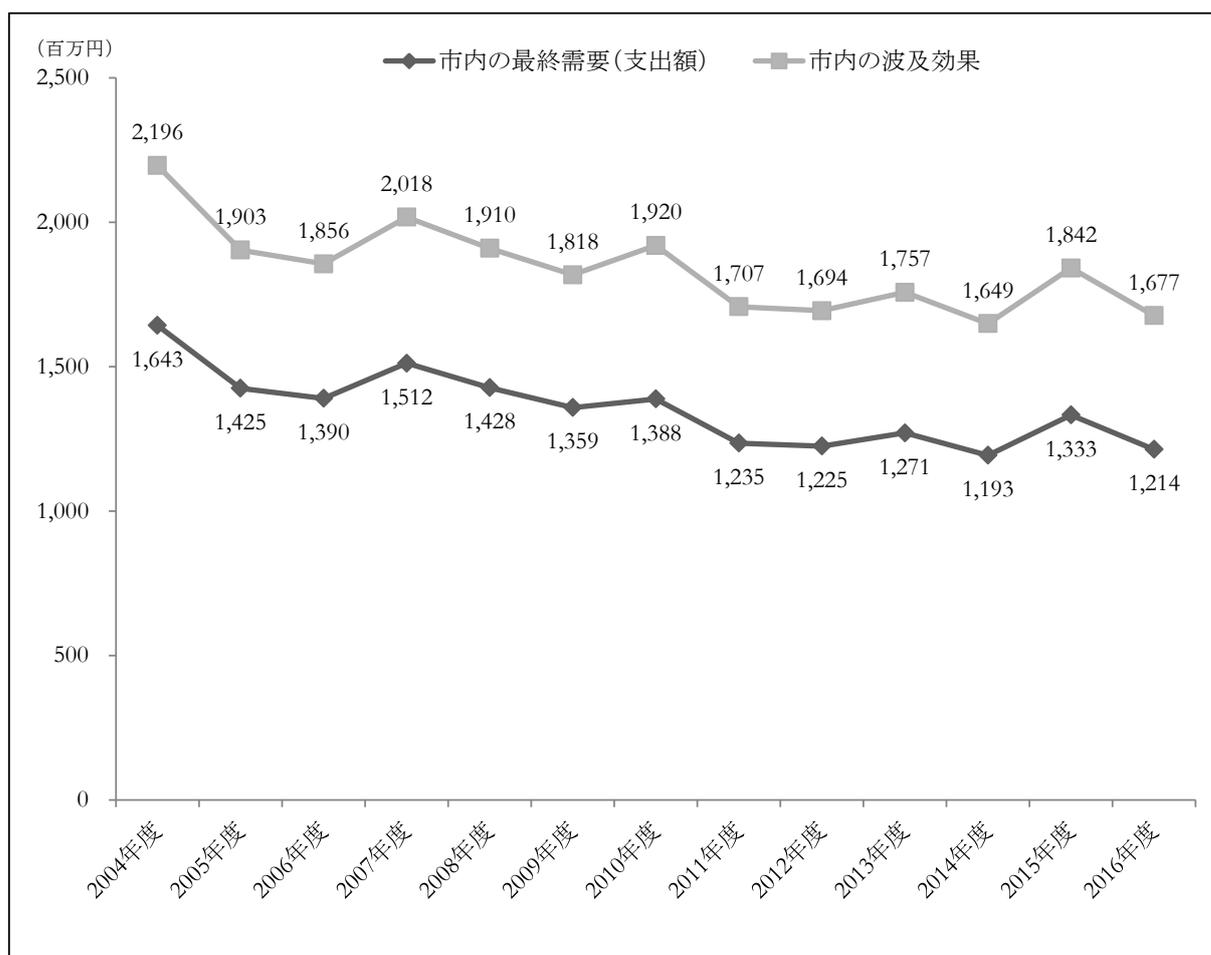


(3) 経済波及効果、雇用効果の推移

経済波及効果を集計し始めて以来13年間で、北九州芸術劇場の運営にともなう北九州市内での最終需要額(支出額)は、年間平均で約13.6億円、市内の波及効果*が年間平均で約18.4億円となっている。雇用効果を集計し始めて以来11年間で、市内に及ぼす雇用効果を年間で平均すると、就業者数で151~160人、雇用者数で131~138人となっている。

- 北九州芸術劇場が北九州市内に及ぼす経済波及効果は、集計し始めた2004年度からの13年間で、市内の最終需要(支出額)が年間平均で約13億5,500万円、市内の波及効果*が年間平均で約18億4,200万円となっている(→図表5-3、資-112)。
- 13年間の推移を見ると、2004年度が最も高い最終需要、波及効果となっている。生産誘発係数は2004年度では1.34で、2016年度は1.38となっている(→資-112)。
- 北九州芸術劇場が北九州市内に及ぼす雇用効果は、集計し始めた2006年度からの11年間で、市内の就業者数(労働量)が年間平均で151~160人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)が年間平均で131~138人となっている。11年間の推移を見ると、2006年度が最も高い雇用効果となっている(→資-113)。

図表5-3 北九州芸術劇場の北九州市内に及ぼす経済波及効果

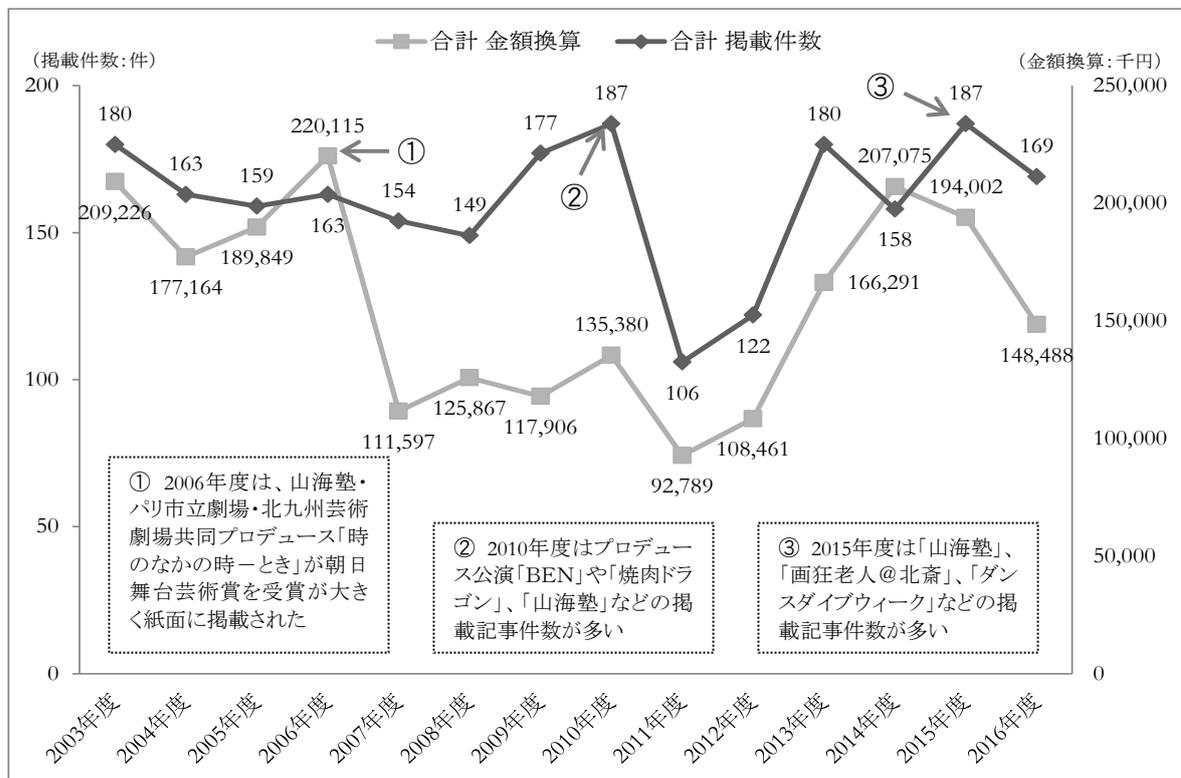


(4) パブリシティ効果の推移

14年間のパブリシティ効果を見ると、年間平均で161件の新聞掲載、金額換算すると約1億6千万円となっている。事業実績とパブリシティ効果で、定量的な結果の間に相関関係は見られないが、劇場のプロデュース色の強い公演や全国的に注目を集める公演を取り上げた年度は、パブリシティの掲載件数が高い。

- 2003年度から2016年度までの14年間のパブリシティ効果の推移を見ると、新聞の掲載件数の年間平均は、161件、広告掲載料をベースとした金額換算の年間平均は1億5,744万円となっている(→資-114)。
- 掲載件数の最も多かったのは2010年度と2015年度で、2010年度はプロデュース公演「BEN」や「焼肉ドラゴン」、「山海塾」などの掲載記事が多く、2015年度は「山海塾」、「画狂老人@北斎」、「ダンスダイブウィーク」の掲載記事が多い。
- 金額換算が最も大きかった2006年度は、山海塾・パリ市立劇場・北九州芸術劇場共同プロデュース「時のなかの時—とき」が朝日舞台芸術賞を受賞し、新聞の大きな紙面に掲載された結果となっている。
- 事業実績(入場者数、公演数、事業数)とパブリシティ効果で、定量的な結果の間に相関関係は見られないが、劇場のプロデュース色が強く出ている公演や全国的に注目を集める公演を取り上げた年度は、パブリシティの掲載件数が高い。
- また、ニュース性の高い内容(朝日舞台芸術賞の受賞など)や、いわゆる「後パブ」(公演の事後に掲載される批評など)での記事が多く掲載された公演では、金額換算に与えるインパクトも大きいと言える。

図表5-4 北九州芸術劇場におけるパブリシティ効果の推移

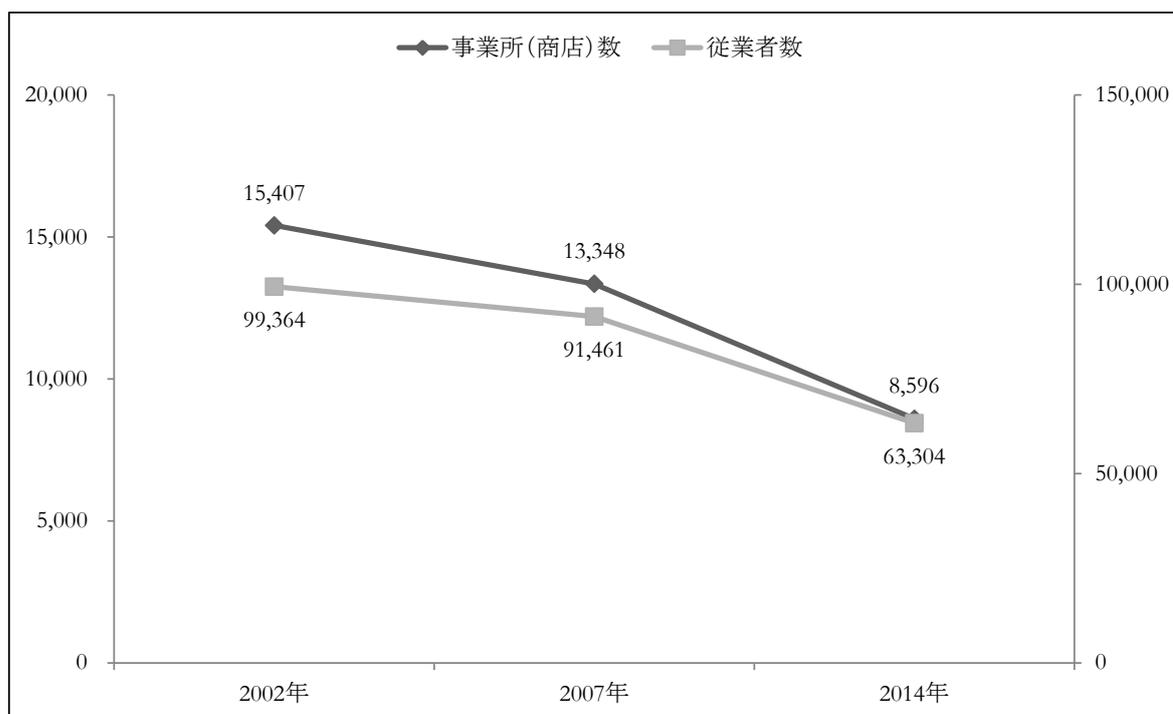


(5) 北九州市のまちづくりや地域経済と北九州芸術劇場

北九州市の教育、福祉、経済関係の統計データから、長期時系列の推移について調べたところ、児童数・生徒数の減少、福祉施設数の増加、事業所数や従業員数の減少など、中長期的に見て地域の活力をどのように維持するか、課題が浮かび上がっている。そうした中、北九州芸術劇場は、今後も事業や運営を通してまちづくりや地域経済に貢献することが期待される。

- 1996年度から2015年度までの20年間で、北九州市内の小・中学校と高等学校の児童数・生徒数の合計は、1996年度で139,732人、2015年度で101,589人となっている。1996年度を100%とすると、2015年度は72.7%で、20年間で27.3%の減少となっている(→資-115)。
- 北九州市の社会福祉事業施設数について、2013年度、2014年度、2015年度の推移を見ると、児童福祉施設は226→230→230件、障害福祉施設は203→232→231件、老人福祉施設は102→109→114件となっている(→資-117)。
- 北九州市における事業所数及び従業者数について、2001年と2006年の事業所・企業統計調査、2009年と2014年の経済センサスから数値を抽出したところ、2001年では52,225件の事業所で466,989人の従業者、2014年は44,150件の事業所で466,561人の従業者となっている(→資-118)。
- 北九州市における卸売業・小売業を営む事業所(商店)数及び従業者数の推移について、2002年では15,407件の事業所(商店数)、99,364人の従業者数が、2014年では8,596件の事業所(商店)数、63,304人の従業者数といずれも減少している(→資-119、図表5-5)。
- 北九州市における卸売業・小売業を事業所(商店)の年間商品販売額について、2002年では3兆922億円から、2014年の2兆4,139億円へと減少している。2002年を100%とすると、2014年の年間商品販売額は78.0%と、12年間で22.0%の減少となっている(→資-120)。

図表5-5 北九州市における商店数及び従業者数の推移



3. グループインタビュー調査

(1) 北九州芸術劇場(の事業)に関わったきっかけ、動機について
地域が抱えている課題に対して「一緒にできること」を模索

インタビュー対象者が最初に関わったきっかけは、劇場から地域の団体にアプローチした場合が多いものの、逆に、地域の団体から劇場にアプローチした場合も聞かれた。また、事業で関わり始める前の関係性も様々である。共通していることは、地域が抱えている課題について、対等な関係で「一緒にできることは何か」を模索してきた点にある。

【グループインタビューから】

- 32年前に演劇類型コースを立ち上げたが、生徒が集まらず、募集停止の検討があった時期に、劇場から「芸術鑑賞でお芝居を見に来ませんか」というお誘いがあった。「学校に来て授業を直接教えることもできますよ」、「ワークショップに生徒を参加させていただくこともできますよ」というお話からスタートをして、年々、活動が広がっていきながら、今現在がある(高等学校)。
- 初めは劇場が私たちの団体のほうに来られて、「何か一緒にできることはありませんか」という話を頂き、そこからのスタートだった。どのような形で取り組めばよいのかが全く分からない状態の中で、ダンスワークショップをやることで、楽しいことから入って、障害を理解していきながら、どう接したらよいのかを、その都度考えていく新しい事業の取り組みができた(障害者福祉)。
- 学生時代から大道具の仕事に興味を持ち、大道具製作専門の会社を起業した。北九州芸術劇場が開館し、出入りしはじめて、プロデュース公演に「参加してみないか」という話が劇場からあった。劇場の技術課の業務委託を受けるに当たって、北九州市舞台事業協会がある。協会は北九州市内に本支店がある6社で、6社を合わせると100名近い規模になる(大道具製作)。
- 団体が発足して間もない時期に、若者にとってメリットのあるプログラムを劇場に相談をした。その年か翌年に、ワークショップでアーティストを呼んでいただき、それで演劇やダンスをやった。はじめはこちらから劇場に「何かないか」と声を掛けて、若者にプラスになるものは何かないだろうかと幾つか探していた上で、劇場とマッチした(子ども・若者支援)
- 紫川再開発事業の中でホテルが1997年に建てられ、その後、リバーウォークに芸術劇場が建設された。立地上で近いために劇場での公演関係者の宿泊のお仕事の話の頂くとある流れがある。事業所にとって劇場はトップ3に入るくらいの契約法人で、非常に大きなセグメントになっている。観劇でお越しになる県外からのお客さまもいらっしゃる(宿泊業)。
- 劇場とは公演の関係者が多数東京と北九州を往来するので、営業面でのお付き合いはあった。今回の劇場からの声掛けがあり、「そらダン」のコラボレーションが実現した。提案自体は全て劇場からお話をいただいた。北九州市の企業であるという認識が、劇場と連携する強い要因だった(航空業)
- それまではモノレールの駅のポスターの掲示等での関わりはあったが、一緒に何かやろうという関わりは全くなかった。6年前くらいに劇場から「モノレールの車内で魔女がいたずらをしている写真を撮りたい」という、前例のない注文が入った。どうしても堅いイメージがある公共交通に対し、少し柔らかい面を見せられるのではないかという話があり、撮影を受けることになった。これを機にいろいろなことができればという考え方もあった(公共交通)。

(2) 北九州芸術劇場(の事業)で記憶に残っていること 劇場との関わりの中で生まれる人材・組織の変化と成長

劇場が地域の団体と一緒に取り組んだ活動は、演劇やダンスなどの舞台芸術を介しているものの、それぞれに目的や内容は異なっているが、記憶に残っていることの共通点は、その活動を通じた人材、あるいは組織の変化や成長の手応えである。また、活動に関わったインタビュー対象者にとって、演劇に対する考え方だけでなく、仕事に対する考え方をも変化させている。

【グループインタビューから】

- 東京から大きなカンパニーが来る場合、技術も知識も経験も、全てにおいて目新しいものばかりだったが、今では劇場のプロデュース公演もそうだが、東京に行っても遜色はないと思う。開館当初に比べると、圧倒的な底上げがあって、全国的に見ても、一目置かれる劇場として認知してもらえている自信や自負がある。(大道具製作)。
- 若い劇団が北九州の中にはたくさんできてきた。劇場が起因していることはほぼ間違いないと思っている。若者が演劇をやりたい、何か表現してみたいと思えるきっかけ、ないし、それを表現することに対するお手伝いができることを誇らしく、やりがいのある仕事だと思っている。舞台技術の人間も若い人間が増えて、平均年齢も下がっていると思う。(大道具製作)。
- 劇場からアーティストとスタッフの方々が学校に来て3週間で生徒とお芝居をつくり、学校で発表した。たった3週間で生徒が見違えるくらい成長した。生徒たちはそれからの学校生活や授業の様子が全く変わり、自信を持って高校を卒業して社会人になっていった(高等学校)。
- 大体、障害がある方が描く絵などに対しては、福祉的な要素でしか見ていただけなかった。しかし、劇場と一緒にダンスワークショップをやってみて、個人の個性が全面的に出ていたと思っている。新しいものを生み出す力を持っているのがアーティストと考えたときに、障害のある方は、もしかしたらすごいアーティストではないかと、気付かされた(障害者福祉)。
- 3年前に劇場の企画でダンスをつくったが、そのダンスはまだずっと残っていて、毎年1回どこかで披露している。若者たちが自主的に、「いつやるのか」、「今年はやるのか」と言う。劇場の手を離れて、独立して歩いている感じである。思いもしない人までがステージに上って、人前で踊る。恥ずかしくないのかと聞くと「いや、みんなで踊るので、大丈夫だ」と言う(子ども・若者支援)。
- 劇場のスタッフの方々が下支えをしっかりと対応していらっしゃるのを見て感慨深い思いをしたことがある。そうした中で、安心して芸能関係の方が泊まれるホテルのハウツーは自然に身に付いていると思う。その後、大手のプロモーターなどからの宿泊の依頼が増えてきている(宿泊業)。
- 劇場との「そらダン」というプロジェクトで会社のいろいろな施設でいろいろな職種の人が踊り、映像を作った。仕事のモチベーションも上がり、またお客さまからも声を掛けてもらった。「そらダン」がきっかけで、ダンスチームを別でつくり、ずっと今も活動している。きっかけをいただいたおかげで、本当に今自分たちが楽しくやれており、会社も応援してくれている(航空業)。
- モノレール演劇にしても、今まではそのような使い方をしていないので、いろいろな問題が出てきた。それを解決していかなければいけないのだが、モノレールの車内を使ったりリハーサルを見ると、一生懸命に取り組んでいて、逆に、それを見た社員が「こういう使い方でもできるのではないかと」アイデアが挙がった。劇場のおかげで会社としてもレベルアップではないが、いろいろなことができるようになったのではないかと思う(公共交通)。

(3) まちづくりや地域経済面における北九州芸術劇場の成果、波及効果

人材の育成、組織文化の醸成、地域のイメージアップ、その先に見える経済的な効果

教育や福祉といった分野の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、企業の直接的な収入につながることも、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。北九州市の活性化につながり、経済的な効果を生む手応えや具体的なイメージを描いている点が共通している。

【グループインタビューから】

- 福祉というと、入所あるいは通所する施設と自宅が生活の中心となり、社会と接する機会が限られるが、劇場とのワークショップでは、3年目に福祉会館ではなく劇場で多くワークショップを実施した。いつもの使い慣れた場所を変えることはチャレンジだった。好きなことをするために、外出方法を本人も支援者も考える(障害者福祉)。
- 北九州をいかに元気なまちにしていくかという点で、劇場と学校と私の目指す部分は、一致していると思う。学校で演劇を学んだ卒業生が地域に残り、演劇活動をしている事例も出てきている。それを通じて地域が活性化できればよいと思う。北九州市が福岡市に負けていない部分は、「福岡市には博多座はあるけれども北九州芸術劇場はない」ということだ(高等学校)。
- 小劇場でとある劇団の舞台美術をやった時、その公演をご覧になったお客様で、CMなどを製作している方から、「今度つくるCMの美術を担当してもらえませんか」と、急に電話がかかってきた。劇場の経済波及効果は、未知数だと思う。劇場に来るということは、リバーウォークに来て、食事をし、駐車場なども使う。その方が遠方から友達を呼べば、宿泊もする。だから演劇を通して活動すること自体が何かしらを生むのだという体感が、実体験としてある(大道具製作)。
- 最初はろくにあいさつもできなかった若者が、演劇の経験を積み重ねることで、舞台に立つという自信だけではなく、社会で活動する自信につながる。劇場が持っているポテンシャルは、経済的にも内面的にもすごいものがあると思う(大道具製作)。
- 経済効果といえば、おそらく若者たちが社会に出て働き始めるので、地域経済に税金が落ちていくという循環が生まれると思う。納税者でなかった人が、納税者になるというかたちの経済効果があると思う。2015年度は十数人が参加して、そのうち8名くらいはその年に就職した。演劇・ダンスの効果だけではないと思うが、それでも効果は上がっていると思う(子ども・若者支援)。
- 最近、宝島社の「住みたいまちランキング」のシニア世代部門で北九州市が1位で選ばれたという報道を聞いて、まちの魅力、活性化、人材の育成の成果が、少しずつ出ているのではないかという気もした(宿泊業)。
- 私たちの経済面というと、やはり運輸収入というのがメインになるが、モノレール演劇を見て「少し身近に思えてきた」という声がかかなり多かった。今まで来ていなかった人に来ていただけるとなると、やはり経済活動、波及効果を含めて上がってきているのではないか(公共交通)。
- 当社が参加したのは、この事業をきっかけに社員をもっと元気にしよう、部署の垣根や縦割りの関係にとらわれず、横の連携や交流をつくり、社内文化をよくしたいという思いがあったからだった。すごく効果があったと思っている(航空業)。
- 羽田空港でも当社の名前を、ダンスを通して知ってもらうことができた。また、新聞の取材も何社か来ていただき、そこからダンスチームに発展していき、それがこの波及効果、会社を宣伝できるように成長したのではないかと思っている(航空業)。

(4) まちづくりや地域経済において北九州芸術劇場に期待すること

まちづくりを担う人材の育成、地元の資源を活用し、発信する拠点としての劇場

劇場や舞台芸術といった専門分野での人材だけでなく、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。一方、今後も持続的に人材を育成していくためには財源の安定性が必要だという意見もある。

【グループインタビューから】

- 教職員と卒業生とで関わりを持てるようになってきた。それはやはり3年間の中で学べたという生徒の充実感だと思う。今年の3年生18名のうち「演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい」と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい(高等学校)。
- 「演劇や芸術というのは、こんなにすごいのだよ」ということを、劇場は考えられている。このような活動をもっと広げていくことが、北九州が元気になっていく道である。何を建てたからではなくて、人間をどう育てていくのかというところで、劇場の役割は非常に大きいと思う。その中心基地のような、発信地のような役割を、今後も期待していきたい(高等学校)。
- 北九州市舞台事業協会で業務委託を受けているが、徐々に委託金は下がっている。演劇に携わる人材育成等もそうだが、お金がかかる。経営努力もやっているが、10年、15年後を長期的に見ていくと、経営者としてすごく不安がある。今は全国的に見てもスキルも持った若い優秀な人材がいる。劇場の仕事に誇りを持てる若い人間を育成することが大事だと思う(大道具製作)。
- 北九州を盛り上げる方法は、芸術文化を発信して、楽しいまちにする。老後を過ごす皆さんが「来たけれども、つまらないまちだった」と言って出ていくのではなくて、もっとよいまちにしていく。福祉や教育を理論的に講演会や授業で教えても知識として習得はできるが、心からその必要性を伝えることは難しい面がある。そのため、音楽、演劇、ダンスを通じて伝えていく、そのキー・ステーションに劇場がなるとよい(障害者福祉)。
- 北九州の地元の資源をもっと生かしてもらえるといい。劇場があることでつながれることは本当にたくさんあるので、劇場をハブ役としていろいろなところにつながっていくと、それは北九州市の一つの財産となるだろうと思う(子ども・若者支援)
- MICE という側面で、学会、大会、イベントの動員数になると、アニメの声優の催し物が一番波及効果が今は高いだろうと見ている。今は舞台芸術としては高尚なものが多いと思うが、地域の活性化という意味ではポップカルチャー的なものを入れてもつながるのではないか(宿泊業)。
- 地元にもいろいろな劇団があり、活動していたことを、まだ知らない人が結構いると思う。それが目に入るような環境づくりを劇場が主導してほしい。そうすると、さらに北九州市のブランドになっていくのではないかと思う。例えば小倉駅の JAM 広場のマルチビジョンにモノレール演劇の映像が流れているようなことがあれば、またさらに広がっていくのではないか(公共交通)。
- 今日、せっかくお会いできたので、北九州芸術劇場とコラボした企業とかで一緒に何かできたら、それはまたすごく楽しいのではないかと思った(航空業)。
- どうしても北九州は柄の良くないイメージがある中で、このようなイメージアップやにぎわいづくり、他の地域とは少し違うことをやっているような、北九州のキーワードに劇場の活動も入ってくるようになるといいとは思っている。観光で人の往来が増えると、当社も波及的なところもあるので、うまく合うものがあればと思う(航空業)。

第6章 評価フレームに基づいた事業評価結果

最後に、2003年度から16年度までの14ヶ年の北九州芸術劇場の事業評価結果をとりまとめた。07年度までは、初年度(2003年度)の調査研究で設定した事業評価の基本フレームで整理していたが、08年度に、(一財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、今年度もそれに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定し、それぞれに評価大項目(戦略目標)を設定、さらに評価中項目(戦略)とそれを評価するための評価指標・基準を設定している。

図表5-1は、A、B、C、3つの戦略・評価軸の評価大項目を整理したものである。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

戦略・評価軸	No	評価大項目
A 劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
	A-1	鑑賞系事業
	A-2	創造系事業
	A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
	A-4	普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)
	A-5	市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)
	A-6	地域への貢献①(地域経済への波及効果など)
	A-7	地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップなど)
	A-8	広域施設としての役割発揮
B 管理運営	B-1	場の提供・支援(貸館)
	B-2	施設のホスピタリティ・サービス
	B-3	施設の維持管理
C 経営	C-1	経営体制
	C-2	リサーチ&マーケティング
	C-3	経営努力

- 16年度は、上記図表5-1の基本フレームに基づいて、03年度から16年度の14ヶ年で把握したデータや情報をあらためて整理した。

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果は、図表5-3に一覧表として整理し、そのポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した(図表5-3も同様)。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション 「創る」「育つ」「観る」「支える」

①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等

- 劇場では開館初年度から、「創る」「育つ」「観る」の3つの運営方針を設定している。開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、4つめのキーワードとして、14年度から「支える」が加わった。
- 14年度から、4つの運営方針に基づき、北九州からの発信と地元演劇人の発掘、育成を意識した創造事業、舞台関係者の育成や子どもや学校、一般市民などを対象とした積極的な学芸事業、小劇場・現代演劇に多様なラインナップを揃えた公演事業、市民の文化活動の支援や地元劇団等の創造活動の支援を展開し、「創る」「育つ」「観る」「支える」それぞれの事業が一体となった事業を実施している。
- 10年度に実施した座談会では「地域文化振興における北九州芸術劇場の役割」というテーマを設定したところ、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価していることがわかった。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。
- 16年度に実施したグループインタビューでは「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」をテーマに設定したところ、教育や福祉といった分野の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果であるという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。

②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)

- 観客の運営方針への支持率[※]は、「創る」「育つ」「観る」いずれについても、開館の03年度から継続して90%を超えている。

※「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。

③劇場の来場者(利用者)数

- 北九州芸術劇場への年間来場者(利用者)数は、05年度以降、毎年27~28万人で推移しているが、16年度は約28万人となった。また、この14年間で利用者数は延べ391万人を超えた。16年4月1日現在の北九州市の人口(推計値)は約95万であり、すでに人口の4倍以上の利用者が来場したことになる。
- 開館以来、北九州劇術劇場を地域になくてはならない施設として定着させていくために積み重ねてきた事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきており、今後も引き続き、5年後、10年後を見据えた長期的な事業の展開と継続が必要であろう。

A-1 鑑賞系事業 [観る]

[観る]: 観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供する。

①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施

- 16年度も、「観る」(鑑賞事業)では、中劇場を中心とした小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。

②年間延べ観客数

- 16年度の公演事業については、14事業で48回の公演が行われた。入場者数は23,970人、

入場率は85%である。

- 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、34事業、公演回数は139回。入場者数は36,745人、入場率は85%となっている。

③公演に対する観客の満足度

- 観客調査の結果から公演(主催／提携・協力事業)に対する観客の満足度をみると、開館年度(03年度)から継続して「(本日の)公演内容」への満足度の高さが顕著である。16年度も満足層の割合※は98%で、そのうち無回答を除いた「たいへん満足」の割合が75%と、観客からの高い評価を得ている。なお、この公演に対する観客の満足度には、次項の「創造系事業」も含まれる。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

- あわせて、「(本日の)公演のチケット料金」も満足層の割合は94%であり、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映されていると考えられる。

④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、魅力的な作品を招聘しているという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。
- 09年度のグループインタビューで、九州圏域の劇場関係者・演劇人や首都圏の劇場関係者ともに、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合に連携や機能分担が重要になるだろうという点は共通認識であった。北九州芸術劇場としては、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。

A-2 創造系事業 [創る]

[創る]: 北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していく。

①ミッションに基づいた創造系事業の実施

- 16年度も、全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な創造系事業が実施された。
- プロデュース作品「しなやか見渡す穴は森は雨」は北九州(8回)、東京(3回)で公演を行った。
- 入場率では「Re:北九州の記憶」で97%となっている。創造系事業全体の入場率が80%を超えており、市民からの支持の高さがうかがえる。
- 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、創造系事業を効果的に実施し、地域に根付かせていこうとする努力の成果がうかがえる。また、プロデュース作品の東京などでの公演によって、北九州芸術劇場の全国発信に貢献している。

②年間延べ観客数

- 16年度、「創る」では、6事業で29回の公演が行われ、入場者は3,128人、入場率は平均で87%と高い入場率となっている。

③創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果

- 10年度の座談会では、例えば劇場と美術館との共同制作や、伝統工芸を取り入れた衣装や舞台美術のデザインなど、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せ

られた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。

- 09年度の首都圏の劇場関係者によるグループインタビューでは、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。また、九州圏域の劇場関係者や演劇人も共通して北九州芸術劇場の次なる目標として期待しているのは、アジアとの国際交流や創造・発信への取り組みであった。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

[育つ]:アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指す。

①ミッションに基づいた普及系事業の実施

- 「育つ」については、普及系事業を継続的に実施している。16年度は、高校生に[的]を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただくための「高校生[的]シアター」といった、市民が舞台芸術に触れる機会や創造参加への機会の提供に取り組んでいる。
- 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、同じアーティストが「アウトリーチ」と「インリーチ」でアプローチの対象や内容を変化させることで、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。

②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数

- 16年度の主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は71回、参加延人数は2,425人。

③講座・ワークショップ参加者の満足度

- 15年度に実施したワークショップ参加者を対象としたアンケート調査によると、講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高く、参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度は94%(うち「たいへん満足」は64%)となっている。
- 「たいへん満足」の割合の高い項目は、劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%)となっている。

④参加者が事業から得たもの(事業の効果)

- 15年度に実施したワークショップ参加者を対象としたグループインタビュー調査によると、ワークショップに参加したことが、表現の技術や活動をさらに向上させたり、活動の展開を広げたりするきっかけや意欲を持つことにつながっている。
- さらに、自分自身の価値観や生き方が大きく変わったり、参加者相互が家族のようにつながったりするような、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。

A-4 普及系事業②:アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)

①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容

- 16年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第四弾として、「モネ、逆さまの睡蓮」を行った。
- 「アーティスト往来プログラム」では、市内の小学校のほか、北九州市身体障害者福祉協会アートセンターでのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。

②学校等と連携したプログラム数と参加人数

- 16年度に学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は47回、参加延人数は1,995人となっている。
- 16年度に実施したグループインタビューで、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。

A-5 市民文化活動支援(市民参加型事業、アマチュア支援など)

① ミッションに基づいた市民活動支援の実施

- 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業を実施しており、16年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2016」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」、「風、騒グ。」などの4事業で30回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,474人。
- 合唱物語「わたしの青い鳥」は04年度から継続実施されている事業で、市民に定着していることがうかがえる。
- 10年度の座談会では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」との評価があった。

② 貸館事業に関するサービス内容、質への評価(専門的・技術的なアドバイスやサービスなど)

- 貸館利用者を対象とするアンケート調査で専門的・技術的サービスに関わる項目をみると、「技術スタッフの対応がよい」が99%、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」は100%と、満足層の割合は大変高い。関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」をみても、満足層の割合*は100%となっている。これらの項目では、「はい」という積極的な評価も高い。
- 劇場の専門的な技術サービスについては、利用者から高い信頼と評価を受けており、自由回答の書き込みも、それを裏付ける内容が多い(なお、09年度からテクニカルアドバイザーによるアドバイスの提供など、公演・講演に対する支援体制が強化された。)

A-6 地域への貢献①(地域経済などへの波及効果)

① 地域外からの来場者割合

- 観客アンケート結果をみると、07年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け(06年度:21%、07年度:31%、08年度:31%、09年度:33%、10年度:37%、11年度:34%、12年度:38%、13年度:44%、14年度:35%、15年度:40%)、16年度は29%となっている。

② 公演鑑賞に伴う消費行動

- 観客アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、16年度の飲食またはショッピングをした人の割合は48%。
- 飲食をしている割合は41%で平均金額は1,531円、ショッピングをしている割合は22%で平均金額は4,042円となっている。

② 経済波及効果

- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた16年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、

* 「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

劇場の管理運営が約6.5億円、主催事業が約2.9億円、主催事業の観客の消費支出が約1.9億円となっている。

- それらの経済波及効果は、約16.7億円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約4.6～5.1億円、経済波及効果が約6.4～7.1億円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業（観客消費支出含む）で1.49、貸館を含めると1.46となっている。試算を始めた04年度以降、管理運営・主催事業の誘発係数は1.45～1.50となっており、北九州芸術劇場の運営は、相応の経済波及効果をもたらしていることが明らかとなっている。
- 雇用効果については、就業者ベースで143～151人、雇用者ベースで125～132人という結果となっている。

A-7 地域への貢献②(地域アピール、ブランド力のアップ)

① シビックプライドの醸成

- 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。
- 16年度に実施したグループインタビューで、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。

③ パブリシティ効果

- パブリシティ効果についてみると、北九州芸術劇場や劇場事業に関する16年度の記事掲載件数は169件。新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、16年度は約1億4,800万円となる。
- 16年度の劇場事業に対する北九州市の補助金は約8,300万円であり、劇場事業のパブリシティ効果は補助金の規模の約1.8倍の成果を生み出していると言える。

A-8 広域施設としての役割発揮

① 圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携

- 09年度に実施した九州圏域の劇場・演劇関係者へのグループインタビューでは、舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、「困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする」といった意見が聞かれた。
- また、「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。
- 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。

② 当該文化施設の運営だけにとらわれない圏域全体の文化振興

- 北九州芸術劇場の事業や運営は福岡市にも波及している。「福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要」との九州圏域の劇場・演劇関係者の意見が聞かれた。

- 今後の北九州芸術劇場あるいは(公財)北九州市芸術文化振興財団の長期的なビジョンには、地域版アーツカウンシルとしての役割や機能を視野に入れることが期待されるが、09年度のグループインタビュー調査では、九州圏域全体の舞台芸術環境を視野に入れたアーツカウンシルが求められていることが分かった。
- (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援(貸館)[支える]

①ミッションに基づいた貸館事業の実施

- 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、14年度から「支える」として地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づけられている。

②貸館事業における入場者数

- 16年度の貸館の公演・講演事業数は246事業。計263回の公演・講演が実施され、入場者数は181,092人となっている。

③利用者の満足度

- 貸館利用者を対象とした利用者調査の結果では、劇場利用に関する総合的な満足度^{*}は99%で、利用者のほぼ全員が満足している。また、今後の利用意向^{*}も99%と高いことは、満足度の高さの現れといえよう。
- 具体的な項目をみても、スタッフの応対や説明などソフト面に対する満足度^{*}は、「現在の開館時間は適当である」を除いて95%以上と非常に高い。また、「はい」という積極的な評価の割合も高い。
- 05年度(利用者調査開始年度)以降、項目ごとに満足度は上下しているが、常に高い満足度を維持するべく、利用者の苦情や要望に対する劇場スタッフの前向きな対応の成果がうかがえる。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

①公演や催し物情報に関する満足度

- 開館年度(03年度)に満足度が65%であった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続いてきたが、16年度は91%で15年度から8ポイントの増加(06年度:79%、07年度:81%、08年度:86%、09年度:87%、10年度:85%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:88%、14年度:88%、15年度:83%)となっている。

②ホスピタリティに関する満足度

- 03年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、16年度は92%で15年度から3ポイントの増加(06年度:79%、07年度:82%、08年度:87%、09年度:88%、10年度:89%、11年度:90%、12年度:89%、13年度:89%、14年度:92%、15年度:89%)となっている。
- 満足度の上昇は、①公演や催し物情報に関する満足度と同様に、開館から14年が経過し、観客が劇場に慣れてきたこともあろうが、案内表示の増設や既存サインの大型化など、劇

^{*} 満足度は「たいへん満足」+「まあ満足」の割合、利用意向は「はい」+「どちらかといえば『はい』」の割合。無回答は除く。

場側の工夫によるところも大きいといえる。

- 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、16年度は97%となっている。

③スタッフの対応や電話応対等に関する満足度

- 03年度から満足度の高かった「劇場係員の対応」は、継続して高い満足度を保っており、16年度も98%と満足層の割合は非常に高い。また、「電話予約・チケットカウンターの対応」の満足度は97%で、劇場の顧客対応は高い評価を受けている。今後も高い満足度の維持に向けた取り組みが望まれる。
- 「チケットの予約・購入のしやすさ」は、03年度は53%と満足度項目のうち最も低かったが、04年度に73%に上昇、その後年々満足度は上昇し、オンラインチケット購入システムを導入した11年度以降およそ90%の満足度を維持したが、15年度に79%と10ポイント減少し、16年度に再び91%に増加した。

④飲食に関する満足度

- 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、16年度は87%となっている。

B-3 施設の維持管理

①施設の維持管理

- 貸館利用者を対象としたアンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。特に、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」については、「はい」への回答が90%以上と大変高い評価となっている。また、05年度(利用者調査開始年度)以降、多くの項目で満足度は向上しており、劇場スタッフの努力がうかがえる。

②稼働率

- 施設稼働率は、大ホールが77%、中劇場が70%、小劇場が86%である。
- 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移しており、2016年度の(一財)地域創造の悉皆調査結果(2014年9月1日時点でのデータ。専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準にある。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。

C. 経営

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

C-3 経営努力

①外部資金、チケット収入の割合

- 北九州芸術劇場の16年度の事業費は2億8,934万円。財源内訳をみると、チケット収入が全体の57%、市の補助金が29%、文化庁と(一財)地域創造、協賛金による外部資金が14%となっている。

②事業収支からみた経営努力

- 事業収支面でも、開館以来培ってきた交渉力や事業の効率性の向上、交通費や宿泊費に

関する積極的な経費削減(団体割引の適用等)の努力が行われていることが数字からうかがえる。

- 16年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約6,010万円の減収、補助金等収入は約2,280万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。

3. 事業評価の結果から—今後の事業評価の方向性と検討課題

北九州芸術劇場の事業評価調査では、03年度の開館年度から図表5-2のと通りの調査を行ってきた。

図表5-2 北九州芸術劇場における実施調査

調査内容	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度
【継続調査】														
劇場運営基礎データの収集・分析	→													
観客調査(アンケート)	→													
貸館利用者を対象としたアンケート調査(実施:05年度～、整理・分析:07年度)			---	---	→									
経済波及効果の算出		→												
パブリシティ効果の把握	→													
【テーマ調査】														
専門家による座談会(開場から1年間の劇場運営の成果について)		○												
市民意識調査(アンケート)			○											
ワークショップ参加者を対象とした学芸調査(アンケート/グループインタビュー)		○												
学校を対象とした学芸調査(アンケート)					○									
(舞台芸術の公演による)劇場使用者へのグループインタビュー				○										
劇場スタッフへのグループインタビュー						○								
北九州芸術劇場の広域的役割と長期的ビジョンに関するグループインタビュー							○							
舞台芸術以外の分野から見た北九州芸術劇場の役割(座談会)								○						
北九州芸術劇場の10年間と社会情勢、文化・芸術環境の変化										○				
北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年											○			
舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場												○		
ワークショップ参加者を対象とした調査													○	
まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関する調査														○

最後に、今後の事業評価を継続する上で、検討・留意すべきだと考えられる事項を、次の7点に整理した。

①継続調査

経年変化による劇場運営、事業に関する満足度やニーズの分析のためにも、上記5つの継続調査を引き続き実施し、データや情報を蓄積することが望まれる。

②地域や市民への効果を把握するための定性調査

また、劇場が地域や市民に与える波及効果や影響を把握するため、定性調査の実施も検討したい。近年、劇場と地域との連携がより強く求められる中、①観客(あるいはチケットクラブ会員)、②創造事業や市民参加事業に参加した市民、③地域(市民センターなど)でのアウトリーチ事業参加者などを対象としたグループインタビューや聞き取り調査を行い、劇場運営や事業に関する詳細な意見、成果を把握する機会が必要だと考えられる。また、2005年度の市民意識調査の実施から10年以上経過していることから、今後タイミングを見て、同様の市民調査の実施を検討する必要もある。

③劇場内部での事業評価の活用

2008年度の劇場スタッフへのグループインタビューからは、①この事業評価調査の結果も含めて、劇場内で蓄積しているデータを有効に活用していくこと、②評価結果について、係を越えた情報共有や振返りの機会を持つこと、が必要だという声が多かった。今後は、評価本来の目的である PDCA サイクル(Plan→Do→Check→Action)をより有効に機能させるためにも、事業評価調査の結果を現場での業務の振返りに有効活用するとともに、データの収集や整理にあたって、スタッフのより積極的な関わりを促していくことが重要だと考えられる。

④評価結果の公表と発信

北九州芸術劇場は、ホームページ上で劇場の運営方針を広く周知し、事業評価調査の報告書(本編)をホームページで公開するなど、市民へのアカウンタビリティに努めている。今後、評価結果も含め、劇場運営や事業の成果に関する市民への情報発信をより一層強化するとともに、市民からの意見を聴取するためのしくみづくりを検討していく必要があるだろう。また、開館10周年という節目にあたり、これだけの長期間の評価の蓄積は、全国の公立文化施設や文化政策にとっても意義深い取り組みだと言える。公共劇場や文化関係者の間でその成果を共有するためにも、より積極的な公表や発信が望まれる。

⑤次の戦略構築への活用

また、次の北九州芸術劇場の戦略構築のために、これまでの事業評価の結果を活用することが望まれる。2009年度のグループインタビュー調査、2010度の座談会では、これまでの劇場の事業や運営を高く評価するとともに、それらを継続するだけではなく、次の目標設定とそれに向けた取り組みの必要性を指摘する意見があった。開館当初に設定した目標が徐々に達成されつつあることを考えると、ミッションの再確認や見直し、それに基づいた事業の再検討も視野に入れた取り組みが期待される。

⑥事業評価の再構築

前述した「次の北九州芸術劇場の戦略」に基づく事業評価の再構築も視野に入れたい。戦略や目標を設定し直せば、その評価のあり方も再検討する必要がある。この数年間、劇場に対する観客や貸館利用者の評価は、多くの項目で高評価となっている一方で、批評的な

観点からの課題や新たな要望が見えにくくなっている点も否めない。また、観客や利用者以外の市民、舞台芸術以外の芸術分野、あるいは劇場周辺の地域を越えて、多様なステークホルダー(利害関係者)との関係を広げていくことが2010度の座談会でも期待されている。

また近年、文化政策や文化プログラムなどの事業評価の手法そのものが変化しており、評価の理論的なフレームワークとして用いられることの多いロジック・モデルの手法などを北九州芸術劇場の事業評価にも取り入れることも考えられる。その試行として、2012年度のテーマ調査では、10年間の事業評価の主要な項目を、結果(アウトプット)、短期的・中長期的な成果(アウトカム)、直接的・間接的な影響や効果(インパクト)に分けて整理した。それらも踏まえた上で、評価の視点、指標のあり方、分析手法などについて見直し、評価フレームを次の段階へと進化させることが望まれる。

⑦次の10年を見据えた総括

北九州芸術劇場は、2013年8月に開館10周年を迎えた。これまでの事業評価の結果を見ると、その間、北九州芸術劇場は、積極的な事業や運営を継続、進化させ、それが観客をはじめとした市民や地域からの評価に結びついてきたと言える。開館後数年間で減速する公共劇場が少なくない中、10年間、開館当初のコンセプトに基づいて一定水準の事業や運営を継続してきたこと自体、高く評価すべきであろう。14年度からは、開館10周年の節目を経過し、新たな一步を踏み出すため、開館以来の事業の基本方針である「創る」「育つ」「観る」の3つをキーワードに加えて「支える」が加わった。今後、4つの基本方針が相互に好循環を生み出しながら、次の10年を見据えた事業を展開していくことが期待される。

図表5-3 政策評価フレームに基づいた評価結果一覧

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～16年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

※事業評価の結果を、定量評価(事業実績データ、アンケート調査データ)とともに、定性評価(グループインタビュー等)の結果も含めて総合的に整理した。

※「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準を網羅することを目的とはせず、基本フレームを活用することにより、北九州芸術劇場の事業実績や運営の状況を、体系的に把握することを目的としている。

※したがって、「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価指標・基準とはすべてが一致するものではない。また、段階評価(達成度合いを自己点検できる解説式のモデル指標)項目については、劇場内部の自己評価であることから本報告書では掲載対象外としている。

A:劇場の設置目的

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-0 「創る」「育つ」「観る」「支える」	①劇場の運営方針(ミッション)の有無と内容、ミッションの浸透の状況等	<ul style="list-style-type: none"> 劇場では、開館年度から「創る」「育つ」「観る」の3つを運営方針として設定、14年度から「支える」が加わった。 [専門家との座談会/10年度]では、市内の美術、建築、伝統工芸の専門家が、地域における劇場の存在意義を高く評価している。舞台芸術分野に限らず多様な地域文化の担い手が、劇場の事業や運営を信頼していることがうかがえる。 [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、教育や福祉の団体からは、劇場との協働を通じた地域の人材育成が成果だという見方が多く、地域経済の担い手である企業からは、組織文化の醸成や地域のイメージアップが成果だと捉えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 3つの運営方針への支持率は、観客、市民、九州圏域や全国の劇場関係者からも高い。 14年度から運営方針に加わった「支える」に対しても支持率は高いが、新たな方針が加わったことによる成果の広がりが望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇場内部での、事業評価結果を活用したPDCAサイクルの実現のための議論の場の設定、きっかけづくり。 観客調査の継続。 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。
	②劇場の運営方針を支持する市民の割合(市民の支持率)	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針への観客からの支持率は、「創る」「育つ」「観る」いずれも開館年(03年)度から90%以上。 ○16年度 創る:95%、育つ:96%、観る:99%、支える:97% [観客調査/16年度] 一般市民からの支持率も、「創る」「育つ」「観る」いずれについても80%以上。 ○創る:81%、育つ:90%、観る:90% [市民調査/05年度] <p>※支持率は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答を除く。割合(%)は小数点以下を四捨五入して掲載。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 事業評価データ等を活用し、係を超えた振返りの機会づくりが必要。 	
	③事業や運営に対する自己評価や振返り、運営データの蓄積	<ul style="list-style-type: none"> 業務の振返り、データを蓄積・活用して評価や業務にフィードバックしていくことが必要だという認識が高い。[劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針に基づいた長期的な事業の継続により、地域に浸透。 	
	④市民の劇場の認知度や劇場への意見	<ul style="list-style-type: none"> 市民の劇場の認知度(劇場があることを「知っている」と回答した割合)は84%、知っている場合の来場・利用率は44%、来場したことがない場合の今後の来場意向は78%。 [市民調査/05年度] 劇場に来場経験を持つ市民を増やすこと、劇場の存在を肯定的に考えてくれる市民を増やすことは、劇場スタッフへのグルインでも、業務を超えた共通の問題意識。 [劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市の人口(16年4月1日現在)は約95万人であり、すでに人口の3倍を超える利用者が来場。 	
	⑤劇場の来場者(利用者)数	<ul style="list-style-type: none"> 年間来場者(利用者)数は、05年度から09年度まで毎年27～28万人で推移。10年度は1年間で31万人に増加した。16年度は28万人。開館からの14年間で延べ391万人が来場。 		
A-1 「観る」観る楽しみを知ってもらうため、国内外のエンターテインメント性や芸術性の高い作品を招き、市民に様々な公演を提供します	①ミッションに基づいた鑑賞系事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇、ダンス・現代舞踊など幅広いラインナップの公演事業を実施。 多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場。 ○年齢層 29歳以下:13%、30歳代:13%、40歳代:19%、50歳代:22%、60歳以上:33% 平均年齢:50歳。 ○北九州芸術劇場での鑑賞経験 今日が初めて:18%、1～2回:16%、3～5回:23%、6回以上:43% 北九州市域外(北九州市内+北九州近隣地域を除く)からの観客は、13年度が過去最高の割合(44%)。 ○06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29% 	<ul style="list-style-type: none"> 小劇場・現代演劇を中心に、幅広い事業構成で、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客を集客。 公演事業全体で極めて高い入場率。「観る」に対する観客・市民の支持率、公演内容に関する観客の満足度も極めて高い。 「観る」という方針では、福岡市と何らかの機能分担をした上で、「創る」、「育つ」、「支える」に重点を置いていくことも、将来のひとつの方向性だと考えられる。 公演事業の質に対する信頼感の形成と、他都市からの観客の吸引力。 北九州市域外からの観客も増加しており、九州の鑑賞拠点として、劇場が認知・評価されている。中長期的な市域内と市域外との集客バランスの検討。 観客調査のアンケートにおける無回答の割合が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 観客の意識やニーズを詳細に把握するための調査の実施。 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
	②年間延べ観客数	<ul style="list-style-type: none"> 16年度の公演事業は14事業、公演回数は48回、入場者数は23,970人である。入場率は85%。 創造事業、提携・協力事業、演劇フェスティバルも含めた鑑賞系事業全体では、34事業、公演回数は139回、入場者数は36,745人である。入場率は85%。 		
	③公演に対する観客の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 開館年から「公演内容」への満足度の高さが顕著。満足層の割合は98%。「公演のチケット料金」への満足度も高く、「公演内容」への評価の高さが「公演のチケット料金」の満足度にも反映していると考えられる。 満足層の割合(「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。) ○公演内容 03年度:96%⇒04:96%⇒05:97%⇒06:97%⇒07:98%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:97%⇒11:98%⇒12:98%⇒13:97%⇒14:97%⇒15:98%⇒16:98% ○公演のチケット料金 03年度:86%⇒04:88%⇒05:92%⇒06:90%⇒07:92%⇒08:93%⇒09:93%⇒10:91%⇒11:94%⇒12:94%⇒13:93%⇒14:94%⇒15:92%⇒16:94%[観客調査/16年度] 「絶対にいい公演が来てくれる」という信頼感が生まれているとの評価があった。その信頼感によって、北九州以外の他の都市からの観客を北九州市に吸引しているとの意見があった。[専門家との座談会/10年度] 		
	④鑑賞系事業による芸術団体やアーティストからの評価	<ul style="list-style-type: none"> 公演事業での劇場利用者からも、劇場の運営方針や実施事業への支援の声、期待の声が大きい。特に、劇場スタッフの対応については、人間関係・信頼関係が作れる劇場であるとの評価が高い。[劇場使用者を対象としたグルイン/06年度] [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度]でも、魅力的なものと呼んでいるという評価や、東京や大阪からの演劇作品の受け皿として、九州圏域の代表的な劇場であるという共通認識がある。 [全国の劇場関係者へのグルイン/09年度]では、将来的に福岡市に拠点文化施設が設置された場合、市外からの観客層に影響が出ることは十分考えられるため、「今まで以上に『観る』という運営方針を拡大する必要はない」との意見も出された。 		

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
A-2	<p>[創造系事業]</p> <p>「創る」北九州芸術劇場のオリジナル・プロデュースの演劇作品を創ることにより、“ものづくりの街”北九州市をアピールし地域の活性化を促していきます</p>	<p>①ミッションに基づいた創造系事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全国発信型、地元演劇人の育成型、市民参加型などの多様な事業が実施されている。 ● 開館当初から継続して実施されている事業に新規企画事業を加えながら、効果的に事業を展開している。 ● プロデュース作品「「しなやか見渡す穴は森は雨」は北九州(8回)、東京(3回)で公演を行った。 <p>②年間延べ観客数</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 16年度は、6事業で29回の公演が行われ、入場者は3,128人。入場率では平均で87%。 ● 「Re:北九州の記憶」で97%となっており、創造系事業全体の入場率が80%を超えている。 <p>③創造系事業の公演に対する観客の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鑑賞系事業③を参照 <p>④創造系事業による芸術団体やアーティストへの効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 北九州・福岡の若手劇団・カンパニーから「劇団相互、あるいは北九州・福岡の連携が強まった」、「役者や劇団のレベルアップになった」と評価。[劇場使用者を対象としたグリーン/06年度] ● [九州圏域の劇場・演劇関係者へのグリーン/09年度]でも、利用の自由度の高さやスタッフの専門性の高さが評価されている。 ● [専門家との座談会/10年度]では、舞台芸術以外の分野との協働の可能性について意見が寄せられた。それと同時に、そうした協働を可能とするための土壌として、地域の文化資源のデータベースが必要だとの意見も出された。 ● [全国の劇場関係者へのグリーン/09年度]では、「北九州から演劇界に一石を投じるオリジナリティのある作品が出てきてほしい」という期待も寄せられていた。次なる目標としてアジアとの国際交流や創造・発信への取り組みが期待されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 高い入場率を確保。市民に事業が定着していること、地域からの注目度の高さがうかがえる。 ● 「創る」に関する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● 九州圏域や全国に視野を広げても、北九州芸術劇場の「創る」事業には大きな期待が寄せられている。 ● 今後の北九州芸術劇場の運営にとって、アジアとのつながりは重要な戦略の一つと考えられる。 ● 美術館との共同制作など、舞台芸術以外の分野との協働の模索。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 観客調査の継続。 ● 創造系事業参加者の意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
A-3	<p>「育つ」アーティストを小・中学校等に派遣するアウトリーチ活動や劇場サポーター組織を通じてのヒューマンネットワーク作り等により、舞台芸術の手法を用いた人材育成・教育普及事業を行い、地域を育てながら地域とともに育っていく劇場を目指します</p> <p>[普及系事業①]主に劇場内で実施するワークショップや講座など</p>	<p>①ミッションに基づいた普及系事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 普及系事業を継続的に実施。16年度も、 ○高校生に[的]を絞った取り組みを通して、演劇・パフォーマンスをより身近に感じていただくための「高校生[的]シアター」 ○「アーティスト往来プログラム」として、多彩な講師を招いた「ワークショップ」、「アウトリーチ」などの多様なプログラムを実施。 ● 11年度からの「アーティスト往来プログラム」は、劇場と学校や地域との間に、より多様な関係を生み出そうとする意図がうかがえる。 <p>②年間の事業数、アクティビティの回数、参加人数</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 16年度は、主に劇場内で実施するワークショップや講座などの回数は71回、参加延人数は2,425人。 ● 「アーティスト往来プログラム」や「ダンスダイブウィーク」など、地域と劇場との関係を積極的に開拓するような企画内容が多く見られる。 <p>③講座・ワークショップ参加者の満足度</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講座・ワークショップ参加者の事業に関する評価はたいへん高い。[学芸調査・アンケート/15年度] ○参加者の講座やワークショップに対する総合的な満足度 満足層:94%、うち「たいへん満足」:64% ○「たいへん満足」の割合が高い項目 劇場係員の対応(78%)、講座・ワークショップの講師(74%)、内容(66%) <p>④参加者が事業から得たもの(事業の効果)ー講座・ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講座やワークショップに参加したことで、参加者は次のような効果があったと感じている。[学芸調査・アンケート/15年度] 「人間関係に広がり生まれた」(70%)、「劇場が身近になり、足を運ぶ回数が増えた」(53%)、「演劇やダンスに新たな興味がわいた」(53%)、「舞台づくりや劇場について新たな発見があった」(52%)、「より多くの公演を鑑賞したいと思った」(46%)など。 ● グループインタビューでも、人生や人間関係に少なからず影響を与えている意見も聞かれた。[学芸調査・グリーン/15年度] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「育つ」に対する観客および市民の支持率は高く、今後もこの基本方針の継続が望まれる。 ● ワorkshopや講座参加者の事業に対する満足度は極めて高く、参加したことで鑑賞活動や日常生活の中に多様な効果が生み出されている。 ● 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ● 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業参加者、関係する地域・施設等を対象とした意識・満足度・ニーズ把握のための調査の実施。 ● 有効な定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
A-4	<p>[普及系事業②]アウトリーチ(学校、福祉施設等との連携など)</p>	<p>①他分野への貢献や地域活性化を視野に入れた戦略目標の有無と内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 09年度から小学生から一般市民を対象としたアウトリーチ事業として、「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」事業を立ち上げ、地域との連携を強化した。11年度は3ヶ年計画の3年目で、20回のワークショップで参加延人数が440人、公演「冬の盆」は2回行い、242人の入場者であった。 ● 16年度は、北九州市立美術館のコラボレーション企画第四弾として、「モネ、逆さまの睡蓮」を行った。 ● 16年度に実施した「アーティスト往来プログラム」では、市内の小中学校のほか、北九州市身体障害者福祉協会アートセンターでのアウトリーチなど、教育・福祉関係での活動に取り組んだ。 <p>②学校等と連携したプログラム数と参加者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学校との連携事業への評価 [小学校を対象としたアンケート調査/07年度] ○事業経験者の約8割は、演劇を活用した事業が子どもたちに与える効果を実感。 ○具体的には、「自分の考えや気持ちを表現する力」(80%)、「豊かな感受性や想像力」(61%)、「人とコミュニケーションする力」(52%)については、効果を実感している先生が多い。 ○先生自身も「子どもたちそれぞれの個性や能力をより理解できるようになった」(72%)等の効果を実感。 ○事業に参加した先生では、今後の劇場との連携の意向も高い(連携したいと思う割合:83%)。 ● 16年度に実施した学校、福祉施設等との連携したアウトリーチなどの回数は47回、参加人数は1,995人となっている。 ● [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグリーン/16年度]では、連携事業を行う高等学校の教員から「今年の3年生18名のうち『演劇関係のスタッフや専門の勉強をしたい』と言う生徒が、4、5人いて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくといい」という意見も聞かれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校との連携事業については、演劇を活用した事業が子どもたちの表現力やコミュニケーション力への効果に期待が高い。長期的な視点で、まず事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 ● 地域と連携した事業については、演劇を活用した事業が地域コミュニティに及ぼす効果など、長期的な視点で、事業の効果を立証するデータや情報を整理することが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期継続の学芸事業による定量的・定性的な成果を把握するための調査の検討。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>A-5</p> <p>[市民文化活動支援] 市民参加型事業、貸館事業におけるアマチュア支援など</p>	<p>①ミッションに基づいた市民活動支援の実施</p> <p>②貸館事業に関するサービス内容、質への評価（専門的・技術的なアドバイスやサービスなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民の文化活動支援については、創造事業や学芸事業と連携しながら、創造参加として市民が舞台に立つ公演事業やアウトリーチを実施。 16年度は、合唱物語「わたしの青い鳥2016」、「ダンスダイブウィーク」、「Re:北九州の記憶」、「風、騒グ。」などの4事業で30回のワークショップやアウトリーチなどが実施された。受講延人数・入場者数の合計は1,474人。 合唱物語「わたしの青い鳥」は、04年度からの継続事業。 [専門家との座談会/10年度]では、「わたしの青い鳥」について「参加した人たちが楽しかったことを次々に伝えていくことで、喜びを共有する市民が増えている」と高く評価。 <ul style="list-style-type: none"> 貸館利用者への専門的・技術的アドバイスについては、「技術スタッフの対応がよい」が99%、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」が100%の大変高い満足度。 関連する項目として、「設備・機器などを安全に使用できた」も100%の高い満足度。[貸館調査/16年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加型事業には継続事業が多く、市民からの支持がうかがえる。 貸館事業における専門的、技術的支援については、ほぼ100%の高い評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 市民参加型事業、アマチュア支援に関する調査手法の検討。 開館以降継続してきた事業の参加者に対するインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
<p>A-6</p> <p>[地域への貢献①] 地域経済などへの波及効果</p>	<p>①地域外からの来場者割合</p> <p>②公演鑑賞に伴う消費行動</p> <p>③経済波及効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 06年度以降、北九州市および近隣地域以外の地域(福岡市をはじめとする九州各地、山口県など)からの来場者の割合が増加を続け、16年度は29%となっている。 ○地域外からの来場者割合 06年度:21%⇒07:31%⇒08:31%⇒09:33%⇒10:37%⇒11:34%⇒12:38%⇒13:44%⇒14:35%⇒15:40%⇒16:29%[観客調査/16年度] 鑑賞前後のショッピングの消費行動をみると、16年度の飲食・ショッピングをしている人の割合は48%。 ●飲食をしている場合の平均金額は1,531円、ショッピングの場合は4,042円。[観客調査/16年度] 16年度の経済波及効果を算出すると、 ○最終需要 劇場の管理運営:約6.5億円、主催事業:約2.9億円、主催事業の観客の消費支出:約1.9億円 (参考値)貸館事業に基づいた最終需要:約4.6～5.1億円 ※試算 ○経済波及効果 約16.7億円 (参考値)貸館事業に基づいた経済波及効果:約6.4～7.1億円 ※試算 経済波及効果の誘発係数は、 ○管理運営・主催事業・主催事業観客消費支出:1.49 ○貸館を含めた消費支出:1.46 04年度以降、運営管理・主催事業の誘発係数は、事業規模により1.45～1.50で推移。 雇用効果は、就業者ベースで143～151人、雇用者ベースで125～132人。 	<ul style="list-style-type: none"> 北九州市域外からの来場者が増加していることは、舞台芸術の鑑賞拠点としての北九州芸術劇場の認知度、評価が向上しているものと考えられる。 観劇に伴う観客の消費活動も活発。劇場の事業規模に応じた経済効果が発生している。 今後、集客のためにも、より劇場と地域(北九州の街、近隣商店街、大学等)との連携を深めるための、積極的な方策の検討が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域(地域経済)への波及効果の測定手法、評価項目の検討。 継続調査の実施、精度アップ(劇場管理運営費、事業費の振り分け、観客消費支出の精度アップ)。 所得増、雇用増、税収増の試算。 貸館事業に伴う経済波及効果の精度アップ(貸館事業者、貸館事業観客へのアンケート調査)。 開館以降の地域(地域経済)へのインパクト(直接的・間接的な波及効果)を把握するための調査の検討。
<p>A-7</p> <p>[地域への貢献②] 地域アピール、ブランド力のアップ</p>	<p>①シビックプライドの醸成</p> <p>②パブリシティ効果</p> <p>③劇場・ホールの存在を肯定的に考えている市民の割合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 北九州芸術劇場は、北九州市のシンボルとして市民の支持が広がっており、舞台芸術の愛好家でなくとも市民の誇り(シビックプライド)の一部となっていることは、10年度の座談会出席者の共通認識であった。 その上で、劇場には北九州市全体の「文化の結節点」としての役割に期待が寄せられている。[専門家との座談会/10年度] [まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わりに関するグルイン/16年度]では、まちづくりを担う人材を、劇場が育てていくことを期待する意見が多く聞かれた。また、人材を含めた地元の資源を活用することや、資源をつなげるハブ(結節点)、あるいは発信拠点としての役割が、劇場に期待されている。 北九州芸術劇場や劇場事業に関する16年度の記事掲載件数は169件。 169件の新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、16年度は約1億4,800万円(15年度:約1億9,400万円)。 16年度では「しなやか見渡す穴は森は雨」、「ダンスダイブウィーク」、「パーマ屋スマレ」といった公演事業や、「Re:北九州の記憶」、「高校生[的]シアター」などの学芸事業に関する紹介記事も多い。 市民調査では、「これからの時代に必要な施設である」(46%)、「市の文化行政のシンボル」(35%)といった肯定的な意見への回答割合が高い。 劇場開設の効果として、鑑賞機会や日常生活の中で芸術文化に触れる機会が増えたとする市民が多い。 一方で、「情報が限られており、どんなことをやっているのかわかりにくい」という意見も多い(44%)。[市民調査/05年度] 劇場スタッフのインタビューでは、広い北九州市の中でどのように地域に劇場や舞台芸術を浸透させていくのか、劇場を応援してくれる市民をどのように増やしていくのか、今後の検討課題としてあがっている。[劇場スタッフへのグルイン/08年度] 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月コンスタントに掲載されていること、全国紙・地方紙でも事業が紹介されていることなど、劇場事業の定着と広がりを評価。 新聞掲載記事の広告宣伝費への換算金額は、市の事業に対する補助金(約8,300万円)を大きく上回る規模であり、北九州芸術劇場の事業や運営が高いパブリシティ効果を生み出している。 北九州芸術劇場に関して、肯定的な意見が多いことは高く評価。一方、広い北九州市域の中で、劇場や劇場事業に関する情報をいかに市民に届けるかが検討課題。 北九州のシンボル、シビックプライドとしての評価の高まり。 	<ul style="list-style-type: none"> より精緻なパブリシティ効果の測定手法、および劇場の情報発信力を把握する評価手法の検討。 長期的な視点(5年ごと、10年ごとなど)での市民調査の検討、実施。 市民の劇場への意識・ニーズをより詳細に把握するための評価手法の検討。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
<p>A-8</p> <p>[広域施設としての役割発揮]</p> <p>圏域内の他施設の活動や文化振興に対する支援者の役割を果たします</p> <p>*「広域施設」とは主に都道府県立の公立ホール・公立劇場を想定</p>	<p>①圏域内の市町村の劇場・ホールとの積極的な連携</p> <p>②当該文化施設の運営だけにとられない圏域全体の文化振興</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台の専門家が少ない地域の公立ホールや公立劇場で、困ったときには北九州芸術劇場に相談したり、北九州芸術劇場を手本とする取り組みが生まれている。 ● 「シアターラボ」「エンゲキで私イキイキ、地域イキイキ」といった「創る」「育つ」事業で九州圏域における演劇人の人材育成に貢献しており、北九州芸術劇場のプロデュース作品の九州圏域での巡回公演の可能性について期待する意見も多い。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度] ● 北九州芸術劇場が、九州出身の劇作家の発掘と東京への発信や、九州・中国地方の小劇場のネットワークの形成を主導するような役割に期待が寄せられている。[舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度] <ul style="list-style-type: none"> ● 北九州芸術劇場の事業が、福岡市にも波及している。福岡のみならず九州圏域で、今後、どのように棲み分けや連携ができるのか、検討が必要である。[九州圏域の劇場・演劇関係者へのグルイン/09年度] ● 国のアーツカウンシルとは別に、地域版アーツカウンシルのようなものが北九州の文化振興ビジョンの中に入っているが、どのようにリアリティを感じさせるようにするかが大きな課題。[全国の劇場関係者へのグルイン/09年度] ● 2003年に開館して以来、「創る」、「観る」、「育つ」という事業の考え方や、事業評価を行うことの二点において、北九州芸術劇場が公共劇場のスタンダードを形成してきたと言える。[北九州芸術劇場のこれまでの10年と、これからの10年/13年度] ● (公社)日本劇団協議会の加盟団体へのアンケート(回答32件)によると、ほとんどが東京を活動拠点としている劇団で、過去3年以内に北九州芸術劇場で公演を実施したことがある団体が6割で、九州公演を実施した団体の3分の2が北九州芸術劇場で公演を実施した。[舞台芸術公演の流通と北九州芸術劇場/14年度] 	<ul style="list-style-type: none"> ● 今後、北九州芸術劇場が九州圏域に果たす役割には、より一層の期待が高まっている。 ● 「北九州モデル」としての成功を、他の地方自治体に発信・波及させながら、次なる目標を確立し、それに向かって挑んでいくことが必要。 ● 国や他の地方自治体(とくに九州圏域の県や市)との緩やかな連携も視野に入れて、地域版アーツカウンシルとしてのあるべき姿や北九州芸術劇場の位置づけを検討していくことが重要。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 広域施設の役割を担うための「次なる目標」としての事業方針と、その評価手法の検討。

B:管理運営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～16年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目	評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
B-1 「支える」 [場の提供・支援 (貸館事業)]	①ミッションに基づいた貸館事業の実施 ②貸館における入場者数 ③利用者の満足度	<ul style="list-style-type: none"> 貸館事業については、「創る」「育つ」「観る」の劇場の運営方針と並んで、地域の創造力を高めるための「創造支援」として位置づける方向性。 16年度の貸館公演・講演は246事業。計263回の公演・講演が行われ、入場者数は181,092人。 劇場利用に関する総合的な満足度は99%。今後の利用意向も99%と満足度はたいへん高い。 ソフト面に関する12項目のうち、「開館時間が適当である」以外は、満足層の割合が95%以上。貸館事業におけるスタッフの対応への評価は高い。[貸館調査/16年度] 16年度では、15年度に比べて、「技術スタッフの対応がよい」の項目で「はい」への回答割合が高くなっている一方で、「施設の利用に関する説明が適切」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」では回答割合が5ポイント以上の下げ幅となっている 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な満足度、今後の利用意向ともに100%近い割合であることは、利用者からの大きな評価。 貸館事業のソフトに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 利用者の満足度に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
B-2 [施設のホスピタリティ・サービス]	①公演や催し物情報に関する満足度 ②ホスピタリティに関する満足度 ③スタッフの対応や電話対応等に関する満足度 ④飲食に関する満足度	<ul style="list-style-type: none"> 開館年度(03年度)に満足度が低かった「公演情報の入手のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続いてきたが、16年度は91%で15年度から8ポイントの増加となっている。[観客調査/16年度] ○公演情報の入手のしやすさ 03年度:65%⇒04:73%⇒05:78%⇒06:79%⇒07:81%⇒08:86%⇒09:87%⇒10:85%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:88%⇒14:88%⇒15:83%⇒16:91% 開館年度に満足度が69%であった「劇場の入口・案内表示のわかりやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、16度は92%であった。 「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」は03年度から88%の高い満足度が少しずつ上昇し、16年度は97%となっている。[観客調査/16年度] ○案内表示 03年度:69%⇒04:74%⇒05:77%⇒06:79%⇒07:82%⇒08:87%⇒09:88%⇒10:89%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:92%⇒15:89%⇒16:92% ○デザイン・雰囲気 03年度:88%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:93%⇒07:94%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:96%⇒14:97%⇒15:95%⇒16:97% 「電話予約・チケットカウンターの対応」「劇場係員の対応」への満足度は大変高い。「劇場係員の対応」については、開館年度から90%以上の満足度を維持、16年度は97%であった。 開館年度(03年度)に満足度が低かった「チケットの予約・購入のしやすさ」は、04年度以降改善傾向が続き、14年度には89%の満足度となっているが、15年度に79%に減少し、16年度に再び91%に増加した[観客調査/16年度] ○劇場係員の対応 03年度:92%⇒04:97%⇒05:98%⇒06:97%⇒07:97%⇒08:97%⇒09:98%⇒10:98%⇒11:99%⇒12:99%⇒13:98%⇒14:97%⇒15:97%⇒16:98% ○電話・チケットカウンター 03年度:80%⇒04:91%⇒05:93%⇒06:92%⇒07:93%⇒08:95%⇒09:96%⇒10:96%⇒11:97%⇒12:97%⇒13:95%⇒14:95%⇒15:95%⇒16:97% ○チケットの予約購入 03年度:53%⇒04:73%⇒05:79%⇒06:80%⇒07:83%⇒08:90%⇒09:86%⇒10:84%⇒11:90%⇒12:89%⇒13:89%⇒14:89%⇒15:79%⇒16:91% 劇場ロビーの飲食サービスの満足度は70%台後半で推移してきたが、07年度に80%に達し、16年度は87%となっている。[観客調査/16年度] ○飲食サービス 03年度:73%⇒04:78%⇒05:79%⇒06:77%⇒07:80%⇒08:83%⇒09:86%⇒10:86%⇒11:88%⇒12:86%⇒13:85%⇒14:87%⇒15:87%⇒16:87% 	<ul style="list-style-type: none"> 高い満足度は堅持し、低い満足度は大きく改善している。開館から10年が経過し、観客が劇場や鑑賞活動に慣れてきたこともあろうが、劇場側の工夫と努力が大きいと考えられる。 劇場のホスピタリティ・サービスに関する評価は大変高く、今後もこのサービス内容・質の維持が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観客調査の継続。 観客の意識・満足度・ニーズ把握に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。
B-3 [施設の維持管理]	①施設の維持管理 ②稼働率	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査でも、劇場の施設や設備などハード面で利用者からの満足度は大変高いが、搬入・搬出のしやすさについては複合施設でエレベーターを使用することから、他の項目に較べて満足度は低い。満足層の割合は次のとおり。[貸館調査/16年度] ○館内は清潔に保たれていた:100% ○劇場の広さ(客席数)がちょうどよい:98% ○舞台設備・機器は充実している:99% ○設備・機器などを安全に使用できた:100% ○ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい:99% ○搬入・搬出がやりやすい:96% ○楽屋など舞台裏の施設が使いやすい:97% 施設稼働率は、大ホールが77%、中劇場が70%、小劇場が86%である。 開館年の03年度を除き、3つのホールの稼働率は約70～80%で推移。全国平均(専用ホールのうち政令市施設の平均稼働率は70%)と比較しても高い水準。ただし、稼働率が過度に高い状況では、設備・機器の安全な使用にも影響を及ぼしかねないことに留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 劇場利用者からの施設・設備の維持管理に関する評価は大変高く、今後も安心・安全な施設利用への取り組みが望まれる。 スタッフからは、中長期の修繕計画が課題としてあげられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 貸館調査の継続。 利用者の評価に関する定量的評価指標、定性的評価指標の検討。 施設の維持管理に関する詳細調査の検討。

C:経営

※この評価結果一覧は、(一財)地域創造「公立ホール・公立劇場の評価指針」(平成19年3月)の評価フレームに基づき、北九州芸術劇場で03年度～16年度に実施した事業評価調査の結果を整理したものである。

評価大項目		評価指標・基準	調査結果・評価データ ※[]内は調査名・調査実施年度	評価結果・改善のポイント	事業評価に関する今後の課題
C-3	[経営努力]	①外部資金、チケット収入の割合	<ul style="list-style-type: none"> 16年度事業費は約2億8,934万円。財源内訳は、チケット収入:約1億6,500万円(57%)、外部資金:約4,100万円(14%)、市の補助金:約8,300万円(29%)。 チケット収入と外部資金の03年度からの比率をみると次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> ○チケット収入 03年度:54%⇒04:43%⇒05:37%⇒06:61%⇒07:52%⇒08:42%⇒09:65%⇒10:68%⇒11:53%⇒12:47%⇒13:52%⇒14:39%⇒15:59%⇒16:57% ○外部資金 03年度:18%⇒04:20%⇒05:22%⇒06:14%⇒07:14%⇒08:15%⇒09:8%⇒10:15%⇒11:12%⇒12:13%⇒13:19%⇒14:22%⇒15:18%⇒16:14% 	<ul style="list-style-type: none"> チケット収入の割合の高さなど、劇場の営業努力、運営努力の成果として評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続したデータ収集・分析の実施。 詳細調査の必要性の検討、実施。
		②事業収支からみた経営努力	<ul style="list-style-type: none"> 16年度の事業費の収入の部の決算報告では、予算額と決算額の差が事業収入で約6,010万円の減収、補助金等収入は約2,280万円の減収となっており、事業規模が縮小した結果、収入も減少した形になった。 		

※C-1 経営体制、C-2 リサーチ&マーケティングについては、調査や評価の方法を含め、今後の検討課題である。

北九州芸術劇場
事業評価調査
[資料編]



觀客調查結果

序 観客調査の実施要領

観客調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2016年度に北九州芸術劇場で実施した主催事業および提携・協力事業公演32公演
- 配布・回収方法:各公演の開演時に配布、終演時に回収(後日ファックス、郵送にて回収も受付)
- 実施時期: 2016年4月16日～2017年3月31日
- 有効回答数:1,392、回収率:14.0%(配布数:9,622件)
- 調査対象の公演名、会場、ジャンル、公演ごとの配布数、回収数等の詳細は、図表-資 I -1のとおりである。

図表-資 I -1 アンケート調査実施公演一覧

公演名	会場	公演ジャンル	配布日	配布数	回収数	回収率(%)
シアターラボ 2016 リーディング公演 「三途のボンス」	創造工房	小劇場・現代演劇	4/16	47	11	23.0%
2016 劇団☆新感線春興行いのうえ歌舞伎 《黒》BLACK「乱鷲」	大ホール	小劇場・現代演劇	5/8	1,075	156	15.0%
「猟銃」	中劇場	小劇場・現代演劇	5/27	472	45	10.0%
ダンスダイブ 2016 伊藤キム 「北九州 GERO 活動」	小劇場	ダンス・現代舞踊	5/21	56	13	23.0%
ワンコインコンサート vol.3 「仲道郁代ピアノコンサート」	大ホール	音楽劇	6/7	1075	245	23.0%
「パーマ屋スマレ」	中劇場	小劇場・現代演劇	6/11	359	28	8.0%
彩の国シェイクスピア・シリーズ第 32 弾 「尺には尺を」	大ホール	小劇場・現代演劇	6/17	979	49	5.0%
合唱物語「わたしの青い鳥 2016」	中劇場	音楽劇	7/10	418	54	13.0%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2016-海外編- 「黄色いくつしたの夢"The Dream of a YellowSock"」	小劇場	パフォーマンス	7/16	116	6	5.0%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2016-海外編- 「ア・マノ "A Mano/By Hand"」	創造工房	パフォーマンス	7/16	58	9	16.0%
ラッパ屋「筋骨ナシコ」	中劇場	小劇場・現代演劇	7/17	392	64	16.0%
大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ 2016 おいしいおかしいおしばい「わかったさんのクッキー」	小劇場	小劇場・現代演劇	8/13	128	18	14.0%
「ヒトラー、最後の 20000 年 ～ほとんど、何も無い～」	中劇場	小劇場・現代演劇	8/27	555	46	8.0%
女性の眼と句で綴る演劇「風、騒グ。」	小劇場	小劇場・現代演劇	8/27	74	10	14.0%
北九州芸術劇場×北九州市立身体障害者福祉協会アートセンター レインボードロップズ公演「探せ宝を、虹のふもとに！」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/18	118	21	18.0%
ダンスダイブウィーク「ショーケース」	小劇場	ダンス・現代舞踊	9/21	93	10	11.0%
sutra	大ホール	ダンス・現代舞踊	10/8	783	71	9.0%
北九州芸術劇場×到津の森公園×北九州市立響ホール 「どこをどうぶつる」	小劇場	ダンス・現代舞踊	10/15	75	15	20.0%
ワンコインコンサート vol.8 「加藤直明トロンボーンコンサート」	大ホール	音楽劇	10/28	367	103	28.0%
平成 28 年度公共ホール演劇ネットワーク事業 「演出家だらけの青木さん家の奥さん」	小劇場	小劇場・現代演劇	10/29	116	13	11.0%
北九州芸術劇場リーディングセッション vol.27「TIMES LIVE」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/12	99	19	19.0%
木ノ下歌舞伎「勸進帳」	小劇場	小劇場・現代演劇	11/19	110	16	15.0%
パルコプロデュース「星回帰線」	中劇場	小劇場・現代演劇	11/25	409	40	10.0%

公演名	会場	公演ジャンル	配布日	配布数	回収数	回収率(%)
南河内万歳一座「滅裂博士」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/10	99	14	14.0%
KAKUTA「愚図」	小劇場	小劇場・現代演劇	12/17	100	14	14.0%
ワンコインコンサートシリーズ vol.9 「大森智子ソプラノコンサート」	大ホール	音楽劇	1/12	343	92	27.0%
北九州芸術劇場＋市民共同制作 「Re：北九州の記憶」	小劇場	小劇場・現代演劇	1/13	108	7	6.0%
ブルーエゴナク「ふくしゅうげき」	小劇場	小劇場・現代演劇	1/21	114	32	28.0%
北九州芸術劇場プロデュース 「しなやか見渡す穴は森は雨」	小劇場	小劇場・現代演劇	2/26	109	16	15.0%
MONO「ハテノウタ」	小劇場	小劇場・現代演劇	3/11	127	25	20.0%
「劇トツ×20分」2017	小劇場	小劇場・現代演劇	3/19	168	33	20.0%
山海塾「降りくるもののなかでーとぼり」	中劇場	ダンス・現代舞踊	3/19	480	97	20.0%
計	—	—	—	9,622	1,392	14.0%

(注) 配布数は、アンケートを配布する公演初日の入場者数と設定している。

(2) 調査項目

- 来場公演名、ジャンル(調査票の右肩に記載されている公演名から分類)
- 北九州芸術劇場での鑑賞活動(鑑賞した公演、公演に来た理由、情報入手経路)
- 公演内容や劇場サービスに対する満足度、総合満足度
- 運営方針に対する賛同
- 公演鑑賞前後の飲食やショッピング
- 日頃の芸術鑑賞活動(鑑賞頻度、北九州芸術劇場での鑑賞経験)
- 来場の妨げになっていること
- 基本属性(性別、年齢層、居住エリア、チケットクラブへの入会)

(3) 来場公演のジャンル、年齢の分類

① 来場公演のジャンル

- 調査結果の集計にあたっては、ジャンルごとの傾向を把握するため、公演を「小劇場・現代演劇」、「音楽劇」、「ダンス・現代舞踊」、「パフォーマンス」の4つのジャンルに分類した(例年では、「ミュージカル・商業演劇」、「古典芸能(歌舞伎・能等)」を加えて集計しているが、2016年度は当該分野の事業が行われなかった)。また、2016年度の「音楽劇」には、「ワンコインコンサート」シリーズの3公演を含めて集計している。
- 調査対象32公演のジャンル分類は図表-資 I -1にも記しているとおおり、
 - 小劇場・現代演劇： 20公演 ※下記他ジャンルの12公演以外
 - 音楽劇： 4公演…合唱物語「わたしの青い鳥2016」/ワンコインコンサート vol.3「仲道郁代ピアノコンサート」/vol.8「加藤直明トロンボーンコンサート」/vol.9「大森智子ソプラノコンサート」
 - ダンス・現代舞踊： 6公演…ダンスダイブ2016 伊藤キム「北九州 GERO 活動」/北九州芸術劇場×北九州市立身体障害者福祉協会アートセンター レインボードロップスダンス公演「探せ宝を、虹のふもとに！/ダンスダイブウィーク「ショーケース」/sutra/北九州芸術劇場×到津の森公園×北九州市立響ホール「どこをどうぶつる」/山海塾「降りくるもののなかでーとぼり」
 - パフォーマンス： 2公演…大人も一緒に子どもたちの劇場シリーズ2016ー海外編ー「黄色いくつかしたの夢"The Dream of a YellowSock"」/「ア・マノ "A Mano/By Hand"」(2公演)

となっている。

※15年度のアンケート結果は、「小劇場・現代演劇」の観客が多いことに留意が必要であるが、劇場全体の公演プログラムとして「小劇場・現代演劇」が多いことを考えると、15年度の観客全体と回答者像に大きな乖離はないと考えられる。

②年齢層

- 実数で記載されている年齢については、年齢ごとの傾向を把握するため、「18歳未満」、「18～29歳」、「30歳代」、「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の6つの年齢層に分類した。

(4) 基本分析軸の設定

- アンケート調査結果の集計・分析にあたっては、鑑賞活動や満足度に関する傾向に顕著な差が出ると考えられる、「来場公演のジャンル」、「性別」、「年齢層」、「チケットクラブへの入会」、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」の5つを集計・分析の柱(基本分析軸)として設定した。
- なお、「北九州芸術劇場での鑑賞経験」は、08年度までは「今日が初めて」「1～5回」「6回以上」の3分類としていたが、鑑賞経験の多い来場者が増えてきたことに伴い、09年度からは、「今日が初めて」「1～2回」「3～5回」「6～10回」「11回以上」の5分類としている。
- 基本分析軸の詳細は図表-資 I -2のとおりである。

図表-資 I -2 基本分析軸

基本分析軸	項目	回収数	占有率
全 体		1,392	—
来場公演の ジャンル n=1,392	小劇場・現代演劇	656	47.1%
	音楽劇	494	35.5%
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0%
	古典芸能(歌舞伎・能等)	0	0.0%
	ダンス・現代舞踊	227	16.3%
	パフォーマンス	15	1.1%
性別 n=1,253	男性	316	25.2%
	女性	937	74.8%
年齢層 n=1,176	18歳未満	51	4.3%
	18～29歳	97	8.2%
	30歳代	152	12.9%
	40歳代	228	19.4%
	50歳代	260	22.1%
	60歳以上	388	33.0%
チケットクラブへの 入会 n=1,224	加入	285	23.3%
	未加入	939	76.7%
北九州芸術劇場 での鑑賞経験 n=1,236	今日が初めて	226	18.3%
	1～2回	192	15.5%
	3～5回	283	22.9%
	6～10回	214	17.3%
	11回以上	321	26.0%

(注1) 基本分析軸に無回答は含まない。

(注2) 無回答の件数は、性別:139件、年齢層:216件、チケットクラブへの入会の有無:168件、北九州芸術劇場での鑑賞経験:156件である。「来場公演のジャンル」は、調査票にあらかじめ記載された公演名から分類するため、無回答はゼロである。

1 属性

回答者の性別は、「男性」が25.2%、「女性」が74.8%と、「女性」の割合が高い。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルでも「女性」の割合が高い。

[年齢別]

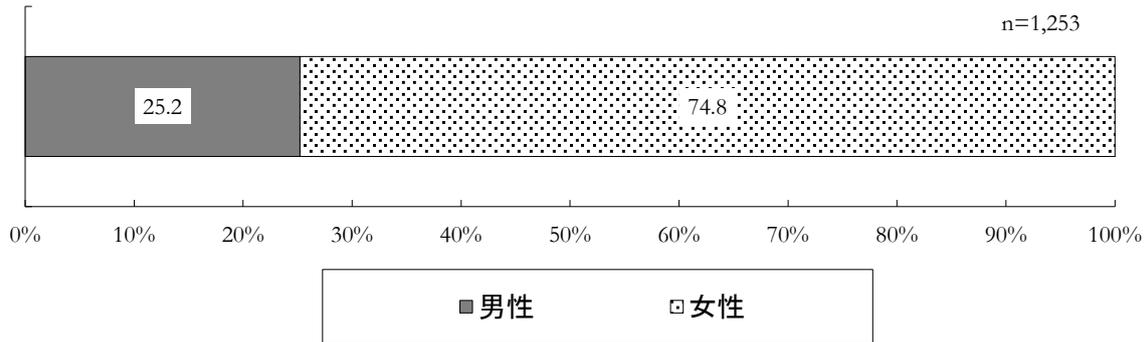
・いずれの年齢層でも「女性」の割合が高い。18歳未満では「男性」の割合が37.3%、60歳以上では32.5%と他の年齢層に比べて高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞経験を問わず「女性」の割合が高い。1～2回では「男性」の割合が27.4%と他の鑑賞経験に比べて高い。

[過去調査と比較して]

・過去調査でも回答者の性別は「女性」の割合が高いが、16年度は男性の割合が過去最高となっている。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q12性別	
			男性	女性
全体		1253	25.2	74.8
ジャンル	小劇場・現代演劇	598	23.6	76.4
	音楽劇	439	27.3	72.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	204	27.0	73.0
	パフォーマンス	12	0.0	100.0
性別	男性	316	100.0	0.0
	女性	937	0.0	100.0
年齢層	18歳未満	51	37.3	62.7
	18～29歳	97	21.6	78.4
	30歳代	152	17.8	82.2
	40歳代	228	17.1	82.9
	50歳代	260	26.2	73.8
	60歳以上	388	32.5	67.5
チケット	加入	281	23.8	76.2
	未加入	930	26.1	73.9
鑑賞経験	今日が初めて	223	23.8	76.2
	1～2回	190	27.4	72.6
	3～5回	279	24.7	75.3
	6～10回	210	26.2	73.8
	11回以上	320	25.6	74.4

※n=1,253は、無回答(139件)を除く。

参考	15年度調査結果	1817	16.5	83.5
	14年度調査結果	1068	21.8	78.2
	13年度調査結果	1446	21.1	78.9
	12年度調査結果	1478	24.2	75.8
	11年度調査結果	1599	22.3	77.7
	10年度調査結果	2232	18.4	81.6
	09年度調査結果	1607	16.6	83.4
	08年度調査結果	1653	19.0	81.0
	07年度調査結果	2901	17.9	82.1
	06年度調査結果	2394	20.6	79.4
	05年度調査結果	2510	18.1	81.9
	04年度調査結果	4089	14.6	85.4
	03年度調査結果	3595	15.9	84.1

* 表中の網掛け部分は、各属性のうち無回答以外の最高の占率を表す(以下、いずれの表についても同様)。

回答者の平均年齢は50.3歳。「60歳以上」が33.0%と最も割合が高い。「50歳代」が22.1%、「40歳代」が19.4%、「30歳代」が12.9%、「18～29歳」が8.2%、「18歳未満」が4.3%と、幅広い年齢層の観客が来場しているが、年齢層が高いほど割合が高くなっている。

[来場公演のジャンル別]

- ・平均年齢が最も高いのは音楽劇の60.5歳、最も低いのはパフォーマンスの39.7歳となっている。
- ・パフォーマンスは、「18歳未満」の割合が全体の割合を大きく上回っている。

[性別]

- ・平均年齢は、男性が52.8歳、女性が49.4歳と、男性の平均年齢が高い。
- ・男性では「60歳以上」の割合が女性に比べて高く、女性では「40歳代」の割合が男性に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

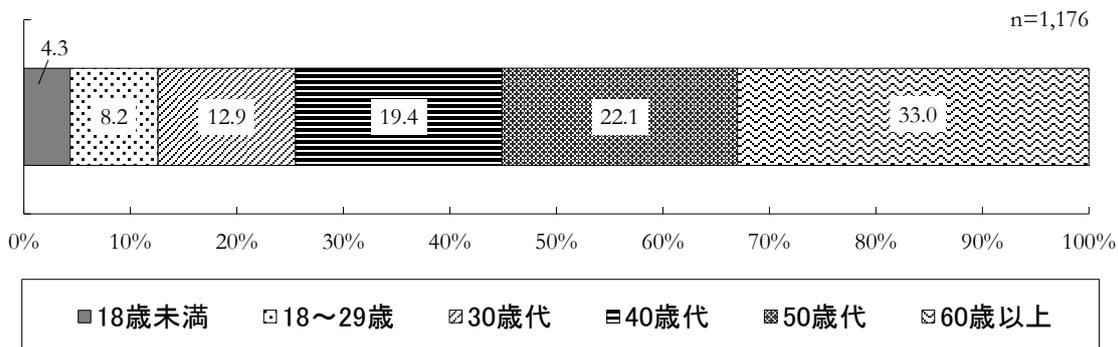
- ・加入の場合の平均年齢は50.5歳、未加入の場合は50.0歳と、加入の平均年齢が若干高い。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど概ね平均年齢が高い。
- ・今日が初めての回答者では、「60歳以上」に続いて「30歳代」の割合が高い。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査でも回答者の平均年齢は40歳台前半となっており、16年度は例年になく平均年齢が高くなっている。
- ・過去調査と比較して16年度は、「18～29歳」と「30歳代」の割合が最も低く、「60歳以上」の割合が最も高くなっている。年々、最も高い割合の年齢層が上がっていることがわかる。



(単位: %)

	調査数 (n)	Q13年年齢層						平均年齢 (歳)	
		18歳未満	18~29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上		
全体	1176	4.3	8.2	12.9	19.4	22.1	33.0	50.3	
ジャンル	小劇場・現代演劇	558	5.9	12.9	17.4	27.2	24.6	12.0	43.5
	音楽劇	420	2.1	1.9	5.0	9.8	17.6	63.6	60.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	186	3.8	9.1	16.7	16.7	26.3	27.4	48.3
	パフォーマンス	12	16.7	0.0	25.0	33.3	0.0	25.0	39.7
性別	男性	300	6.3	7.0	9.0	13.0	22.7	42.0	52.8
	女性	876	3.7	8.7	14.3	21.6	21.9	29.9	49.4
年齢層	18歳未満	51	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.1
	18~29歳	97	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.6
	30歳代	152	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	35.0
	40歳代	228	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	44.7
	50歳代	260	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	54.2
	60歳以上	388	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	68.2
チケット	加入	268	1.1	4.1	14.9	23.5	32.8	23.5	50.5
	未加入	872	5.3	9.6	12.6	18.1	19.2	35.2	50.0
鑑賞経験	今日が初めて	217	4.6	15.2	21.2	14.7	19.8	24.4	45.4
	1~2回	172	4.1	9.9	18.0	15.1	21.5	31.4	49.5
	3~5回	266	6.8	7.5	12.8	20.3	20.3	32.3	48.9
	6~10回	205	5.9	5.4	5.4	21.5	25.4	36.6	52.5
	11回以上	289	0.3	5.2	9.7	23.5	23.9	37.4	53.9

※n=1176は、無回答(216件)を除く。

参考	調査数	18歳未満	18~29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	平均年齢 (歳)
15年度調査結果	1746	3.3	13.9	16.3	22.7	25.0	18.8	45.6
14年度調査結果	1004	6.1	11.1	16.3	27.5	22.2	16.8	44.8
13年度調査結果	1386	3.6	18.2	22.4	25.4	16.7	13.6	41.9
12年度調査結果	1398	3.2	16.7	21.0	24.2	20.4	14.4	42.9
11年度調査結果	1529	5.8	15.0	23.9	26.7	17.1	11.6	41.4
10年度調査結果	2162	5.1	19.1	27.3	21.3	15.3	11.9	40.2
09年度調査結果	1546	3.5	15.1	28.7	22.1	17.5	13.1	42.0
08年度調査結果	1586	3.9	16.2	23.3	20.9	19.7	15.9	42.9
07年度調査結果	2818	4.7	18.0	23.0	19.3	16.4	18.5	42.7
06年度調査結果	2302	5.8	15.6	22.3	19.3	18.0	19.1	43.4
05年度調査結果	2363	2.8	19.6	22.7	17.6	18.0	18.6	43.4
04年度調査結果	3867	4.9	17.1	23.4	20.4	17.5	16.7	42.3
03年度調査結果	3470	3.1	15.1	21.4	16.9	19.9	23.6	45.5

回答者の居住エリアは、北九州市及び周辺地域が60.8%（「北九州市」：53.3%、北九州市周辺：7.5%）を占めるが、福岡市やその周辺をはじめ、九州各地、山口県等からの来場者は28.9%と約3割となっている。過去調査と比較すると、北九州市及び周辺以外からの来場者の割合は、07年度以降は3割以上が定着しているが、10年ぶりに3割を下回った。

福岡県以外の九州について具体的な県名をみると、大分県（28件）、熊本県（16件）、鹿児島県（8件）等の記載がある。九州・山口以外では、広島県（15件）、東京都（7件）の回答もある。

[来場公演のジャンル別]

・ジャンルを問わず「北九州市」の占める割合が最も高く、特に「北九州市」の割合が高いのは、音楽劇（75.7%）となっている。

・ダンス・現代舞踊では、「北九州・福岡周辺以外の九州」（15.0%）「福岡市+周辺」（11.9%）からの割合が高い。

[性別]

・性別では、男女ともに「北九州市」の割合が高いものの、性別で大きな差はない。

[年齢別]

・「北九州市」の割合は、18歳未満と60歳以上で高く、それぞれ74.5%、74.0%となっている。

・一方、それ以外の年代では、「北九州市」の割合が高いものの、「福岡市+周辺」からの来場者の割合も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

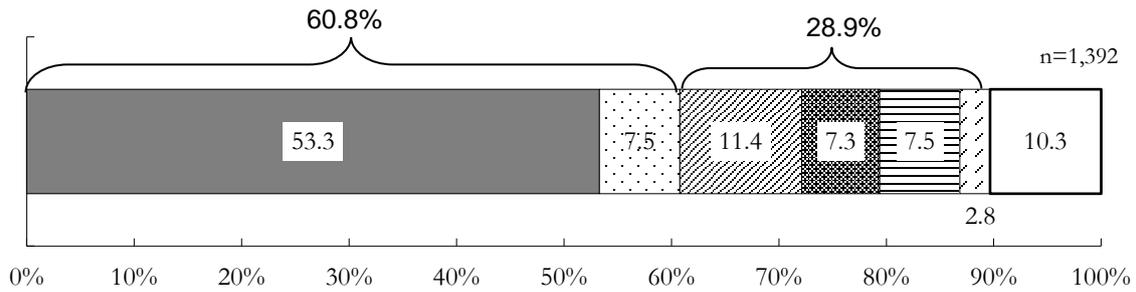
・加入、未加入ともに「北九州市」の割合が最も高く、大きな差はない。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・11回以上の来場者は66.7%が「北九州市」の居住となっており、概ね鑑賞経験が多いほど「北九州市」の割合が高い傾向となっている。市内に居住していること（＝劇場に来やすいこと）が鑑賞経験にも影響しているものと考えられる。

[過去調査と比較して]

・10年度までは「北九州市+周辺」からの来場割合が下降傾向、「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が上昇傾向にあり、13年度の43.6%が最も高い割合となっている。16年度は15年度に比べて「北九州市+周辺以外のエリア」からの来場割合が10%以上低くなった。



■北九州市 □北九州市周辺 ▨福岡市+周辺 ▩左記以外の九州 ▪山口県 □その他 □無回答

(単位:%)

	調査数 (n)	Q11居住エリア							北九州市 +周辺	北九州市 +周辺 以外のエ リア	
		北九州市	北九州市 周辺	福岡市+ 周辺	北九州・ 福岡周辺 以外の九 州	山口県	その他	無回答			
全体	1392	53.3	7.5	11.4	7.3	7.5	2.8	10.3	60.8	28.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	40.5	7.8	19.4	9.6	10.4	3.2	9.1	48.3	42.5
	音楽劇	494	75.7	6.9	0.6	0.8	4.9	0.0	11.1	82.6	6.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	41.4	8.4	11.9	15.0	4.0	7.9	11.5	49.8	38.8
	パフォーマンス	15	53.3	0.0	6.7	0.0	20.0	0.0	20.0	53.3	26.7
性別	男性	316	59.2	6.3	13.3	8.2	7.9	3.8	1.3	65.5	33.2
	女性	937	59.1	8.8	12.3	8.0	8.3	2.9	0.6	67.9	31.5
年齢層	18歳未満	51	74.5	7.8	7.8	5.9	3.9	0.0	0.0	82.4	17.6
	18～29歳	97	51.5	6.2	17.5	10.3	7.2	6.2	1.0	57.7	41.2
	30歳代	152	44.7	4.6	20.4	15.8	12.5	2.0	0.0	49.3	50.7
	40歳代	228	53.5	5.7	19.3	11.0	6.1	3.9	0.4	59.2	40.4
	50歳代	260	55.0	9.2	11.9	9.2	8.1	5.8	0.8	64.2	35.0
	60歳以上	388	74.0	10.3	4.6	1.8	7.7	1.3	0.3	84.3	15.5
フット クラブ	加入	285	58.9	7.4	13.3	6.7	10.9	1.8	1.1	66.3	32.6
	未加入	939	58.3	8.1	12.6	8.7	7.5	3.5	1.4	66.3	32.3
鑑賞 経験	今日が初めて	226	32.7	8.0	19.9	17.3	11.1	9.3	1.8	40.7	57.5
	1～2回	192	62.0	8.3	13.5	5.2	6.3	3.1	1.6	70.3	28.1
	3～5回	283	60.4	9.2	9.5	10.6	7.8	1.1	1.4	69.6	29.0
	6～10回	214	66.4	10.7	10.3	4.7	3.7	1.4	2.8	77.1	20.1
	11回以上	321	66.7	5.6	11.2	3.4	11.2	1.6	0.3	72.3	27.4
参考	15年度調査結果	1989	41.7	8.5	15.2	12.8	8.2	4.1	9.6	50.2	40.2
	14年度調査結果	1146	48.7	9.5	14.0	9.7	8.6	2.6	6.9	58.2	34.9
	13年度調査結果	1569	40.5	7.8	17.7	13.2	9.8	2.9	8.2	48.2	43.6
	12年度調査結果	1599	45.7	8.8	16.3	9.7	8.9	2.9	7.8	54.4	37.8
	11年度調査結果	1688	49.9	10.1	12.7	10.1	9.7	1.8	5.7	60.1	34.2
	10年度調査結果	2379	45.4	11.1	13.5	12.1	9.0	2.9	6.2	56.4	37.4
	09年度調査結果	1692	50.7	11.1	14.0	9.6	7.7	1.9	5.0	61.8	33.2
	08年度調査結果	1732	52.9	11.5	12.0	7.6	10.0	1.5	4.4	64.5	31.1
	07年度調査結果	3033	52.6	11.7	11.8	9.3	8.0	2.1	4.4	64.3	31.2
	06年度調査結果	2766	61.9	12.5	8.4	4.6	7.1	1.3	4.2	74.4	21.4
	05年度調査結果	3073	60.7	11.3	11.5	4.3	8.1	1.4	2.7	72.0	25.3
04年度調査結果	4708	63.3	8.4	10.2	8.5	6.9	1.0	1.7	71.7	26.6	
03年度調査結果	4078	60.5	7.5	7.8	-	-	11.6	7.7	68.0	19.4	

チケットクラブに入会している割合は20.5%、入会していない割合は67.5%である。

[来場公演のジャンル別]

・チケットクラブに入会している割合(加入率)は、小劇場・現代演劇(26.8%)で高い。

[性別]

・加入率は、男性が21.2%、女性が22.8%と、女性の割合がやや高い。

[年齢別]

・加入率は、50歳代(33.8%)、40歳代(27.6%)、30歳代(26.3%)で高い。

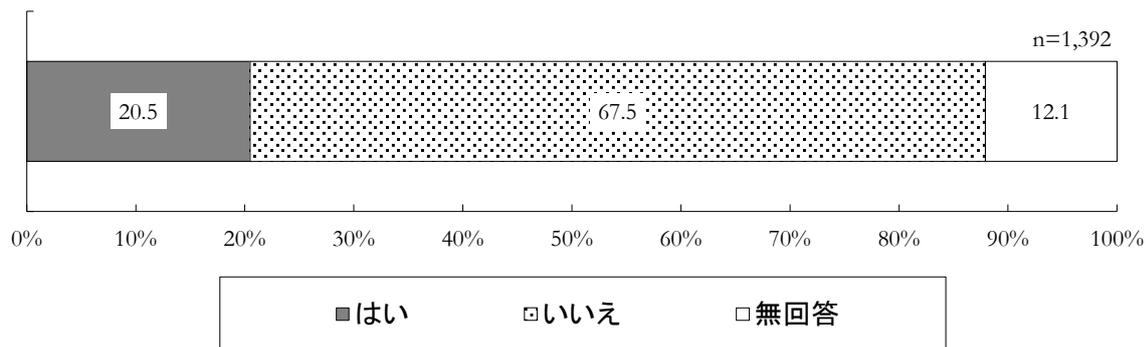
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験が多いほど入会している割合は高く、特に、11回以上のグループの加入率の高さは45.5%となっている。

[過去調査と比較して]

・年度ごとに増減があり、おおよそ加入:20%前後、未加入:70%前後の割合で推移してきた。10年度以降、加入率は徐々に高まってきたが、16年度は15年度に比べて加入している割合が低くなった。

・加入率は03年度が最も高く(33.4%)、次いで14年度が2番目、15年度が3番目に高い割合となっている。



(単位: %)

		調査数 (n)	Q9チケットクラブへの入会		
			はい	いいえ	無回答
全体		1392	20.5	67.5	12.1
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	26.8	64.0	9.1
	音楽劇	494	14.2	70.6	15.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊 パフォーマンス	227 15	15.9 20.0	70.9 60.0	13.2 20.0
性別	男性	316	21.2	76.9	1.9
	女性	937	22.8	73.3	3.8
年齢層	18歳未満	51	5.9	90.2	3.9
	18～29歳	97	11.3	86.6	2.1
	30歳代	152	26.3	72.4	1.3
	40歳代	228	27.6	69.3	3.1
	50歳代	260	33.8	64.2	1.9
	60歳以上	388	16.2	79.1	4.6
チケット クラブ	加入	285	100.0	0.0	0.0
	未加入	939	0.0	100.0	0.0
鑑賞 経験	今日が初めて	226	5.3	92.9	1.8
	1～2回	192	8.9	87.0	4.2
	3～5回	283	14.8	82.3	2.8
	6～10回	214	29.0	68.7	2.3
	11回以上	321	45.5	52.6	1.9

参考	15年度調査結果	1989	24.9	64.5	10.6
	14年度調査結果	1146	25.2	65.6	9.2
	13年度調査結果	1569	23.3	66.7	10.0
	12年度調査結果	1599	24.8	66.0	9.2
	11年度調査結果	1688	22.7	68.8	8.5
	10年度調査結果	2379	19.0	73.1	7.9
	09年度調査結果	1692	22.5	70.7	6.9
	08年度調査結果	1732	18.7	73.8	7.5
	07年度調査結果	3033	20.3	73.6	6.1
	06年度調査結果	2766	23.1	70.6	6.3
	05年度調査結果	3073	24.0	71.0	4.9
	04年度調査結果	4708	23.1	73.4	3.4
	03年度調査結果	4078	33.4	57.3	9.3

現在チケットクラブ会員ではない場合、今後の入会意向のある割合は12.6%、ない割合は48.6%である。無回答の割合も38.9%と高い(入会の意向が明確ではない人は無回答の場合が多いと考えられる)。

[来場公演のジャンル別]

・今後の入会意向は、パフォーマンスが高く(33.3%)、音楽劇で低い(12.3%)。

[性別]

・今後の入会意向は、男性が13.2%、女性が12.5%と男性がやや高い。

[年齢別]

・入会意向は18～29歳で高く(17.9%)、18歳未満は低い(8.7%)。

・60歳以上で無回答の割合が高く、44.3%が無回答である。

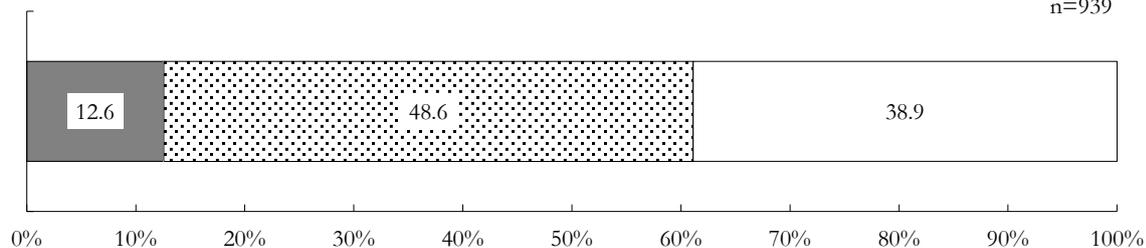
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・入会意向は、11回以上のグループで高くなっている(14.8%)。概ね鑑賞経験が多いほど高い傾向となっている。

[過去調査と比較して]

・07年度以降の入会意向が20%を下回る状況が続いており、過去調査と比較して16年度は最も低い割合となっている。

n=939



■はい □いいえ □無回答

(単位: %)

	調査数 (n)	Q9チケットクラブへの入会			
		はい	いいえ	無回答	
全体	939	12.6	48.6	38.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	420	14.3	50.0	35.7
	音楽劇	349	12.3	46.1	41.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	161	7.5	52.2	40.4
	パフォーマンス	9	33.3	11.1	55.6
性別	男性	243	13.2	53.9	32.9
	女性	687	12.5	46.9	40.6
年齢層	18歳未満	46	8.7	71.7	19.6
	18～29歳	84	17.9	56.0	26.2
	30歳代	110	16.4	53.6	30.0
	40歳代	158	13.9	50.0	36.1
	50歳代	167	14.4	43.1	42.5
	60歳以上	307	9.8	45.9	44.3
チケットクラブ	加入	0	0.0	0.0	0.0
	未加入	939	12.6	48.6	38.9
鑑賞経験	今日が初めて	210	8.6	52.9	38.6
	1～2回	167	13.8	50.3	35.9
	3～5回	233	12.4	48.9	38.6
	6～10回	147	14.3	45.6	40.1
	11回以上	169	14.8	43.2	42.0

参考	15年度調査結果	1989	24.9	64.5	10.6
	14年度調査結果	1146	25.2	65.6	9.2
	13年度調査結果	1569	23.3	66.7	10.0
	12年度調査結果	1599	24.8	66.0	9.2
	11年度調査結果	1688	22.7	68.8	8.5
	10年度調査結果	2379	19.0	73.1	7.9
	09年度調査結果	1692	22.5	70.7	6.9
	08年度調査結果	1732	18.7	73.8	7.5
	07年度調査結果	3033	20.3	73.6	6.1
	06年度調査結果	2766	23.1	70.6	6.3
	05年度調査結果	3073	24.0	71.0	4.9
	04年度調査結果	4708	23.1	73.4	3.4
03年度調査結果	4078	33.4	57.3	9.3	

* n=939は、チケットクラブに入会していないと回答した人の数

2 本日の公演や劇場に関する意見

(1) 来場公演のジャンル

回答者が鑑賞した公演のジャンルは、「小劇場・現代演劇」が47.1%である。そのほかのジャンルについては、「音楽劇」(音楽含む)が35.5%、「ダンス・現代舞踊」が16.3%、「パフォーマンス」が1.1%となっている。

※2016年度のアンケート配布32公演のうち、「小劇場・現代演劇」が20公演を占めていることから、全体の数字は、「小劇場・現代演劇」の影響が大きいことに留意が必要である。なお、2016年度の「音楽劇」には、「ワンコインコンサート」シリーズの3公演を含めて集計している。

[性別]

・男性、女性ともに、「小劇場・現代演劇」の割合が最も高いが、やや女性の鑑賞割合が高い(男性:44.6%、女性:48.8%)。

[年齢別]

・60歳以上を除く年代で「小劇場・現代演劇」の割合が高いが、特に、18～29歳で高い。
・60歳以上では「音楽劇」の割合が68.8%と他の年齢層に比べて高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

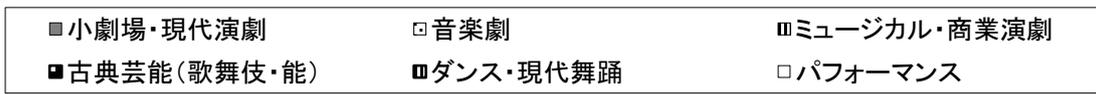
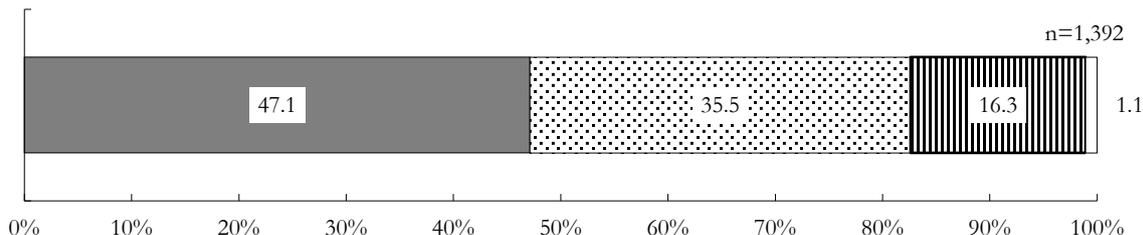
・加入・未加入ともに「小劇場・現代演劇」の割合が最も高く、加入の場合は61.8%を占めている。

[北九州芸術芸場での鑑賞経験別]

・初めての来場者の場合と11回以上の来場者で、「小劇場・現代演劇」の割合が過半となっている。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、07年度以降、若干の増減はあるが「小劇場・現代演劇」の割合が増加しており、14年度は最も高くなっているが、16年度は50%を下回り、「音楽劇」が過去最高の割合となっている。



(単位: %)

	調査数 (n)	ジャンル						
		小劇場・現代演劇	音楽劇	ミュージカル・商業演劇	古典芸能(歌舞伎・能)	ダンス・現代舞踊	パフォーマンス	
全体	1392	47.1	35.5	0.0	0.0	16.3	1.1	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	音楽劇	494	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	227	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
	パフォーマンス	15	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
性別	男性	316	44.6	38.0	0.0	0.0	17.4	
	女性	937	48.8	34.0	0.0	0.0	15.9	
年齢層	18歳未満	51	64.7	17.6	0.0	0.0	13.7	
	18~29歳	97	74.2	8.2	0.0	0.0	17.5	
	30歳代	152	63.8	13.8	0.0	0.0	20.4	
	40歳代	228	66.7	18.0	0.0	0.0	13.6	
	50歳代	260	52.7	28.5	0.0	0.0	18.8	
	60歳以上	388	17.3	68.8	0.0	0.0	13.1	
チケットクラブ	加入	285	61.8	24.6	0.0	0.0	12.6	
	未加入	939	44.7	37.2	0.0	0.0	17.1	
鑑賞経験	今日が初めて	226	52.2	26.1	0.0	0.0	20.4	
	1~2回	192	47.9	36.5	0.0	0.0	15.1	
	3~5回	283	48.8	36.0	0.0	0.0	14.8	
	6~10回	214	36.9	41.1	0.0	0.0	21.0	
	11回以上	321	53.9	31.8	0.0	0.0	13.1	
参考	15年度調査結果	1989	71.5	14.7	3.0	0.0	10.7	0.0
	14年度調査結果	1146	88.3	6.3	0.0	0.0	5.4	0.0
	13年度調査結果	1569	78.3	4.3	0.0	0.0	17.3	0.0
	12年度調査結果	1599	79.4	3.6	9.3	0.0	3.2	4.5
	11年度調査結果	1688	76.1	4.1	0.0	8.1	7.3	4.3
	10年度調査結果	2379	70.5	7.2	16.1	4.4	1.7	0.0
	09年度調査結果	1692	70.3	5.3	10.1	5.7	4.1	4.5
	08年度調査結果	1732	43.8	22.1	24.0	5.5	3.6	0.9
	07年度調査結果	3033	26.9	3.8	44.0	16.7	4.6	3.1
	06年度調査結果	2766	35.8	4.5	33.3	22.2	3.3	1.0
	05年度調査結果	3073	27.4	3.0	33.3	16.1	8.9	6.7
	04年度調査結果	4708	45.1	—	24.1	22.0	3.0	—
	03年度調査結果	4078	21.2	6.4	34.7	23.5	2.2	—

↑
「その他のジャンル」

※03年度は、「クラシック音楽」ジャンルが設けられており、割合は10.9%であった。
 ※08年度以降、「その他のジャンル」は、他のジャンルに分類・統合している。

公演情報の入手経路については、「他の公演会場で配布されたチラシ」(20.5%)、「友人・知人から聞いた」が18.3%、「ホームページ・ブログ」が15.1%となっており、続いて「街中のチラシ・ポスター」(13.8%)となっている。

「雑誌・タウン情報誌」名の具体的な書き込みをみると「かるかる」(9件)「リフレッシュ」(5件)「リビング北九州」(4件)「ナッセ」(3件)などの地域情報誌(紙)名の記載もある。

「その他」の具体的な書き込みをみると、「情報誌『Q』」への回答が多い(41件)。そのほか、チケットぴあ、ファンクラブからの案内、互助会の斡旋などの回答がある。また、幼稚園、学校、職場からの紹介なども多く、情報の入手経路は多様である。

※15年度から、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

[来場公演のジャンル別]

- ・公演情報の入手経路は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「ホームページ・ブログ」(21.0%)
 - ・音楽劇:「他の公演会場で配布されたチラシ」(22.5%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「ホームページ・ブログ」(18.9%)
- の割合が最も高い。

[年齢別]

- ・公演情報の入手経路は、年齢による特徴も顕著で、18歳未満では「友人・知人から聞いた」、18～29歳では「出演者、公演関係者から聞いた」、30歳代、40歳代は「ホームページ・ブログ」、50歳代、60歳代は「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い。
- ・15年度に新たに選択肢を設けた「Facebook、TwitterなどのSNS」は、18歳未満が17.6%で他の世代に比べて割合が多い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入している場合、「他の公演会場で配布されたチラシ」が33.7%で最も高く、次いで「ホームページ・ブログ」が28.1%と高い割合を占める。これら2項目の割合の高さは、未加入と比べて顕著である。また、「その他」への回答も多く、具体的な書き込み内容をみると「情報誌『Q』」が多い。
- ・一方、未加入の場合は、「友人・知人から聞いた」が21.4%と最も高く、次いで「他の会場で配布されたチラシ」(17.9%)となっている。

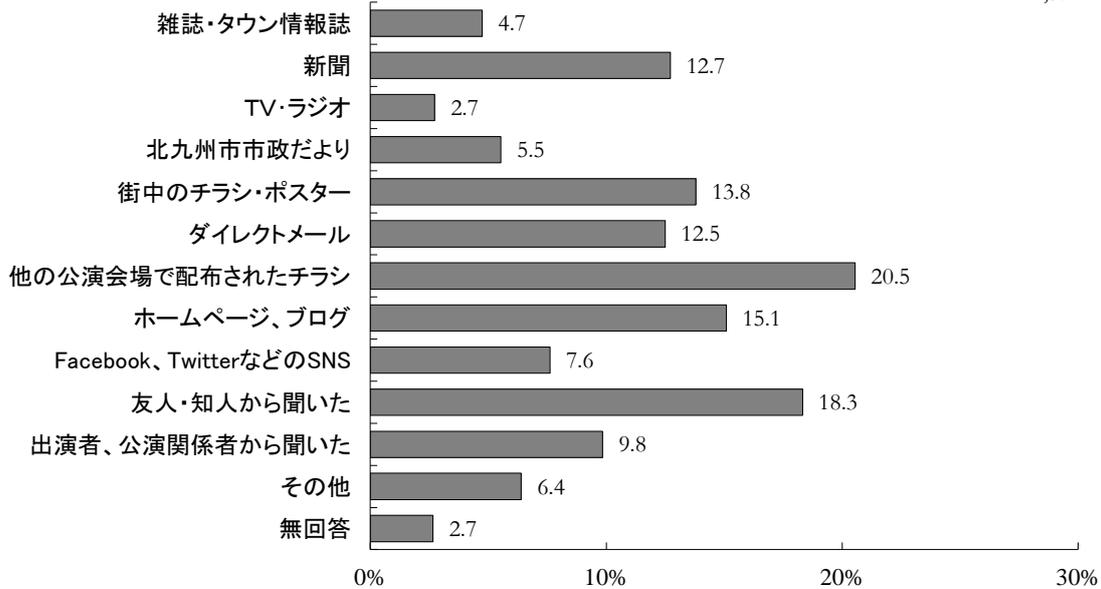
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞経験が5回までの回答者では「友人・知人から聞いた」の割合が最も高く、6回以上では「他の公演で配布されたチラシ」の割合が最も高い。
- ・鑑賞経験が多くなるほど、「他の公演会場で配布されたチラシ」と「街中のチラシ・ポスター」の割合は多くなる傾向にある。

[過去調査と比較して]

- ・10年度は初めて「インターネット・ホームページ」が最も高い割合となったが、11年度以降は「友人・知人から聞いた」と最上位が年によって入れ替わっている。16年度は初めて「他の公演会場で配布されたチラシ」が最も高い割合となった。
- ・一方、年度によって増減はあるが、「新聞」の割合が06年度をピーク(18.7%)として減少している(14年度:8.6%)。「ぴあ・ローソンなどプレイガイドの店頭」も06年度(6.3%)から減少傾向にある(14年度:2.9%)。

n=1,392



(単位: %)

	調査数 (n)	Q1公演情報の入手経路												無回答	
		雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、ブログ	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他		
全体	1392	4.7	12.7	2.7	5.5	13.8	12.5	20.5	15.1	7.6	18.3	9.8	6.4	2.7	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	3.5	6.4	4.3	2.0	12.3	15.5	20.9	21.0	12.8	19.2	10.5	7.6	2.0
	音楽劇	494	6.3	20.9	1.6	12.1	15.4	9.7	22.5	5.5	0.6	17.2	8.1	3.6	3.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	4.4	14.1	0.9	1.8	14.5	9.7	15.4	18.9	8.4	17.6	12.3	8.8	2.6
性別	男性	316	4.7	12.3	1.6	7.3	17.4	12.3	24.7	14.6	13.0	13.6	12.7	2.5	2.5
	女性	937	5.0	12.8	3.2	5.3	12.6	13.0	20.0	16.1	6.3	19.5	8.9	7.4	2.2
	18歳未満	51	0.0	2.0	0.0	2.0	11.8	3.9	21.6	13.7	17.6	43.1	15.7	3.9	5.9
	18~29歳	97	1.0	3.1	3.1	2.1	19.6	4.1	10.3	20.6	14.4	20.6	25.8	5.2	1.0
	30歳代	152	5.9	4.6	4.6	0.7	12.5	10.5	10.5	28.3	8.6	21.7	9.9	5.9	0.0
	40歳代	228	4.4	7.5	4.4	1.8	12.7	21.5	21.9	24.6	10.5	13.6	5.7	8.3	0.0
年齢層	50歳代	260	4.6	13.8	3.1	4.6	16.2	12.3	21.2	14.6	8.8	16.9	8.5	7.3	1.5
	60歳以上	388	7.0	23.2	1.5	11.9	13.1	12.1	25.0	5.4	1.8	16.5	8.5	5.2	3.6
	加入	285	4.6	4.9	3.2	2.1	14.0	26.0	33.7	28.1	9.5	6.0	5.3	12.3	2.1
	未加入	939	5.1	14.9	2.4	6.6	13.6	8.7	17.9	12.1	7.8	21.4	11.3	4.5	2.1
チケット	今日が初めて	226	5.8	10.6	5.3	4.0	9.3	3.1	6.2	17.7	8.0	27.9	12.4	4.0	0.9
	1~2回	192	5.7	17.2	3.1	5.7	12.5	13.0	15.1	9.4	5.7	18.8	10.4	5.7	1.6
	3~5回	283	2.8	11.3	1.4	6.0	13.8	8.8	19.8	12.7	8.1	20.5	9.9	5.3	2.1
	6~10回	214	7.0	14.0	0.9	4.7	15.9	16.8	20.6	16.8	6.1	16.8	7.5	6.1	2.3
	11回以上	321	4.7	11.5	2.5	7.2	16.2	20.6	38.3	20.6	10.3	8.4	8.7	9.3	3.4

※15年度は、14年度以前の調査で使用していた選択肢「インターネット・ホームページ」を「ホームページ・ブログ」と「Facebook、TwitterなどのSNS」の2つに分け、「びあ・ローンなどプレイガイドの店頭」を削除した。

	調査数 (n)	雑誌・タウン情報誌	新聞	TV・ラジオ	北九州市市政だより	街中のチラシ・ポスター	ダイレクトメール	他の公演会場で配布されたチラシ	ホームページ、ブログ	Facebook、TwitterなどのSNS	友人・知人から聞いた	出演者、公演関係者から聞いた	その他	無回答
15年度調査結果	1989	4.6	9.7	5.5	2.6	11.0	12.2	15.0	21.9	7.5	20.3	7.5	8.8	3.3
14年度調査結果	1146	4.9	8.6	3.3	2.8	13.1	14.4	18.0	20.9	21.6	12.7	2.9	8.7	4.4
13年度調査結果	1569	5.9	10.3	3.5	2.7	9.8	14.9	13.1	27.1	21.0	7.1	4.3	7.6	3.6
12年度調査結果	1599	6.0	9.1	2.8	2.4	12.1	14.8	15.4	22.0	22.0	9.3	3.3	7.5	5.4
11年度調査結果	1688	3.7	10.2	1.4	2.8	10.5	17.9	17.1	20.8	23.5	8.4	3.6	9.1	3.9
10年度調査結果	2379	5.3	10.3	4.4	4.1	11.4	14.8	13.1	22.4	21.9	7.2	4.2	7.1	4.6
09年度調査結果	1692	6.0	11.2	3.5	4.0	12.1	16.1	16.0	16.3	20.3	8.7	4.0	8.9	5.2
08年度調査結果	1732	7.1	14.5	2.6	4.2	10.2	17.1	13.1	13.3	23.2	9.4	4.0	10.1	3.5
07年度調査結果	3033	7.2	15.9	4.9	5.9	9.8	13.1	12.5	16.5	22.8	6.1	5.7	10.2	2.4
06年度調査結果	2766	6.6	18.7	5.7	11.7	11.4	16.6	11.4	12.0	21.6	4.6	6.3	9.2	2.4
05年度調査結果	3073	6.3	17.5	5.0	7.8	11.5	19.0	13.2	10.7	24.2	6.2	4.8	9.7	1.3
04年度調査結果	4708	7.1	15.6	3.5	9.8	12.1	19.5	13.7	9.5	23.1	5.7	5.4	11.4	1.6
03年度調査結果	4078	9.7	17.2	9.7	18.5	15.5	14.9	12.5	6.8	21.9	3.2	5.7	9.5	1.7

公演に来た理由については、「出演者が好きだから」が50.1%、「公演内容が面白そうだったから」が47.8%となっている。

「その他」の具体的な内容をみると、「家族が出演」「毎回来ている」「安かったから」という回答が複数見られる。

そのほか、招待やチケット当選、出演者のファンであることから興味があってなど、来場の理由は多様である。

[来場公演のジャンル別]

- ・公演に来た理由は、ジャンルによって特徴があり、
 - ・小劇場・現代演劇:「出演者等が好きだから」(58.8%)
 - ・音楽劇:「出演者等が好きだから」(45.5%)
 - ・ダンス・現代舞踊:「公演内容が面白そうだったから」(59.0%)
 - ・パフォーマンス:「公演内容が面白そうだったから」(86.7%)の割合が最も高い。

[性別]

- ・男性は「公演内容が面白そうだったから」、女性は「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。
- ・男性に比べて女性の割合が特に高いのは、「出演者等が好きだから」(51.7%)と「劇場が近くだったから」(14.6%)。

[年齢別]

- ・29歳までは「公演内容が面白そうだったから」の割合が最も高い。
- ・30歳以上では「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

- ・加入、未加入ともに「出演者等が好きだから」の割合が最も高い。

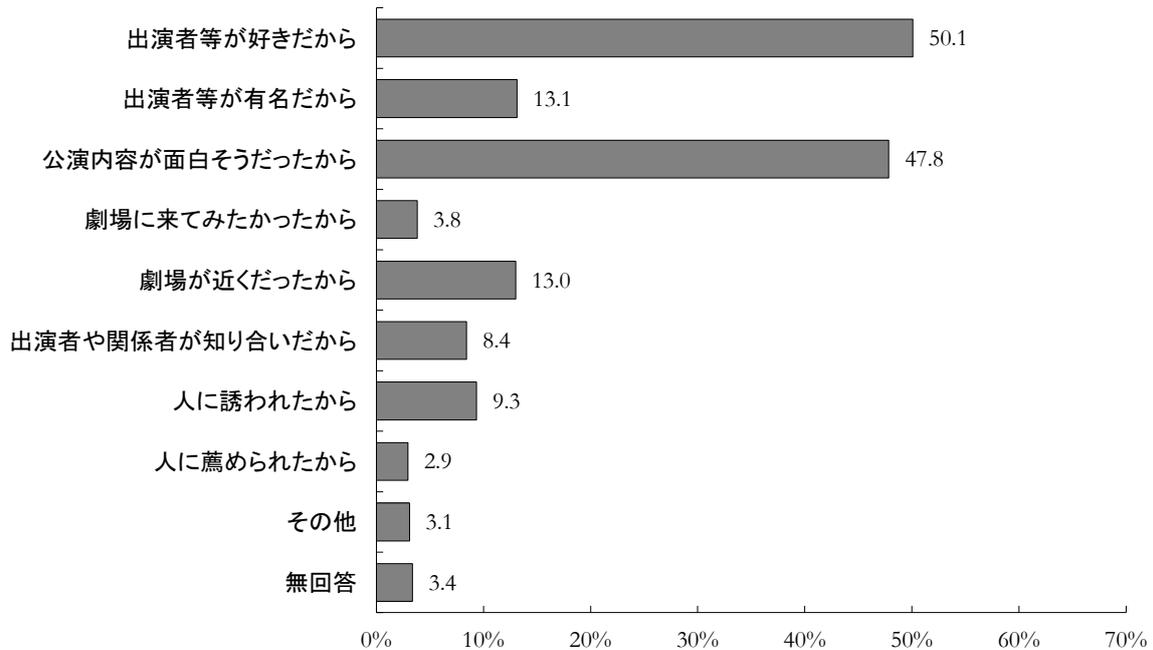
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・11回以上の鑑賞経験では「出演者等が好きだから」と「公演内容が面白そうだったから」の割合が同率で最も高く、初めての鑑賞経験と6～10回の鑑賞経験では「出演者等が好きだから」、1～5回の鑑賞経験では「公演内容が面白そうだったから」の割合が高くなっている。鑑賞経験が少ないほど概ね「人に誘われたから」の割合は高くなっている。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査と比較して、「公演内容が面白そうだったから」が「出演者等が好きだから」を上回ったのは03年度と14年度の2回となっている。
- ・15年度は「出演者等が好きだから」が過去最高の割合となった。

n=1,392



(単位: %)

	調査数 (n)	Q2公演に来た理由									
		出演者等 が好きだ から	出演者等 が有名だ から	公演内容 が面白そ うだった から	劇場に 来てみた かったか ら	劇場が 近くだ ったか ら	出演者 や関係 者が知 り合い だから	人に誘 われた から	人に勧 められ たから	その他	無回答
全体	1392	50.1	13.1	47.8	3.8	13.0	8.4	9.3	2.9	3.1	3.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	58.8	11.6	50.8	3.7	13.9	8.8	8.2	2.9	2.3
	音楽劇	494	45.5	16.6	37.7	3.8	15.0	8.5	10.7	2.8	5.7
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	37.4	11.0	59.0	3.5	6.2	7.5	9.7	2.6	1.8
	パフォーマンス	15	6.7	0.0	86.7	13.3	13.3	0.0	6.7	0.0	20.0
性別	男性	316	47.2	14.2	48.1	3.5	9.8	11.1	6.6	2.5	4.1
	女性	937	51.7	13.1	49.1	3.7	14.6	7.3	10.5	3.1	3.0
年齢層	18歳未満	51	37.3	17.6	49.0	7.8	19.6	19.6	23.5	23.5	2.0
	18～29歳	97	41.2	9.3	54.6	6.2	16.5	20.6	12.4	4.1	4.1
	30歳代	152	54.6	11.2	50.7	3.9	15.1	6.6	10.5	2.6	3.3
	40歳代	228	59.6	12.7	54.4	2.6	15.4	7.0	7.0	0.9	2.6
	50歳代	260	55.0	14.6	46.2	3.1	9.2	6.5	8.1	2.7	6.2
	60歳以上	388	45.6	14.2	43.8	3.6	13.1	6.2	9.8	2.1	2.1
チケット クラブ	加入	285	60.0	11.2	58.2	2.1	17.2	3.2	2.8	0.7	2.5
	未加入	939	48.7	13.4	46.1	4.4	12.1	9.6	11.3	3.6	3.4
鑑賞 経験	今日が初めて	226	44.7	9.3	39.8	14.2	8.8	9.3	15.5	2.7	4.0
	1～2回	192	43.8	10.9	45.3	3.6	13.0	9.4	13.5	4.2	4.2
	3～5回	283	48.1	17.3	49.8	0.4	12.7	9.5	8.5	4.6	3.2
	6～10回	214	57.0	18.7	49.5	1.4	15.0	8.4	7.9	1.9	0.9
	11回以上	321	57.0	10.6	57.0	1.2	16.2	5.0	3.7	1.6	3.1

参考	15年度調査結果	1989	62.7	10.3	45.4	4.2	15.8	4.5	10.4	3.4	3.1	2.6
	14年度調査結果	1146	44.7	9.8	51.9	10.7	18.2	11.9	10.4	5.7	4.9	5.4
	13年度調査結果	1569	59.0	10.3	46.7	8.3	18.2	6.1	10.2	3.8	5.4	4.1
	12年度調査結果	1599	50.1	10.2	49.0	7.6	18.3	8.0	11.9	3.1	5.4	5.6
	11年度調査結果	1688	51.7	8.3	50.7	9.0	20.7	7.2	12.1	5.8	4.7	4.0
	10年度調査結果	2379	60.4	10.9	43.5	7.8	20.7	5.0	12.0	3.5	5.7	4.7
	09年度調査結果	1692	56.4	11.0	47.5	8.3	19.7	7.1	13.1	4.1	5.1	4.7
	08年度調査結果	1732	52.9	10.2	49.2	8.0	19.6	8.9	13.7	4.0	10.9	3.2
	07年度調査結果	3033	55.7	11.9	46.0	5.5	12.8	5.1	14.0	4.0	10.7	2.3
	06年度調査結果	2766	55.2	13.3	49.1	6.8	13.7	4.6	13.1	3.6	9.6	2.7
	05年度調査結果	3073	51.8	14.2	48.5	7.7	13.3	5.5	14.4	4.1	11.3	1.3
	04年度調査結果	4708	51.0	13.3	49.6	7.9	15.8	4.8	13.0	4.1	12.1	1.3
	03年度調査結果	4078	51.8	19.1	55.9	28.8	15.0	2.4	10.8	2.7	13.3	0.6

公演前後に飲食やショッピングをしている割合は47.8%である。飲食をしている場合の平均金額は1,530.6円、ショッピングをしている場合の平均金額は4,042.3円となっており、昨年度と比較すると飲食平均額、ショッピング平均額ともに減少している。

[来場公演のジャンル別]

・飲食・ショッピングの割合は小劇場・現代演劇が高い。飲食をしている場合の平均額はパフォーマンスでの来場者が高く、ショッピングをしている場合の平均金額では、ダンス・現代舞踊が高い。

[性別]

・飲食やショッピングをしている割合は、男性が45.6%、女性が54.5%と女性の方が高い。飲食とショッピングの平均金額では女性が男性を上回っている。

[年齢別]

・飲食やショッピングをしている割合では40歳代が高く、飲食とショッピングの平均金額では60歳以上が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

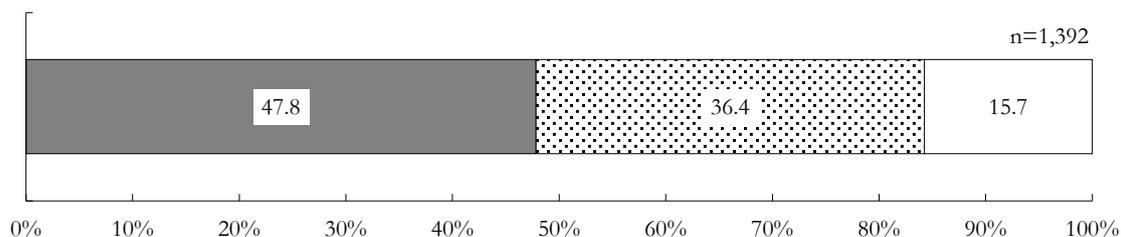
・飲食やショッピングをしている割合は、チケットクラブの加入者が58.6%、未加入者は51.1%で、加入が未加入を上回っている。ショッピングの平均金額では、未加入が加入を上回っている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・飲食やショッピングをしている割合は、11回以上が高いが、飲食をしている場合の平均額は最も低い。

[過去調査と比較して]

・過去調査と比較して、年によって増減はあるものの、飲食やショッピングをしている割合は概ね減少傾向にあり、16年度の割合は過去最低となっている。飲食やショッピングの平均金額は、年度によってかなりの増減が見られるが、16年度はショッピングの平均金額が過去最低となっている。



■はい □いいえ □無回答

		調査数 (n)	(単位: %)			(単位: 円)	
			はい	いいえ	無回答	飲食をしている場合 の平均金額 (n=568)	ショッピングを している場合 の平均金額 (n=301)
全体		1392	47.8	36.4	15.7	1530.6	4042.3
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	54.3	33.5	12.2	1573.6	4029.0
	音楽劇	494	37.9	41.7	20.4	1468.0	3971.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0		
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0		
	ダンス・現代舞踊	227	51.5	33.5	15.0	1399.6	4284.3
	パフォーマンス	15	40.0	33.3	26.7	3300.0	2250.0
	性別	男性	316	45.6	46.5	7.9	1519.5
	女性	937	54.5	38.0	7.5	1534.4	4226.8
年齢層	18歳未満	51	43.1	49.0	7.8	1017.5	855.0
	18~29歳	97	41.2	56.7	2.1	1158.8	2678.6
	30歳代	152	59.2	38.2	2.6	1296.6	3652.8
	40歳代	228	60.1	35.1	4.8	1711.6	3911.4
	50歳代	260	60.0	33.1	6.9	1516.0	3333.3
	60歳以上	388	45.6	42.5	11.9	1719.5	4790.2
チケット クラブ	加入	285	58.6	37.5	3.9	1559.7	3854.0
	未加入	939	51.1	41.4	7.5	1511.7	4210.0
鑑賞 経験	今日が初めて	226	51.8	40.3	8.0	1674.8	4626.1
	1~2回	192	50.5	42.2	7.3	1523.9	2602.6
	3~5回	283	51.9	42.4	5.7	1461.1	3219.0
	6~10回	214	49.1	41.1	9.8	1736.0	4512.1
	11回以上	321	58.3	35.8	5.9	1377.3	4605.0
参考	15年度調査結果	1989	52.0	36.2	11.8	1679.4	4917.8
	14年度調査結果	1146	49.7	39.2	11.2	1731.2	6098.2
	13年度調査結果	1569	50.8	36.8	12.4	1480.7	5434.2
	12年度調査結果	1599	52.7	36.0	11.3	1509.2	5027.1
	11年度調査結果	1688	55.7	35.0	9.2	1490.7	4909.0
	10年度調査結果	2379	57.8	32.1	10.2	1585.0	4610.3
	09年度調査結果	1692	58.9	31.8	9.3	1510.7	4649.3
	08年度調査結果	1732	58.6	33.1	8.3	1614.1	5503.3
	07年度調査結果	3033	60.5	30.8	8.7	1829.8	5753.9
	06年度調査結果	2766	60.3	31.2	8.5	1856.6	5724.6
	05年度調査結果	3073	60.7	31.5	7.8	1687.5	6658.4
	04年度調査結果	4708	63.3	32.2	4.5	4061.7	
	03年度調査結果	4078	70.5	27.3	2.1	4582.9	

* 03年度、04年度は、「飲食やショッピング」として一つの質問項目で尋ねているため、04年度以前の数字と、05年度以降の数字の比較には留意が必要である。

公演や劇場に対する9項目の満足度を満足層(※)の割合で見ると、「劇場ロビーの飲食サービス」以外の8項目で満足層の割合が90%以上を占めており、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターへの対応」、「劇場係員の対応」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」の4項目は95%を超えている。

※「たいへん満足」+「まあ満足」の割合。無回答を除く。

「たいへん満足」と回答した割合が高い(5割以上)のは、「本日の公演内容」(57.5%)、「劇場係員の対応」(51.1%)の2項目である。

「本日の公演内容」については、ジャンル、性別、年齢層、鑑賞経験を問わず、満足層の割合と「たいへん満足」の割合はいずれも高い(ただし年齢層では、18歳未満と60歳以上では「無回答」の割合も高い)。ジャンル別では、パフォーマンスが他と比べて「たいへん満足」の割合が高い。

過去調査結果と比べて、「本日の公演のチケット料金」、「劇場係員の対応」、「チケットの予約・購入のしやすさ」、「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「電話予約・チケットカウンターへの対応」、「公演情報の入手のしやすさ」については、多少の年度の変化はあるものの「たいへん満足」への回答割合も上昇傾向である。

[来場公演のジャンル別]

・ジャンルで顕著な差は見られない。

[性別]

・男性、女性で顕著な差は見られない。

[年齢別]

・30代では6項目において満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに低い。30代ほどではないが、50歳代でも、満足度は相対的に低くなっている。

・満足層の割合、「たいへん満足」の割合ともに、年齢層が高いほど低くなり、この傾向は「劇場の入口や案内表示のわかりやすさ」、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」のハードに関する2項目で顕著である。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入に比べて未加入の方が、「公演情報の入手のしやすさ」の不満足層の割合が高い。

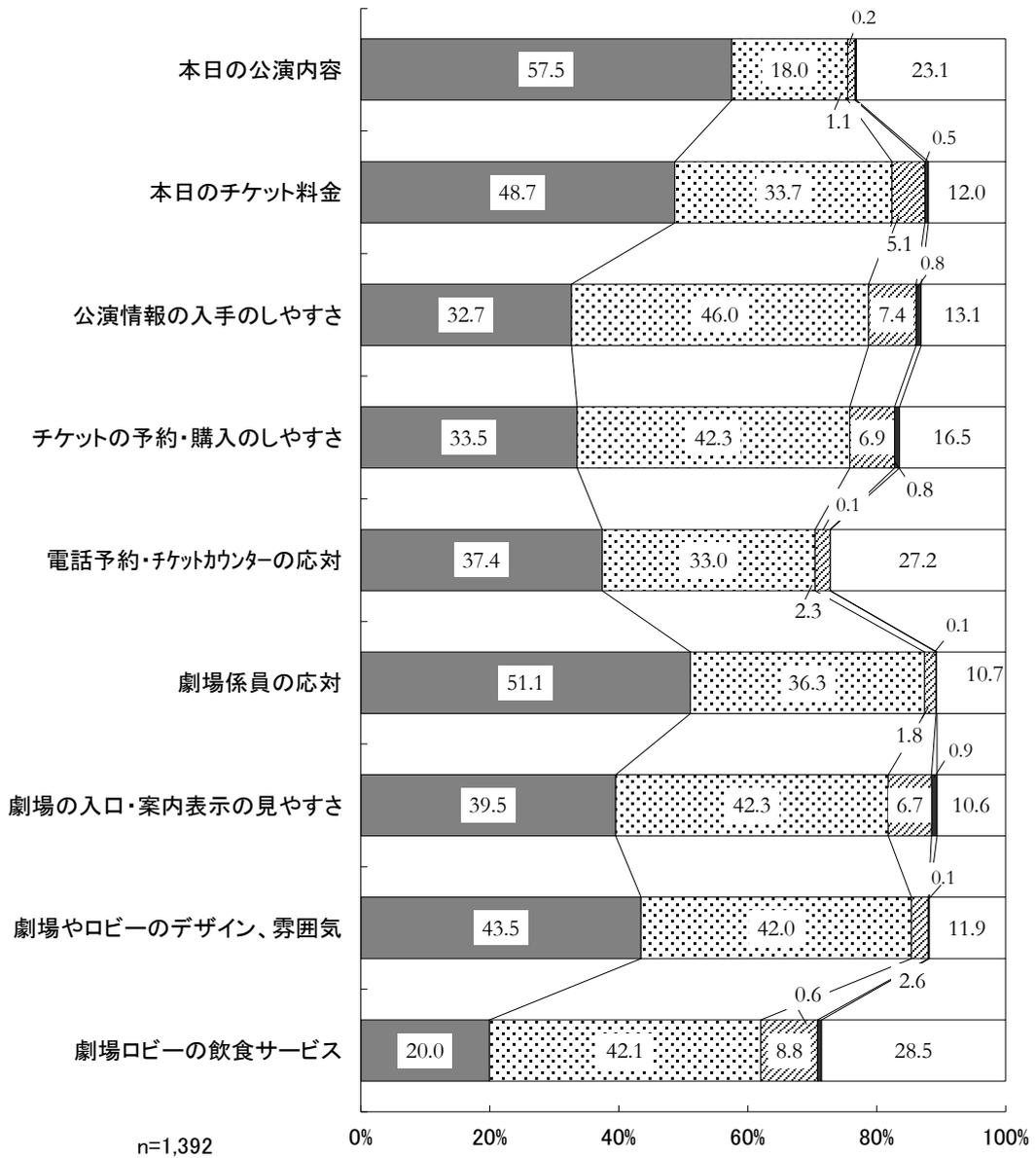
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で、満足度に顕著な差はみられないが、「チケットの予約・購入のしやすさ」については、鑑賞経験が多いほど満足度が高い傾向にある。

[過去調査と比較して]

・項目全般について、16年度も高い満足度を維持しており、満足層の割合としては「チケットの予約・購入のしやすさ」(90.8%)、「情報の入手のしやすさ」(90.6%)、「本日の公演内容」(98.2%、12年度の結果と同率)、「劇場やロビーのデザイン、雰囲気」(96.9%、12年度の結果と同率)で過去最高となっている。

※無回答の割合が20%以上を占めるのは、「本日の公演内容」、「電話予約・チケットカウンターへの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」の3項目である。「電話予約・チケットカウンターへの対応」、「劇場ロビーの飲食サービス」については、サービスを利用したことがない人が無回答になっていると考えられる。



■たいへん満足 □まあ満足 ▨少し不満足 ■まったく不満足 □無回答

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、無回答を除く。

【本日の公演内容】

	全体	Q3-1本日の公演内容					「無回答」を除いた割合					(単位:%)		
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	満足層	不満足層	
ジャンル	全体	1392	57.5	18.0	1.1	0.2	23.1	1070	74.9	23.4	1.5	0.3	98.2	1.8
	小劇場・現代演劇	656	54.3	21.6	2.0	0.3	21.8	513	69.4	27.7	2.5	0.4	97.1	2.9
	音楽劇	494	60.5	12.1	0.2	0.0	27.1	360	83.1	16.7	0.3	0.0	99.7	0.3
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	ダンス・現代舞踊	227	58.1	20.7	0.9	0.4	19.8	182	72.5	25.8	1.1	0.5	98.4	1.6
	パフォーマンス	15	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	15	93.3	6.7	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	316	54.1	22.5	1.9	0.0	21.5	248	69.0	28.6	2.4	0.0	97.6	2.4
	女性	937	60.5	16.1	1.0	0.1	22.3	728	77.9	20.7	1.2	0.1	98.6	1.4
年齢層	18歳未満	51	51.0	15.7	0.0	0.0	33.3	34	76.5	23.5	0.0	0.0	100.0	0.0
	18～29歳	97	63.9	20.6	1.0	0.0	14.4	83	74.7	24.1	1.2	0.0	98.8	1.2
	30歳代	152	59.9	19.1	3.3	0.0	17.8	125	72.8	23.2	4.0	0.0	96.0	4.0
	40歳代	228	70.6	14.9	0.4	0.4	13.6	197	81.7	17.3	0.5	0.5	99.0	1.0
	50歳代	260	59.6	21.9	0.8	0.0	17.7	214	72.4	26.6	0.9	0.0	99.1	0.9
	60歳以上	388	54.1	14.7	0.5	0.0	30.7	269	78.1	21.2	0.7	0.0	99.3	0.7
チケット クラブ	加入	285	61.1	21.4	1.1	0.0	16.5	238	73.1	25.6	1.3	0.0	98.7	1.3
	未加入	939	58.3	16.6	1.2	0.1	23.9	715	76.5	21.8	1.5	0.1	98.3	1.7
鑑賞 経験	今日が初めて	226	65.5	16.4	1.3	0.0	16.8	188	78.7	19.7	1.6	0.0	98.4	1.6
	1～2回	192	54.7	19.8	0.5	0.0	25.0	144	72.9	26.4	0.7	0.0	99.3	0.7
	3～5回	283	60.8	14.5	0.7	0.0	24.0	215	80.0	19.1	0.9	0.0	99.1	0.9
	6～10回	214	55.1	21.5	0.9	0.5	22.0	167	70.7	27.5	1.2	0.6	98.2	1.8
	11回以上	321	56.7	17.8	1.9	0.0	23.7	245	74.3	23.3	2.4	0.0	97.6	2.4
参考	15年度調査結果	1989	60.6	17.6	1.5	0.1	20.2	1587	75.9	22.1	1.9	0.1	98.0	2.0
	14年度調査結果	1146	52.5	24.9	1.8	0.3	20.5	911	66.1	31.3	2.3	0.3	97.4	2.6
	13年度調査結果	1569	57.7	19.9	1.7	0.4	20.3	1251	72.4	24.9	2.2	0.5	97.4	2.6
	12年度調査結果	1599	53.0	21.9	1.1	0.3	23.8	1219	69.5	28.7	1.5	0.3	98.2	1.8
	11年度調査結果	1688	56.6	19.4	1.5	0.4	22.0	1316	72.6	24.9	2.0	0.5	97.6	2.4
	10年度調査結果	2379	54.6	21.6	1.7	0.3	21.7	1862	69.8	27.7	2.1	0.4	97.4	2.6
	09年度調査結果	1692	50.9	23.0	1.4	0.1	24.5	1277	67.4	30.5	1.9	0.2	98.0	2.0
	08年度調査結果	1732	51.5	25.8	2.0	0.2	20.6	1376	64.8	32.4	2.5	0.3	97.2	2.8
	07年度調査結果	3033	56.2	24.6	1.8	0.2	17.2	2510	67.9	29.7	2.2	0.2	97.6	2.4
	06年度調査結果	2766	54.2	26.4	2.2	0.2	17.1	2294	65.3	31.8	2.7	0.2	97.1	2.9
	05年度調査結果	3073	52.1	26.2	2.1	0.4	19.2	2483	64.5	32.5	2.6	0.4	97.0	3.0
	04年度調査結果	4708	53.0	26.8	2.8	0.3	17.1	3905	63.9	32.3	3.4	0.4	96.2	3.8
	03年度調査結果	4078	49.8	29.7	3.2	0.4	16.8	3392	59.9	35.7	3.9	0.5	95.6	4.4

* 満足層は、「たいへん満足」+「まあ満足」の計、不満足層は、「少し不満足」+「まったく不満足」の計。無回答を除く。以下同様。

** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「たいへん満足」+「まあ満足」の割合は満足層の割合と、「少し不満足」+「まったく不満足」の割合は不満足層の割合と、必ずしも一致しない。

【本日の公演のチケット料金】

	全体	Q3-2本日の公演のチケット料金					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	48.7	33.7	5.1	0.5	12.0	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	31.6	48.6	7.8	0.6	11.4
	音楽劇	494	75.1	10.9	1.0	0.2	12.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	39.6	40.1	6.6	0.9	12.8
	パフォーマンス	15	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	51.6	33.9	5.4	0.6	8.5
	女性	937	47.1	35.6	4.7	0.3	12.3
年齢層	18歳未満	51	41.2	47.1	3.9	0.0	7.8
	18～29歳	97	46.4	42.3	2.1	0.0	9.3
	30歳代	152	35.5	44.7	7.9	0.7	11.2
	40歳代	228	50.0	37.7	3.9	0.9	7.5
	50歳代	260	45.8	39.2	7.3	0.0	7.7
	60歳以上	388	57.5	22.9	3.6	0.5	15.5
チケットクラブ	加入	285	45.3	43.2	4.6	0.0	7.0
	未加入	939	49.1	33.0	5.0	0.5	12.4
鑑賞経験	今日が初めて	226	47.8	34.5	6.6	0.9	10.2
	1～2回	192	46.9	36.5	5.2	0.0	11.5
	3～5回	283	50.9	33.6	3.5	0.4	11.7
	6～10回	214	45.8	35.5	6.5	0.9	11.2
	11回以上	321	48.0	36.4	4.4	0.0	11.2

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1225	55.3	38.3	5.8	0.6
581	35.6	54.9	8.8	0.7
431	86.1	12.5	1.2	0.2
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
198	45.5	46.0	7.6	1.0
15	66.7	33.3	0.0	0.0
289	56.4	37.0	5.9	0.7
822	53.6	40.6	5.4	0.4
47	44.7	51.1	4.3	0.0
88	51.1	46.6	2.3	0.0
135	40.0	50.4	8.9	0.7
211	54.0	40.8	4.3	0.9
240	49.6	42.5	7.9	0.0
328	68.0	27.1	4.3	0.6
265	48.7	46.4	4.9	0.0
823	56.0	37.7	5.7	0.6
203	53.2	38.4	7.4	1.0
170	52.9	41.2	5.9	0.0
250	57.6	38.0	4.0	0.4
190	51.6	40.0	7.4	1.1
285	54.0	41.1	4.9	0.0

(単位: %)	
満足層	不満足層
93.6	6.4
90.5	9.5
98.6	1.4
0.0	0.0
0.0	0.0
91.4	8.6
100.0	0.0
93.4	6.6
94.3	5.7
95.7	4.3
97.7	2.3
90.4	9.6
94.8	5.2
92.1	7.9
95.1	4.9
95.1	4.9
93.7	6.3
91.6	8.4
94.1	5.9
95.6	4.4
91.6	8.4
95.1	4.9

参考	調査結果	全体	Q3-2本日の公演のチケット料金				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	15年度調査結果	1989	39.8	40.9	5.9	0.7	12.8
	14年度調査結果	1146	36.4	47.6	4.8	0.5	10.6
	13年度調査結果	1569	35.6	46.6	5.7	0.7	11.3
	12年度調査結果	1599	35.1	47.0	5.4	0.3	12.3
	11年度調査結果	1688	34.4	47.5	5.1	0.4	12.7
	10年度調査結果	2379	29.0	51.3	7.6	0.4	11.7
	09年度調査結果	1692	30.4	49.8	6.2	0.3	13.3
	08年度調査結果	1732	34.6	47.6	5.9	0.4	11.4
	07年度調査結果	3033	30.9	49.1	6.8	0.4	12.8
	06年度調査結果	2766	24.5	54.9	8.5	0.3	11.7
	05年度調査結果	3073	29.8	49.7	6.1	0.4	13.9
	04年度調査結果	4708	27.0	52.4	10.3	0.6	9.6
	03年度調査結果	4078	21.7	53.4	11.6	0.7	12.5

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1735	45.6	46.9	6.8	0.7
1024	40.7	53.3	5.4	0.6
1391	40.2	52.6	6.5	0.8
1402	40.0	53.6	6.1	0.3
1474	39.3	54.4	5.8	0.4
2101	32.9	58.1	8.6	0.5
1467	35.0	57.5	7.2	0.3
1534	39.1	53.7	6.7	0.5
2646	35.4	56.3	7.8	0.5
2442	27.8	62.2	9.7	0.4
2645	34.7	57.8	7.1	0.5
4255	29.9	58.0	11.4	0.7
3567	24.8	61.1	13.3	0.8

(単位: %)	
満足層	不満足層
92.4	7.6
94.0	6.0
92.7	7.3
93.6	6.4
93.8	6.2
91.0	9.0
92.5	7.5
92.8	7.2
91.7	8.3
90.0	10.0
92.4	7.6
87.9	12.1
85.9	14.1

【公演情報の入手のしやすさ】

	全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	32.7	46.0	7.4	0.8	13.1	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	28.5	52.4	7.9	1.1	10.1
	音楽劇	494	41.1	36.6	5.1	0.4	16.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	26.4	46.7	11.5	0.9	14.5
	パフォーマンス	15	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	33.2	44.6	9.5	1.6	11.1
	女性	937	32.4	47.9	6.6	0.5	12.5
年齢層	18歳未満	51	31.4	54.9	9.8	0.0	3.9
	18～29歳	97	42.3	42.3	6.2	1.0	8.2
	30歳代	152	28.9	52.0	9.2	1.3	8.6
	40歳代	228	43.9	43.9	5.3	1.3	5.7
	50歳代	260	25.4	58.1	8.5	0.4	7.7
	60歳以上	388	31.2	41.0	6.7	0.5	20.6
チケットクラブ	加入	285	33.3	57.9	3.9	0.4	4.6
	未加入	939	32.2	44.6	8.5	0.9	13.8
鑑賞経験	今日が初めて	226	27.9	48.7	8.4	2.2	12.8
	1～2回	192	31.8	44.3	11.5	0.0	12.5
	3～5回	283	31.1	48.4	8.1	0.0	12.4
	6～10回	214	30.4	49.5	6.1	0.0	14.0
	11回以上	321	39.6	45.2	5.0	1.2	9.0

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1210	37.6	53.0	8.5	0.9
590	31.7	58.3	8.8	1.2
411	49.4	44.0	6.1	0.5
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
194	30.9	54.6	13.4	1.0
15	33.3	66.7	0.0	0.0
281	37.4	50.2	10.7	1.8
820	37.1	54.8	7.6	0.6
49	32.7	57.1	10.2	0.0
89	46.1	46.1	6.7	1.1
139	31.7	56.8	10.1	1.4
215	46.5	46.5	5.6	1.4
240	27.5	62.9	9.2	0.4
308	39.3	51.6	8.4	0.6
272	34.9	60.7	4.0	0.4
809	37.3	51.8	9.9	1.0
197	32.0	55.8	9.6	2.5
168	36.3	50.6	13.1	0.0
248	35.5	55.2	9.3	0.0
184	35.3	57.6	7.1	0.0
292	43.5	49.7	5.5	1.4

(単位: %)	
満足層	不満足層
90.6	9.4
90.0	10.0
93.4	6.6
0.0	0.0
0.0	0.0
85.6	14.4
100.0	0.0
87.5	12.5
91.8	8.2
89.8	10.2
92.1	7.9
88.5	11.5
93.0	7.0
90.4	9.6
90.9	9.1
95.6	4.4
89.1	10.9
87.8	12.2
86.9	13.1
90.7	9.3
92.9	7.1
93.2	6.8

参考	調査結果	全体	Q3-3公演情報の入手のしやすさ				
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
	15年度調査結果	1989	28.6	43.3	12.7	1.9	13.5
	14年度調査結果	1146	32.0	46.8	10.2	0.5	10.5
	13年度調査結果	1569	28.9	49.5	9.2	1.6	10.8
	12年度調査結果	1599	26.8	51.9	8.9	0.6	11.8
	11年度調査結果	1688	28.5	51.4	8.3	0.7	11.1
	10年度調査結果	2379	24.9	50.0	11.9	1.0	12.1
	09年度調査結果	1692	23.0	52.9	10.5	1.2	12.4
	08年度調査結果	1732	25.8	49.5	10.5	1.6	12.7
	07年度調査結果	3033	19.5	48.4	14.7	1.5	15.9
	06年度調査結果	2766	17.3	50.4	16.0	2.1	14.2
	05年度調査結果	3073	15.2	49.0	16.7	2.0	17.2
	04年度調査結果	4708	14.2	49.3	20.2	3.0	13.3
	03年度調査結果	4078	12.0	43.8	22.6	7.5	14.1

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1721	33.1	50.1	14.7	2.1
1026	35.8	52.2	11.4	0.6
1399	32.5	55.5	10.3	1.8
1411	30.3	58.8	10.1	0.7
1500	32.1	57.8	9.3	0.8
2091	28.4	56.9	13.6	1.1
1483	26.2	60.4	12.0	1.4
1512	29.5	56.7	12.0	1.8
2550	23.1	57.6	17.5	1.8
2373	20.1	58.7	18.7	2.4
2544	18.3	59.2	20.1	2.4
4081	16.4	56.8	23.3	3.4
3505	14.0	50.9	26.3	8.7

(単位: %)	
満足層	不満足層

【チケットの予約・購入のしやすさ】

	全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	33.5	42.3	6.9	0.8	16.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	28.2	47.4	8.5	1.4	14.5
	音楽劇	494	42.3	32.4	5.9	0.4	19.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	30.0	48.5	4.4	0.0	17.2
	パフォーマンス	15	33.3	53.3	6.7	0.0	6.7
性別	男性	316	34.8	42.7	6.3	0.3	15.8
	女性	937	33.2	43.5	7.0	0.7	15.5
年齢層	18歳未満	51	49.0	47.1	0.0	0.0	3.9
	18～29歳	97	43.3	39.2	8.2	0.0	9.3
	30歳代	152	27.0	52.0	7.9	1.3	11.8
	40歳代	228	42.5	40.8	4.8	2.2	9.6
	50歳代	260	28.5	49.6	11.2	0.0	10.8
	60歳以上	388	31.2	38.9	5.2	0.3	24.5
チケットクラブ	加入	285	33.7	52.6	7.4	0.7	5.6
	未加入	939	33.1	41.5	6.8	0.6	17.9
鑑賞経験	今日が初めて	226	33.2	41.6	8.8	0.9	15.5
	1～2回	192	31.8	40.1	8.3	0.5	19.3
	3～5回	283	32.9	45.2	7.1	0.7	14.1
	6～10回	214	29.4	48.6	5.1	0.9	15.9
	11回以上	321	38.3	43.0	5.3	0.3	13.1

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
1163	40.2	50.6	8.3	0.9	
561	33.0	55.4	10.0	1.6	
400	52.3	40.0	7.3	0.5	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
188	36.2	58.5	5.3	0.0	
14	35.7	57.1	7.1	0.0	
266	41.4	50.8	7.5	0.4	
792	39.3	51.5	8.3	0.9	
49	51.0	49.0	0.0	0.0	
88	47.7	43.2	9.1	0.0	
134	30.6	59.0	9.0	1.5	
206	47.1	45.1	5.3	2.4	
232	31.9	55.6	12.5	0.0	
293	41.3	51.5	6.8	0.3	
269	35.7	55.8	7.8	0.7	
771	40.3	50.6	8.3	0.8	
191	39.3	49.2	10.5	1.0	
155	39.4	49.7	10.3	0.6	
243	38.3	52.7	8.2	0.8	
180	35.0	57.8	6.1	1.1	
279	44.1	49.5	6.1	0.4	

(単位: %)	
満足層	不満足層
90.8	9.2
88.4	11.6
92.3	7.8
0.0	0.0
0.0	0.0
94.7	5.3
92.9	7.1
92.1	7.9
90.8	9.2
100.0	0.0
90.9	9.1
89.6	10.4
92.2	7.8
87.5	12.5
92.8	7.2
91.4	8.6
90.9	9.1
88.5	11.5
89.0	11.0
90.9	9.1
92.8	7.2
93.5	6.5

参考	調査年度	全体	Q3-4チケットの予約・購入のしやすさ			
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
	15年度調査結果	1989	28.1	38.3	13.2	4.0
	14年度調査結果	1146	32.2	45.5	8.2	1.5
	13年度調査結果	1569	32.1	44.9	7.3	2.4
	12年度調査結果	1599	28.0	48.1	8.1	1.4
	11年度調査結果	1688	30.5	46.6	7.4	1.2
	10年度調査結果	2379	23.5	47.2	11.7	2.0
	09年度調査結果	1692	24.1	48.6	10.9	1.4
	08年度調査結果	1732	25.9	49.9	7.2	1.3
	07年度調査結果	3033	21.5	47.1	12.0	1.8
	06年度調査結果	2766	18.7	47.9	13.7	2.7
	05年度調査結果	3073	17.0	47.8	14.4	2.6
	04年度調査結果	4708	14.4	47.6	19.1	4.0
	03年度調査結果	4078	9.7	35.2	24.9	14.8

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
1664	33.6	45.8	15.8	4.8	
1001	36.9	52.0	9.4	1.7	
1361	37.0	51.8	8.4	2.7	
1368	32.7	56.2	9.4	1.6	
1446	35.6	54.4	8.6	1.4	
2007	27.8	56.0	13.9	2.3	
1436	28.3	57.2	12.8	1.6	
1459	30.7	59.2	8.5	1.6	
2501	26.1	57.1	14.6	2.2	
2293	22.5	57.8	16.5	3.2	
2514	20.8	58.4	17.6	3.1	
4010	17.0	55.9	22.4	4.7	
3449	11.5	41.6	29.4	17.5	

79.4	20.6
88.9	11.1
88.8	11.2
89.0	11.0
90.0	10.0
83.8	16.2
85.6	14.4
89.9	10.1
83.2	16.8
80.3	19.7
79.2	20.8
72.9	27.1
53.1	46.9

【(北九州芸術劇場の)電話予約・チケットカウンターの対応】

	全体	Q3-5電話予約・チケットカウンターの対応					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	37.4	33.0	2.3	0.1	27.2	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	36.0	35.5	1.7	0.2	26.7
	音楽劇	494	40.3	28.7	2.8	0.0	28.1
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	33.5	35.7	3.1	0.0	27.8
	パフォーマンス	15	66.7	26.7	0.0	0.0	6.7
性別	男性	316	40.5	31.3	2.8	0.0	25.3
	女性	937	36.6	35.0	2.1	0.0	26.3
年齢層	18歳未満	51	64.7	23.5	2.0	0.0	9.8
	18～29歳	97	49.5	30.9	0.0	0.0	19.6
	30歳代	152	40.1	34.9	2.0	0.0	23.0
	40歳代	228	39.9	32.9	2.6	0.0	24.6
	50歳代	260	39.6	40.8	1.5	0.0	18.1
	60歳以上	388	30.7	32.0	3.6	0.0	33.8
チケットクラブ	加入	285	40.4	44.2	1.4	0.0	14.0
	未加入	939	37.4	31.3	2.4	0.0	28.9
鑑賞経験	今日が初めて	226	39.8	31.4	2.2	0.0	26.5
	1～2回	192	32.3	32.3	2.6	0.0	32.8
	3～5回	283	39.9	32.2	2.5	0.0	25.4
	6～10回	214	33.6	40.7	1.9	0.0	23.8
	11回以上	321	39.6	35.5	1.9	0.0	23.1

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
1014	51.4	45.4	3.2	0.1	
481	49.1	48.4	2.3	0.2	
355	56.1	40.0	3.9	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
0	0.0	0.0	0.0	0.0	
164	46.3	49.4	4.3	0.0	
14	71.4	28.6	0.0	0.0	
236	54.2	41.9	3.8	0.0	
691	49.6	47.5	2.9	0.0	
46	71.7	26.1	2.2	0.0	
78	61.5	38.5	0.0	0.0	
117	52.1	45.3	2.6	0.0	
172	52.9	43.6	3.5	0.0	
213	48.4	49.8	1.9	0.0	
257	46.3	48.2	5.4	0.0	
245	46.9	51.4	1.6	0.0	
668	52.5	44.0	3.4	0.0	
166	54.2	42.8	3.0	0.0	
129	48.1	48.1	3.9	0.0	
211	53.6	43.1	3.3	0.0	
163	44.2	53.4	2.5	0.0	
247	51.4	46.2	2.4	0.0	

(単位: %)	
満足層	不満足層
96.7	3.3
97.5	2.5
96.1	3.9
0.0	0.0
0.0	0.0
95.7	4.3
100.0	0.0
97.8	2.2
100.0	0.0
97.4	2.6
96.5	3.5
98.1	1.9
94.6	5.4
98.4	1.6
96.6	3.4
97.0	3.0
96.1	3.9
96.7	3.3
97.5	2.5
97.6	2.4

参考	調査年度	全体	Q3-5電話予約・チケットカウンターの対応			
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
	15年度調査結果	1989	33.1	36.0	2.6	0.8
	14年度調査結果	1146	31.8	36.0	3.1	0.3
	13年度調査結果	1569	32.5	34.7	2.6	0.7
	12年度調査結果	1599	32.7	36.8	1.7	0.3
	11年度調査結果	1688	30.6	38.4	2.1	0.2
	10年度調査結果	2379	26.2	38.8	2.6	0.5
	09年度調査結果	1692	27.9	38.5	2.8	0.3
	08年度調査結果	1732	26.6	38.6	3.2	0.5
	07年度調査結果	3033	26.9	41.9	4.1	1.1
	06年度調査結果	2766	24.4	45.8	5.0	1.0
	05年度調査結果	3073	25.3	43.5	4.6	1.0
	04年度調査結果	4708	22.4	46.4	5.8	1.3
	03年度調査結果	4078	14.1	46.3	10.3	5.0

「無回答」を除いた割合					
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
1440	45.7	49.7	3.5	1.0	
816	44.6	50.6	4.3	0.5	
1106	46.1	49.2	3.7	1.0	
1142	45.8	51.5	2.4	0.4	
1205	42.9	53.9	2.9	0.3	
1619	38.5	57.0	3.8	0.7	
1176	40.1	55.4	4.0	0.4	
1194	38.6	56.0	4.6	0.8	
2242	36.4	56.7	5.5	1.4	
2106	32.0	60.1	6.5	1.4	
2283	34.0	58.6	6.1	1.3	
3573	29.5	61.2	7.6	1.7	
3090	18.7	61.2	13.6	6.5	

95.4	4.6
------	-----

【劇場係員の応対】

	全体	Q3-6劇場係員の応対					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	51.1	36.3	1.8	0.1	10.7	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	47.0	40.2	2.6	0.0	10.2
	音楽劇	494	56.1	30.4	1.0	0.0	12.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	50.7	38.8	1.3	0.4	8.8
	パフォーマンス	15	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	54.1	37.0	1.3	0.3	7.3
	女性	937	49.8	37.4	1.9	0.0	10.9
年齢層	18歳未満	51	82.4	9.8	2.0	0.0	5.9
	18～29歳	97	67.0	25.8	0.0	0.0	7.2
	30歳代	152	53.9	38.2	3.3	0.0	4.6
	40歳代	228	57.9	35.5	1.8	0.0	4.8
	50歳代	260	43.1	48.5	1.5	0.0	6.9
	60歳以上	388	47.9	34.0	2.1	0.3	15.7
チケットクラブ	加入	285	47.7	46.3	0.7	0.0	5.3
	未加入	939	52.0	34.9	2.0	0.1	11.0
鑑賞経験	今日が初めて	226	54.4	32.7	3.1	0.4	9.3
	1～2回	192	51.0	38.0	1.0	0.0	9.9
	3～5回	283	49.8	39.2	2.5	0.0	8.5
	6～10回	214	51.4	38.3	0.9	0.0	9.3
	11回以上	321	49.8	38.9	0.9	0.0	10.3

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1243	57.3	40.6	2.0	0.1
589	52.3	44.8	2.9	0.0
432	64.1	34.7	1.2	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
207	55.6	42.5	1.4	0.5
15	80.0	20.0	0.0	0.0
293	58.4	39.9	1.4	0.3
835	55.9	41.9	2.2	0.0
48	87.5	10.4	2.1	0.0
90	72.2	27.8	0.0	0.0
145	56.6	40.0	3.4	0.0
217	60.8	37.3	1.8	0.0
242	46.3	52.1	1.7	0.0
327	56.9	40.4	2.4	0.3
270	50.4	48.9	0.7	0.0
836	58.4	39.2	2.3	0.1
205	60.0	36.1	3.4	0.5
173	56.6	42.2	1.2	0.0
259	54.4	42.9	2.7	0.0
194	56.7	42.3	1.0	0.0
288	55.6	43.4	1.0	0.0

(単位: %)	
満足層	不満足層
97.9	2.1
97.1	2.9
98.8	1.2
0.0	0.0
0.0	0.0
98.1	1.9
100.0	0.0
98.3	1.7
97.8	2.2
97.9	2.1
100.0	0.0
96.6	3.4
98.2	1.8
98.3	1.7
97.2	2.8
99.3	0.7
97.6	2.4
96.1	3.9
98.8	1.2
97.3	2.7
99.0	1.0
99.0	1.0

	全体	参考				
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
15年度調査結果	1989	46.5	39.8	2.4	0.5	10.9
14年度調査結果	1146	48.5	41.0	2.1	0.3	8.0
13年度調査結果	1569	50.2	38.6	1.6	0.4	9.1
12年度調査結果	1599	49.1	39.9	1.3	0.1	9.7
11年度調査結果	1688	48.0	42.5	0.8	0.2	8.4
10年度調査結果	2379	47.5	41.7	1.6	0.1	9.1
09年度調査結果	1692	44.1	43.5	1.7	0.2	10.5
08年度調査結果	1732	46.5	40.6	2.3	0.6	10.0
07年度調査結果	3033	46.5	41.7	2.4	0.5	9.0
06年度調査結果	2766	43.6	44.6	2.8	0.4	8.6
05年度調査結果	3073	44.7	42.8	1.7	0.4	10.4
04年度調査結果	4708	44.1	46.2	2.2	0.3	7.2
03年度調査結果	4078	26.7	54.2	6.0	1.1	12.1

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1772	52.2	44.6	2.7	0.5
1054	52.8	44.6	2.3	0.4
1426	55.3	42.5	1.8	0.5
1444	54.4	44.2	1.4	0.1
1546	52.4	46.4	0.9	0.3
2162	52.3	45.8	1.8	0.1
1514	49.3	48.6	1.8	0.3
1558	51.7	45.1	2.6	0.6
2761	51.1	45.8	2.6	0.5
2527	47.7	48.8	3.1	0.4
2752	49.9	47.7	1.9	0.4
4371	47.5	49.8	2.4	0.3
3585	30.3	61.6	6.8	1.3

(単位: %)	
満足層	不満足層
96.8	3.2
97.3	2.7
97.8	2.2
98.5	1.5
98.8	1.2
98.1	1.9
97.9	2.1
96.8	3.2
96.9	3.1
96.5	3.5
97.7	2.3
97.3	2.7
91.9	8.1

【劇場の入口・案内表示のわかりやすさ】

	全体	Q3-7劇場の入口・案内表示のわかりやすさ					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	39.5	42.3	6.7	0.9	10.6	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	38.0	45.4	6.7	0.6	9.3
	音楽劇	494	41.1	38.1	6.1	1.2	13.6
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	39.2	42.7	8.4	0.9	8.8
	パフォーマンス	15	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	40.5	42.4	8.2	1.3	7.6
	女性	937	39.1	43.6	6.2	0.9	10.2
年齢層	18歳未満	51	62.7	29.4	0.0	0.0	7.8
	18～29歳	97	51.5	38.1	2.1	0.0	8.2
	30歳代	152	41.4	48.0	5.3	0.7	4.6
	40歳代	228	52.2	35.1	7.5	1.8	3.5
	50歳代	260	30.8	55.8	7.7	0.8	5.0
	60歳以上	388	34.5	39.2	8.5	1.3	16.5
チケットクラブ	加入	285	40.4	50.2	3.9	0.7	4.9
	未加入	939	39.2	41.9	7.6	1.1	10.3
鑑賞経験	今日が初めて	226	42.9	38.9	8.0	1.8	8.4
	1～2回	192	35.4	44.8	7.8	2.1	9.9
	3～5回	283	40.3	43.5	8.8	0.4	7.1
	6～10回	214	34.6	48.1	6.5	0.9	9.8
	11回以上	321	41.4	44.5	3.7	0.3	10.0

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1244	44.2	47.3	7.5	1.0
595	41.8	50.1	7.4	0.7
427	47.5	44.0	7.0	1.4
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
207	43.0	46.9	9.2	1.0
15	60.0	40.0	0.0	0.0
292	43.8	45.9	8.9	1.4
841	43.5	48.6	6.9	1.0
47	68.1	31.9	0.0	0.0
89	56.2	41.6	2.2	0.0
145	43.4	50.3	5.5	0.7
220	54.1	36.4	7.7	1.8
247	32.4	58.7	8.1	0.8
324	41.4	46.9	10.2	1.5
271	42.4	52.8	4.1	0.7
842	43.7	46.7	8.4	1.2
207	46.9	42.5	8.7	1.9
173	39.3	49.7	8.7	2.3
263	43.3	46.8	9.5	0.4
193	38.3	53.4	7.3	1.0
289	46.0	49.5	4.2	0.3

(単位: %)	
満足層	不満足層
91.6	8.4
91.9	8.1
91.6	8.4
0.0	0.0
0.0	0.0
89.9	10.1
100.0	0.0
89.7	10.3
92.2	7.8
100.0	0.0
97.8	2.2
93.8	6.2
90.5	9.5
91.1	8.9
88.3	11.7
95.2	4.8
90.4	9.6
89.4	10.6
89.0	11.0
90.1	9.9
91.7	8.3
95.5	4.5

	全体	参考				
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答
15年度調査結果	1989	35.3	44.0	8.7	1.3	10.7
14年度調査結果	1146	37.1	47.5	6.5	0.8	8.2
13年度調査結果	1569	37.0	43.7	8.7	1.8	8.9
12年度調査結果	1599	34.8	45.8	9.1	0.8	9.6
11年度調査結果	1688	36.2	46.7	7.6	1.2	8.2
10年度調査結果	2379	34.9	45.8	9.6	0.9	8.8
09年度調査結果	1692	30.4	48.9	9.1	1.7	9.9
08年度調査結果	1732	31.5	47.7	9.5	1.8	9.5
07年度調査結果	3033	28.4	46.3	13.8	2.8	8.7
06年度調査結果	2766	24.6	47.1	16.4	3.0	8.8
05年度調査結果	3073	24.2	45.0	17.5	3.7	9.6
04年度調査結果	4708	22.3	46.6	20.3	4.1	6.6
03年度調査結果	4078	17.4	44.3	22.1	5.5	10.7

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1777	39.6	49.2	9.8	1.4
1052	40.4	51.7	7.0	0.9
1430	40.6	47.9	9.5	2.0
1445	38.5	50.7	10.0	0.8
1549	39.4	50.9	8.3	1.4
2169	38.3	50.2	10.6	1.0
1524	33.7	54.3	10.1	1.9
1568	34.8	52.7	10.5	2.0
2768	31.1	50.7	15.1	3.0
2522	27.0	51.7	18.0	3.3
2778	26.8	49.8	19.4	4.1
4396	23.9	49.9	21.7	4.4
3643	19.5	49.6	24.7	6.2

(単位: %)	
満足層	不満足層
88.8	11.2
92.1	7.9
88.5	11.5
89.1	10.9
90.4	9.6
88.5	11.5
88.0	12.0
87.4	12.6
81.8	

【劇場やロビーのデザイン、雰囲気】

	全体	Q3-8劇場やロビーのデザイン、雰囲気				無回答	
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
全体	1392	43.5	42.0	2.6	0.1	11.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	43.6	44.2	2.9	0.2	9.1
	音楽劇	494	41.1	40.5	1.8	0.2	16.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	46.7	39.6	3.5	0.0	10.1
	パフォーマンス	15	66.7	26.7	0.0	0.0	6.7
性別	男性	316	44.3	45.9	2.5	0.0	7.3
	女性	937	43.5	41.9	2.6	0.2	11.7
年齢層	18歳未満	51	64.7	27.5	2.0	0.0	5.9
	18～29歳	97	68.0	23.7	2.1	0.0	6.2
	30歳代	152	48.0	45.4	0.7	0.7	5.3
	40歳代	228	57.5	34.2	3.5	0.4	4.4
	50歳代	260	37.7	53.8	2.3	0.0	6.2
	60歳以上	388	33.5	44.8	3.1	0.0	18.6
チケットクラブ	加入	285	42.5	49.1	2.8	0.4	5.3
	未加入	939	44.4	41.2	2.6	0.1	11.7
鑑賞経験	今日が初めて	226	49.6	37.6	3.1	0.4	9.3
	1～2回	192	43.2	41.7	2.6	0.0	12.5
	3～5回	283	41.0	48.4	2.1	0.0	8.5
	6～10回	214	42.1	45.3	2.3	0.0	10.3
	11回以上	321	43.6	42.1	3.1	0.3	10.9

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1227	49.3	47.6	2.9	0.2
596	48.0	48.7	3.2	0.2
413	49.2	48.4	2.2	0.2
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
204	52.0	44.1	3.9	0.0
14	71.4	28.6	0.0	0.0
293	47.8	49.5	2.7	0.0
827	49.3	47.5	2.9	0.2
48	68.8	29.2	2.1	0.0
91	72.5	25.3	2.2	0.0
144	50.7	47.9	0.7	0.7
218	60.1	35.8	3.7	0.5
244	40.2	57.4	2.5	0.0
316	41.1	55.1	3.8	0.0
270	44.8	51.9	3.0	0.4
829	50.3	46.7	2.9	0.1
205	54.6	41.5	3.4	0.5
168	49.4	47.6	3.0	0.0
259	44.8	52.9	2.3	0.0
192	46.9	50.5	2.6	0.0
286	49.0	47.2	3.5	0.3

(単位: %)	
満足層	不満足層
96.9	3.1
96.6	3.4
97.6	2.4
0.0	0.0
0.0	0.0
96.1	3.9
100.0	0.0
97.3	2.7
96.9	3.1
97.9	2.1
97.8	2.2
98.6	1.4
95.9	4.1
97.5	2.5
96.2	3.8
96.7	3.3
97.0	3.0
96.1	3.9
97.0	3.0
97.7	2.3
97.4	2.6
96.2	3.8

参考	調査年度	全体	Q3-8劇場やロビーのデザイン、雰囲気				無回答
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	
	15年度調査結果	1989	40.5	44.4	3.5	0.6	11.1
	14年度調査結果	1146	40.3	47.9	3.0	0.3	8.6
	13年度調査結果	1569	44.7	42.4	3.2	0.6	9.1
	12年度調査結果	1599	40.7	46.5	2.6	0.2	10.1
	11年度調査結果	1688	43.5	44.7	2.7	0.4	8.8
	10年度調査結果	2379	42.2	45.3	3.4	0.3	8.8
	09年度調査結果	1692	39.7	46.4	3.4	0.3	10.2
	08年度調査結果	1732	38.3	46.6	4.3	0.6	10.2
	07年度調査結果	3033	36.2	48.7	4.5	0.7	9.9
	06年度調査結果	2766	31.9	52.3	5.5	0.5	9.7
	05年度調査結果	3073	31.4	51.3	5.5	0.7	11.0
	04年度調査結果	4708	31.4	52.6	7.3	1.0	7.6
	03年度調査結果	4078	26.5	51.7	9.1	1.2	11.5

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1769	45.5	49.9	3.9	0.7
1048	44.1	52.4	3.2	0.3
1426	49.2	46.6	3.5	0.6
1437	45.2	51.7	2.9	0.2
1540	47.7	49.0	3.0	0.4
2169	46.2	49.7	3.8	0.3
1519	44.2	51.7	3.8	0.3
1555	42.6	51.9	4.8	0.6
2733	40.2	54.1	5.0	0.8
2497	35.3	58.0	6.1	0.6
2735	35.3	57.6	6.2	0.8
4348	34.0	57.0	7.9	1.1
3608	30.0	58.5	10.3	1.3

95.4	4.6
96.5	3.5
95.9	4.1
96.9	3.1
96.6	3.4
95.9	4.1
95.9	4.1
94.5	5.5
94.3	5.7
93.3	6.7
92.9	7.1
91.0	9.0
88.4	11.6

【劇場ロビーの飲食サービス】

	全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス				無回答	
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足		
全体	1392	20.0	42.1	8.8	0.6	28.5	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	21.6	44.2	10.2	0.6	23.3
	音楽劇	494	18.4	37.9	6.3	0.6	36.8
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	17.2	45.8	10.6	0.4	26.0
	パフォーマンス	15	40.0	33.3	0.0	6.7	20.0
性別	男性	316	20.9	43.7	9.8	0.9	24.7
	女性	937	19.4	43.5	8.2	0.6	28.2
年齢層	18歳未満	51	56.9	31.4	5.9	0.0	5.9
	18～29歳	97	27.8	42.3	4.1	0.0	25.8
	30歳代	152	21.1	52.0	8.6	1.3	17.1
	40歳代	228	26.3	37.3	13.2	0.9	22.4
	50歳代	260	15.8	55.8	9.6	0.0	18.8
	60歳以上	388	12.9	37.1	7.7	1.0	41.2
チケットクラブ	加入	285	18.9	48.8	11.6	0.7	20.0
	未加入	939	20.4	42.4	7.9	0.7	28.5
鑑賞経験	今日が初めて	226	20.8	41.2	8.4	0.9	28.8
	1～2回	192	18.2	40.6	8.3	1.6	31.3
	3～5回	283	20.8	48.4	7.4	0.4	23.0
	6～10回	214	17.8	44.4	11.2	0.0	26.6
	11回以上	321	20.2	43.0	9.3	0.9	26.5

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
995	27.9	58.9	12.3	0.9
503	28.2	57.7	13.3	0.8
312	29.2	59.9	9.9	1.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
168	23.2	61.9	14.3	0.6
12	50.0	41.7	0.0	8.3
238	27.7	58.0	13.0	1.3
673	27.0	60.6	11.4	0.9
48	60.4	33.3	6.3	0.0
72	37.5	56.9	5.6	0.0
126	25.4	62.7	10.3	1.6
177	33.9	48.0	16.9	1.1
211	19.4	68.7	11.8	0.0
228	21.9	63.2	13.2	1.8
228	23.7	61.0	14.5	0.9
671	28.6	59.3	11.0	1.0
161	29.2	57.8	11.8	1.2
132	26.5	59.1	12.1	2.3
218	27.1	62.8	9.6	0.5
157	24.2	60.5	15.3	0.0
236	27.5	58.5	12.7	1.3

(単位: %)	
満足層	不満足層
86.8	13.2
85.9	14.1
89.1	10.9
0.0	0.0
0.0	0.0
85.1	14.9
91.7	8.3
85.7	14.3
87.7	12.3
93.8	6.3
94.4	5.6
88.1	11.9
81.9	18.1
88.2	11.8
85.1	14.9
84.6	15.4
87.9	12.1
87.0	13.0
85.6	14.4
89.9	10.1
84.7	15.3
86.0	14.0

参考	調査年度	全体	Q3-9劇場ロビーの飲食サービス				無回答
			たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	
	15年度調査結果	1989	19.6	45.0	8.8	1.2	25.5
	14年度調査結果	1146	17.1	44.4	8.2	1.0	29.3
	13年度調査結果	1569	17.3	41.1	9.2	1.2	31.2
	12年度調査結果	1599	16.3	45.2	9.2	1.3	28.1
	11年度調査結果	1688	17.8	44.8	8.1	0.7	28.5
	10年度調査結果	2379	15.8	48.4	9.5	1.4	25.0
	09年度調査結果	1692	14.8	47.6	9.5	0.8	27.3
	08年度調査結果	1732	14.4	47.1	11.2	1.5	25.8
	07年度調査結果	3033	15.5	48.4	14.3	1.6	20.2
	06年度調査結果	2766	11.4	51.0	16.7	1.9	19.1
	05年度調査結果	3073	12.6	49.2	14.6	1.7	22.0
	04年度調査結果	4708	11.6	52.1	16.1	2.3	17.8
	03年度調査結果	4078	9.5	46.3	17.5	2.9	23.7

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1482	26.2	60.4	11.8	1.6
810	24.2	62.8	11.6	1.4
1080	25.2	59.7	13.3	1.8
1149	22.6	62.8	12.8	1.7
1207	24.9	62.7	11.4	1.0
1784	21.0	64.5	12.6	1.8
1230	20.4	65.4	13.1	1.1
1285	19.5	63.4	15.1	2.0
2421	19.4	60.6	18.0	2.0
2239	14.0	63.0	20.7	2.3
2398	16.1	63.0	18.8	2.1
3868	14.1	63.4	19.6	2.8
3112	12.5	60.7	22.9	3.9

86.6	13.4
87.0	13.0
84.9	15.1

劇場に対する総合的な意見(満足度)については、満足層が97.9%、「たいへん満足」の割合は33.8%である。過去調査結果を通じて、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持している。

[来場公演のジャンル別]

・「たいへん満足」の割合は、パフォーマンスが高い(60.0%)。

[性別]

・満足度では、男女で顕著な差はない。

[年齢別]

・18歳未満の年齢層で「たいへん満足」の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・満足度では、加入・未加入で顕著な差はない。

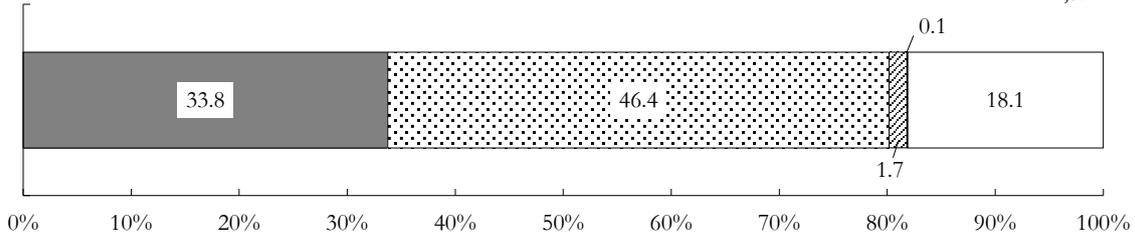
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で顕著な差はないが、11回以上のグループで、「たいへん満足」への回答割合が高い(39.9%)。

[過去調査と比較して]

・過去調査結果を通じて、満足層の割合は12年度の98.2%まで上昇し続け、その後も高い割合を維持しており、16年度(97.9%)は12年度に次いで2番目の高さとなっている。

n=1,392



たいへん満足
 まあ満足
 少し不満足
 まったく不満足
 無回答

	全体	Q4総合的な満足度					
		たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足	無回答	
全体	1392	33.8	46.4	1.7	0.1	18.1	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	33.5	46.6	1.8	0.0	18.0
	音楽劇	494	32.6	46.6	1.6	0.0	19.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	35.2	46.3	1.3	0.4	16.7
	パフォーマンス	15	60.0	33.3	0.0	0.0	6.7
性別	男性	316	36.4	45.6	2.2	0.3	15.5
	女性	937	33.7	48.3	1.3	0.0	16.6
年齢層	18歳未満	51	60.8	17.6	0.0	0.0	21.6
	18~29歳	97	41.2	33.0	1.0	0.0	24.7
	30歳代	152	31.6	51.3	1.3	0.0	15.8
	40歳代	228	49.1	35.5	2.6	0.4	12.3
	50歳代	260	30.4	57.7	0.4	0.0	11.5
60歳以上	388	27.6	52.8	2.1	0.0	17.5	
チケットクラブ	加入	285	39.3	46.3	1.4	0.4	12.6
	未加入	939	33.1	47.9	1.5	0.0	17.5
鑑賞経験	今日が初めて	226	31.0	44.7	1.8	0.0	22.6
	1~2回	192	33.3	49.0	1.6	0.0	16.1
	3~5回	283	35.0	50.9	0.0	0.0	14.1
	6~10回	214	29.9	55.6	2.3	0.0	12.1
	11回以上	321	39.9	41.1	1.9	0.3	16.8

「無回答」を除いた割合				
回答数	たいへん満足	まあ満足	少し不満足	まったく不満足
1140	41.2	56.7	2.0	0.1
538	40.9	56.9	2.2	0.0
399	40.4	57.6	2.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
189	42.3	55.6	1.6	0.5
14	64.3	35.7	0.0	0.0
267	43.1	53.9	2.6	0.4
781	40.5	58.0	1.5	0.0
40	77.5	22.5	0.0	0.0
73	54.8	43.8	1.4	0.0
128	37.5	60.9	1.6	0.0
200	56.0	40.5	3.0	0.5
230	34.3	65.2	0.4	0.0
320	33.4	64.1	2.5	0.0
249	45.0	53.0	1.6	0.4
775	40.1	58.1	1.8	0.0
175	40.0	57.7	2.3	0.0
161	39.8	58.4	1.9	0.0
243	40.7	59.3	0.0	0.0
188	34.0	63.3	2.7	0.0
267	47.9	49.4	2.2	0.4

(単位: %)	
満足層	不満足層
97.9	2.1
97.8	2.2
98.0	2.0
0.0	0.0
0.0	0.0
97.9	2.1
100.0	0.0
97.0	3.0
98.5	1.5
100.0	0.0
98.6	1.4
98.4	1.6
96.5	3.5
99.6	0.4
97.5	2.5
98.0	2.0
98.2	1.8
97.7	2.3
98.1	1.9
100.0	0.0
97.3	2.7
97.4	2.6

参考	15年度調査結果	1989	34.2	47.7	2.0	0.2	15.9
	14年度調査結果	1146	35.3	44.6	2.3	0.6	17.2
	13年度調査結果	1569	34.9	46.5	1.7	0.5	16.4
	12年度調査結果	1599	31.3	48.4	1.4	0.1	18.8
	11年度調査結果	1688	33.4	47.9	2.2	0.4	16.2
	10年度調査結果	2379	33.2	47.9	2.3	0.2	16.4
	09年度調査結果	1692	31.3	49.3	2.4	0.1	16.9
	08年度調査結果	1732	30.7	53.0	2.9	0.4	13.0
	07年度調査結果	3033	25.4	55.6	4.4	0.3	14.3
	06年度調査結果	2766	21.0	59.5	4.6	0.3	14.6
	05年度調査結果	3073	20.1	58.0	5.7	0.6	15.6
	04年度調査結果	4708	19.2	60.9	6.2	0.7	13.1
	03年度調査結果	4078	19.7	57.5	6.5	0.5	15.8

1673	40.6	56.7	2.4	0.2
949	42.7	53.8	2.7	0.7
1311	41.7	55.7	2.0	0.6
1299	38.6	59.6	1.8	0.1
1415	39.9	57.1	2.6	0.4
1989	39.8	57.3	2.7	0.3
1406	37.6	59.4	2.9	0.1
1507	35.3	60.9	3.3	0.5
2600	29.6	64.9	5.1	0.4
2362	24.6	69.6	5.3	0.4
2594	23.8	68.7	6.8	0.7
4092	22.0	70.0	7.2	0.8
3434	23.4	68.2	7.7	0.6

97.4	2.6
96.5	3.5
97.4	2.6
98.2	1.8
97.0	3.0
97.0	3.0
97.0	3.0
96.2	3.8
94.5	5.5
94.3	5.7
92.6	7.4
92.1	7.9
91.6	8.4

「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」(※)いずれも、賛同者の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合。無回答は除く)は90%以上と、高い賛同を得ている。特に、「観る」については、賛同する人の割合は98.9%、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合も74.6%と高い割合を占める。

※2014年度から運営方針のキーワードに「支える」が加わった。

[来場公演のジャンル別]

・「観る」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。とくにパフォーマンスでは「ぜひやってほしい」が93.3%となっている。

・「創る」、「育つ」、「支える」:いずれのジャンルでも「ぜひやってほしい」の割合が最も高い割合となっている。

[性別]

・賛同する割合では、男女で顕著な差はないが、「ぜひやってほしい」の割合は、「観る」については女性で、「創る」、「育つ」、「支える」については男性で高い。

[年齢別]

・「観る」:いずれの年代でも「ぜひやってほしい」の割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。

・「創る」、「育つ」、「支える」:18~29歳で「ぜひやってほしい」への割合が7割以上(無回答を除いた回答)と高い。

・「観る」、「創る」、「育つ」、「支える」:いずれも60歳以上で無回答の割合が高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入・未加入で顕著な差はないが、「観る」については加入の割合が高い。

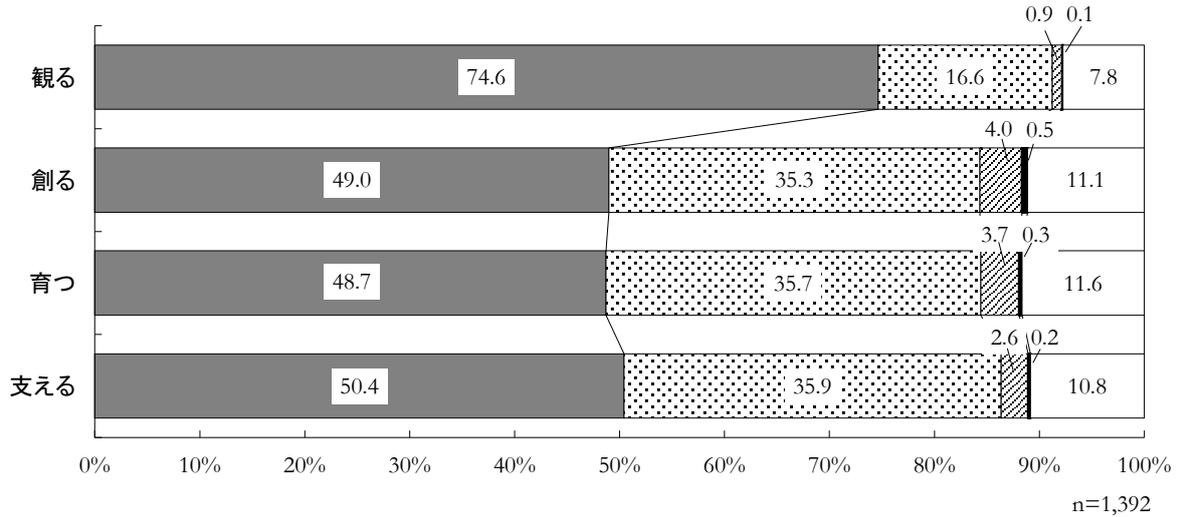
[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・鑑賞頻度で顕著な傾向はみられない。

[過去調査と比較して]

・過去調査結果を通じて、「観る」への賛同は極めて高い割合を維持しているものの、「ぜひやってほしい」という積極的な賛同の割合は、04年度の83.3%が最も高く、多少の年度の変化はあるものの、やや減少傾向にある。

・一方、「創る」と「育つ」は、「観る」に比べて賛同の割合は低いものの、一定の割合を維持している。



■ぜひやってほしい □まあやってほしい ▨あまりやる必要はない ■まったくやる必要はない □無回答

【観る】

		全体	Q5-1運営方針:観る					「無回答」を除いた割合					賛同する割合		賛同しない割合	
			ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	無回答	回答数	ぜひやってほしい	まあやってほしい	あまりやる必要はない	まったくやる必要はない	賛同する割合	賛同しない割合		
	全体	1392	74.6	16.6	0.9	0.1	7.8	1284	80.9	18.0	1.0	0.1	98.9	1.1		
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	78.8	14.3	0.8	0.0	6.1	616	83.9	15.3	0.8	0.0	99.2	0.8		
	音楽劇	494	66.2	21.7	0.8	0.2	11.1	439	74.5	24.4	0.9	0.2	98.9	1.1		
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	ダンス・現代舞踊	227	79.7	12.8	1.8	0.0	5.7	214	84.6	13.6	1.9	0.0	98.1	1.9		
	パフォーマンス	15	93.3	6.7	0.0	0.0	0.0	15	93.3	6.7	0.0	0.0	100.0	0.0		
性別	男性	316	70.3	22.2	1.9	0.0	5.7	298	74.5	23.5	2.0	0.0	98.0	2.0		
	女性	937	78.2	15.7	0.7	0.0	5.3	887	82.6	16.6	0.8	0.0	99.2	0.8		
年齢層	18歳未満	51	80.4	15.7	0.0	0.0	3.9	49	83.7	16.3	0.0	0.0	100.0	0.0		
	18~29歳	97	84.5	14.4	0.0	0.0	1.0	96	85.4	14.6	0.0	0.0	100.0	0.0		
	30歳代	152	87.5	9.9	0.0	0.0	2.6	148	89.9	10.1	0.0	0.0	100.0	0.0		
	40歳代	228	83.8	13.6	0.4	0.0	2.2	223	85.7	13.9	0.4	0.0	99.6	0.4		
	50歳代	260	74.6	20.0	1.9	0.0	3.5	251	77.3	20.7	2.0	0.0	98.0	2.0		
	60歳以上	388	67.3	21.1	1.5	0.0	10.1	349	74.8	23.5	1.7	0.0	98.3	1.7		
チケットクラブ	加入	285	82.5	13.0	1.1	0.0	3.5	275	85.5	13.5	1.1	0.0	98.9	1.1		
	未加入	939	74.9	18.2	1.1	0.0	5.9	884	79.5	19.3	1.1	0.0	98.9	1.1		
鑑賞経験	今日が初めて	226	81.9	11.1	0.9	0.0	6.2	212	87.3	11.8	0.9	0.0	99.1	0.9		
	1~2回	192	74.5	17.2	0.0	0.0	8.3	176	81.3	18.8	0.0	0.0	100.0	0.0		
	3~5回	283	74.9	20.5	0.4	0.0	4.2	271	78.2	21.4	0.4	0.0	99.6	0.4		
	6~10回	214	78.5	15.4	1.4	0.0	4.7	204	82.4	16.2	1.5	0.0	98.5	1.5		
	11回以上	321	74.5	19.0	2.2	0.0	4.4	307	77.9	19.9	2.3	0.0	97.7	2.3		
参考	15年度調査結果	1989	78.7	13.0	0.9	0.1	7.4	1842	85.0	14.0	0.9	0.1	99.0	1.0		
	14年度調査結果	1146	76.0	15.5	1.4	0.1	7.0	1066	81.7	16.7	1.5	0.1	98.4	1.6		
	13年度調査結果	1569	79.3	12.6	1.0	0.1	7.0	1459	85.3	13.5	1.0	0.1	98.8	1.2		
	12年度調査結果	1599	77.5	13.7	0.8	0.0	7.9	1472	84.2	14.9	0.9	0.0	99.1	0.9		
	11年度調査結果	1688	77.7	14.5	0.8	0.2	6.9	1571	83.5	15.5	0.8	0.2	99.0	1.0		
	10年度調査結果	2379	79.5	12.7	0.7	0.1	7.1	2211	85.5	13.6	0.8	0.1	99.1	0.9		
	09年度調査結果	1692	80.4	12.5	0.5	0.1	6.5	1582	86.0	13.3	0.6	0.1	99.4	0.6		
	08年度調査結果	1732	80.5	11.8	0.5	0.1	7.0	1611	86.6	12.7	0.6	0.1	99.3	0.7		
	07年度調査結果	3033	79.8	13.1	0.5	0.3	6.4	2840	85.2	13.9	0.5	0.3	99.2	0.8		
	06年度調査結果	2766	80.5	12.3	0.9	0.3	5.9	2602	85.6	13.1	0.9	0.3	98.7	1.3		
	05年度調査結果	3073	82.2	11.3	0.6	0.1	5.8	2894	87.2	12.0	0.6	0.1	99.3	0.7		
	04年度調査結果	4708	83.3	12.1	0.6	0.1	3.9	4523	86.7	12.6	0.6	0.1	99.2	0.8		
	03年度調査結果	4078	81.8	9.8	0.7	0.1	7.7	3764	88.6	10.6	0.7	0.1	99.2	0.8		

* 賛同する割合は、「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の計、
 不満足層は、「あまりやる必要はない」+「まったくやる必要はない」の計。無回答を除く。以下同様。
 ** 小数点第2以下の四捨五入により、表中の無回答を除く「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」の割合は賛同する割合と
 「まあやってほしい」+「まったくやる必要はない」の割合は賛同しない割合と、必ずしも必ずしも一致しない。

【創る】

	調査数 (n)	Q5-2運営方針：創る					無回答
		ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い		
全体	1392	49.0	35.3	4.0	0.5	11.1	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	53.7	33.4	3.7	0.3	9.0
	音楽劇	494	39.1	39.3	5.1	0.6	16.0
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	55.5	33.0	3.1	0.9	7.5
	パフォーマンス	15	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	52.2	33.9	4.4	0.9	8.5
	女性	937	49.3	37.5	3.8	0.3	9.1
年齢層	18歳未満	51	70.6	27.5	0.0	0.0	2.0
	18～29歳	97	70.1	24.7	3.1	1.0	1.0
	30歳代	152	58.6	28.3	5.9	0.7	6.6
	40歳代	228	54.8	38.2	3.5	0.0	3.5
	50歳代	260	46.5	44.6	3.5	0.4	5.0
	60歳以上	388	38.4	39.4	4.1	0.8	17.3
チケット クラブ	加入	285	50.9	40.4	2.5	0.0	6.3
	未加入	939	49.9	35.5	4.4	0.6	9.6
鑑賞経験	今日が初めて	226	55.8	29.2	4.0	1.3	9.7
	1～2回	192	42.7	39.6	5.2	0.5	12.0
	3～5回	283	49.5	38.2	5.3	0.0	7.1
	6～10回	214	42.5	45.3	2.8	0.5	8.9
	11回以上	321	55.8	32.4	3.4	0.3	8.1

「無回答」を除いた割合				
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い
1237	55.1	39.8	4.5	0.6
597	59.0	36.7	4.0	0.3
415	46.5	46.7	6.0	0.7
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
210	60.0	35.7	3.3	1.0
15	73.3	26.7	0.0	0.0
289	57.1	37.0	4.8	1.0
852	54.2	41.2	4.2	0.4
50	72.0	28.0	0.0	0.0
96	70.8	25.0	3.1	1.0
142	62.7	30.3	6.3	0.7
220	56.8	39.5	3.6	0.0
247	49.0	47.0	3.6	0.4
321	46.4	47.7	5.0	0.9
267	54.3	43.1	2.6	0.0
849	55.2	39.2	4.8	0.7
204	61.8	32.4	4.4	1.5
169	48.5	45.0	5.9	0.6
263	53.2	41.1	5.7	0.0
195	46.7	49.7	3.1	0.5
295	60.7	35.3	3.7	0.3

(単位：%)

賛同す る割合	賛同し ない割 合
94.9	5.1
95.6	4.4
93.3	6.7
0.0	0.0
0.0	0.0
95.7	4.3
100.0	0.0
94.1	5.9
95.4	4.6
100.0	0.0
95.8	4.2
93.0	7.0
96.4	3.6
96.0	4.0
94.1	5.9
97.4	2.6
94.5	5.5
94.1	5.9
93.5	6.5
94.3	5.7
96.4	3.6
95.9	4.1

	調査数 (n)	Q5-2運営方針：創る					無回答
		ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い		
15年度調査結果	1989	49.5	35.8	3.8	0.3	10.6	
14年度調査結果	1146	56.0	31.6	2.9	0.3	9.2	
13年度調査結果	1569	51.6	34.5	3.8	0.1	9.9	
12年度調査結果	1599	51.8	34.7	3.3	0.3	9.9	
11年度調査結果	1688	53.6	34.4	3.8	0.2	8.1	
10年度調査結果	2379	48.7	37.7	4.0	0.4	9.2	
09年度調査結果	1692	50.1	36.8	3.7	0.3	9.1	
08年度調査結果	1732	47.9	37.3	4.4	0.5	9.8	
07年度調査結果	3033	49.0	36.5	5.1	0.6	8.8	
06年度調査結果	2766	47.3	38.9	5.0	0.6	8.2	
05年度調査結果	3073	48.6	36.8	5.2	0.3	9.1	
04年度調査結果	4708	48.3	39.5	5.4	0.7	6.2	
03年度調査結果	4078	45.0	37.8	4.5	0.4	12.3	

「無回答」を除いた割合				
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い
1779	55.4	40.0	4.3	0.3
1041	61.7	34.8	3.2	0.4
1413	57.3	38.3	4.2	0.1
1440	57.6	38.5	3.6	0.3
1552	58.2	37.4	4.1	0.3
2160	53.7	41.5	4.4	0.5
1538	55.1	40.5	4.1	0.3
1562	53.1	41.4	4.9	0.6
2765	53.8	40.0	5.6	0.6
2540	51.5	42.4	5.5	0.6
2794	53.4	40.5	5.7	0.4
4418	51.5	42.1	5.7	0.7
3575	51.3	43.1	5.2	0.4

賛同す る割合	賛同し ない割 合
95.4	4.6
96.4	3.6
95.6	4.4
96.1	3.9
95.6	4.4
95.2	4.8
95.6	4.4
94.5	5.5
93.8	6.2
93.9	6.1
94.0	6.0
93.5	6.5
94.4	5.6

【育つ】

	調査数 (n)	Q5-3運営方針：育つ					無回答
		ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い		
全体	1392	48.7	35.7	3.7	0.3	11.6	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	50.2	36.3	4.0	0.0	9.6
	音楽劇	494	44.3	34.6	4.5	0.2	16.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	52.4	37.0	1.3	1.3	7.9
	パフォーマンス	15	73.3	26.7	0.0	0.0	0.0
性別	男性	316	50.9	34.5	5.4	0.9	8.2
	女性	937	49.0	37.9	3.3	0.1	9.7
年齢層	18歳未満	51	66.7	27.5	3.9	0.0	2.0
	18～29歳	97	71.1	23.7	3.1	0.0	2.1
	30歳代	152	58.6	32.2	2.0	0.7	6.6
	40歳代	228	55.7	35.5	4.8	0.0	3.9
	50歳代	260	43.5	48.1	3.1	0.0	5.4
	60歳以上	388	39.9	36.9	4.6	0.5	18.0
チケット クラブ	加入	285	44.9	44.2	3.9	0.0	7.0
	未加入	939	51.3	34.4	4.0	0.4	9.8
鑑賞経験	今日が初めて	226	57.5	28.3	3.1	1.3	9.7
	1～2回	192	48.4	35.4	3.6	0.0	12.5
	3～5回	283	50.5	38.9	3.9	0.0	6.7
	6～10回	214	42.1	44.4	4.2	0.0	9.3
	11回以上	321	48.0	37.7	4.7	0.3	9.3

「無回答」を除いた割合				
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い
1230	55.1	40.4	4.1	0.3
593	55.5	40.1	4.4	0.0
413	53.0	41.4	5.3	0.2
0	0.0	0.0	0.0	0.0
0	0.0	0.0	0.0	0.0
209	56.9	40.2	1.4	1.4
15	73.3	26.7	0.0	0.0
290	55.5	37.6	5.9	1.0
846	54.3	42.0	3.7	0.1
50	68.0	28.0	4.0	0.0
95	72.6	24.2	3.2	0.0
142	62.7	34.5	2.1	0.7
219	58.0	37.0	5.0	0.0
246	45.9	50.8	3.3	0.0
318	48.7	45.0	5.7	0.6
265	48.3	47.5	4.2	0.0
847	56.9	38.1	4.5	0.5
204	63.7	31.4	3.4	1.5
168	55.4	40.5	4.2	0.0
264	54.2	41.7	4.2	0.0
194	46.4	49.0	4.6	0.0
291	52.9	41.6	5.2	0.3

(単位：%)

賛同す る割合	賛同し ない割 合
95.5	4.5
95.6	4.4
94.4	5.6
0.0	0.0
0.0	0.0
97.1	2.9
100.0	0.0
93.1	6.9
96.2	3.8
96.0	4.0
96.8	3.2
97.2	2.8
95.0	5.0
96.7	3.3
93.7	6.3
95.8	4.2
95.0	5.0
95.1	4.9
95.8	4.2
95.4	4.6
94.5	5.5

	調査数 (n)	Q5-3運営方針：育つ					無回答
		ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い		
15年度調査結果	1989	50.2	35.5	3.7	0.2	10.4	
14年度調査結果	1146	53.8	32.9	3.7	0.5	9.2	
13年度調査結果	1569	45.6	39.4	4.3	0.6	10.1	
12年度調査結果	1599	48.5	36.5	3.8	0.8	10.5	
11年度調査結果	1688	51.3	35.6	4.3	0.5	8.4	
10年度調査結果	2379	46.4	38.8	4.9	0.5	9.4	
09年度調査結果	1692	47.8	37.3	5.1	0.6	9.2	
08年度調査結果	1732	48.0	35.9	5.6	0.8	9.8	
07年度調査結果	3033	47.2	37.4	5.8	0.7	8.9	
06年度調査結果	2766	47.7	37.6	5.6	0.6	8.5	
05年度調査結果	3073	48.6	36.1	5.7	0.4	9.3	
04年度調査結果	4708	50.3	36.8	5.6	0.6	6.8	
03年度調査結果	4078	45.8	35.6	5.4	0.7	12.6	

「無回答」を除いた割合				
回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い
1782	56.1	39.6	4.1	0.2
1041	59.2	36.2	4.0	0.6
1411	50.7	43.8	4.7	0.7
1431	54.2	40.8	4.2	0.8
1547	56.0	38.8	4.7	0.5
2155	51.2	42.8	5.4	0.6
1537	52.6	41.1	5.7	0.7
1563	53.2	39.7	6.2	0.9
2763	51.8	41.0	6.4	0.7
2531	52.1	41.1	6.1	0.7
2788	53.5	39.8	6.2	0.5
4387	53.9	39.5	6.0	0.6
3564	52.4	40.7	6.2	0.8

【支える】

	調査数 (n)	Q5-4運営方針:支える					無回答	「無回答」を除いた割合					(単位:%)	
		ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い			回答数	ぜひやっ てほしい	まあやっ てほしい	あまり やる必 要はな い	まったく やる必 要はな い		賛同す る割合
全体	1392	50.4	35.9	2.6	0.2	10.8	1241	56.6	40.3	2.9	0.2	96.9	3.1	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	50.2	38.4	2.4	0.0	9.0	597	55.1	42.2	2.7	0.0	97.3	2.7
	音楽劇	494	49.4	31.6	3.4	0.4	15.2	419	58.2	37.2	4.1	0.5	95.5	4.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	52.9	37.9	1.3	0.4	7.5	210	57.1	41.0	1.4	0.5	98.1	1.9
	パフォーマンス	15	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	15	60.0	40.0	0.0	0.0	100.0	0.0
性別	男性	316	52.5	36.1	4.1	0.6	6.6	295	56.3	38.6	4.4	0.7	94.9	5.1
	女性	937	51.0	37.6	2.3	0.1	9.0	853	56.0	41.3	2.6	0.1	97.3	2.7
年齢層	18歳未満	51	68.6	27.5	2.0	0.0	2.0	50	70.0	28.0	2.0	0.0	98.0	2.0
	18～29歳	97	70.1	26.8	1.0	0.0	2.1	95	71.6	27.4	1.1	0.0	98.9	1.1
	30歳代	152	50.0	39.5	3.9	0.0	6.6	142	53.5	42.3	4.2	0.0	95.8	4.2
	40歳代	228	55.3	39.0	2.2	0.4	3.1	221	57.0	40.3	2.3	0.5	97.3	2.7
	50歳代	260	48.1	44.6	2.3	0.0	5.0	247	50.6	47.0	2.4	0.0	97.6	2.4
	60歳以上	388	46.9	33.8	3.1	0.5	15.7	327	55.7	40.1	3.7	0.6	95.7	4.3
チケット クラブ	加入	285	47.0	44.9	2.1	0.0	6.0	268	50.0	47.8	2.2	0.0	97.8	2.2
	未加入	939	52.8	34.9	3.1	0.3	8.8	856	57.9	38.3	3.4	0.4	96.3	3.7
鑑賞 経験	今日が初めて	226	54.0	32.3	2.7	0.9	10.2	203	60.1	36.0	3.0	1.0	96.1	3.9
	1～2回	192	46.4	37.0	3.6	0.0	13.0	167	53.3	42.5	4.2	0.0	95.8	4.2
	3～5回	283	52.7	38.5	3.5	0.0	5.3	268	55.6	40.7	3.7	0.0	96.3	3.7
	6～10回	214	50.0	37.4	3.3	0.5	8.9	195	54.9	41.0	3.6	0.5	95.9	4.1
	11回以上	321	52.0	40.2	1.2	0.0	6.5	300	55.7	43.0	1.3	0.0	98.7	1.3
参考	15年度調査結果	1989	49.9	36.6	2.8	0.2	10.5	1781	55.8	40.9	3.1	0.2	96.6	3.4

3 日頃の鑑賞活動

コンサートや演劇に出かける頻度については、「年に3～4回程度」(22.6%)と最も割合が高く、次いで「年に1～2回程度」が20.1%、「年に5～9回程度」(13.9%)と続いており、月に1回以上出かける割合は24.9%となっている。日頃コンサートや演劇に出かける人は多く、回答者の鑑賞頻度は多様である。

[来場公演のジャンル別]

・パフォーマンスでは、月1回以上出かける割合が33.3%とジャンル中最も高く、次いで小劇場・現代演劇で月1回以上の割合が高い(31.1%)。

[性別]

- ・男性、女性ともに「年に3～4回程度」の割合が最も高い。
- ・月1回以上出かける割合をみると、男性は35.8%、女性は24.7%と、男性の割合が高い。

[年齢別]

- ・30歳代では「年に1～2回程度」の割合が最も高く、他の年代に比べて、「ほとんどいかない」の割合も高い。
- ・月1回以上の割合が最も高いのは40歳代(32.0%)であるが、40歳以上のグループはいずれも、月1回以上の割合が25%を超えている。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

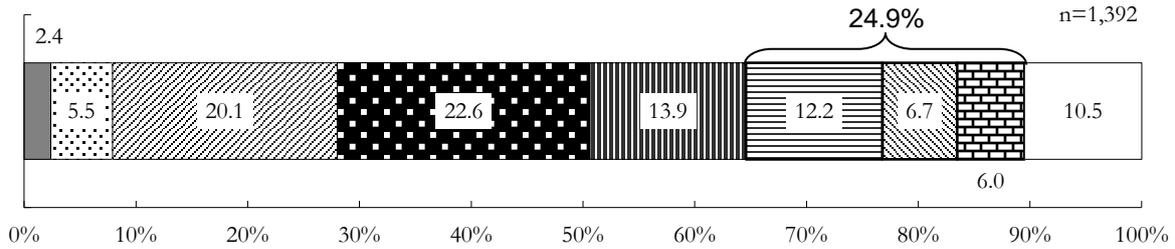
- ・加入の場合は「年に3～4回程度」(22.5%)、未加入の場合は「年に1～2回」(25.7%)の割合が最も高い。また加入の場合は「月に1回以上」の割合が49.8%を占めており、未加入(21.0%)に比べて日頃からコンサートや演劇に出かける頻度が高いことがわかる。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

- ・北九州芸術劇場での鑑賞頻度が高いほど、日頃コンサートや演劇に出かける頻度も高く、その傾向は顕著である。
- ・北九州芸術劇場で11回以上の鑑賞経験がある場合、月1回以上コンサートや演劇に出かける割合は60.1%を占める。
- ・北九州芸術劇場での鑑賞が初めてのグループと1～2回のグループでは「年に1～2回程度」の割合が最も高い。

[過去調査と比較して]

- ・過去調査結果と比較すると、11年度では月1回以上の割合が過去最高の割合となった。



- 今日が初めて
- ほとんど行かない
- ▣ 年に1~2回程度
- 年に3~4回程度
- ▣ 年に5~9回程度
- ▣ 月に1回程度
- ▣ 月に2回程度
- ▣ 月に3回以上
- 無回答

(単位:%)

	調査数 (n)	Q7コンサートや演劇に出かける頻度									月1回以上の割合	
		今日が初めて	ほとんど行かない	年に1~2回程度	年に3~4回程度	年に5~9回程度	月に1回程度	月に2回程度	月に3回以上	無回答		
全体	1392	2.4	5.5	20.1	22.6	13.9	12.2	6.7	6.0	10.5	24.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	2.7	3.8	18.4	20.9	14.2	13.4	8.7	9.0	8.8	31.1
	音楽劇	494	2.8	6.9	19.2	25.9	15.0	10.5	3.8	3.0	12.8	17.4
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	0.0	7.9	26.9	21.6	11.0	11.9	6.6	4.4	9.7	22.9
	パフォーマンス	15	6.7	0.0	20.0	6.7	13.3	20.0	13.3	0.0	20.0	33.3
性別	男性	316	1.9	7.0	18.4	22.8	12.3	13.3	9.2	13.3	1.9	35.8
	女性	937	2.8	5.8	23.3	25.6	16.3	13.3	6.8	4.5	1.6	24.7
年齢層	18歳未満	51	5.9	7.8	23.5	15.7	11.8	13.7	2.0	15.7	3.9	31.4
	18~29歳	97	6.2	8.2	16.5	19.6	21.6	13.4	11.3	3.1	0.0	27.8
	30歳代	152	3.3	9.9	30.3	25.0	12.5	6.6	9.9	2.6	0.0	19.1
	40歳代	228	2.2	4.8	22.8	24.6	13.6	16.2	5.7	10.1	0.0	32.0
	50歳代	260	1.5	5.4	26.9	24.6	11.9	12.7	6.9	8.5	1.5	28.1
	60歳以上	388	2.3	5.7	16.5	28.4	19.6	14.9	6.4	3.9	2.3	25.3
チケットクラブ	加入	285	0.7	0.4	11.2	22.5	14.0	20.0	15.4	14.4	1.4	49.8
	未加入	939	3.3	7.8	25.7	25.5	15.8	11.6	5.0	4.4	1.1	21.0
鑑賞経験	今日が初めて	226	13.3	14.6	33.2	18.1	11.1	4.0	2.2	3.1	0.4	9.3
	1~2回	192	0.5	12.0	36.5	27.6	13.5	6.3	1.0	0.5	2.1	7.8
	3~5回	283	0.0	6.4	24.4	29.0	20.5	11.0	4.6	2.5	1.8	18.0
	6~10回	214	0.5	0.9	18.7	36.4	14.0	16.4	6.1	6.5	0.5	29.0
	11回以上	321	0.0	0.0	6.5	16.2	16.5	25.2	18.4	16.5	0.6	60.1
参考	15年度調査結果	1989	2.5	5.4	23.3	22.0	16.2	11.3	6.0	3.8	9.5	20.9
	14年度調査結果	1146	3.4	5.9	20.8	22.8	14.1	10.8	8.2	6.8	7.2	25.8
	13年度調査結果	1569	3.2	6.2	20.5	22.6	15.2	11.2	6.9	5.7	8.4	23.8
	12年度調査結果	1599	3.4	6.0	18.6	19.2	16.1	13.4	8.4	6.4	8.4	28.3
	11年度調査結果	1688	3.1	5.6	18.2	22.5	15.7	12.9	9.2	6.7	6.1	28.8
	10年度調査結果	2379	3.6	7.1	23.7	22.6	15.2	11.0	5.9	4.0	7.0	20.8
	09年度調査結果	1692	2.5	5.7	22.1	22.4	16.0	12.5	7.9	4.8	6.0	25.2
	08年度調査結果	1732	2.8	5.8	22.0	23.0	16.7	12.2	7.4	4.6	5.5	24.2
	07年度調査結果	3033	4.2	5.9	24.5	21.9	16.4	11.7	6.7	3.4	5.3	21.9
	06年度調査結果	2766	3.7	5.0	23.2	24.9	18.1	10.0	5.9	3.7	5.5	19.5
	05年度調査結果	3073	3.0	5.6	21.2	25.6	18.6	11.1	6.2	4.8	3.8	22.1
04年度調査結果	4708	2.7	4.9	20.6	24.7	19.4	12.6	7.8	4.6	2.6	25.0	
03年度調査結果	4078	2.7	4.5	22.4	24.1	18.9	11.5	7.1	4.4	4.5	23.0	

北九州芸術劇場での鑑賞経験は、「11回以上」が23.1%と最も高い。次いで、「3～5回」(20.3%)、「今日が初めて」(16.2%)、「6～10回」(15.4%)、「1～2回」(13.8%)と、大きな偏りがなく分布している。初めてからリピーターまで、幅広い層が来場している。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルも、初めてからリピーターまで幅広い観客層となっているが、小劇場・現代演劇、音楽劇、パフォーマンスは「11回以上」の割合が最も高く、ダンス・現代演劇は、「今日が初めて」の割合が最も高い。

[性別]

・男性、女性ともに「11回以上」の割合が最も高いが、分布は幅広い。

[年齢別]

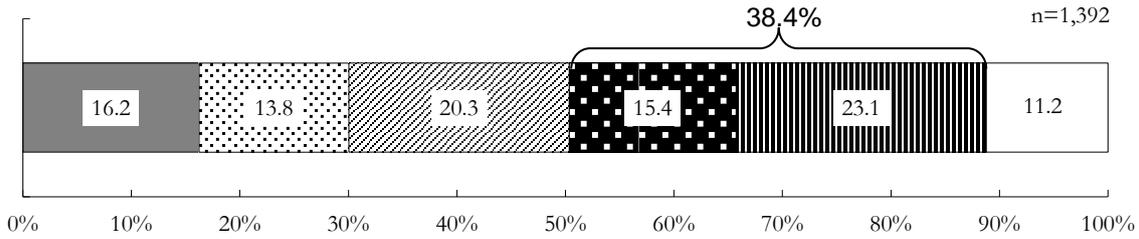
・40歳以上は、「11回以上」の割合が最も高い。18～29歳と30歳代のグループは「今日が初めて」の割合が高く、18歳未満では「3～5回」の割合が高い。
・40歳代で6回以上の割合が最も高い。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入の場合は「11回以上」が51.2%と顕著に高く、6回以上の割合も73.0%となっている。一方、未加入の場合は「3～5回」が24.8%と最も高く、6回以上来場している割合は33.7%となっている。

[過去調査と比較して]

・6回以上の割合は、08年度までの調査では増加傾向で08～09年度は30%を超えていたものの、10年度は29.4%と減少し、11～13年度は、再び6回以上の割合が30%を超えた。
・6回以上の割合が14年度で39.9%と過去最高となっており、16年度は過去3番目に高い割合となっている。



■ 今日が初めて □ 1~2回 ▨ 3~5回 ■ 6~10回 ▩ 11回以上 □ 無回答

(単位: %)

		調査数 (n)	Q8北九州芸術劇場での鑑賞経験						6回以上 の割合
			今日が初 めて	1~2回	3~5回	6~10回	11回以 上	無回答	
全体		1392	16.2	13.8	20.3	15.4	23.1	11.2	38.4
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	18.0	14.0	21.0	12.0	26.4	8.5	38.4
	音楽劇	494	11.9	14.2	20.6	17.8	20.6	14.8	38.5
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	20.3	12.8	18.5	19.8	18.5	10.1	38.3
	パフォーマンス	15	20.0	6.7	6.7	13.3	26.7	26.7	40.0
性別	男性	316	16.8	16.5	21.8	17.4	25.9	1.6	43.4
	女性	937	18.1	14.7	22.4	16.5	25.4	2.8	41.9
年齢層	18歳未満	51	19.6	13.7	35.3	23.5	2.0	5.9	24.0
	18~29歳	97	34.0	17.5	20.6	11.3	15.5	1.0	26.8
	30歳代	152	30.3	20.4	22.4	7.2	18.4	1.3	25.7
	40歳代	228	14.0	11.4	23.7	19.3	29.8	1.8	49.1
	50歳代	260	16.5	14.2	20.8	20.0	26.5	1.9	46.5
	60歳以上	388	13.7	13.9	22.2	19.3	27.8	3.1	47.2
チケット クラブ	加入	285	4.2	6.0	14.7	21.8	51.2	2.1	73.0
	未加入	939	22.4	17.8	24.8	15.7	18.0	1.4	33.7
鑑賞 経験	今日が初めて	226	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1~2回	192	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3~5回	283	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6~10回	214	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0
	11回以上	321	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	100.0

参考	15年度調査結果	1989	28.2	12.9	18.7	12.4	18.0	9.8	30.3
	14年度調査結果	1146	18.8	13.7	19.8	16.3	23.6	7.8	39.9
	13年度調査結果	1569	22.9	14.1	20.2	15.4	18.2	9.1	33.7
	12年度調査結果	1599	22.4	13.8	18.1	15.5	21.0	9.2	36.5
	11年度調査結果	1688	20.5	12.9	20.3	15.3	23.9	7.2	39.2
	10年度調査結果	2379	29.1	13.5	21.0	12.9	16.6	7.0	29.4
	09年度調査結果	1692	21.7	15.1	23.8	15.4	17.7	6.3	33.1
	08年度調査結果	1732	22.9	15.9	21.7	17.1	16.1	6.4	33.2
	07年度調査結果	3033	32.8	15.2	21.4	12.7	12.4	5.4	25.2
	06年度調査結果	2766	28.7	16.8	25.2	12.5	11.4	5.4	23.9
	05年度調査結果	3073	30.8	17.1	25.7	12.3	10.4	3.7	22.7
	04年度調査結果	4708	33.1	20.9	25.2	11.6	6.4	2.7	18.0
	03年度調査結果	4078	-	-	-	-	-	-	-

来場の妨げになっていること(※)は、「チケット代金が高い」(32.9%)、「開催時間が間に合わない」(22.1%)、「会場が遠い」(19.3%)、「仕事や勉強で忙しい」(16.9%)、「見たい作品が少ない」(16.0%)となっている。
※2015年度から設問を加えた。

[来場公演のジャンル別]

・いずれのジャンルでも「チケット代金が高い」が最も高い割合となっている。

[性別]

・男性、女性ともに「チケット代金が高い」が最も高い。
・「特に妨げは感じない」「その他」では女性に比べて男性の割合が高いが、その他の項目は女性の割合が男性を上回っている。

[年齢別]

・18歳未満以外のグループで「チケット代金が高い」の割合が最も高く、18歳未満は「仕事や勉強で忙しい」の割合が最も高い。
・「仕事や勉強で忙しい」は、年齢層が高くなるほど割合が低くなっている。

[チケットクラブへの加入・未加入別]

・加入、未加入ともに「チケット代金が高い」が最も高く、次いで、「開催時間が間に合わない」が高くなっている。未加入では「いつ何をやっているか情報がない」が17.4%で、加入の割合(4.6%)を大きく上回っている。

[北九州芸術劇場での鑑賞経験別]

・北九州芸術劇場での鑑賞経験のどのグループでも「チケット代金が高い」の割合が最も高い。
・「いつ何をやっているか情報がない」は、鑑賞経験が少ないほど割合が高くなっている。

Q10

(単位:%)

	調査数 (n)	Q10来場の妨げになっていること										無回答	
		見たい作品が少ない	いつ何をやっていくか情報がない	チケット代金が高い	会場が遠い	開催時間が間に合わない	周りに一緒に見に行く人がいない	仕事や勉強で忙しい	子どもや家族がいて出かけられない	その他	特に妨げは感じない		
全体	1392	16.0	12.8	32.9	19.3	22.1	4.4	16.9	5.7	1.9	14.2	14.9	
ジャンル	小劇場・現代演劇	656	15.9	11.4	33.7	25.0	25.3	4.0	20.4	4.6	2.0	9.8	13.6
	音楽劇	494	15.2	12.6	32.2	9.1	17.8	4.7	9.9	7.1	1.4	21.3	17.2
	ミュージカル・商業演劇	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	古典芸能(歌舞伎・能)	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ダンス・現代舞踊	227	19.4	17.2	32.2	25.1	22.0	4.8	21.6	5.3	2.2	11.5	13.2
性別	パフォーマンス	15	0.0	13.3	33.3	13.3	20.0	6.7	20.0	20.0	6.7	13.3	20.0
	男性	316	17.1	13.3	33.9	18.0	20.6	3.8	15.5	3.5	2.2	19.0	6.6
	女性	937	17.9	14.5	36.9	22.5	25.5	5.2	19.5	7.4	2.0	14.6	5.8
年齢層	18歳未満	51	3.9	11.8	23.5	21.6	27.5	7.8	51.0	3.9	0.0	9.8	5.9
	18～29歳	97	8.2	17.5	41.2	32.0	21.6	7.2	30.9	1.0	1.0	17.5	3.1
	30歳代	152	20.4	17.1	40.1	31.6	27.6	7.2	27.0	12.5	2.6	9.9	2.0
	40歳代	228	21.1	12.7	36.8	20.2	31.1	5.3	21.1	11.4	1.8	11.0	3.5
	50歳代	260	20.4	15.4	43.5	21.2	25.4	4.6	18.8	4.6	1.9	11.2	3.1
	60歳以上	388	17.8	13.7	29.6	16.0	17.0	3.4	6.4	4.1	2.1	26.5	9.0
チケットクラブ	加入	285	20.0	4.6	40.4	21.4	27.4	2.8	18.2	3.9	2.8	16.1	5.6
	未加入	939	17.0	17.4	35.1	21.6	23.5	5.4	18.8	7.2	1.8	15.4	5.8
鑑賞経験	今日が初めて	226	16.4	20.4	33.2	33.2	18.6	4.9	19.0	6.2	3.1	12.4	5.3
	1～2回	192	21.4	18.8	28.6	25.5	24.0	5.7	16.7	9.9	1.6	15.1	4.7
	3～5回	283	17.0	15.2	37.8	19.4	21.9	6.0	21.6	8.5	1.4	15.2	5.3
	6～10回	214	21.0	12.6	40.7	15.9	27.6	6.5	15.0	6.1	1.4	15.0	6.1
	11回以上	321	15.0	6.5	38.6	16.8	29.0	2.5	18.4	2.8	2.8	18.4	8.1
参考	15年度調査結果	1989	18.6	14.8	32.6	25.7	19.3	4.7	19.4	5.0	2.8	12.3	13.1

参考 | 調查票

お帰りの際にロビー備え付けの回収箱にお入れいただくか、後日、郵送（下記住所宛）もしくはファックスにてご返送ください。

FAX 送付先：
093-562-2633

北九州芸術劇場 アンケート係 〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11 TEL: 093-562-2620

本日は、北九州芸術劇場の公演にご来場いただき、誠にありがとうございます。皆様の声を今後の事業に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

すべての設問にご回答いただいた方々の中から抽選で、「△△△△」の招待券をペアで5組・10名の方に差し上げます。なお、当選者の発表は当選通知の発送にかえさせていただきます。

Q 1 今日の公演は何でお知りになりましたか。（〇はいくつでも）

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1 雑誌・タウン情報誌（誌名：_____） | 2 新聞（紙名：_____） |
| 3 TV・ラジオ | 4 北九州市 市政だより |
| 5 街中のチラシ・ポスター | 6 郵送やEメールでのダイレクトメール |
| 7 他の公演会場で配布されたチラシ | 8 ホームページ、ブログ |
| 9 Facebook、TwitterなどのSNS | 10 友人・知人から聞いた |
| 11 出演者、公演関係者から聞いた | 12 その他（具体的に_____） |

Q 2 今日の公演に来られた主な理由をお聞かせください。（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 出演者、出演団体が好きだから | 2 出演者、出演団体が有名だから |
| 3 公演内容が面白そうだったから | 4 劇場に来てみたかったから |
| 5 劇場が近くだったから | 6 出演者や関係者が知り合いだから |
| 7 人に誘われたから | 8 人に勧められたから |
| 9 その他（具体的に_____） | |

Q 3 今日の公演や北九州芸術劇場についてあなたのご意見をお聞かせください。（〇は各項目ひとつずつ）

	1 たいへん 満足	2 まあ 満足	3 少し 不満足	4 まったく 不満足
（記入見本）	1	②	3	4
本日の公演内容	1	2	3	4
本日の公演のチケット料金	1	2	3	4
公演情報の入手のしやすさ	1	2	3	4
チケットの予約・購入のしやすさ	1	2	3	4
（北九州芸術劇場の）電話予約やチケットカウンターでの対応	1	2	3	4
劇場係員の対応	1	2	3	4
劇場の入り口や案内表示のわかりやすさ	1	2	3	4
劇場やロビーのデザイン、雰囲気	1	2	3	4
劇場ロビーの飲食サービス	1	2	3	4

Q 4 総合的にみて北九州芸術劇場に対するあなたのご意見をお聞かせください。（〇はひとつ）

- 1 たいへん満足している 2 まあ満足している 3 あまり満足していない 4 まったく満足していない

Q 5 北九州芸術劇場は次のような方針で運営しています。あなたのご意見をお聞かせください。

（〇は各項目ひとつだけ）

		1 ぜひやって ほしい	2 まあやっ てほしい	3 あまり やる必要 はない	4 まったくや る必要がな い
観る	東京、大阪など舞台芸術の先進都市からエンターテインメント性や芸術性の高い‘旬’の舞台作品を招きます	1	2	3	4
創る	劇場のオリジナル・プロデュースで本格的な舞台作品を創ります	1	2	3	4
育つ	アーティストを劇場の外に派遣するなどの活動を通じて、地域に舞台芸術を愛する人が根づく土壌を作ります	1	2	3	4
支える	市民の文化活動の支援や、地元劇団等の創作活動の支援を行います	1	2	3	4

Q6 今日の公演前に飲食やショッピングをされましたか。また公演後される予定ですか。(○はひとつ)

- 1 はい
2 いいえ
「1 はい」とお答えになった方へ。だいたいいくらぐらい
お使いになりましたか。あるいはお使いになる予定ですか。
飲食とショッピングの別にご記入ください。

飲食 円ぐらい

ショッピング 円ぐらい

Q7 日頃、コンサートや演劇などの公演にどのくらいの頻度でお出かけになっていますか。(○はひとつだけ)

- 1 今日が初めて 2 ほとんど行かない 3 年に1~2回程度 4 年に3~4回程度
5 年に5~9回程度 6 月に1回程度 7 月に2回程度 8 月に3回以上

Q8 では、今までに北九州芸術劇場で何回ぐらい公演をご覧になりましたか。(○はひとつ)

- 1 今日が初めて 2 1~2回 3 3~5回 4 6~10回 5 11回以上

Q9 あなたは当財団のチケットクラブQ会員ですか。(○はひとつ)

- 1 はい 2 いいえ (→今後入会をお考えですか 1 はい 2 いいえ)

Q10 コン서트や演劇などの公演に出かけるのに、何が妨げになっていますか。(○はいくつでも)

- 1 見たい作品が少ない 2 いつ何をやっているか情報がない
3 チケット代金が高い 4 会場が遠い
5 開催時間が合わない 6 まわりに一緒に見に行く人がいない
7 仕事や勉強で忙しい 8 子どもや家族がいて出かけられない
9 その他(具体的に) 10 特に妨げは感じない

Q11 お住まいのエリアをお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 北九州市 2 北九州市周辺(直方市、田川市、行橋市、中間市、宗像市、福津市、宮若市、遠賀郡等)
3 福岡市 4 福岡市周辺(筑紫野市、春日市、大野城市、太宰府市、古賀市、糸島市、糟屋郡等)
5 上記以外の福岡県内(具体的に) 6. 福岡県以外の九州(具体的に)
7 下関市 8 下関市以外の山口県(具体的に)
9 その他(具体的に)

Q12 ご性別をお答えください。(○はひとつだけ)

- 1 男性 2 女性

Q13 ご年齢をお答えください。

ご年齢 歳

Q14 最後に、北九州芸術劇場へのご要望などについて自由にご記入ください。

※本日の座席番号 階 列 番

お名前とご連絡先のご記入をお願いします。(招待券の抽選への参加にはご記入が必要です。ご記入頂いた情報は、招待券の抽選・発送と劇場及び演劇関係者からのご案内の目的以外には一切使いません)

■お名前 (フリガナ)

■ご住所 〒

■Tel ■E-mail

今後、北九州市芸術文化振興財団が主催する公演のご案内をお送りする場合がありますが、よろしいですか。

- 1 すでに届いている 2 はい(郵送で・E-mailで・両方で) 3 いいえ

ご協力ありがとうございました。劇場スタッフ一同、またのご来場を心よりお待ちしております。

II

貸館利用者 調査結果

序 利用者調査の実施要領

貸館利用者調査の実施要領

(1) 調査の手法

- 調査の対象:2016年度の貸館利用者(大ホール、中劇場、小劇場)
- 配布・回収方法:利用当日に配布、回収(後日ファックス、郵送での回収も受付)
- 配布件数:244件
- 回答数(回収率):171件(70.1%)

(2) 集計・分析にあたっての留意事項

- 貸館利用者調査(「施設利用に関するアンケート調査」)は、2005年度から北九州芸術劇場が独自に開始し、2006年度からは北九州市の方針により、北九州芸術劇場、響ホール、門司市民会館、若松市民会館、八幡市民会館の5館で共通の調査票を用いた調査を実施することとなった。
- 調査票は、2005年度に北九州芸術劇場で実施した調査票に基づき、2006年度から5館共通の調査票を再設計している。そのため、共通の項目が多い一方、統合できない項目もある。
- 2009年度から、満足度項目のうち、運営・応対面に関する項目を若干変更している。また、「Q4:劇場を利用したきっかけ」を新たに設けている。

(3) 調査項目

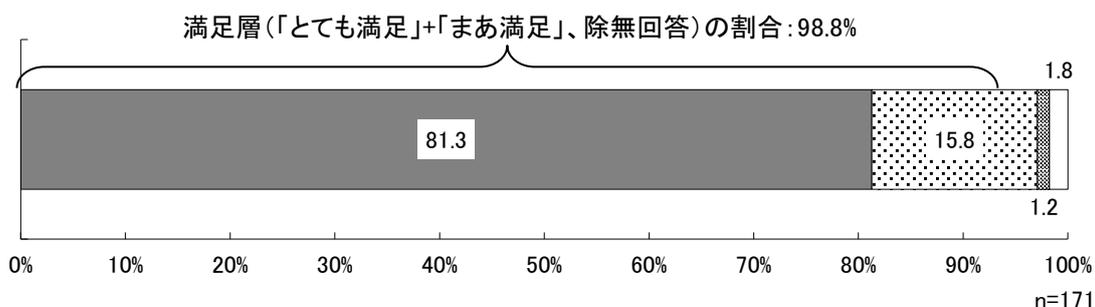
- 劇場の使いごちに対する総合的な満足度
- 劇場の施設に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 劇場の運営や応対に関する意見(「はい」「どちらかといえばはい」「どちらかといえばいいえ」「いいえ」で回答)
- 施設を利用する際重視すること
- うち最も重視すること、2番目に重視すること
- 劇場を利用したきっかけ
- その他自由回答

利用者調査結果

(1) 劇場の使いごちに関する総合的な満足度

Q1

北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的な満足度は、「とても満足している」が81.3%(139件)、「まあ満足している」が15.8%(27件)であり、無回答を除いた満足層の割合は98.8%(166件)である。劇場利用者の満足度は大変高い。
 経年変化でみると、09年度以降で「とても満足している」回答の割合が、15年度に次いで2番目に高い割合となっている。



■とても満足している □まあ満足している ■あまり満足していない ▨まったく満足していない □無回答

	調査数	Q1 使いごちに関する総合的な意見				
		とても満足している	まあ満足している	あまり満足していない	まったく満足していない	無回答
16年度	171	139	27	2	0	3
	100.0	81.3	15.8	1.2	0.0	1.8
15年度	170	142	22	1	0	5
	100.0	83.5	12.9	0.6	0.0	2.9
14年度	135	101	27	1	0	6
	100.0	74.8	20.0	0.7	0.0	4.4
13年度	152	115	33	1	0	3
	100.0	75.7	21.7	0.7	0.0	2.0
12年度	165	131	29	1	0	4
	100.0	79.4	17.6	0.6	0.0	2.4
11年度	163	120	36	1	0	6
	100.0	73.6	22.1	0.6	0.0	3.7
10年度	145	102	39	0	1	3
	100.0	70.3	26.9	0.0	0.7	2.1
09年度	149	113	31	2	0	3
	100.0	75.8	20.8	1.3	0.0	2.0

満足層
166
98.8

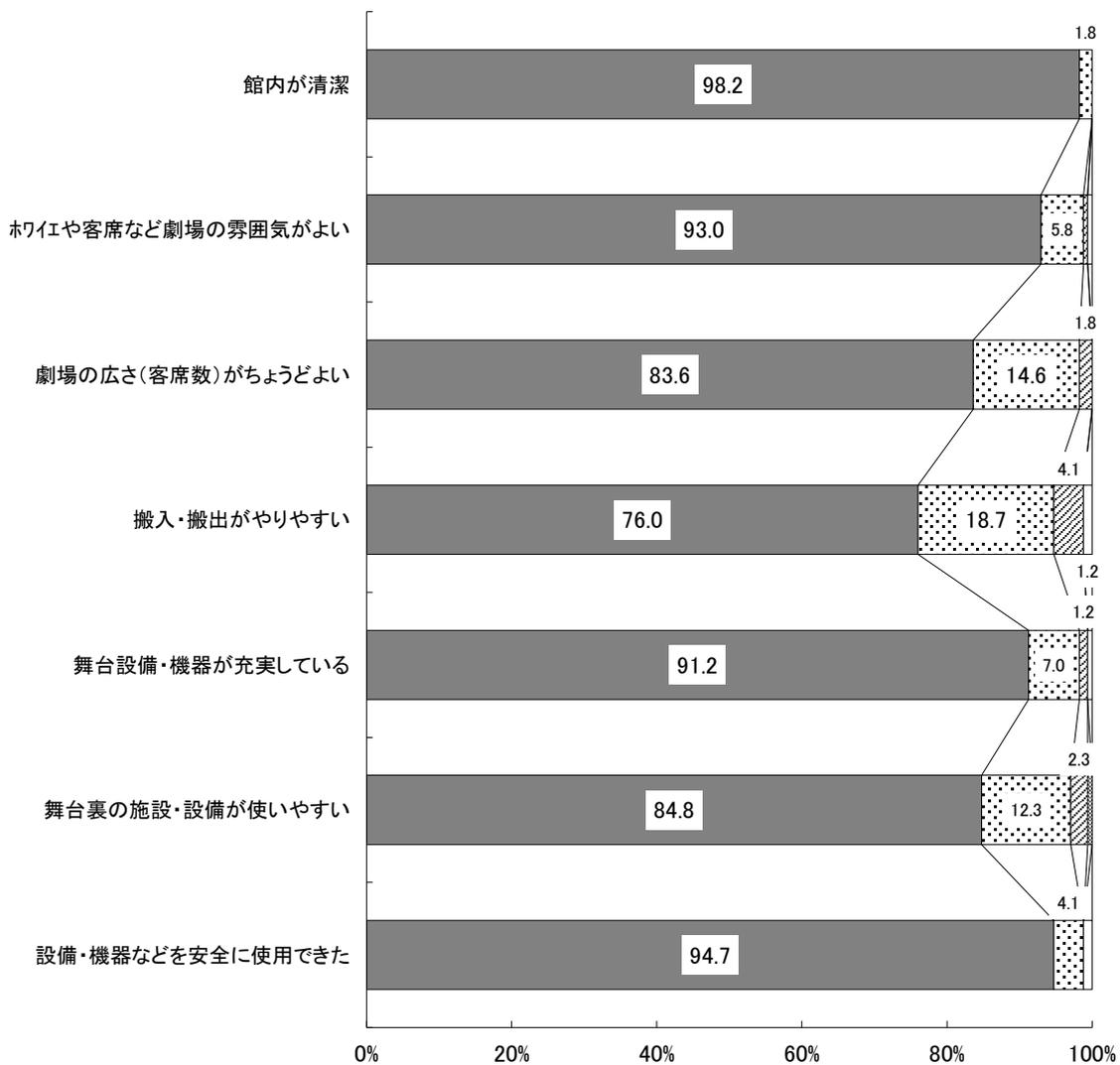
※ 回答母数が少ないので、回答件数と%を併記する。
 ※ 表の上段は件数、下段は%である。また、網掛け部分は、最も回答が多い項目である。
 ※ 集計表には、参考として09年度～15年度の各年度の数字を掲載している。

劇場の施設に関する7項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「館内が清潔」、「設備・機器など安全に使用できた」の2項目で100%となっており、他の5項目は、95%以上となっている。

「はい」の割合をみると、「館内が清潔」、「ホワイエや客席など劇場の雰囲気が良い」、「舞台設備・機器が充実している」、「設備・機器などを安全に使用できた」の5項目は、「はい」の割合が90%以上となっており、施設に関する評価は大変高い。とくに、「館内が清潔」での「はい」の割合が98.2%で、09年度以降で最も高い割合となっている。

開館以来、他の項目に比べると「はい」への回答割合が低い「搬入・搬出がしやすい」だが、最も評価が低い10年度(69.0%)に比べて16年度は高い(76.0%)が、09年度以降で最も高い割合だった昨年度(78.2%)に比べると若干低くなっている。

「はい」への回答割合を昨年度と比較すると、「館内が清潔」以外の6項目は低くなっていることがわかる。中でも「舞台裏の施設・設備が使いやすい」が、15年度の90.6%から16年度の84.8%に低下している。

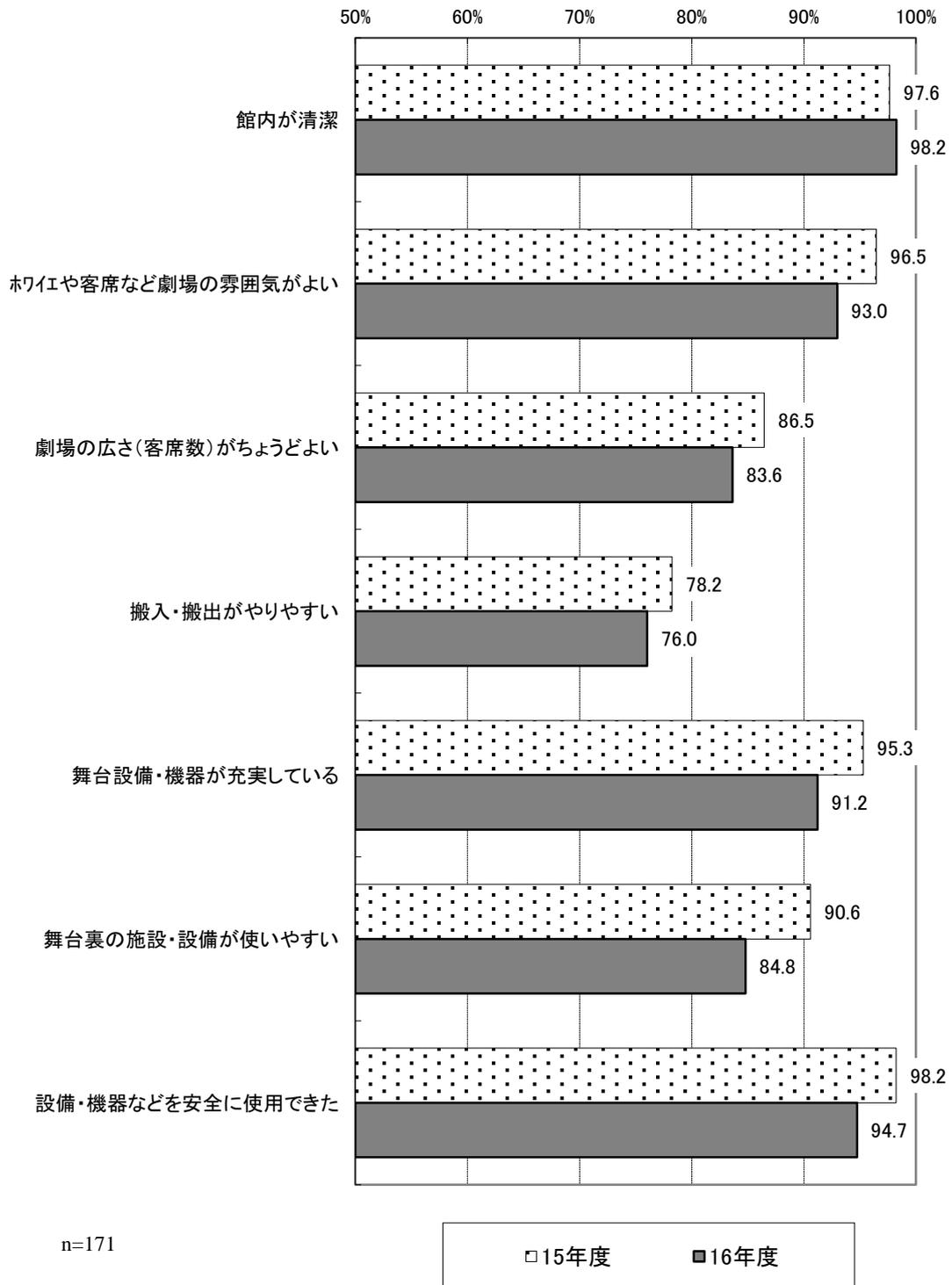


n=171

※グラフの見やすさを優先するため、1.0%未満の数値は省略している。

■「はい」 □「どちらかといえば『はい』」 ▨「どちらかといえば『いいえ』」 ▩「『いいえ』」 □無回答

【「はい」の割合比較 15年度・16年度】



【館内が清潔】

	調査数	Q2-施設① 館内が清潔				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	168 98.2	3 1.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
15年度	170 100.0	166 97.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	148 97.4	4 2.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	161 97.6	4 2.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	159 97.5	4 2.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	142 97.9	3 2.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	6 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

171
100.0

※ 満足層は、「はい」+「どちらかといえば『はい』」の割合。無回答を除く。

【ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい】

	調査数	Q2-施設② ホワイエや客席など劇場の雰囲気がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	159 93.0	10 5.8	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	164 96.5	5 2.9	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	130 96.3	4 3.0	1 0.7	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	142 93.4	9 5.9	1 0.7	0 0.0	0 0.0
12年度	165 100.0	160 97.0	5 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
11年度	163 100.0	152 93.3	11 6.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
10年度	145 100.0	140 96.6	5 3.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
09年度	149 100.0	141 94.6	7 4.7	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

169
99.4

【劇場の広さ(客席数)がちょうどよい】

	調査数	Q2-施設③ 劇場の広さ(客席数)がちょうどよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	143 83.6	25 14.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0
15年度	170 100.0	147 86.5	18 10.6	3 1.8	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	116 85.9	13 9.6	1 0.7	4 3.0	1 0.7
13年度	152 100.0	132 86.8	14 9.2	5 3.3	1 0.7	0 0.0
12年度	165 100.0	144 87.3	17 10.3	2 1.2	1 0.6	1 0.6
11年度	163 100.0	128 78.5	26 16.0	6 3.7	3 1.8	0 0.0
10年度	145 100.0	119 82.1	18 12.4	3 2.1	4 2.8	1 0.7
09年度	149 100.0	131 87.9	16 10.7	1 0.7	1 0.7	0 0.0

満足層

168
98.2

【搬入・搬出がやりやすい】

	調査数	Q2-施設④ 搬入・搬出がやりやすい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	130 76.0	32 18.7	7 4.1	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	133 78.2	30 17.6	5 2.9	2 1.2	0 0.0
14年度	135 100.0	104 77.0	20 14.8	7 5.2	1 0.7	3 2.2
13年度	152 100.0	110 72.4	37 24.3	4 2.6	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	126 76.4	29 17.6	6 3.6	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	126 77.3	24 14.7	8 4.9	2 1.2	3 1.8
10年度	145 100.0	100 69.0	32 22.1	9 6.2	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	111 74.5	23 15.4	9 6.0	3 2.0	3 2.0

満足層

162
95.9

【舞台設備・機器が充実している】

	調査数	Q2-施設⑤ 舞台設備・機器が充実している				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	156 91.2	12 7.0	2 1.2	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	162 95.3	8 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
14年度	135 100.0	125 92.6	6 4.4	2 1.5	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	150 90.9	13 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	151 92.6	11 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100.0	128 88.3	15 10.3	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	144 96.6	3 2.0	1 0.7	0 0.0	1 0.7

満足層

168
98.8

【舞台裏の施設・設備が使いやすい】

	調査数	Q2-施設⑥ 舞台裏の施設・設備が使いやすい				
		「はい」	どちらかといえは「はい」	どちらかといえは「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	145 84.8	21 12.3	4 2.3	1 0.6	0 0.0
15年度	170 100.0	154 90.6	13 7.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	125 92.6	7 5.2	2 1.5	1 0.7	0 0.0
13年度	152 100.0	133 87.5	16 10.5	2 1.3	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	144 87.3	15 9.1	5 3.0	0 0.0	1 0.6
11年度	163 100.0	135 82.8	21 12.9	4 2.5	1 0.6	2 1.2
10年度	145 100.0	119 82.1	22 15.2	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	121 81.2	22 14.8	4 2.7	0 0.0	2 1.3

満足層

166
97.1

【設備・機器などを安全に使用できた】

	調査数	Q2-施設⑦ 設備・機器などを安全に使用できた				無回答
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	
16年度	171 100.0	162 94.7	7 4.1	0 0.0	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	167 98.2	2 1.2	0 0.0	1 0.6	0 0.0
14年度	135 100.0	127 94.1	7 5.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	142 93.4	8 5.3	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	153 93.9	8 4.9	1 0.6	0 0.0	1 0.6
10年度	145 100	134 92.4	9 6.2	0 0.0	0 0.0	2 1.4
09年度	149 100.0	142 95.3	7 4.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

満足層

169
100.0

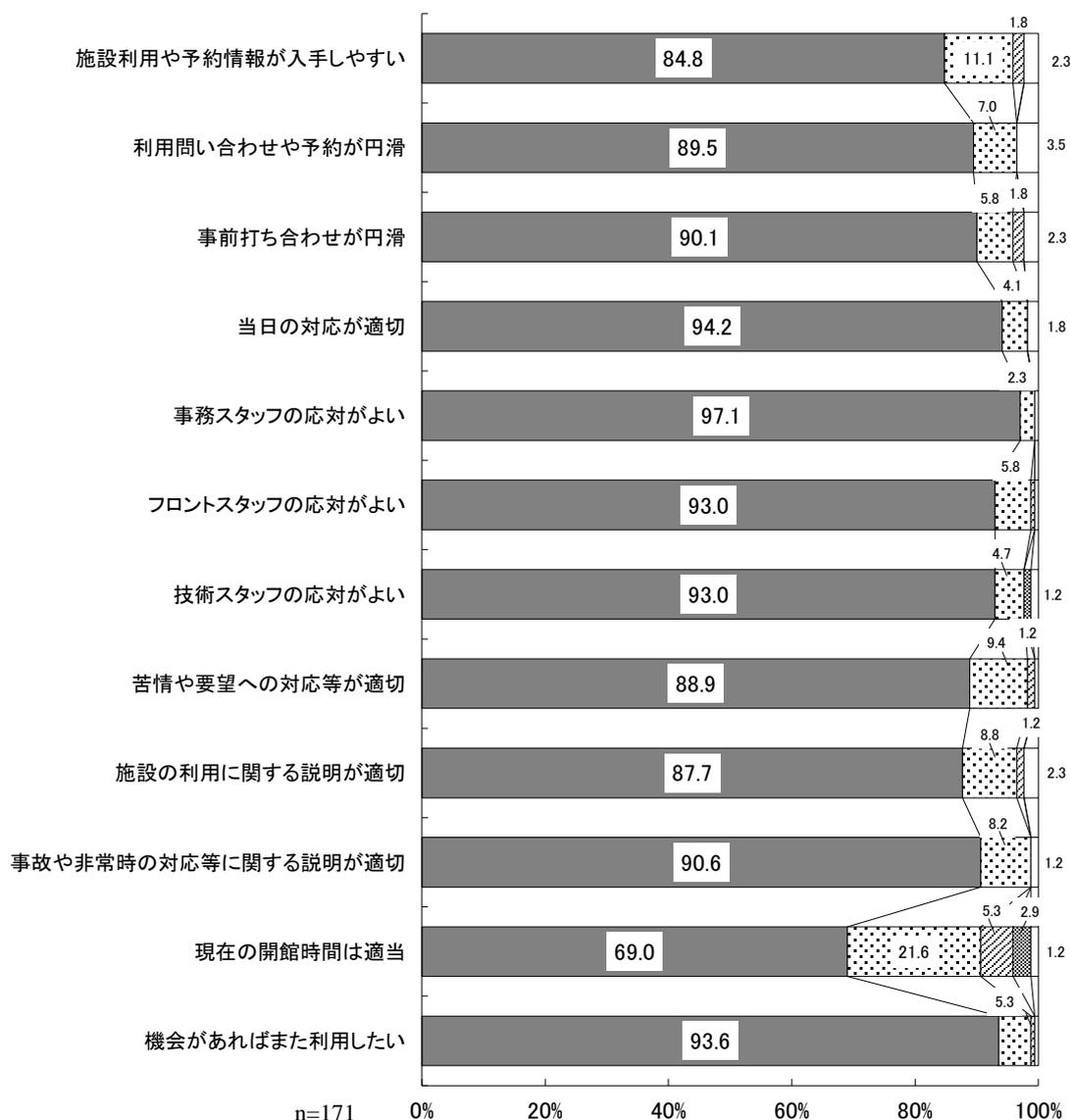
劇場の運営や対応に関する12項目についての意見をみると、肯定的な評価(「はい」+「どちらかといえば『はい』」)の割合は、「現在の開館時間は適当」以外の11項目で98%以上となっている。「利用問い合わせや予約が円滑」、「当日の対応が適切」、「事務スタッフの対応がよい」、「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」については、肯定的な評価が100%と高い評価となっている。

特に、当日の対応や事務スタッフ、フロントスタッフ、技術スタッフの対応に関する項目に「はい」の回答が多い。

「現在の開館時間は適当」については、他の項目に比べると、「どちらかといえば『いいえ』」(5.3%・9件)、「いいえ」(2.9%・5件)の回答が多くなっている。

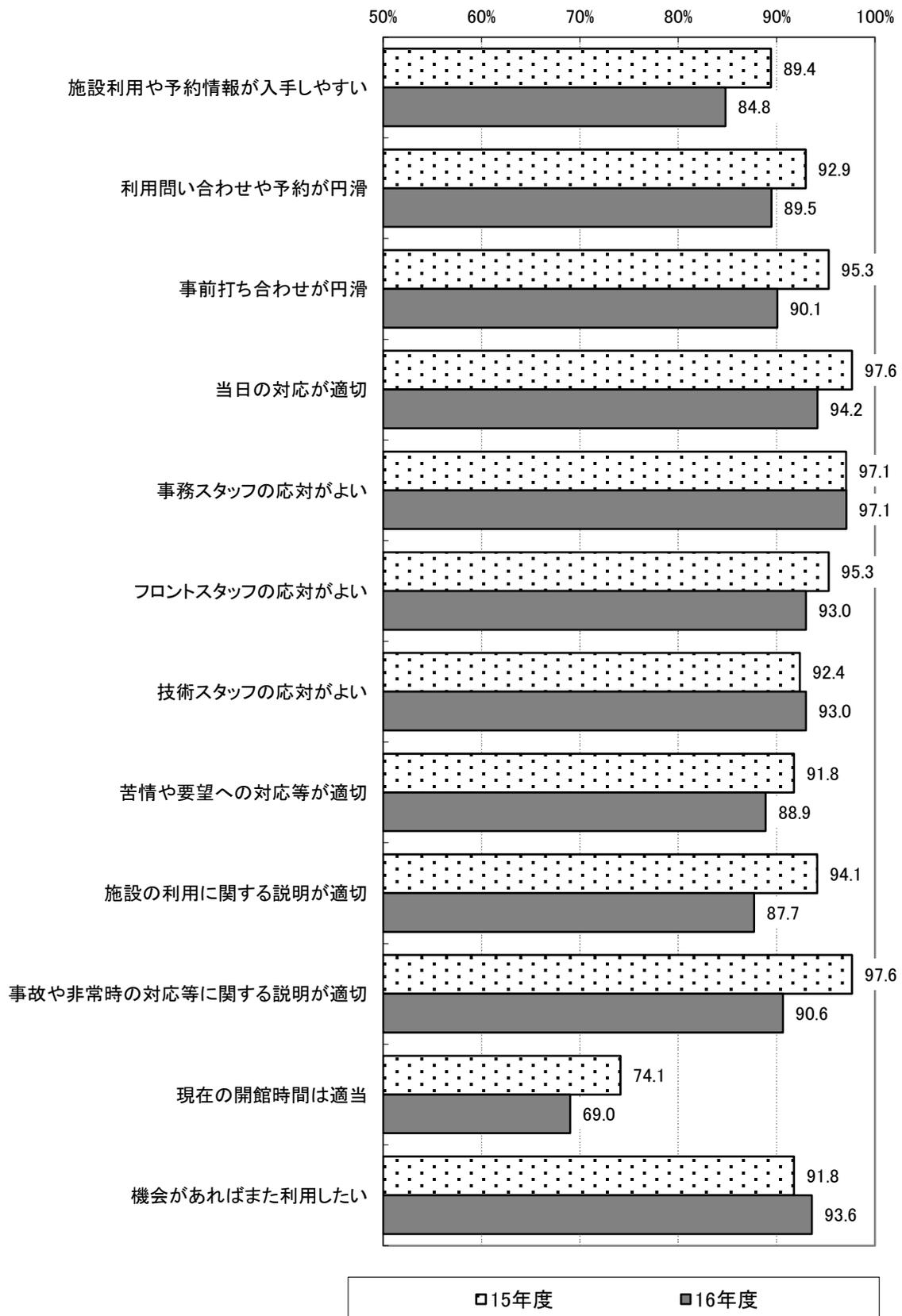
今後の利用への意向は、「機会があればまた利用したい」に対して「はい」と回答した割合が93.6%(160件)となっている。

16年度は、「技術スタッフの対応がよい」、「機会があればまた利用したい」の2項目では15年度に比べて「はい」への回答率が向上し、「事務スタッフの対応がよい」は同率だが、それ以外の項目は「はい」への回答率は下がっている。特に「事故や非常時の対応等に関する説明が適切」が15年度は97.6%だったが、16年度は90.6%となっている。



■「はい」 □どちらかといえば「はい」 ▨どちらかといえば「いいえ」 ▩「いいえ」 □無回答

【「はい」の割合比較 15年度・16年度】



【施設利用や予約情報が入手しやすい】

	調査数	Q2-運営・対応① 施設利用や予約情報が入手しやすい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	145 84.8	19 11.1	3 1.8	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	152 89.4	14 8.2	1 0.6	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	120 88.9	9 6.7	0 0.0	0 0.0	6 4.4
13年度	152 100.0	138 90.8	12 7.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	146 88.5	15 9.1	1 0.6	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	132 81.0	23 14.1	3 1.8	0 0.0	5 3.1
10年度	145 100.0	112 77.2	26 17.9	0 0.0	1 0.7	6 4.1
09年度	149 100.0	131 87.9	17 11.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

164

98.2

【利用問い合わせや予約が円滑】

	調査数	Q2-運営・対応② 利用問い合わせや予約が円滑				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	153 89.5	12 7.0	0 0.0	0 0.0	6 3.5
15年度	170 100.0	158 92.9	8 4.7	0 0.0	0 0.0	4 2.4
14年度	135 100.0	125 92.6	5 3.7	0 0.0	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	138 90.8	11 7.2	0 0.0	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	4 2.4	1 0.6	0 0.0	5 3.0
11年度	163 100.0	140 85.9	13 8.0	4 2.5	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	122 84.1	13 9.0	1 0.7	2 1.4	7 4.8
09年度	149 100.0	136 91.3	10 6.7	1 0.7	0 0.0	2 1.3

満足層

165

100.0

【事前打ち合わせが円滑】

	調査数	Q2-運営・対応③ 事前打ち合わせが円滑				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	154 90.1	10 5.8	3 1.8	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	162 95.3	6 3.5	0 0.0	1 0.6	1 0.6
14年度	135 100.0	125 92.6	2 1.5	3 2.2	0 0.0	5 3.7
13年度	152 100.0	137 90.1	8 5.3	3 2.0	1 0.7	3 2.0
12年度	165 100.0	150 90.9	9 5.5	1 0.6	1 0.6	4 2.4
11年度	163 100.0	145 89.0	11 6.7	2 1.2	1 0.6	4 2.5
10年度	145 100.0	120 82.8	18 12.4	2 1.4	3 2.1	2 1.4
09年度	149 100.0	129 86.6	13 8.7	5 3.4	0 0.0	2 1.3

満足層

164

98.2

【当日の対応が適切】

	調査数	Q2-運営・対応④ 当日の対応が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	161 94.2	7 4.1	0 0.0	0 0.0	3 1.8
15年度	170 100.0	166 97.6	3 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	131 97.0	4 3.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	144 94.7	5 3.3	1 0.7	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	1 0.6	2 1.2
11年度	163 100.0	149 91.4	9 5.5	2 1.2	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100.0	135 93.1	7 4.8	0 0.0	2 1.4	1 0.7
09年度	149 100.0	138 92.6	10 6.7	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

168

100.0

【事務スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑤ 事務スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	166 97.1	4 2.3	0 0.0	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	165 97.1	4 2.4	0 0.0	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	132 97.8	3 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	156 94.5	7 4.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	153 93.9	7 4.3	1 0.6	0 0.0	2 1.2
10年度	145 100.0	137 94.5	6 4.1	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	143 96.0	5 3.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

満足層

170

100.0

【フロントスタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑥ フロントスタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	159 93.0	10 5.8	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	162 95.3	6 3.5	0 0.0	0 0.0	2 1.2
14年度	135 100.0	132 97.8	2 1.5	1 0.7	0 0.0	0 0.0
13年度	152 100.0	146 96.1	5 3.3	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	156 94.5	6 3.6	0 0.0	0 0.0	3 1.8
11年度	163 100.0	147 90.2	11 6.7	0 0.0	0 0.0	5 3.1
10年度	145 100.0	132 91.0	11 7.6	0 0.0	2 1.4	0 0.0
09年度	149 100.0	136 91.3	8 5.4	2 1.3	0 0.0	3 2.0

満足層

169

99.4

【技術スタッフの対応がよい】

	調査数	Q2-運営・対応⑦ 技術スタッフの対応がよい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	159 93.0	8 4.7	0 0.0	2 1.2	2 1.2
15年度	170 100.0	157 92.4	8 4.7	2 1.2	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	130 96.3	3 2.2	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	144 94.7	6 3.9	0 0.0	1 0.7	1 0.7
12年度	165 100.0	153 92.7	8 4.8	0 0.0	1 0.6	3 1.8
11年度	163 100.0	145 89.0	13 8.0	1 0.6	0 0.0	4 2.5
10年度	145 100.0	127 87.6	10 6.9	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

167
98.8

【苦情や要望への対応等が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑧ 苦情や要望への対応等が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	152 88.9	16 9.4	2 1.2	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	156 91.8	11 6.5	0 0.0	0 0.0	3 1.8
14年度	135 100.0	127 94.1	3 2.2	1 0.7	0 0.0	4 3.0
13年度	152 100.0	140 92.1	8 5.3	1 0.7	0 0.0	3 2.0
12年度	165 100.0	155 93.9	5 3.0	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	1 0.6	0 0.0	6 3.7
10年度	145 100.0	128 88.3	13 9.0	0 0.0	2 1.4	2 1.4
09年度	149 100.0	131 87.9	14 9.4	1 0.7	0 0.0	3 2.0

満足層

168
98.8

【施設の利用に関する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑨ 施設の利用に関する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	150 87.7	15 8.8	2 1.2	0 0.0	4 2.3
15年度	170 100.0	160 94.1	5 2.9	0 0.0	0 0.0	5 2.9
14年度	135 100.0	120 88.9	6 4.4	1 0.7	1 0.7	7 5.2
13年度	152 100.0	139 91.4	9 5.9	0 0.0	0 0.0	4 2.6
12年度	165 100.0	152 92.1	7 4.2	0 0.0	0 0.0	6 3.6
11年度	163 100.0	144 88.3	10 6.1	2 1.2	0 0.0	7 4.3
10年度	145 100.0	120 82.8	16 11.0	4 2.8	0 0.0	5 3.4
09年度	149 100.0	128 85.9	17 11.4	2 1.3	0 0.0	2 1.3

満足層

165
98.8

【事故や非常時の対応等に対する説明が適切】

	調査数	Q2-運営・対応⑩ 事故や非常時の対応等に対する説明が適切				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	155 90.6	14 8.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
15年度	170 100.0	166 97.6	2 1.2	0 0.0	0 0.0	2 1.2
14年度	135 100.0	128 94.8	5 3.7	0 0.0	0 0.0	2 1.5
13年度	152 100.0	141 92.8	9 5.9	0 0.0	0 0.0	2 1.3
12年度	165 100.0	154 93.3	6 3.6	1 0.6	0 0.0	4 2.4
11年度	163 100.0	143 87.7	13 8.0	4 2.5	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100.0	124 85.5	16 11.0	1 0.7	0 0.0	4 2.8
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	0 0.0	0 0.0	1 0.7

満足層

169
100.0

【現在の開館時間は適当】

	調査数	Q2-運営・対応⑪ 現在の開館時間は適当				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	118 69.0	37 21.6	9 5.3	5 2.9	2 1.2
15年度	170 100.0	126 74.1	28 16.5	11 6.5	3 1.8	2 1.2
14年度	135 100.0	97 71.9	24 17.8	8 5.9	5 3.7	1 0.7
13年度	152 100.0	98 64.5	34 22.4	13 8.6	5 3.3	2 1.3
12年度	165 100.0	115 69.7	29 17.6	9 5.5	5 3.0	7 4.2
11年度	163 100.0	101 62.0	32 19.6	21 12.9	6 3.7	3 1.8
10年度	145 100.0	86 59.3	28 19.3	21 14.5	7 4.8	3 2.1
09年度	149 100.0	86 57.7	37 24.8	16 10.7	7 4.7	3 2.0

満足層

155
91.7

【機会があればまた利用したい】

	調査数	Q2 機会があればまた利用したい				
		「はい」	どちらかといえば「はい」	どちらかといえば「いいえ」	「いいえ」	無回答
16年度	171 100.0	160 93.6	9 5.3	1 0.6	0 0.0	1 0.6
15年度	170 100.0	156 91.8	12 7.1	1 0.6	0 0.0	1 0.6
14年度	135 100.0	126 93.3	7 5.2	1 0.7	0 0.0	1 0.7
13年度	152 100.0	140 92.1	11 7.2	0 0.0	0 0.0	1 0.7
12年度	165 100.0	155 93.9	6 3.6	2 1.2	0 0.0	2 1.2
11年度	163 100.0	148 90.8	10 6.1	2 1.2	0 0.0	3 1.8
10年度	145 100	120 82.8	17 11.7	1 0.7	2 1.4	5 3.4
09年度	149 100.0	137 91.9	11 7.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0

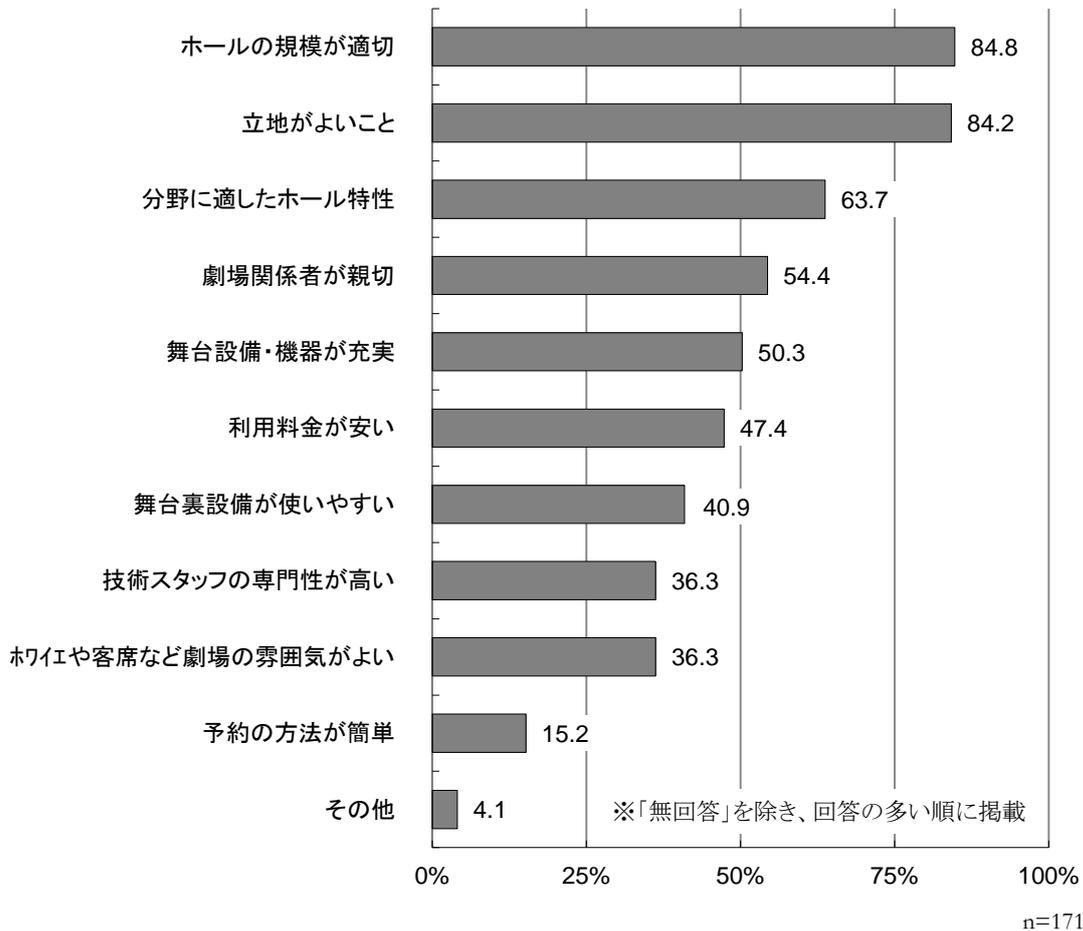
満足層

169
99.4

(4) 施設を利用する際、重視すること

Q3

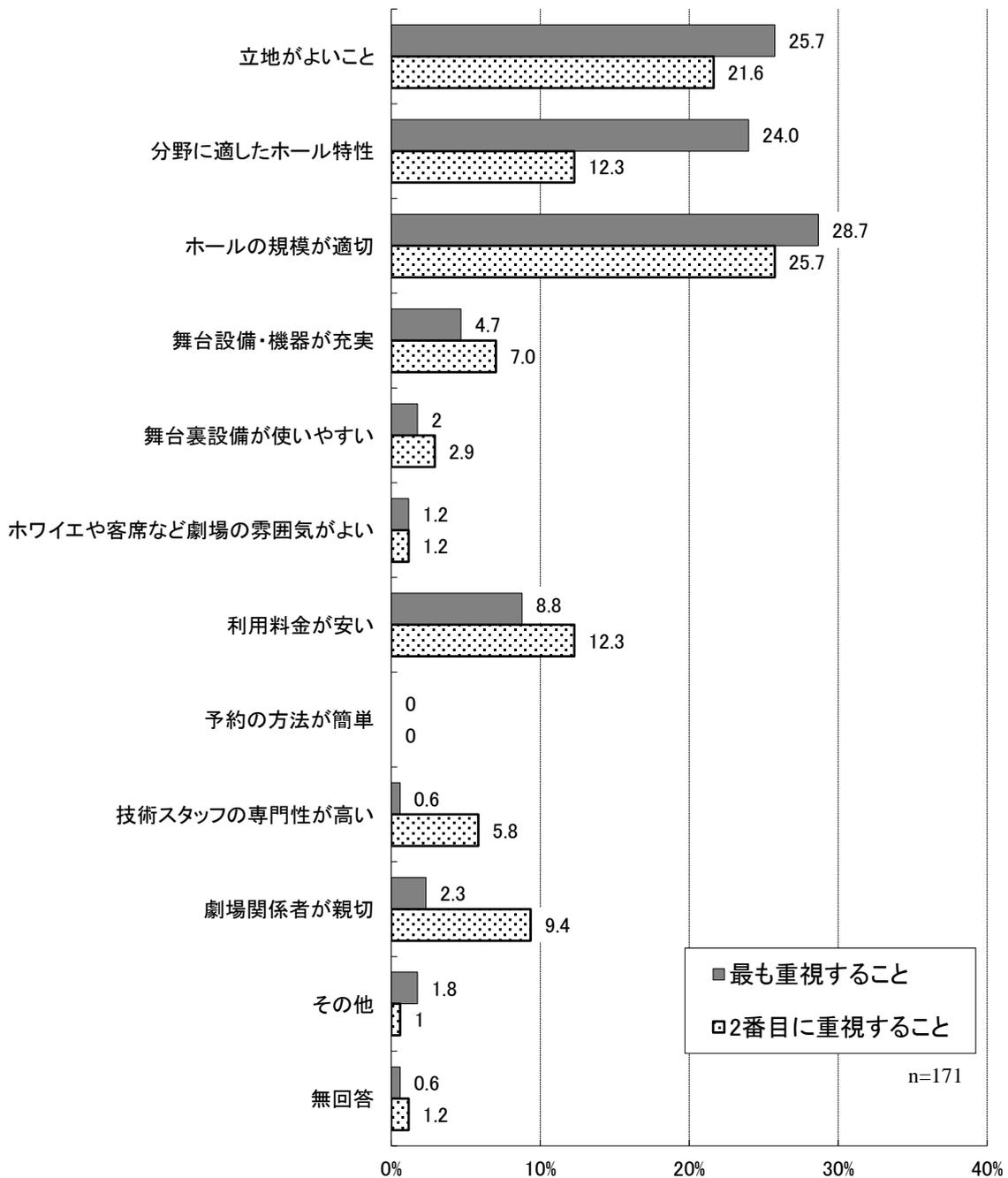
施設を利用する際重視することとして最も回答が多いのは、「ホールの規模が適切」(84.8%・145件)、「立地がよいこと」(84.2%・144件)となっている。次いで、「分野に適したホール特性」が60%台、「劇場関係者が親切」と「舞台設備・機器が充実」が50%台となっている。「舞台設備・機器が充実」は、09年度では59.7%で、年によって回答割合は上下するものの、徐々に低下傾向にある。



	調査数	Q3 施設利用の際、重視すること											無回答
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気が良い	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	
16年度	171	144	109	145	86	70	62	81	26	62	93	7	1
	100.0	84.2	63.7	84.8	50.3	40.9	36.3	47.4	15.2	36.3	54.4	4.1	0.6
15年度	170	143	110	137	88	65	52	91	30	68	90	4	4
	100.0	84.1	64.7	80.6	51.8	38.2	30.6	53.5	17.6	40.0	52.9	2.4	2.4
14年度	135	115	81	105	76	53	52	74	30	56	85	2	2
	100.0	85.2	60.0	77.8	56.3	39.3	38.5	54.8	22.2	41.5	63.0	1.5	1.5
13年度	152	132	83	117	76	64	47	85	31	60	88	8	1
	100.0	86.8	54.6	77.0	50.0	42.1	30.9	55.9	20.4	39.5	57.9	5.3	0.7
12年度	165	140	115	138	99	74	70	87	27	64	98	6	1
	100.0	84.8	69.7	83.6	60.0	44.8	42.4	52.7	16.4	38.8	59.4	3.6	0.6
11年度	163	139	95	130	91	68	73	79	28	55	85	6	2
	100.0	85.3	58.3	79.8	55.8	41.7	44.8	48.5	17.2	33.7	52.1	3.7	1.2
10年度	145	120	71	110	76	48	42	78	26	52	68	2	3
	100.0	82.8	49.0	75.9	52.4	33.1	29.0	53.8	17.9	35.9	46.9	1.4	2.1
09年度	149	129	89	127	89	51	54	84	32	60	87	0	1
	100.0	86.6	59.7	85.2	59.7	34.2	36.2	56.4	21.5	40.3	58.4	0.0	0.7

施設を利用する際に最も重視することは「ホールの規模が適切」(28.7%・49件)が最も多く、次いで「立地が良いこと」(25.7%・44件)、「分野に適したホール特性」(24.0%・41件)と続いており、その他の項目は10%未満である。

2番目に重視することは、「ホールの規模が適切」(25.7%・44件)が最も多く、次いで「立地が良いこと」(21.6%・37件)、「利用料金が安い」と、「分野に適したホール特性」(12.3%・21件)となっている。「利用料金が安い」は、最も重視する割合よりも2番目に重視する割合が高い。



※ Q3・SQ1は回答が一つ(シングル・アンサー)のため、本来であれば帯グラフでの表示が適当であるが、選択肢の数が多いため、見やすさから棒グラフを用いた。

【最も重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-① 最も重視すること											無回答
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	楽屋等舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	
16年度	171	44	41	49	8	3	2	15	0	1	4	3	1
	100.0	25.7	24.0	28.7	4.7	1.8	1.2	8.8	0.0	0.6	2.3	1.8	0.6
15年度	170	42	45	45	5	0	2	18	0	1	5	2	5
	100.0	24.7	26.5	26.5	2.9	0.0	1.2	10.6	0.0	0.6	2.9	1.2	2.9
14年度	135	43	35	31	6	0	2	9	0	1	6	0	2
	100.0	31.9	25.9	23.0	4.4	0.0	1.5	6.7	0.0	0.7	4.4	0.0	1.5
13年度	152	45	40	41	2	1	1	10	0	1	5	4	2
	100.0	29.6	26.3	27.0	1.3	0.7	0.7	6.6	0.0	0.7	3.3	2.6	1.3
12年度	165	49	48	42	6	0	1	8	0	3	6	0	2
	100.0	29.7	29.1	25.5	3.6	0.0	0.6	4.8	0.0	1.8	3.6	0.0	1.2
11年度	163	46	37	44	8	1	1	12	0	2	7	2	3
	100.0	28.2	22.7	27.0	4.9	0.6	0.6	7.4	0.0	1.2	4.3	1.2	1.8
10年度	145	46	30	42	7	1	1	10	0	0	4	1	3
	100.0	31.7	20.7	29.0	4.8	0.7	0.7	6.9	0.0	0.0	2.8	0.7	2.1
09年度	149	38	34	51	4	0	2	11	0	2	5	1	1
	100.0	25.5	22.8	34.2	2.7	0.0	1.3	7.4	0.0	1.3	3.4	0.7	0.7

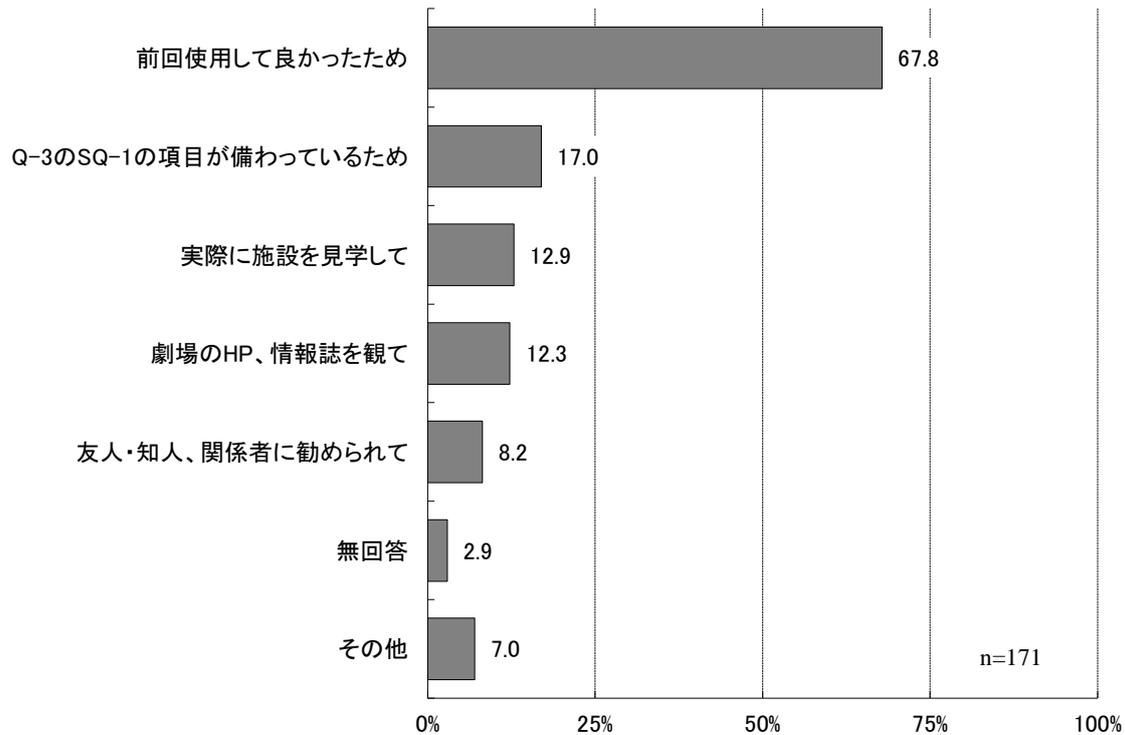
【2番目に重視すること】

	調査数	Q3 SQ1-② 2番目に重視すること											無回答
		立地がよいこと	分野に適したホール特性	ホールの規模が適切	舞台設備・機器が充実	舞台裏設備が使いやすい	劇場の雰囲気がよい	利用料金が安い	予約の方法が簡単	技術スタッフの専門性が高い	劇場関係者が親切	その他	
16年度	171	37	21	44	12	5	2	21	0	10	16	1	2
	100.0	21.6	12.3	25.7	7.0	2.9	1.2	12.3	0.0	5.8	9.4	0.6	1.2
15年度	170	34	19	40	19	3	5	26	0	9	8	0	7
	100.0	20.0	11.2	23.5	11.2	1.8	2.9	15.3	0.0	5.3	4.7	0.0	4.1
14年度	135	23	19	35	9	6	3	21	0	7	7	0	5
	100.0	17.0	14.1	25.9	6.7	4.4	2.2	15.6	0.0	5.2	5.2	0.0	3.7
13年度	152	29	17	34	16	2	5	30	1	5	8	2	3
	100.0	19.1	11.2	22.4	10.5	1.3	3.3	19.7	0.7	3.3	5.3	1.3	2.0
12年度	165	31	16	39	16	9	9	24	0	7	10	0	4
	100.0	18.8	9.7	23.6	9.7	5.5	5.5	14.5	0.0	4.2	6.1	0.0	2.4
11年度	163	39	16	33	17	6	8	30	0	4	6	0	4
	100.0	23.9	9.8	20.2	10.4	3.7	4.9	18.4	0.0	2.5	3.7	0.0	2.5
10年度	145	31	13	28	12	5	5	23	1	5	14	1	7
	100.0	21.4	9.0	19.3	8.3	3.4	3.4	15.9	0.7	3.4	9.7	0.7	4.8
09年度	149	44	17	33	21	2	4	13	2	6	6	0	1
	100.0	29.5	11.4	22.1	14.1	1.3	2.7	8.7	1.3	4.0	4.0	0.0	0.7

(5) 劇場を利用したきっかけ

Q4

劇場を利用したきっかけは、「前回使用して良かったため」への回答が最も多く、67.8%(116件)を占めている。劇場への満足度が高いこと、そのため、リピーターの利用が多いことがうかがえる。次いで、「Q-3のSQ-1の項目が備わっているため」(17.0%・29件)となっており、「ホール規模が適切」や「立地がよいこと」といった上位項目が劇場利用のきっかけになっていると考えられる。



	調査数	Q4 劇場を利用したきっかけ						
		劇場のHP、情報誌を観て	友人・知人、関係者に勧められて	実際に施設を見学して	前回使用して良かったため	Q-3のSQ-1の項目	その他	無回答
16年度	171	21	14	22	116	29	12	5
	100.0	12.3	8.2	12.9	67.8	17.0	7.0	2.9
15年度	170	18	14	13	121	31	9	10
	100.0	10.6	8.2	7.6	71.2	18.2	5.3	5.9
14年度	135	10	13	10	99	32	10	5
	100.0	7.4	9.6	7.4	73.3	23.7	7.4	3.7
13年度	152	16	22	17	109	35	15	2
	100.0	10.5	14.5	11.2	71.7	23.0	9.9	1.3
12年度	165	24	14	24	116	43	6	4
	100.0	14.5	8.5	14.5	70.3	26.1	3.6	2.4
11年度	163	21	20	20	100	37	10	9
	100.0	12.9	12.3	12.3	61.3	22.7	6.1	5.5
10年度	145	23	17	18	85	28	8	9
	100.0	15.9	11.7	12.4	58.6	19.3	5.5	6.2
09年度	149	18	24	23	85	45	10	2
	100.0	12.1	16.1	15.4	57.0	30.2	6.7	1.3

参考 | 利用者調査 調査票

施設利用に関するアンケート調査（ホール用）

このたびは、北九州芸術劇場をご利用いただきありがとうございます。皆様の声を今後の運営に活かしていきたいと思っておりますので、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。なお、本アンケートへの個別のご回答内容が公表されることはありませんので、忌憚ないご意見をお聞かせください。

ご回答は後日ファックスでも受け付けております。

（北九州芸術劇場） TEL093-562-2655/ FAX 093-562-2588

Q-1 今回ご利用されて、北九州芸術劇場の使いごちに関する総合的なご意見はいかがですか。

（〇は1つ）

1. とても満足している 2. まあ満足している 3. あまり満足していない 4. まったく満足していない

（「まったく満足していない」とご回答された方へ） 具体的なお意見をお聞かせください

Q-2 本日もご利用されての北九州芸術劇場に関するご意見をお聞かせください。それぞれの項目について、「はい」、「どちらかといえば、はい」、「どちらかといえば、いいえ」、「いいえ」の4つの回答から、あなたのお考えに一番近いものに〇をつけてください。（〇は各項目1つずつ）

（施設について）

項目	はい	どちらかといえば、 <u>はい</u>	どちらかといえば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、その理由をご記入ください
1 館内は清潔に保たれていましたか。	1	2	3	4	
2 ホワイエや客席など雰囲気よかったですか。	1	2	3	4	
3 広さ（客席数等）はちょうどよかったですか。	1	2	3	4	
4 搬入・搬出がやりやすかったですか。	1	2	3	4	

項目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
5 舞台設備・機器は充実して いましたか。	1	2	3	4	
6 楽屋、休憩室など舞台裏の 施設・設備が使いやすかつ たですか。	1	2	3	4	
7 設備・機器を使用する際、 安全に使用できましたか。	1	2	3	4	

(運営・対応について)

項目	はい	どちらかとい えば、 <u>はい</u>	どちらかとい えば、 <u>いいえ</u>	いいえ	「いいえ」とご回答された方は、 その理由をご記入ください
1 施設利用や予約に関する情報 は入手しやすかったですか。	1	2	3	4	
2 利用問い合わせや予約・受 付は円滑でしたか。	1	2	3	4	
3 事前打合わせは円滑でし たか。	1	2	3	4	
4 当日の対応は適切でした か。	1	2	3	4	
5 事務スタッフの対応はよか ったですか。	1	2	3	4	
6 フロントスタッフの対応は よかったですか。	1	2	3	4	
7 技術スタッフの対応はよか ったですか（技術的な助言 や援助は適切でしたか）。	1	2	3	4	
8 苦情や要望への対応は適切 でしたか。	1	2	3	4	
9 設備、料金、使用時間等施 設の利用に関する説明は適 切でしたか。	1	2	3	4	
10 事故防止や非常時の対応等 に関する説明は適切でした か。	1	2	3	4	
11 現在の開館時間（午前10 時～午後10時）は適当で あると思いますか。	1	2	3	4	
12 次回利用する機会があれ ば、また利用したいと思いますか。	1	2	3	4	

Q-3 施設を利用する際、重視することは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 立地がよいこと
2. 公演分野に適したホール特性(残響、舞台の広さ等)をもっていること
3. ホールの規模(客席数)が適切であること
4. 舞台設備・機器が充実していること
5. 楽屋など舞台裏の設備が使いやすいこと
6. ホワイエや客席などの雰囲気が良いこと
7. 利用料金が安いこと
8. 予約の方法が簡単なこと
9. 技術スタッフの専門性が高いこと
10. スタッフが親切なこと
11. その他(具体的に: _____)

SQ-1 上記10項目の中で、最も重視すること、2番目に重視することは何ですか。

最も重視 すること	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>	2番目に重視 すること	<input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/>
--------------	---	----------------	---

Q-4 北九州芸術劇場をご利用いただいたきっかけ及び理由は何ですか。(〇はいくつでも)

1. 劇場のホームページ、情報誌(チラシなどを含む)を見て
2. 友人・知人、その他関係者に勧められて
3. 実際に施設を見学して
4. 前回使用して良かったため
5. 上記Q-3のSQ-1の項目が備わっているため
6. その他(具体的に: _____)

Q-5 北九州芸術劇場を利用するに当たって、良かったと感じた点、今後改善すべき点と感じた点について、ご意見をお聞かせください。

また、ご利用回数が2回以上の方で前回のご利用と比べ良くなったと感じた点、改善されていないと感じた点についても、ご意見をお聞かせください。

◎ 差し支えなければ、ご記入ください。

①貴団体名(個人の場合はお名前)	
②ご記入者の所属・ご担当業務	
③ご利用日時	年 月 日() ~ 月 日()
④ご利用施設	大ホール・中劇場・小劇場
④北九州芸術劇場の利用回数	1. 初めて 2. 2回目 3. 3回以上 (いずれか1つに〇)

ご協力ありがとうございました。

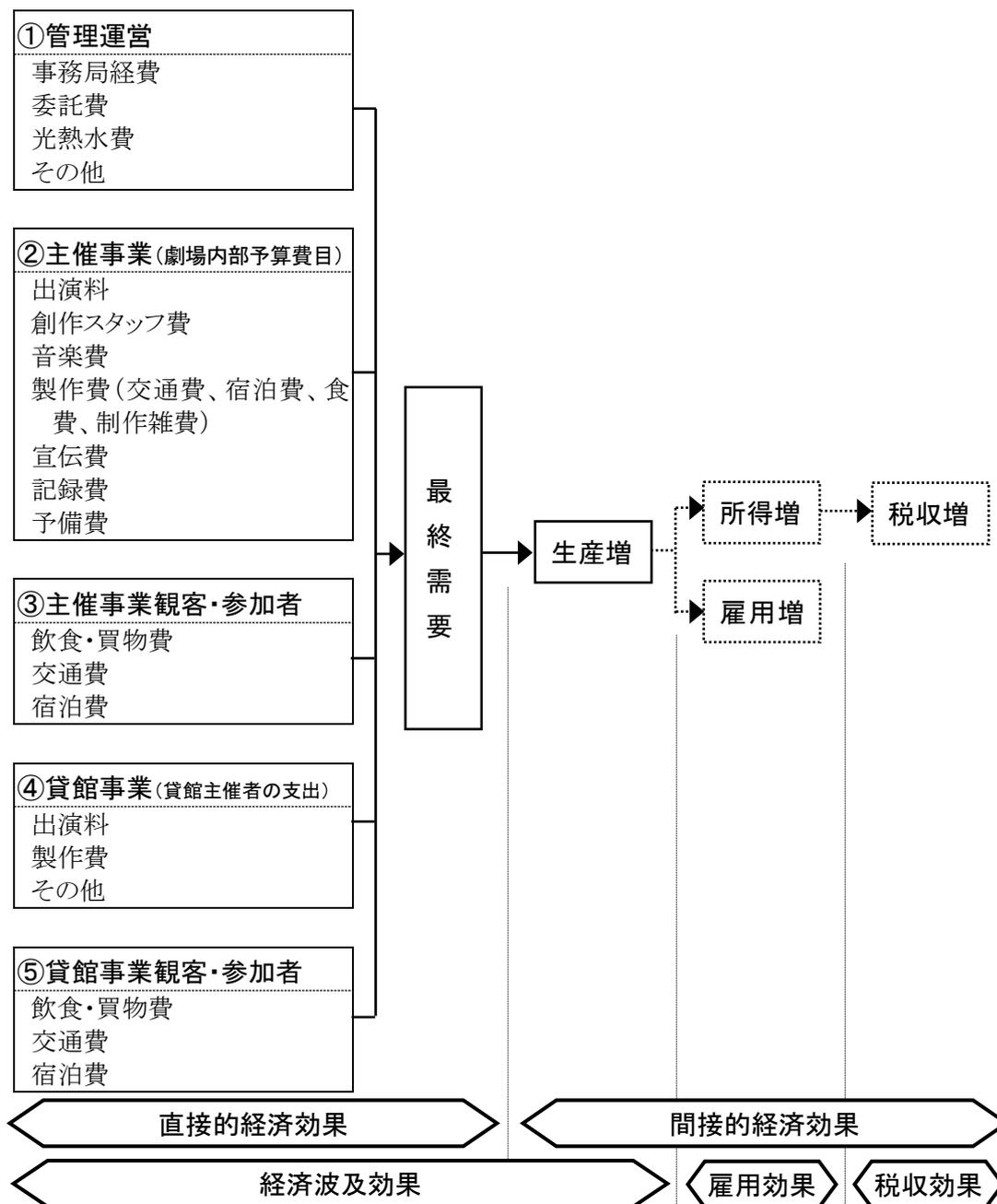
III

經濟波及效果

1. 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果の基本構造

- 北九州芸術劇場の運営に伴う経済波及効果としては、図表-資Ⅲ-1に整理したように5種類の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらからもたらされる所得増、雇用増、税収増などが考えられる。
- 経済波及効果としてどこまでを含めるかについては、ケースバイケースであるが、今回の調査でも、基礎的な経済波及効果として、産業連関表に基づいた生産増に加え、福岡県の雇用表を用いて雇用効果まで試算することとした。

図表-資Ⅲ-1 北九州芸術劇場における経済波及効果の基本構造



- 前記の5種類の支出は、劇場の運営や事業に伴うもの(①、②、④)と、観客の消費支出に伴うもの(③、⑤)に分けられるが、経済波及効果も、それぞれ、劇場の運営や事業の実施に伴う波及効果、観客の消費支出に伴う波及効果、に分けられる。

- 産業連関表に基づいて、経済波及効果を把握するためには、運営や事業に伴う支出、観客の消費支出を、産業連関表の産業分類に分類し直す必要がある。
- 産業連関表の部門別の定義や範囲と、劇場の支出内容、観客の消費支出の内容を照らし合わせて、図表-資Ⅲ-2の対応表を作成した。

図表-資Ⅲ-2 産業連関表(平成17年度・34部門)と劇場における支出費目の関係

産業部門名	劇場運営・事業に伴う最終需要				
	管理運営	主催事業	主催事業観客	貸館事業	貸館事業観客
1 農林水産業					
2 鉱業					
3 飲食料品					
4 繊維製品					
5 パルプ・紙・木製品					
6 化学製品					
7 石油・石炭製品					
8 窯業・土石製品					
9 鉄鋼					
10 非鉄金属					
11 金属製品					
12 一般機械					
13 電気機械					
14 情報・通信機器					
15 電子部品					
16 輸送機械					
17 精密機械					
18 その他の製造工業製品	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷	出版・印刷
19 建設					
20 電力・ガス・熱供給	光熱費 (電力・ガス)				
21 水道・廃棄物処理	上下水道費				
22 商業	物品購入 (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)	物品購入 (小売)	ショッピング (小売)
23 金融・保険	保険料	保険料		保険料	
24 不動産					
25 運輸	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費	旅費・交通費 輸送費	旅費・交通費
26 通信・放送	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費	郵便・通信費
27 公務					
28 教育・研究					
29 医療・保健・社会保障					
30 その他の公共サービス					
31 対事業所サービス	広告(TV・ラジオ、 新聞・雑誌等) 事務用品貸貸 委託(清掃・警 備、舞台技術ス タッフ)	広告(TV・ラジオ、 新聞・雑誌等) 委託(公演、舞台 技術スタッフ・フロント スタッフ)		広告(TV・ラジ オ、新聞・雑誌等)	
32 対個人サービス	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	出演者・講師等 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	劇団等(興行団) 飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)	飲食(飲食店) 宿泊費(旅館)
33 事務用品	事務用品	事務用品		事務用品	
34 分類不明					

注) 括弧内は産業連関表における産業分類名

2. 劇場運営に伴う最終需要と観客の消費支出

(1) 管理運営に伴う最終需要

- まず、北九州芸術劇場の管理運営に伴う支出を、費目別に整理したものが下表である。舞台技術スタッフの委託料など、対事業所サービス部門への支出が最も大きく、次いで、電力・ガス・熱供給部門への支出が大きいことがわかる。

図表-資Ⅲ-3 管理運営に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考	
		北九州市内	市外	合計		
18	その他の製造工業製品	印刷製本費	1,229	200	1,429	
20	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	156,581	0	156,581	電気・ガス
21	水道・廃棄物処理	光熱水量費	8,242	0	8,242	
22	商業	消耗品費	157	98	255	
23	金融・保険	保険料	5,571	645	6,216	
25	運輸	旅費交通費	960	17	977	交通費
		通信運搬費	365	14	379	宅配便
26	通信・放送	雑費・通信運搬費・支払負担金	2,253	2,931	5,184	郵便・電話等
31	対事業所サービス	広告宣伝費	16,660	1,568	18,228	
		委託費(舞台技術)	94,782	0	94,782	
		支払負担金(警備)	21,148	0	21,148	
		支払負担金(清掃)	39,365	0	39,365	
		その他	218,206	69,287	287,494	
32	対個人サービス	ケータリング費	18	71	89	
		旅費交通費	0	216	216	宿泊費
33	事務用品	消耗品費他	7,398	205	7,603	
計			572,935	75,252	648,187	

- なお、北九州市外への支出については、北九州市の産業連関表を活用することは不適切であるため、支出額は北九州市内と市外に分けて算出した(以降の項目も同様)。
- 北九州芸術劇場の管理運営に伴う最終需要は約6億4,819万円で、うち88.4%(約5億7,294万円)が市内への支出となっている。

(2) 主催事業における最終需要

- 同様に、北九州芸術劇場の主催事業の実施に伴う支出を費目別に整理したものが、図表-資Ⅲ-4である。
- 主催事業では、スタッフ経費などの対事業所サービス、北九州までの交通費などの運輸、出演料などの対個人サービスへの支出が大きい。対個人サービスでは、北九州市に滞在する出演者や関係者の招聘旅費交通費(市内支出で年間約1,050万円)が最も大きく、次いで、諸謝金(約619万円)、出演料などにかかるケータリング費(約170万円)、委託費(約130万円)、などとあわせると、約2,026万円が北九州市内で使われた計算となる。
- 主催事業の実施に伴う最終需要額は、約2億8,934万円、うち25.0%(約7,235万円)が市内への支出となっている。

図表-資Ⅲ-4 主催事業の実施に伴う支出額

産業分類項目	財団支出費目	金額(千円)			備考	
		北九州市内	市外	合計		
18	その他の製造工業製品	印刷製本費	6,554	324	6,878	チラシ・ポスター
20	電力・ガス・熱供給	光熱水量費	0	0	0	
21	水道・廃棄物処理	光熱水量費	440	143	583	廃棄物処理
23	金融・保険	保険料	321	0	321	
25	運輸	招聘旅費交通費・旅費交通費	14,049	139	14,188	交通費
		委託費	190	1,128	1,318	運搬
		通信運搬費	332	0	332	宅配便
26	通信・放送	通信運搬費	2,345	11	2,356	郵便・電話等
31	対事業所サービス	委託費(舞台技術スタッフ・フロントスタッフ)	19,750	710	20,460	
		委託費(公演料・出演料・講師料)	612	190,424	191,036	
		委託費(調律費)	258	92	351	ピアノ調律
		委託費(広告宣伝)	399	409	807	
		委託費(デザイン費)	2,910	75	2,985	
		その他	3,380	3,268	6,648	
32	対個人サービス	委託費(委託・出演料)	1,301	4,352	5,653	
		諸謝金(講師・スタッフ謝金)	6,187	6,346	12,533	
		委託費(撮影・映像編集)	436	1,898	2,334	
		宿泊・招聘旅費交通費・旅費交通費	10,499	6,647	17,146	宿泊費
		ケータリング費	1,696	908	2,604	食費
		その他	139	109	248	
33	事務用品	消耗品費・消耗什器備品費	552	4	556	委託費・その他
計			72,349	216,989	289,338	

(3) 主催事業の観客の消費支出

- 次に、主催事業の観客の消費支出の試算を行った(図表-資Ⅲ-5)。
- 16年度の観客アンケートの調査結果を見ると、回答者数全体の1,392人のうち、47.8%の人が公演の前後に飲食もしくはショッピングをしたと回答しており、これを飲食、ショッピングの別に整理すると、飲食金額の回答者数568人から、飲食をした人の割合は40.8%、一人あたりの平均金額は1,531円となっている。また、ショッピング金額の回答者数301人から、ショッピングした人の割合は21.6%、一人あたりの平均金額は4,042円となっている。観劇前後の消費行動としては、飲食をする人の割合の方が高いが、消費単価はショッピングが飲食の約2.6倍となっている。
- 主催事業のうち、創造事業、公演事業、提携事業、舞台芸術フェスティバルなどの北九州市内(北九州芸術劇場)での公演の入場者(16年度の公演事業の入場者数の計3万6,745人と北九州芸術劇場以外の入場者数582人の差)は3万6,163人であることから、観劇に伴う飲食の支出額は約2,259万円、ショッピングの支出額は約3,161万円、計5,420万円と推計される。なお、16年度は、15年度に比べて飲食とショッピングの平均単価、飲食やショッピングを行う人の割合が共に減少したことから、北九州市内での観客消費支出は減少している(15年度:約8,398万円)。
- 同様に、北九州市以外での公演についても、北九州芸術劇場プロデュース「しなやか見渡

す穴は森は雨」の東京公演(582人)が同様の支出をしたと仮定すると、飲食の支出額は約36万円、ショッピングの支出額は約51万円、計87万円と推計される。飲食とショッピングの平均単価、飲食やショッピングを行う人の割合が共に減少したことから、北九州市以外での観客の消費支出も減少している(15年度:約136万円)。

図表-資Ⅲ-5 観劇前後の消費行動と消費支出

	飲食	ショッピング
アンケートでの金額の回答者数(人)	568	301
消費行動の割合	40.8%	21.6%
一人あたりの平均金額(円)	1,530.6	4,042.3

	観客数 (人)	合計支出額(千円)		
		飲食	ショッピング	合計
北九州市内での公演	36,163	22,586	31,610	54,196
北九州市外での公演	582	363	509	872
合計	36,745	23,232	32,119	55,068

注)上記の表中の数値は、実数に基づく計算結果を転載したものである。消費行動の割合と一人あたりの平均金額は小数点第2位以下を四捨五入しているため、表中の数値を再計算したものと、合計支出額が異なる箇所がある(以下、いずれの表にも共通)。

- 交通費については、同じく観客アンケート調査の居住地のデータから、平均的な往復の交通費を設定し、推計を行った。その際の前提条件は昨年度調査と同様、以下のとおりとした。
 - 北九州市内の居住者の交通費については、バス・JRとも片道300円と想定し、九州内の居住者の交通費については、居住地別に最寄り駅から小倉駅までのJR運賃(特急利用、新幹線利用なし)で試算した。
 - その他の地域には、広島、東京・千葉・神奈川、大阪・兵庫・神戸(03年度調査)などの回答があったため、大阪から新幹線利用と想定した。
 - 片道が2時間を超える場合は、宿泊を伴うこととし、一人当たり、宿泊費6,000円、宿泊に伴う飲食費3,000円を支出したものと想定した。
 - 劇場までの交通手段として、相当数の観客が自家用車を利用していると思われる(03年度調査では約33%)が、すべてJR・バス利用と想定した。
- 北九州芸術劇場以外で開催した公演の観客の交通費については、往復1,000円と想定した。
- なお、学芸事業の参加者の消費行動は、観劇客とは異なると思われるため、この分析には含めなかった。
- 以上の結果、主催事業の観客の消費支出額は、図表-資Ⅲ-6のとおり、合計で約1億8,507万円と推計される。

図表-資Ⅲ-6 主催事業の観客の消費支出額

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
20 商業	ショッピング(公演前後)	31,160	509	32,119	
23 運輸	旅費・交通費	17,782	78,789	96,571	
30 対個人サービス	食費(公演前後)	22,586	363	22,949	
	宿泊費	22,290	0	22,290	
	食費(宿泊に伴う)	11,145	0	11,145	
合計		105,413	79,661	185,074	

(4) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う最終需要(参考値)

- 貸館事業の場合も、劇場の主催事業と同様、主催者の様々な支出が経済波及効果を生み出すものと考えられる。貸館事業の事業主催者の支出額については、アンケート調査等で把握する必要があるが、該当する調査を実施していないため、便宜的に、貸館事業の1公演(講演含む)当たりの支出額について、主催公演の20%、30%という二つのケースを想定し、それらがすべて北九州市内での支出だったと仮定して、参考値を試算することとした。
- 16年度の貸館事業の公演等の年間延べ回数330件から、同一主催者・同一内容の利用で複数回の公演等を行ったものを1回として計上すると、246回の利用があった。そこから試算した結果は、下表のとおりであり、貸館事業の1公演当たりの支出額が主催公演の20%のケースで約1億,241万円、30%のケースで約1億5,362万円となった。
- この試算は、貸館事業の実際の支出額に基づいていないため、最終需要額はあくまでも参考値である点に留意が必要である。

図表-資Ⅲ-7 貸館事業に伴う最終需要(参考値)

	金額(千円)			備考
	北九州市内	市外	合計	
1公演あたりの支出が主催公演の20%の場合	102,413	0	102,413	
1公演あたりの支出が主催公演の30%の場合	153,619	0	153,619	

(5) 貸館事業(市主催・共催含む)の観客の消費支出

- 貸館事業の観客についてはアンケート調査の対象外だったため、主催事業の観客のデータを援用して、消費支出を試算した。試算の結果、貸館事業における観客の消費支出の金額は、約3億6,092万円であった(図表-資Ⅲ-8)。試算の前提条件は以下のとおりである。
 - 主催事業の観客アンケート調査の結果をみると、北九州市内だけではなく、九州全域や他の地域からも幅広く観客を集めているのに対し、貸館の事業内容をみると、同じように幅広いエリアから集客したり、同じような消費活動を行ったりしているとは考えにくい。そのため、貸館入場者の消費支出については、飲食、ショッピングをした割合、一人当たりの単価とも、主催公演の80%と仮定した。
 - 貸館入場者の交通費については、80%が北九州市内、20%が北九州市周辺に居住しているものと想定した。
 - 16年度の貸館(市主催・共催含む)の総入場者数は、181,092人とした。

図表-資Ⅲ-8 貸館事業の観客の消費支出額(参考値)

産業分類項目	消費支出費目	金額(千円)			備考
		北九州市内	市外	合計	
22 商業	ショッピング(公演前後)	126,633	0	126,633	
25 運輸	旅費・交通費	140,165	0	140,165	
32 対個人サービス	食費(公演前後)	90,481	0	90,481	
合計		357,280	0	357,280	

3. 経済波及効果の計算結果

- 以上の最終需要および消費支出に基づき、北九州市内の支出に伴う経済波及効果は、「平成17年度北九州市産業連関表」を使って、北九州市外への支出に伴う経済波及効果は、「平成17年度全国産業連関表」を使って計算した。
- なお支出額は2016年度の金額であるが、物価変動にともなうデフレート計算は行っていない。

(1) 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

- まず、管理運営に伴う経済波及効果(図表-資Ⅲ-9)は、北九州市内が約7億8,433万円、北九州市外が約1億2,853万円、合計が約9億1,286万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.37、1.71、1.41である。
- また、主催事業に伴う経済波及効果は、北九州市内が約1億28万円、北九州市外が約3億7,021万円、合計が約4億7,049万円で、それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.39、1.71、1.63である。
- 劇場の管理運営や主催事業に伴う経済波及効果の合計は約13億8,336万円で、生産誘発係数は1.48である。

図表-資Ⅲ-9 管理運営、主催事業に伴う経済波及効果

	管理運営			主催事業			合計
	北九州市内	北九州市外	計	北九州市内	北九州市外	計	
最終需要(支出額)	572,935	75,252	648,187	72,349	216,989	289,338	937,525
農林水産業	12	91	103	57	1,010	1,067	1,170
鉱業	871	38	909	8	121	129	1,038
飲食品	29	81	111	471	2,306	2,777	2,888
繊維製品	128	160	288	20	476	496	784
パルプ・紙・木製品	2,135	1,109	3,244	343	2,800	3,143	6,388
化学製品	947	1,094	2,041	268	3,162	3,430	5,471
石油・石炭製品	1,342	588	1,930	176	1,956	2,132	4,062
窯業・土石製品	592	250	842	80	743	823	1,665
鉄鋼	839	1,087	1,926	87	3,039	3,126	5,052
非鉄金属	168	303	471	22	849	871	1,342
金属製品	1,026	423	1,449	136	1,259	1,395	2,844
一般機械	4,117	2,543	6,660	322	6,988	7,310	13,970
電気機械	688	670	1,358	54	1,849	1,903	3,262
情報・通信機器	9	125	134	1	345	346	480
電子部品	1,946	1,084	3,030	150	2,958	3,108	6,137
輸送機械	1,468	3,928	5,396	153	10,860	11,012	16,409
精密機械	54	53	107	7	150	157	264
その他の製造工業製品	9,399	3,211	12,610	7,772	8,492	16,264	28,873
建設	7,529	546	8,075	502	1,653	2,155	10,230
電力・ガス・熱供給	164,029	928	164,957	997	3,080	4,077	169,034
水道・廃棄物処理	10,826	275	11,101	1,173	1,371	2,544	13,645
商業	16,081	3,807	19,888	2,844	11,563	14,407	34,295
金融・保険	34,618	5,575	40,193	3,509	13,796	17,305	57,498
不動産	5,155	947	6,101	1,041	2,764	3,805	9,906
運輸	19,312	2,583	21,896	18,842	9,002	27,844	49,740
通信・放送	34,125	12,394	46,519	5,488	25,661	31,149	77,668
公務	692	144	836	97	399	496	1,332
教育・研究	4,582	879	5,460	278	2,375	2,653	8,113
医療・保健・社会保障・介護	6	2	8	2	5	7	16
その他の公共サービス	1,350	220	1,571	209	678	887	2,458
対事業所サービス	447,795	81,910	529,704	33,489	225,333	258,822	788,526
対個人サービス	1,024	572	1,596	20,566	21,190	41,756	43,351
事務用品	8,647	394	9,041	727	553	1,280	10,321
分類不明	2,793	516	3,309	390	1,428	1,818	5,127
合計	784,334	128,530	912,864	100,279	370,214	470,494	1,383,358
生産誘発係数	1.37	1.71	1.41	1.39	1.71	1.63	1.48

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(2) 主催事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果

- 次に、主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果(図表-資Ⅲ-10)をみると、北九州市内が約1億4,567万円、北九州市外が約1億4,435万円、合計が約2億9,002万円である。それぞれ最終需要に対する生産誘発係数は1.38、1.81、1.57となっている。

図表-資Ⅲ-10 主催公演の観客の消費支出に伴う経済波及効果

(千円)

	主催公演の観客		
	北九州市内	北九州市外	計
最終需要(支出額)	105,413	79,661	185,074
農林水産業	151	78	229
鉱業	15	323	338
飲食品	1,298	81	1,379
繊維製品	36	156	192
パルプ・紙・木製品	303	1,091	1,393
化学製品	199	517	716
石油・石炭製品	251	8,384	8,635
窯業・土石製品	139	163	301
鉄鋼	99	679	779
非鉄金属	19	153	172
金属製品	259	409	668
一般機械	98	526	624
電気機械	22	200	222
情報・通信機器	0	39	40
電子部品	38	241	279
輸送機械	84	2,853	2,937
精密機械	15	18	32
その他の製造工業製品	1,004	1,414	2,418
建設	950	1,268	2,218
電力・ガス・熱供給	2,160	1,786	3,946
水道・廃棄物処理	1,702	634	2,337
商業	36,242	4,850	41,092
金融・保険	4,845	6,155	11,000
不動産	2,276	1,757	4,034
運輸	24,431	89,830	114,260
通信・放送	3,504	3,515	7,020
公務	139	163	303
教育・研究	311	580	891
医療・保健・社会保障・介護	4	5	9
その他の公共サービス	340	177	517
対事業所サービス	7,133	15,017	22,150
対個人サービス	56,684	485	57,169
事務用品	356	220	576
分類不明	563	584	1,146
合計	145,668	144,354	290,022
生産誘発係数	1.38	1.81	1.57

注)各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致しない箇所がある。

(3) 貸館事業(市主催・共催含む)に伴う経済波及効果(参考値)

- 次に、貸館主催者の最終需要(事業支出)、ならびに貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果の計算結果は図表-資料Ⅲ-11のとおりで、1公演・講演当たりの事業費が主催公演の20%の場合、経済波及効果は約1億4,038万円、30%の場合は約2億1,058万円で、生産誘発係数はともに1.37である。
- また、貸館事業の観客の消費支出に伴う経済波及効果は、約5億180万円、生産誘発係数は1.40である。
- なお、貸館事業の場合は、公演や講演の事業支出、観客の消費支出とも、全額が北九州市内への支出と想定した。

図表-資Ⅲ-11 貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出に伴う経済波及効果(参考値)

(千円)

	貸館公演・講演事業		観客の消費支出
	ケース①	ケース②	
最終需要(支出額)	102,413	153,619	357,280
農林水産業	41	61	248
鉱業	7	10	52
飲食料品	337	505	2,108
繊維製品	28	42	117
パルプ・紙・木製品	336	504	1,009
化学製品	240	361	420
石油・石炭製品	107	161	1,450
窯業・土石製品	95	142	353
鉄鋼	140	210	363
非鉄金属	32	47	55
金属製品	164	245	858
一般機械	796	1,194	340
電気機械	136	203	79
情報・通信機器	2	3	1
電子部品	372	558	151
輸送機械	305	457	509
精密機械	12	18	45
その他の製造工業製品	4,000	6,000	3,126
建設	527	790	3,505
電力・ガス・熱供給	954	1,431	6,488
水道・廃棄物処理	819	1,229	4,011
商業	3,201	4,801	139,011
金融・保険	5,204	7,806	19,675
不動産	1,072	1,608	8,785
運輸	9,180	13,770	170,396
通信・放送	6,973	10,459	11,692
公務	135	203	538
教育・研究	394	590	1,196
医療・保健・社会保障・介護	2	3	14
その他の公共サービス	288	431	837
対事業所サービス	88,812	133,218	29,206
対個人サービス	14,688	22,031	91,762
事務用品	443	665	1,227
分類不明	545	818	2,173
合計	140,383	210,575	501,804
生産誘発係数	1.37	1.37	1.40

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

注) 各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と一致していない。

(4) 雇用効果

- ここまでの計算結果に基づき、福岡県産業連関表の雇用表を用いて、北九州市内の雇用効果を試算した。
- 具体的には、先に計算した北九州芸術劇場の管理運営、主催事業、主催公演の観客の消費支出、貸館の公演・講演事業、貸館の観客の消費支出、それぞれに伴う北九州市内の生産額と、福岡県の雇用表の就業係数、雇用係数を用いて雇用効果を計算した。その結果は、図表-資Ⅲ-12に示したとおりである。
- 貸館の事業費が主催公演の20%と想定した場合(①)、就業者数(労働量)で約143人、雇用量(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で125人、同じく30%と想定した場合(②)、就業者数(労働量)で約151人、雇用量(有給の役員・雇用者、常勤・臨時含む)で132人の労働誘発効果、雇用効果があったという結果となった。

- 分野別にみると、対事業所サービス、対個人サービス、商業の分野での雇用効果が大きい。

図表-資Ⅲ-12 北九州芸術劇場の雇用効果(人)

	ケース①		ケース②	
	就業者数	雇用者数	就業者数	雇用者数
その他の製造工業製品	1	1	2	1
建設	1	1	1	1
電力・ガス・熱供給	3	3	3	3
水道・廃棄物処理	1	1	1	1
商業	21	18	21	19
金融・保険	3	3	3	3
運輸	15	15	16	15
情報通信	3	2	3	3
教育・研究	1	1	1	1
対事業所サービス	66	58	71	62
対個人サービス	28	22	29	23
合計	143	125	151	132

注) ケース①は事業費が主催公演の20%、ケース②は30%と想定した場合

(4) まとめ

- ここまでの経済波及効果の分析結果を整理すると、図表-資Ⅲ-13のとおりとなる。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う最終需要は、観客の消費支出によるものも含め、約11億2,300万円で、そのうち、66.9%にあたる約7億5,100万円が、北九州市内での最終需要となっている。
- 北九州芸術劇場の管理運営、主催事業の実施に伴う経済波及効果は、観客の消費支出によるものも含め、約16億7,300万円で、そのうち61.6%にあたる約10億3,000万円が北九州市内での経済波及効果となっている。
- 生産誘発係数は、全体で1.49、北九州市内で1.37である。
- また、参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館の観客の消費支出による経済波及効果(北九州市内のみと想定)は、約6億4,200万円～7億1,200万円で、生産誘発係数は1.39である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約23億1,600万円～23億8,600万円で、北九州市内に限ってみると、約16億7,200万円～17億4,300万円となっている。これは、15年度に比べて総合計と北九州市内の両方で減少している(15年度は、総合計:約25億3,300万円～25億9,500万円、北九州市内:約18億4,200万円～19億300万円)。誘発係数は15年度からわずかに減少して1.46となっている。
- また、北九州市内の雇用効果は、就業者ベースで約143～151人、雇用者ベースで約125～132人である。

注) 上記数字は、試算結果の計算値を転載したものである。図表-資Ⅲ-13の各データは百万円未満を四捨五入しているため、表中に掲載している数値を再計算したものと、合計値やパーセンテージが一致しない場合がある。

図表-資Ⅲ-13 北九州芸術劇場の経済波及効果、雇用効果(16年度)

		最終需要	経済波及効果	誘発係数
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	6億4,800万円 (5億7,300万円)	9億1,300万円 (7億8,400万円)	1.41 (1.37)
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	2億8,900万円 (7,200万円)	4億7,000万円 (1億円)	1.63 (1.39)
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1億8,500万円 (1億500万円)	2億9,000万円 (1億4,600万円)	1.57 (1.38)
	小計	11億2,300万円 (7億5,100万円)	16億7,300万円 (10億3,000万円)	1.49 (1.37)
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	1億200万円 ~1億5,400万円	1億4,000万円 ~2億1,100万円	1.37
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	3億5,700万円	5億200万円	1.40
	小計(参考値)	4億6,000万円 ~5億1,100万円	6億4,200万円 ~7億1,200万円	1.39
	合計(参考値)	15億8,200万円 ~16億3,300万円 (12億1,000万円 ~12億6,200万円)	23億1,600万円 ~23億8,600万円 (16億7,200万円 ~17億4,300万円)	1.46 (1.38)
		雇用効果 (北九州市内)	143~151人(就業者ベース) 125~132人(雇用者ベース)	

注) 下段の括弧内の数字は、北九州市内の最終需要、経済波及効果。貸館については、最終需要、経済波及効果とも北九州市内のみと想定した試算結果である。
各データは四捨五入した数字のため、小計、合計の数値が各データの合計と合わない箇所がある。

IV

パブリシティー覧

1. 主催／提携・協力事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
憧タイム:純な江戸っ子になりきる 劇団☆新感線の新作、主演の盗賊役・古田新太 2016/04/03 毎日新聞 西部朝刊 17ページ 835 文字	毎日西部	朝	835
ツクリテ=義理人情をストレートに 舞台「乱鶯」の倉持裕ら 2016/04/04 熊本日日新聞夕刊 7ページ 605 文字 PDF有	熊本日日	夕	605
50を過ぎたから大人テイスト 新作「乱鶯」 劇団☆新感線主宰 いのうえひでのりさん 2016/04/17 西日本新聞朝刊 10ページ 2010 文字	西日本	朝	2,010
(待ってました!)劇作家・演出家、いのうえひでのりさん 俳優・古田新太さん【西部】 2016/04/30 朝日新聞 夕刊 6ページ 絵写表有 609 文字	朝日西部	夕	609
仲道郁代:ピアノコンサート 来月7日、北九州芸術劇場 2016/05/08 毎日新聞 西部朝刊 25ページ 437 文字	毎日西部	朝	437
喜劇:蛭川シェイクスピア「尺には尺を」 北九州で上演 2016/05/29 毎日新聞 西部朝刊 24ページ 246 文字	毎日西部	朝	246
必死に生きる人は美しい 舞台「パーマ屋スマレ」の南果歩 2016/06/02 熊本日日新聞朝刊 18ページ 446 文字 PDF有	熊本日日	朝	446
1960年代、九州の炭鉱町の在日コリアン家族 舞台「パーマ屋スマレ」 2016/06/07 西日本新聞朝刊 12ページ 1483 文字	西日本	朝	1,483
遺作に宿る蛭川の情熱 舞台「尺には尺を」(17~19日、北九州芸術劇場) 2016/06/09 西日本新聞夕刊 3ページ 664 文字	西日本	夕	664
必死に生きる人は美しい 舞台「パーマ屋スマレ」 主役の南果歩 2016/06/09 西日本新聞夕刊 3ページ 437 文字	西日本	夕	437
(評・演劇)鄭義信 作・演出「パーマ屋スマレ」/西部・共通 2016/06/28 朝日新聞 朝刊 28ページ 絵写表有 836 文字	朝日西部	朝	836
★バックステージ★「ヒトラー」の古田新太 丁寧に「ナンセンス」 2016/07/21 岩手日報朝刊 15ページ 絵写表有 760 文字	岩手日報	朝	760
「これは面白そう!!」 奔放な母親役 斉藤由貴「役者冥利」の挑戦 2016/08/04 西日本新聞夕刊 3ページ 737 文字	西日本	夕	737
「笑い飛ばしちゃダメって…どうにも窮屈」 古田新太ら新作舞台 2016/08/12 熊本日日新聞夕刊 8ページ 661 文字 PDF有	熊本日日	夕	661
11月に向井理さん主演舞台 北九州芸術劇場 蓬莱竜太さん作・演出=北九州 2016/08/16 西部読売新聞 朝刊 25ページ写 363 文字	西部読売	朝	363
劇評=死があるからこそ輝く生 三好十郎の戯曲「浮標」 長塚圭史が演出 2016/08/18 西日本新聞夕刊 5ページ 990 文字	西日本	夕	990
戦争と命 問う演劇「浮標」「夜と霧」 2016/08/20 西部読売新聞 朝刊 15ページ写 1273 文字	西部読売	朝	1,273
三好十郎「浮標」九州初上演 絶対の自信作、生と死のドラマ 演出の長塚圭史 2016/08/21 毎日新聞 西部朝刊 15ページ 1040 文字	毎日西部	朝	1,040
ナンセンスに勝負挑む 古田新太が新作舞台 2016/08/22 愛媛新聞 15ページ 586 文字 PDF有	愛媛	—	586
近況往来=人間を掘り下げ、今を描く 劇作家・蓬莱竜太さん 2016/08/31 西日本新聞朝刊 15ページ 1014 文字	西日本	朝	1,014
福岡県/個性輝け 虹のダンス 18日、北九州芸術劇場 障害者ら32人 2016/09/05 西日本新聞朝刊 24ページ 841 文字 PDF有	西日本	朝	841
舞台作品 出演者求む 北九州芸術劇場 21、22日オーディション=北九州 2016/09/06 西部読売新聞 朝刊 27ページ 474 文字	西部読売	朝	474
DDW:北九州芸術劇場ダンスフェス「深める」テーマ、街中でも展開 22日まで 2016/09/11 毎日新聞 西部朝刊 27ページ 1494 文字	毎日西部	朝	1,494
夕暮れの酒場、情熱ダンス 北九州芸術劇場が企画/福岡県 2016/09/14 朝日新聞 朝刊 33ページ 絵写表有 1119 文字	朝日西部	朝	1,119
ダンス作品上映記念イベント:中村蓉さんの舞台も 小倉昭和館で17、18日開催 2016/09/15 毎日新聞 地方版 24ページ 492 文字	毎日地方版	—	492
福岡県/赤シャツダンスサーズ 元気全開 間近で踊れば、お客も心一つ 2016/09/20 西日本新聞朝刊 18ページ 875 文字 PDF有	西日本	朝	875
ほろ酔いパブ、夕暮れダンス 小倉北/福岡県 2016/09/22 朝日新聞 朝刊 31ページ 絵写表有 268 文字	朝日西部	朝	268
松本清張の世界、ダンスで表現 短編「顔」モチーフ、北九州で一人舞台/福岡県 2016/09/23 朝日新聞 朝刊 23ページ 絵写表有 604 文字	朝日西部	朝	604
ストラが初の来日公演 迫力のアクロバットや群舞 2016/09/29 西日本新聞夕刊 3ページ 397 文字	西日本	夕	397
舞台「星回帰線」:向井理×蓬莱竜太 北九州で 2016/10/02 毎日新聞 西部朝刊 20ページ 788 文字	毎日西部	朝	788

記事タイトル・記事情報	紙名/版	朝/夕	文字数
[文化短信]コンテンポラリーダンス公演「どこをどうぶつる」 2016/10/12 西日本新聞朝刊 13ページ 193 文字	西日本	朝	193
ツクリテ=悲劇で知る人間の姿 舞台「星回帰線」作・演出の蓬莱竜太 2016/10/24 熊本日日新聞夕刊 7ページ 612 文字 PDF有	熊本日日	夕	612
正蔵、「グズ」に挑む 初主演の舞台、東京・東池袋で 2016/11/10 朝日新聞 夕刊 3ページ 絵写表有 573 文字	朝日全国	夕	573
[文化短信]木ノ下歌舞伎「勸進帳」 2016/11/15 西日本新聞朝刊 15ページ 187 文字	西日本	朝	187
桑原裕子さん一群像劇「愚図」内面えぐるドラマ、焦り沈む不器用な人間 2016/11/16 日本経済新聞 夕刊 11ページ 絵写表有 1774 文字	日経地方経済面	夕	1,774
夜の車内 演じる「生と死」モノレール演劇 3回目 北九州で来月 2016/11/26 西部読売新聞 朝刊 16ページ写 1364 文字	西部読売	朝	1,364
劇団・南河内万歳一座:「滅裂博士」何かを守る困難、ドタバタ劇で 2016/11/27 毎日新聞 西部朝刊 15ページ 789 文字	毎日西部	朝	789
モノレール車内演劇 旅行業法違反の恐れ 料金徴収法を変更 2016/11/29 西部読売新聞 朝刊 37ページ 394 文字	西部読売	朝	394
料金徴収方法を芸術劇場改める モノレール車内で演劇/福岡県 2016/11/30 朝日新聞 朝刊 33ページ 335 文字	朝日西部	朝	335
福岡県/モノレール内で演劇 芸術劇場 12月2-4日 小倉発着/北九州・京築 2016/11/30 西日本新聞朝刊 22ページ 381 文字 PDF有	西日本	朝	381
北九州モノレール内で演劇公演 列車もあなたも舞台の一部に 12/2~4来てねー 2016/11/30 佐賀新聞 17ページ 1200 文字 PDF有	佐賀	—	1,200
劇評=「TIMES LIVE」過去、現在、未来をつなぐ言葉とは 2016/12/03 西日本新聞朝刊 10ページ 907 文字	西日本	朝	907
林家正蔵さん:30年ぶり演劇 北九州市役所を表敬訪問 あすから公演/福岡 2016/12/16 毎日新聞 地方版 19ページ 307 文字	毎日地方版	—	307
林家正蔵さん 舞台PR あすから北九州 市役所訪問=北九州 2016/12/16 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 372 文字	西部読売	朝	372
On STAGE=悠久の時間 神々しく 山海塾「降りくるもののなかでーとぼり」 2017/01/29 西日本新聞朝刊 9ページ 623 文字	西日本	朝	623
山海塾「とぼり」再演 来月19日、北九州で 2017/02/04 西部読売新聞 朝刊 19ページ写 358 文字	西部読売	朝	358
山海塾:星の幻想「とぼり」8年ぶり再演 来月19日北九州公演 2017/02/05 毎日新聞 西部朝刊 17ページ 662 文字	毎日西部	朝	662
スタジオタンガ:旦過に交流スペース 演劇や美術展、市場と一体化/福岡 2017/02/10 毎日新聞 地方版 23ページ 806 文字	毎日地方版	—	806
北九州をアートで表現「芸術工業地帯」紹介マップ=北九州 2017/02/10 西部読売新聞 朝刊 28ページ写 395 文字	西部読売	朝	395
街なか 歩けば劇空間 北九州 カフェも舞台 7劇団リレー公演=北九州 2017/02/10 西部読売新聞 朝刊 29ページ写・表 1037 文字	西部読売	朝	1,037
北九州舞台 群像劇 ノゾエ征爾が演出 2017/02/11 西部読売新聞 朝刊 13ページ 389 文字	西部読売	朝	389
「しなやか見渡す穴は森は雨」北九州芸術劇場 生きづらさ感じる人たちの群像劇 2017/02/11 西日本新聞朝刊 15ページ 1005 文字	西日本	朝	1,005
ご当地演劇:この土地の人々をほろ苦く 北九州芸術劇場がノゾエ征爾新作 2017/02/19 毎日新聞 西部朝刊 17ページ 1225 文字	毎日西部	朝	1,225
ノゾエ征爾さん迎え「プロデュース公演」北九州芸術劇場/西部・共通 2017/02/21 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 505 文字	朝日西部	朝	505
旦過市場の歴史 写真に 市民モデル20人 過去から未来表現=北九州 2017/02/23 西部読売新聞 朝刊 30ページ写 719 文字	西部読売	朝	719
外から見た北九州、演劇に 26日から北九州芸術劇場 気鋭作家のノゾエ氏脚本 2017/02/24 西日本新聞朝刊 26ページ 543 文字 PDF有	西日本	朝	543
情報トピック! =北九州芸術劇場プロデュース「しなやか見渡す穴は森は雨」 2017/02/25 西日本新聞朝刊 29ページ 234 文字	西日本	朝	234
劇団「MONO」:シニールな日本を歌交え 北九州で新作「ハテナウタ」 2017/03/05 毎日新聞 西部朝刊 25ページ 785 文字	毎日西部	朝	785
「劇団鳴かず飛ばず」が九州演劇バトル出場/19日、北九州市 2017/03/12 南日本新聞朝刊 15ページ 313 文字 PDF有	南日本	朝	313
短編劇 九州の5団体競う あす、北九州芸術劇場で=北九州 2017/03/18 西部読売新聞 朝刊 33ページ 373 文字	西部読売	朝	373
計			60

2. 学芸事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
北九州芸術劇場で「三途のポンス」上演 公募の市民がめざす本格演劇／福岡県 2016/04/14 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 523 文字	朝日西部	朝	523
夏休みに演劇や裏方の仕事体験 北九州芸術劇場、参加者募る＝北九州 2016/06/09 西部読売新聞 朝刊 26ページ 397 文字	西部読売	朝	397
わがまち・マイタウン:病院で劇場アウトリーチ 門司／福岡 2016/06/14 毎日新聞 地方版 25ページ 349 文字	毎日地方版	—	349
(まなびの現場)夏休み児童、舞台作り人気 北九州芸術劇場がワークショップ 2016/08/17 朝日新聞 朝刊 26ページ 絵写表有 1475 文字	朝日西部	朝	1,475
高校生のための演劇塾:手法を学ぶ 13高校80人ワークショップ 北九州芸術劇場 2016/08/17 毎日新聞 地方版 23ページ 425 文字	毎日地方版	—	425
福岡県／プロの演劇 高校生学ぶ 北九州芸術劇場で実践指導塾／北九州・京築 2016/08/26 西日本新聞朝刊 22ページ 899 文字 PDF有	西日本	朝	899
[文化短信]劇場塾2016 舞台芸術に関わる著作権と肖像権入門 2016/10/29 西日本新聞朝刊 15ページ 208 文字	西日本	朝	208
高校生8人 演劇づくり 古民家舞台 等身大の日常描く＝北九州 2016/11/19 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 913 文字	西部読売	朝	913
高齢者の記憶、紡ぐ劇5年目 インタビューし脚本化 北九州芸術劇場／福岡県 2016/11/25 朝日新聞 朝刊 23ページ 絵写表有 931 文字	朝日西部	朝	931
「小文字焼き」朗読劇に 劇作家・藤本さんが戯曲「地元の物語に触れて」 2016/12/08 西日本新聞朝刊 22ページ 718 文字 PDF有	西日本	朝	718
北九州の記憶 演劇で紡ぐ 来月、芸術劇場で上演＝北九州 2016/12/21 西部読売新聞 朝刊 35ページ 616 文字	西部読売	朝	616
好きっちゃ！北九州:高齢者の記憶、創作劇で後世に 小倉北／福岡 2017/01/06 毎日新聞 地方版 22ページ 730 文字	毎日地方版	—	730
福岡県／創作劇で継承 北九州の記憶 13日から芸術劇場／北九州・小倉 2017/01/11 西日本新聞朝刊 23ページ 552 文字 PDF有	西日本	朝	552
舞台上で魅せる地域(中)＝魅力や歴史を発掘、発信 知ることから好きに 2017/01/14 信濃毎日新聞朝刊 15ページ 1794 文字	信濃毎日	朝	1,794
ギラヴァンツ 踊って応援 北九州芸術劇場がダンス制作 開幕戦で高大生ら披露 2017/02/27 西日本新聞朝刊 24ページ 483 文字 PDF有	西日本	朝	483
ギラヴァンツ 「ギラダンス」選手がPV撮影 明るい曲でポーズ決める＝北九州 2017/03/04 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 414 文字	西部読売	朝	414
計			16

3. 貸館事業

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
北九州芸術祭:黒崎市民ギャラリーなどで開幕 ダンス部門新設／福岡 2016/04/02 毎日新聞 地方版 23ページ 2013 文字	毎日地方版	—	2,013
地元で単独初主演舞台「闇狩人」高杉真宙 2016/04/30 西部読売新聞 朝刊 13ページ写 360 文字	西部読売	朝	360
アマ合唱団 練習に熱 北九州劇場で22日歌声＝北九州 2016/05/10 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 503 文字	西部読売	朝	503
平凡な予備校生と“仕事人” 二つの顔 演じ分け 故郷・福岡で“凱旋”公演 2016/05/11 西日本新聞夕刊 3ページ 1232 文字	西日本	夕	1,232
若戸大橋物語:舞台化 父子2代、架橋の夢 市民劇団「青春座」が21、22日上演 2016/05/12 毎日新聞 地方版 22ページ 853 文字	毎日地方版	—	853
サンシャインコンサート:アマ合唱団が22日、北九州芸術劇場大ホール／福岡 2016/05/12 毎日新聞 地方版 23ページ 692 文字	毎日地方版	—	692
福岡県／「青春座」の井生代表「若戸大橋物語」語る 西日本文化スポーツ部 2016/05/15 西日本新聞朝刊 28ページ 346 文字 PDF有	西日本	朝	346
初舞台のオペラ合唱団、プロと共演 22日北九州、行橋出身・岡さんソロも／福岡県 2016/05/17 朝日新聞 朝刊 29ページ 絵写表有 804 文字	朝日西部	朝	804
オペラ合唱団、プロと初舞台 京築・田川などの団体出演、あす北九州で／福岡県 2016/05/21 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 673 文字	朝日西部	朝	673
アクティブ 50歳～＝音楽の力で心癒やす 百瀬ミュージックボランティアグループ 2016/06/04 西日本新聞朝刊 27ページ 978 文字 PDF有	西日本	朝	978
成長したバイオリン聴いて 南さん、地元北九州公演へ 9月と12月に／福岡県 2016/06/10 朝日新聞 朝刊 29ページ 絵写表有 611 文字	朝日西部	朝	611
国際バイオリン・コンクール 小倉北出身 南さん2位＝北九州 2016/06/10 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 369 文字	西部読売	朝	369

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝／夕	文字数
福岡県／国際バイオリンコンクールで2位 南さん 里帰り公演PR 北九州市 2016/06/10 西日本新聞朝刊 22ページ 460 文字 PDF有	西日本	朝	460
福岡県／ソプラノ歌手が病院でミニ公演 門司区／北九州・京築 2016/06/11 西日本新聞朝刊 20ページ 294 文字 PDF有	西日本	朝	294
わがまち・マイタウン:南紫音さん 市長に演奏披露 小倉北 /福岡 2016/06/14 毎日新聞 地方版 25ページ 335 文字	毎日地方版	—	335
「心と心結ぶ舞台に」福岡朝鮮歌舞団50年 北九州市で26日公演／もつと九州 2016/06/18 西日本新聞朝刊 29ページ 677 文字	西日本	朝	677
歌って踊ってK-POP競う 小倉北で九州大会、2組が全国へ／福岡県 2016/06/19 朝日新聞 朝刊 35ページ 絵写表有 339 文字	朝日西部	朝	339
K-POPコン、宮崎ペア最優秀 九州大会 /宮崎県 2016/06/20 朝日新聞 朝刊 27ページ 341 文字	朝日西部	朝	341
わがまち・マイタウン:故郷初舞台 市長に意気込み 小倉北／福岡 2016/06/21 毎日新聞 地方版 23ページ 346 文字	毎日地方版	—	346
オペラ:日伊国交150年記念 9月・小倉北区 市長を表敬訪問／福岡 2016/06/25 毎日新聞 地方版 23ページ 394 文字	毎日地方版	—	394
古典漢詩など書道作品130点 光祥会が展示会＝北九州 2016/06/26 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 217 文字	西部読売	朝	217
朝鮮半島の文化伝え50年 福岡歌舞団、記念の舞台披露／福岡県 2016/06/27 朝日新聞 朝刊 21ページ 絵写表有 453 文字	朝日西部	朝	453
福岡県／伝統芸能を継承 50周年記念公演 福岡朝鮮歌舞団／北九州・京築 2016/06/27 西日本新聞朝刊 20ページ 328 文字 PDF有	西日本	朝	328
北九州＝不妊治療の現実 北九州で舞台に たけし軍団・お宮の松さん主演 2016/07/07 西日本新聞朝刊 26ページ 633 文字 PDF有	西日本	朝	633
福岡バレエフェスティバル:崔由姫さん古里初舞台 28日・北九州芸術劇場／福岡 2016/07/21 毎日新聞 地方版 26ページ 456 文字	毎日地方版	—	456
バレエダンサー 里帰り公演 福岡市で27日 北九州市28日／もつと九州 2016/07/22 西日本新聞朝刊 27ページ 740 文字	西日本	朝	740
小倉城周辺で吟行の体験会 北九州の公演PR＝北九州 2016/08/04 西部読売新聞 朝刊 30ページ写 328 文字	西部読売	朝	328
福岡県／祭2016＝わっしょい百万 あすから／北九州・京築 2016/08/05 西日本新聞朝刊 28ページ 663 文字 PDF有	西日本	朝	663
わっしょい百万夏まつり:きょうから「こども夢ステージ」にくまモン登場 /福岡 2016/08/06 毎日新聞 地方版 27ページ 366 文字	毎日地方版	—	366
福岡県／小倉北 暑さなんの、熱く舞う わっしょい百万夏まつり開幕／北九州・京築 2016/08/07 西日本新聞朝刊 24ページ 602 文字 PDF有	西日本	朝	602
9月の九響＝九大名誉教授、中村滋延作曲 交響曲第5番「聖なる旅立ち」 2016/08/27 西日本新聞朝刊 13ページ 779 文字	西日本	朝	779
わがまち・マイタウン:11月「アニソクラシック」PR 小倉北 /福岡 2016/08/30 毎日新聞 地方版 25ページ 333 文字	毎日地方版	—	333
商店街の良さ訴え、ミュージカル上演 北九州芸術劇場 きょう・あす／福岡県 2016/09/02 朝日新聞 朝刊 29ページ 604 文字	朝日西部	朝	604
北九州シティオペラ:本場のオペラ味わって 伊歌劇場と共催公演 17、22日／福岡 2016/09/08 毎日新聞 地方版 24ページ 608 文字	毎日地方版	—	608
吉村雄輝彌さん(75) 地唄舞吉村流師範「体力だけでは表現できない何かを」 2016/09/11 毎日新聞 地方版 29ページ 1009 文字	毎日地方版	—	1,009
福岡県／小倉北 本場のオペラ 楽しんで 日伊国交150周年 2016/09/14 西日本新聞朝刊 27ページ 466 文字 PDF有	西日本	朝	466
イタリアの歌劇場、北九州で共催公演 国交150年を記念 17・22日／福岡県 2016/09/15 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 810 文字	朝日西部	朝	810
日伊国交150周年:イタリアに染まる、連休の小倉城下 記念イベント目白押し／福岡 2016/09/17 毎日新聞 地方版 23ページ 637 文字	毎日地方版	—	637
日伊国交150周年記念コンサート:本場オペラ曲熱唱 北九州芸術劇場／福岡 2016/09/18 毎日新聞 地方版 27ページ 424 文字	毎日地方版	—	424
福岡県／北九州市立文学館10周年 司馬遼太郎の特別展 リーさんら対談 2016/09/24 西日本新聞朝刊 26ページ 835 文字 PDF有	西日本	朝	835
北九州市立文学館:10周年、11月多彩な事業 没後20年司馬遼太郎展／福岡 2016/09/26 毎日新聞 地方版 27ページ 1412 文字	毎日地方版	—	1,412
北九州文学館 10周年多彩に 来月から催し＝北九州 2016/09/29 西部読売新聞 朝刊 32ページ 566 文字	西部読売	朝	566

記事タイトル・記事情報	紙名/版	朝/夕	文字数
中尾ミエさん、小倉で初公演「故郷に錦」 12月にミュージカル/福岡県 2016/10/07 朝日新聞 朝刊 33ページ 絵写表有 454 文字	朝日西部	朝	454
福岡県/12月に地元・小倉公演 中尾さんミュージカルPR 北九州市役所訪問 2016/10/07 西日本新聞朝刊 26ページ 365 文字 PDF有	西日本	朝	365
北九州市立文学館 開館10周年 記念の企画展、イベントも多彩に 2016/10/13 西日本新聞朝刊 13ページ 719 文字	西日本	朝	719
障害者の和太鼓プロ 夢と勇気運ぶ演奏会 NPO法人企画「可能性を伝えたい」 2016/10/18 西日本新聞朝刊 24ページ 480 文字 PDF有	西日本	朝	480
プロ和太鼓集団、あす小倉北公演 知的障害者がメンバー/福岡県 2016/10/21 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 553 文字	朝日西部	朝	553
知的障害者の「瑞宝太鼓」パフォーマンス 北九州芸術劇場であす記念公演 2016/10/21 毎日新聞 地方版 25ページ 427 文字	毎日地方版	—	427
神田紅さん創作講談 来月5日北九州＝北九州 2016/10/23 西部読売新聞 朝刊 35ページ写 339 文字	西部読売	朝	339
福岡県/常盤橋渡ったゾウ 長崎街道の史実 劇団青春座再現/北九州・京築 2016/10/24 西日本新聞朝刊 20ページ 277 文字 PDF有	西日本	朝	277
劇団青春座:演劇「長崎街道 次喜多道中」PRするゾウ 来月初公演/福岡 2016/10/25 毎日新聞 地方版 25ページ 454 文字	毎日地方版	—	454
九州交響楽団とアニソンが融合 来月1日、北九州で 下関出身の和田さん指揮 2016/10/26 毎日新聞 地方版 27ページ 511 文字	毎日地方版	—	511
福岡県/小倉北 夏樹静子さん、講談でしのぶ 神田さん 11月5日に独演会 2016/10/26 西日本新聞朝刊 25ページ 345 文字 PDF有	西日本	朝	345
11月の九響＝「ダフニスとクロエ」全曲 18日の定演はオールフランス 2016/10/27 西日本新聞朝刊 9ページ 962 文字	西日本	朝	962
音楽に打ち込む高齢者の姿描く 中尾ミエがミュージカル 2016/10/29 西部読売新聞 朝刊 17ページ写 402 文字	西部読売	朝	402
福岡県/文学館開館10周年 五木寛之さん講演/北九州・京築 2016/11/04 西日本新聞朝刊 18ページ 353 文字 PDF有	西日本	朝	353
あっぷ:ミュージカル「ザ・デイサービス・ショウ」主演 中尾ミエ 2016/11/06 毎日新聞 西部朝刊 17ページ 1022 文字	毎日西部	朝	1,022
好きっちゃ! 北九州:「手話フェス」来月4日開催 小倉北 /福岡 2016/11/12 毎日新聞 地方版 22ページ 354 文字	毎日地方版	—	354
中尾ミエさん 北九州公演PR 来月2日ミュージカル＝北九州 2016/11/17 西部読売新聞 朝刊 26ページ写 416 文字	西部読売	朝	416
金印のレプリカ 2小学校に贈る 福岡のNPO法人＝北九州 2016/11/22 西部読売新聞 朝刊 29ページ写 337 文字	西部読売	朝	337
京築神楽の一瞬撮影 金賞、豊前・為国さん フォトコン/福岡県 2016/12/03 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 578 文字	朝日西部	朝	578
紫川ブルースフェス:10周年、集大成のコンサート 9日・小倉北 /福岡 2016/12/05 毎日新聞 地方版 25ページ 518 文字	毎日地方版	—	518
手話寸劇「聴覚障害知って」 小倉北でフェス 大沢逸美さん講演も＝北九州 2016/12/05 西部読売新聞 朝刊 31ページ写 363 文字	西部読売	朝	363
小倉で「本気のブルース」 都井さんと田部さん、9日コンサート/福岡県 2016/12/07 朝日新聞 朝刊 29ページ 絵写表有 949 文字	朝日西部	朝	949
神楽写真 為国さん金賞 コンテスト入賞作品 巡回展始まる＝北九州 2016/12/07 西部読売新聞 朝刊 33ページ写 851 文字	西部読売	朝	851
小倉北 紫川ブルースフェス 10周年を記念し あすコンサート 都井さんら出演 2016/12/08 西日本新聞朝刊 22ページ 391 文字 PDF有	西日本	朝	391
金賞に豊前市の為国さん 京築神楽フォトコン 来年3月 表彰式 2016/12/09 西日本新聞朝刊 28ページ 581 文字 PDF有	西日本	朝	581
京築神楽フォトコンテスト:金賞は為国さん「朱の化身」/福岡 2016/12/11 毎日新聞 地方版 27ページ 590 文字	毎日地方版	—	590
1月の九響＝バボラークでモーツァルト ホルンと指揮 2016/12/29 西日本新聞朝刊 13ページ 684 文字	西日本	朝	684
情報トピック! =名作洋画劇場 ほか/もっと九州 2017/01/12 西日本新聞朝刊 27ページ 602 文字	西日本	朝	602
京築神楽、幻想的に舞う 29日、北九州芸術劇場/福岡県 2017/01/26 朝日新聞 朝刊 31ページ 449 文字	朝日西部	朝	449
豊前神楽見て学んで 地元の栗焼氏が講演 西日本文化スポーツ部 2017/01/31 西日本新聞朝刊 24ページ 352 文字 PDF有	西日本	朝	352
=LIVE= きょう先行予約 中山優馬主演の舞台「それいゆ」再演決定 2017/01/31 佐賀新聞 29ページ 180 文字 PDF有	佐賀	—	180

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
劇団前進座が九州8カ所公演 災害復興描く「怒る富士」 23日から、熊本市など 2017/02/03 西日本新聞朝刊 27ページ 858 文字	西日本	朝	858
「お勢登場」乱歩の世界、重層の物語に 主演・黒木華「ゾツとさせつつ笑いも」 2017/02/26 毎日新聞 西部朝刊 19ページ 992 文字	毎日西部	朝	992
福岡県／アクティブ 50歳～＝女性輝く最先端ショー ファッションプロデューサー 2017/03/04 西日本新聞朝刊 27ページ 1021 文字 PDF有	西日本	朝	1,021
(待ってました!)俳優・中山優馬さん 客席との化学反応、楽しみ【西部】 2017/03/11 朝日新聞 夕刊 6ページ 絵写表有 626 文字	朝日西部	夕	626
北九州芸術祭:来月開幕 水彩画や合唱、4部門を新設／福岡 2017/03/22 毎日新聞 地方版 27ページ 1691 文字	毎日地方版	—	1,691
「トランスジェンダー」であることを昨年告白した「ローズ」こと宮崎 猛志さん 2017/03/28 西日本新聞朝刊 27ページ 620 文字 PDF有	西日本	朝	620
計			79

4. その他(劇場、劇場メンバー等に関する記事、芸術祭など)

記事タイトル・記事情報	紙名／版	朝/夕	文字数
「現代」向き合う2作 演劇注目作 北九州・福岡で 2016/04/16 西部読売新聞 朝刊 23ページ写 1402 文字	西部読売	朝	1,402
蜷川さん死去 北九州で長年公演 劇場関係者「残念」 2016/05/13 西部読売新聞 朝刊 34ページ 226 文字	西部読売	朝	226
Theme 没後40年 シェークスピア多彩に 異彩放つ萬斎演出「マクベス」 2016/05/28 毎日新聞 朝刊 22ページ 1099 文字	毎日全国	朝	1,099
県の「芸術監督団」あいまいな目標 著名な指揮者ら4人で始動 2016/08/22 信濃毎日新聞朝刊 9ページ 1882 文字	信濃毎日	朝	1,882
演劇づくし:別役実物語 永遠に生きる不条理空間 2016/09/14 毎日新聞 夕刊 7ページ 1334 文字	毎日全国	夕	1,334
舞台スタッフ プロの技伝授／24日 宜野座 2016/09/16 沖縄タイムス 朝刊 25ページ 239 文字 PDF有	沖縄タイムス	朝	239
北九州市立文学館、10年祝う事業次々 司馬遼太郎巡回展、全国先駆け／福岡県 2016/09/21 朝日新聞 朝刊 27ページ 絵写表有 709 文字	朝日西部	朝	709
北九州芸術劇場(北九州市)——音響きめ細かく対応(ピックアップ百選) 2016/11/12 日本経済新聞 地方経済面 西部特集 34ページ 絵写表有 553 文字	日経地方経済面	朝	553
[回顧2016]文芸 演劇 クラシック 2016/12/17 西部読売新聞 朝刊 27ページ写 1947 文字	西部読売	朝	1,947
地域創造大賞に宗像ユリックス 文化的環境づくりに功績＝福岡 2017/03/03 西部読売新聞 朝刊 31ページ写 531 文字	西部読売	朝	531
良かね＝宗像市民に多彩な文化提供 ユリックス 地域創造大賞に 2017/03/08 西日本新聞朝刊 26ページ 1035 文字 PDF有	西日本	朝	1,035
Show!!劇場 2017/03/09 東京新聞朝刊 16ページ 609 文字 PDF有	東京	朝	609
人間・社会問う 3演劇 2017/03/18 西部読売新聞 朝刊 35ページ写 1694 文字	西部読売	朝	1,694
フォーラム「地域発信型アートイベントを成功させるために！」 2017/03/25 岩手日報朝刊 21ページ 260 文字	岩手日報	朝	260
計			14

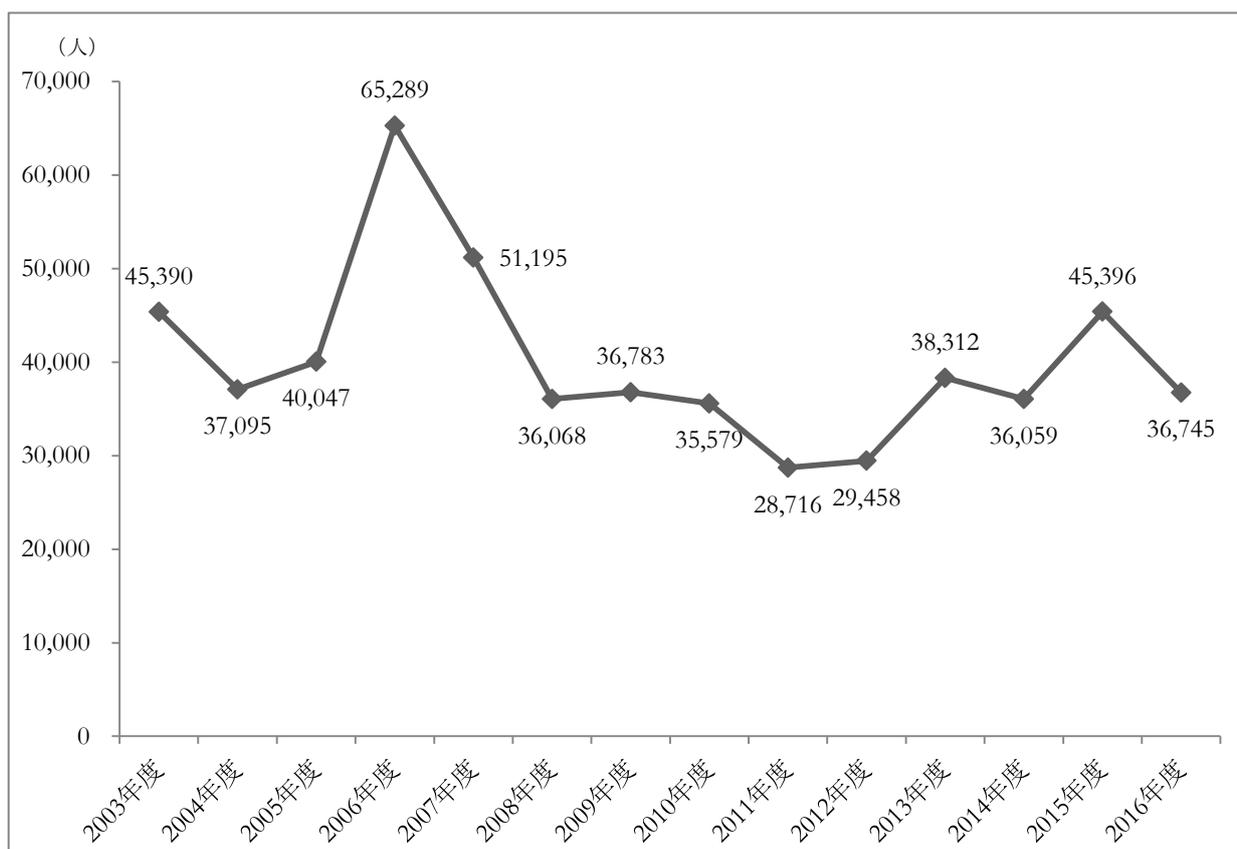


まちづくりや地域経済と
北九州芸術劇場との
関わりに関する調査

(1) 北九州芸術劇場の自主事業における公演事業の入場者数

2003年度から2016年度までの14年間の自主事業のうち、公演事業（創造事業、公演事業、提携等事業、演劇祭等）の入場者数は、累計で約56万人、平均で年間約4万人となっている。

2006年度の入場者数は他の年度に比べて突出して多く、当年度は創造事業の「錦鯉」で北九州、大阪、東京、名古屋、松本の5会場20公演で1万人を越える入場者数、同じく創造事業の「地獄八景・浮世百景」が東京、大阪、北九州での3会場20公演で約1万4千人の入場者数となっており、北九州以外の都市で創造事業の巡回公演を積極的に行っている点で、例年とは大きく異なっている。

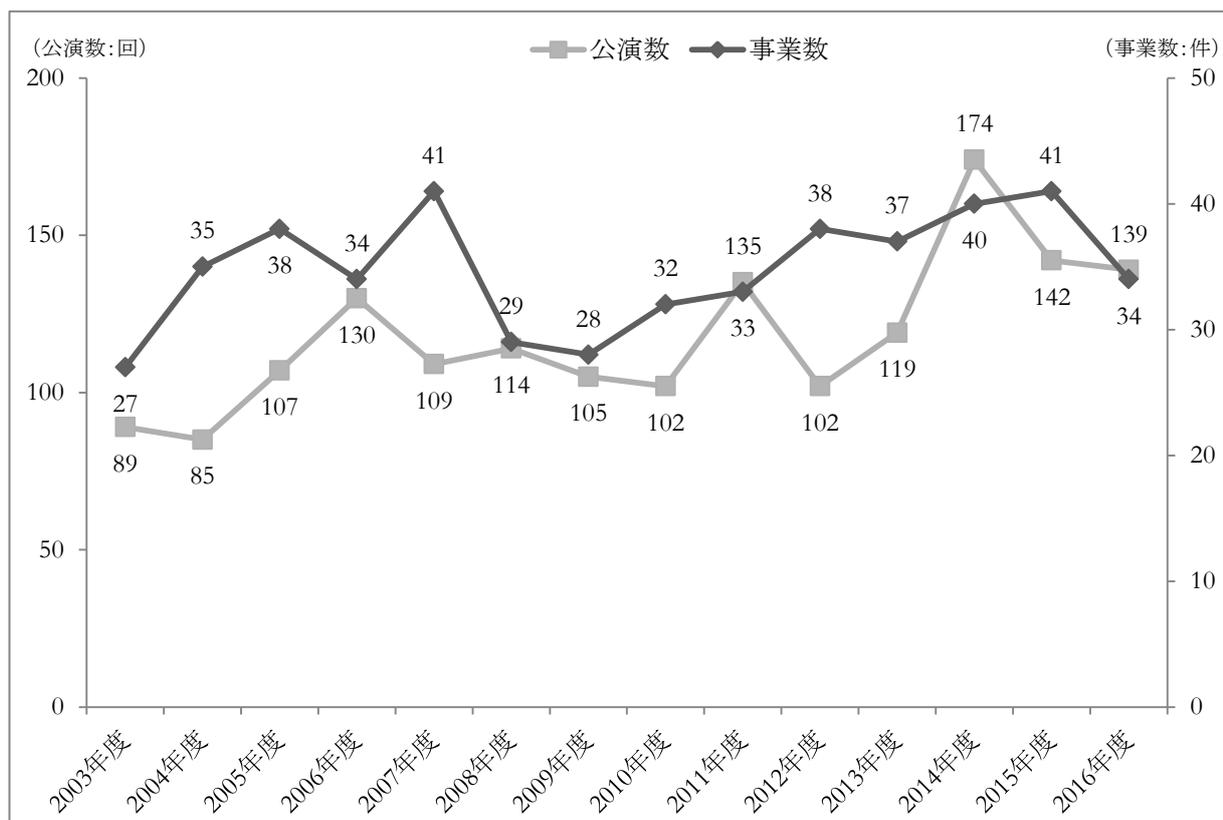


	創造事業	公演事業	提携等事業	オープニング 企画	演劇祭	公演事業 計
2003年度	13,350	22,079	7,382	1,592	987	45,390
2004年度	3,292	26,361	6,211	—	1,231	37,095
2005年度	9,332	21,294	6,642	—	2,779	40,047
2006年度	27,107	29,813	7,259	—	1,110	65,289
2007年度	5,224	32,378	11,869	—	1,724	51,195
2008年度	12,320	18,164	3,895	—	1,689	36,068
2009年度	12,841	19,439	3,947	—	556	36,783
2010年度	3,124	24,229	6,427	—	1,799	35,579
2011年度	10,846	14,036	2,229	—	1,605	28,716
2012年度	3,847	18,517	2,996	—	4,098	29,458
2013年度	3,208	20,319	11,202	—	3,583	38,312
2014年度	3,974	14,482	13,152	—	4,451	36,059
2015年度	2,723	26,296	9,918	—	6,459	45,396
2016年度	3,128	23,970	8,117	—	1,530	36,745
平均	8,165	22,241	7,232	1,592	2,400	40,152

(2) 北九州芸術劇場の自主事業における公演事業の事業数・公演数

公演事業での公演数・事業数を見ると、14年間で累計487件の事業、1,652回の公演を行ってきた。年間で平均35件の事業、118回の公演となる。

推移を見ると、事業数が最も多かったのは2007年度と2015年度、公演数が最も多かったのは2014年度となっている。2014年度は提携・協力事業で13事業42回の公演が行われており、例年よりも提携・協力事業の公演数が大幅に多くなっている。



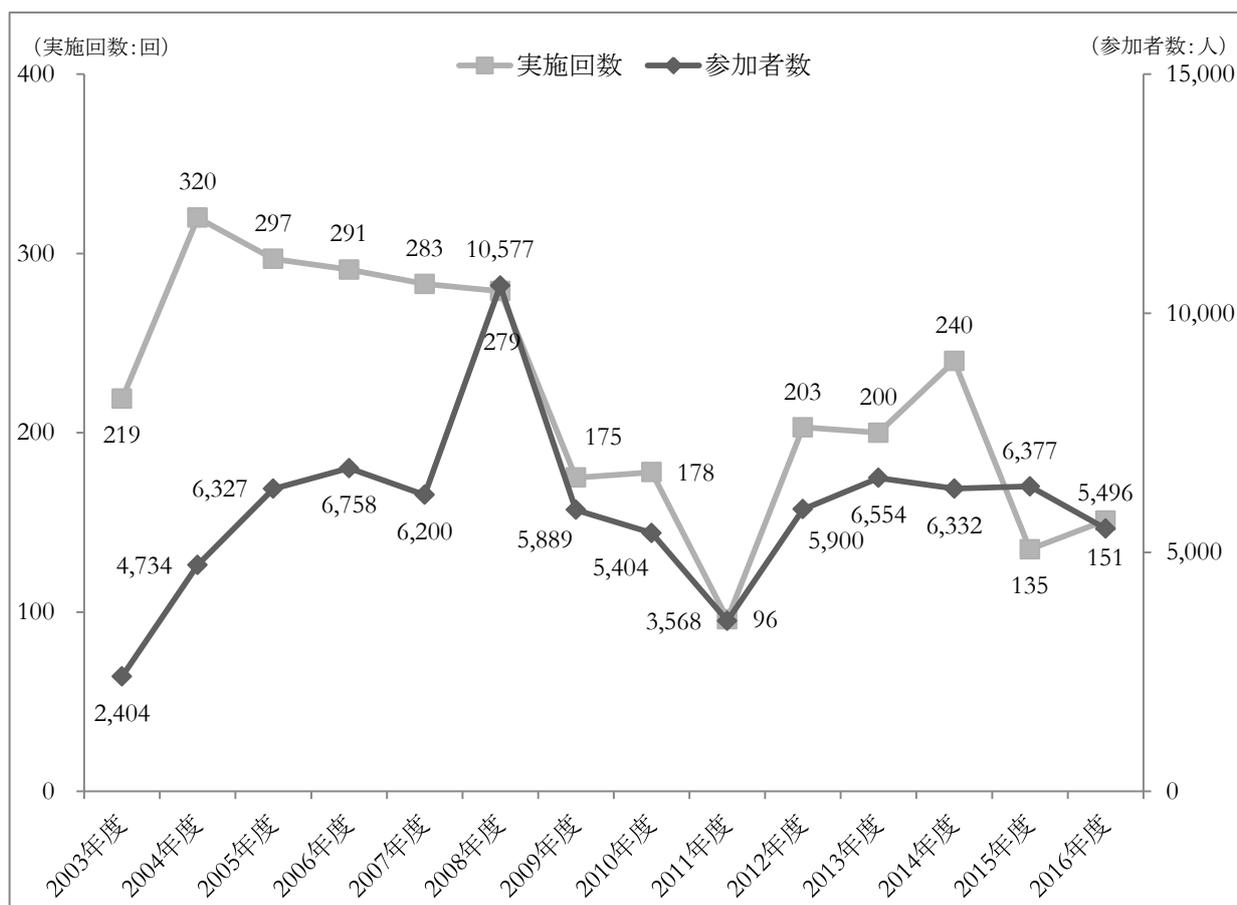
	創造事業		公演事業		提携・協力事業		オープニング企画		演劇祭		公演事業 計	
	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数	事業数	公演数
2003年度	3	35	15	35	5	8	2	2	2	9	27	89
2004年度	4	15	23	46	6	15	—	—	2	9	35	85
2005年度	6	45	24	42	6	13	—	—	2	7	38	107
2006年度	7	61	18	45	7	16	—	—	2	8	34	130
2007年度	5	24	22	49	11	28	—	—	3	8	41	109
2008年度	8	41	15	33	5	12	—	—	1	28	29	114
2009年度	6	40	16	42	5	16	—	—	1	7	28	105
2010年度	5	21	17	39	9	25	—	—	1	17	32	102
2011年度	5	37	19	42	8	12	—	—	1	44	33	135
2012年度	5	22	18	43	9	20	—	—	6	17	38	102
2013年度	4	21	17	46	9	30	—	—	7	22	37	119
2014年度	5	16	13	34	13	42	—	—	9	82	40	174
2015年度	5	20	20	48	9	24	—	—	7	50	41	142
2016年度	6	29	14	48	9	21	—	—	5	41	34	139
平均	5	31	18	42	8	20	2	2	4	25	35	118

※2008年度より演劇祭を「北九州演劇フェスティバル」として、2014年度より「北九州舞台芸術フェスティバル『北九州芸術工業地帯』」として開催。

(3) 北九州芸術劇場の自主事業における学芸事業の参加者数・実施回数

学芸事業での参加者数・実施回数を見ると、14年間で累計3,067回のアクティビティ、82,520人の参加者延人数があった。年間で平均219回のアクティビティ、5,894人の参加延人数となる。

推移を見ると、実施回数が最も多かったのは2004年度で、参加者延人数が最も多かったのは2008年度となっている。2003年度から2008年度まで「表現教育推進事業」が学芸事業の主軸となっていたため、同一の小学校でアクティビティの回数を重ねていたが、2009年度以降は学芸事業の方針が転換されて1つの学校での回数を抑えて実施校を広げている。また、地域との連携先を広げながら強化する方向に転換している。



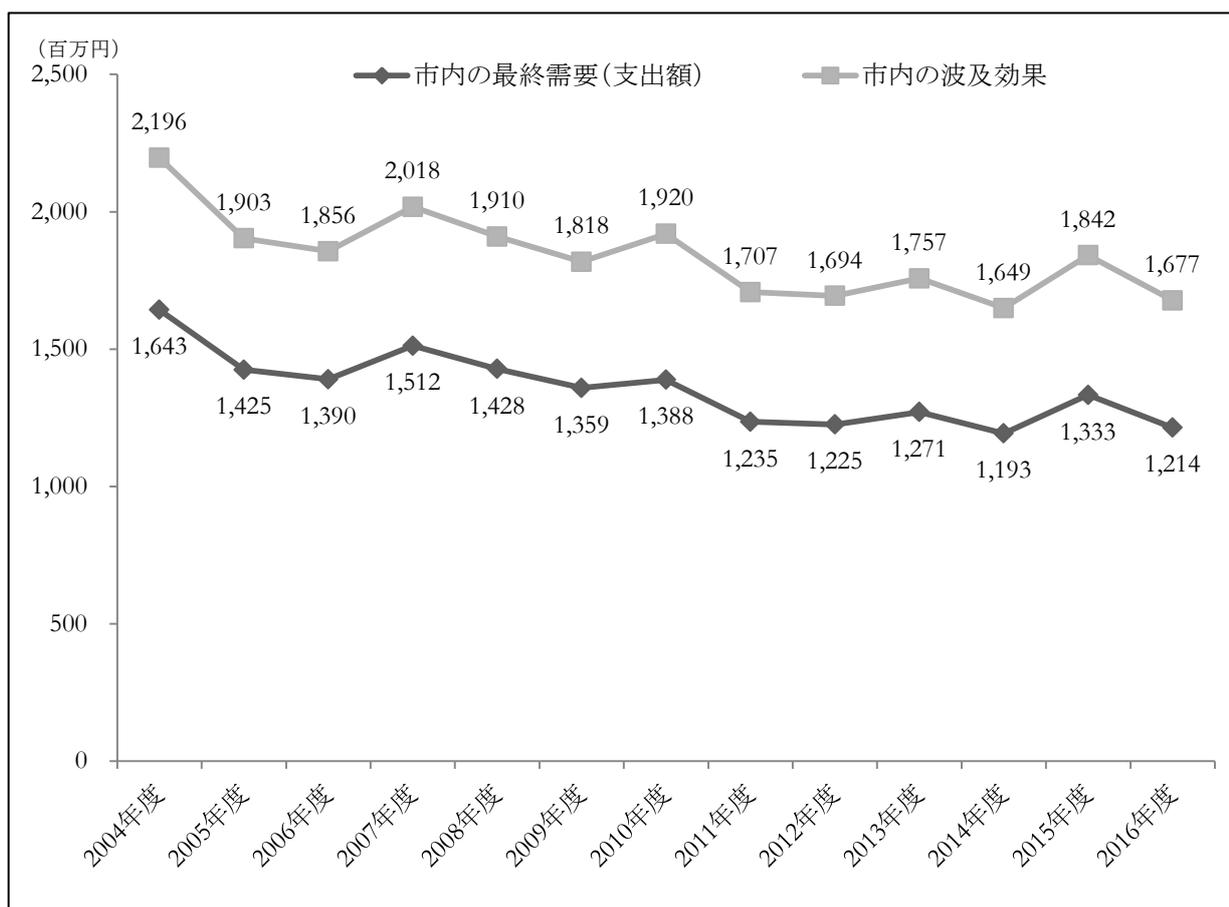
	参加者数	実施回数
2003年度	2,404	219
2004年度	4,734	320
2005年度	6,327	297
2006年度	6,758	291
2007年度	6,200	283
2008年度	10,577	279
2009年度	5,889	175
2010年度	5,404	178
2011年度	3,568	96
2012年度	5,900	203
2013年度	6,554	200
2014年度	6,332	240
2015年度	6,377	135
2016年度	5,496	151
平均	5,894	219

(4) 北九州芸術劇場の北九州市内に及ぼす経済波及効果の推移

北九州芸術劇場が北九州市内に及ぼす経済波及効果は、集計し始めた2004年度からの13年間で、市内の最終需要(支出額)※が年間平均で約13億5,500万円、市内の波及効果※が年間平均で約18億4,200万円となっている。13年間の推移を見ると、2004年度が最も高い最終需要、波及効果となっている。

生産誘発係数は2004年度では1.34で、2016年度は1.38となっている。

※最終需要(支出額)と波及効果は貸館事業での貸館主催者の支出が主催事業の支出の20%として試算した推計値としている。

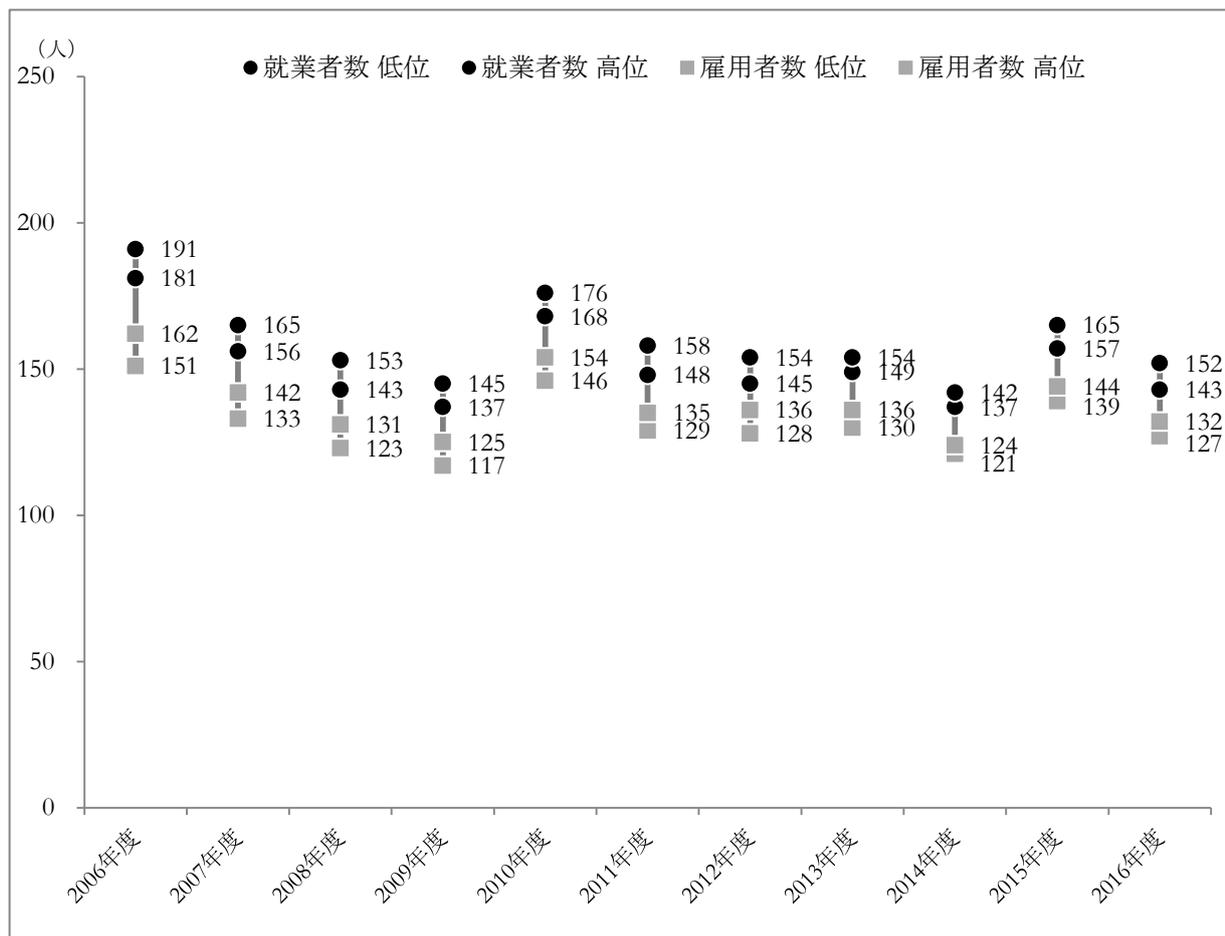


	市内の最終需要(支出額) (千円)	市内の波及効果 (千円)	生産誘発係数
2004年度	1,642,821	2,196,156	1.34
2005年度	1,425,116	1,903,409	1.34
2006年度	1,390,264	1,855,989	1.33
2007年度	1,511,866	2,017,824	1.33
2008年度	1,427,543	1,909,578	1.34
2009年度	1,358,546	1,817,914	1.34
2010年度	1,388,325	1,919,594	1.38
2011年度	1,235,416	1,707,354	1.38
2012年度	1,225,242	1,693,859	1.38
2013年度	1,270,747	1,757,403	1.38
2014年度	1,193,042	1,648,970	1.38
2015年度	1,332,744	1,841,627	1.38
2016年度	1,213,689	1,677,015	1.38
平均	1,355,028	1,842,053	1.36

(5) 北九州芸術劇場の北九州市内に及ぼす雇用効果の推移

北九州芸術劇場が北九州市内に及ぼす雇用効果※は、集計し始めた2006年度からの11年間で、市内の就業者数(労働量)が年間平均で151～160人、雇用者数(有給の役員・雇用者数、常勤・臨時含む)が年間平均で131～138人となっている。11年間の推移を見ると、2006年度が最も高い雇用効果となっている。

※雇用効果は貸館事業での貸館主催者の支出が主催事業の支出の20%とした試算を「低位」の推計値、30%とした試算を「高位」の推計値としている。

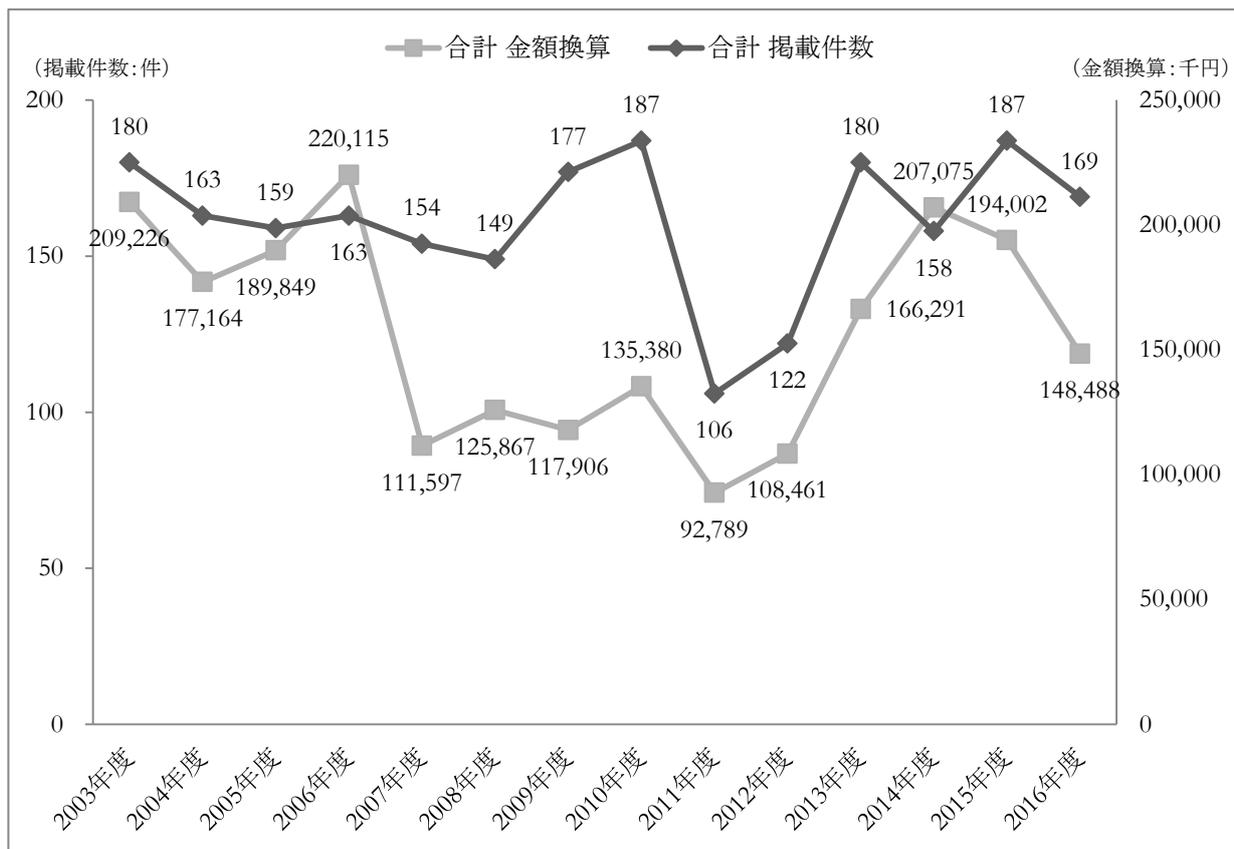


	就業者数		雇用者数	
	低位	高位	低位	高位
2006年度	181	191	151	162
2007年度	156	165	133	142
2008年度	143	153	123	131
2009年度	137	145	117	125
2010年度	168	176	146	154
2011年度	148	158	129	135
2012年度	145	154	128	136
2013年度	149	154	130	136
2014年度	137	142	121	124
2015年度	157	165	139	144
2016年度	143	152	127	132
平均	151	160	131	138

(6) 北九州芸術劇場におけるパブリシティ効果の推移

2003年度から2016年度までの14年間のパブリシティ効果の推移を見ると、新聞の掲載件数の年間平均は161件、広告掲載料をベースとした金額換算の年間平均は1億5,744万円となっている。

掲載件数の最も多かったのは2010年度と2015年度で、2010年度はプロデュース公演「BEN」や「焼肉ドラゴン」、「山海塾」などの掲載記事が多く、2015年度は「山海塾」、「画狂老人@北斎」、「ダンスダイブウィーク」の掲載記事が多い。金額換算が最も大きかった2006年度は、山海塾・パリ市立劇場・北九州芸術劇場共同プロデュース「時のなかの時ーとき」が朝日舞台芸術賞を受賞し、新聞の大きな紙面に掲載された結果となっている。

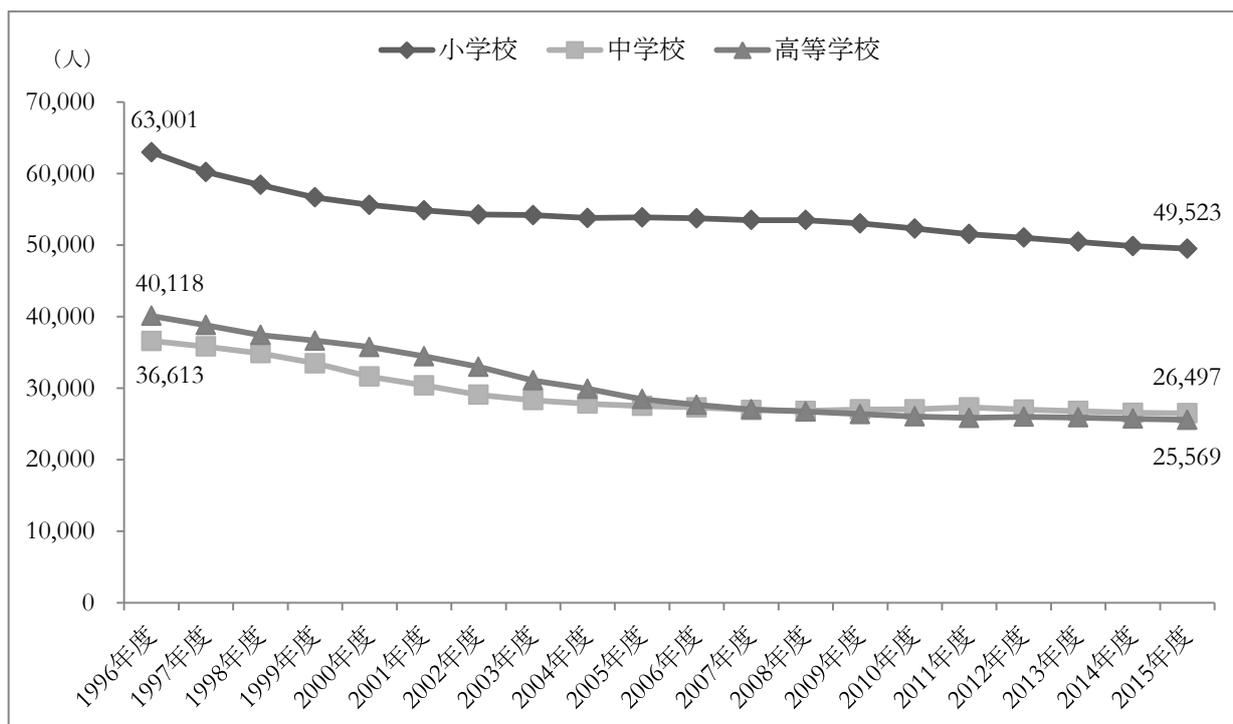


	主催/提携・協力事業		学芸事業		貸館事業		その他		合計	
	掲載件数	金額換算	掲載件数	金額換算	掲載件数	金額換算	掲載件数	金額換算	掲載件数	金額換算
2003年度	70	62,140	8	5,331	46	27,072	56	114,683	180	209,226
2004年度	54	46,211	5	2,141	43	27,235	61	101,577	163	177,164
2005年度	75	110,044	25	15,505	34	26,622	25	37,678	159	189,849
2006年度	88	160,243	17	12,451	35	22,741	23	24,680	163	220,115
2007年度	85	66,027	12	5,777	31	16,056	26	23,737	154	111,597
2008年度	55	66,588	12	7,926	50	20,392	32	30,961	149	125,867
2009年度	86	65,542	11	10,316	57	26,293	23	15,755	177	117,906
2010年度	82	64,078	28	13,718	55	28,986	22	28,598	187	135,380
2011年度	41	42,162	8	10,621	42	21,443	15	18,563	106	92,789
2012年度	37	31,969	19	21,021	49	33,825	17	21,646	122	108,461
2013年度	51	41,879	31	24,104	58	36,272	40	64,035	180	166,291
2014年度	65	104,207	28	22,050	40	35,890	25	44,928	158	207,075
2015年度	72	97,930	25	20,472	66	36,429	24	39,170	187	194,002
2016年度	60	56,447	16	15,910	79	52,070	14	24,061	169	148,488
平均	66	72,533	18	13,382	49	29,380	29	42,148	161	157,444

(7) 北九州市における児童数・生徒数の推移

1996年度から2015年度までの20年間で、北九州市内の小学校、中学校、高等学校の児童数・生徒数の推移を見ると、小学校の児童数は1996年度の63,001人から2015年度の49,523人、中学校の生徒数は36,613人から26,497人、高等学校の生徒数は40,118人から25,569人へと年々減少している。

市内の小・中学校と高等学校の児童数・生徒数の合計は、1996年度で139,732人、2015年度で101,589人となっている。1996年度を100%とすると、2015年度は72.7%で、20年間で27.3%の減少となっている。

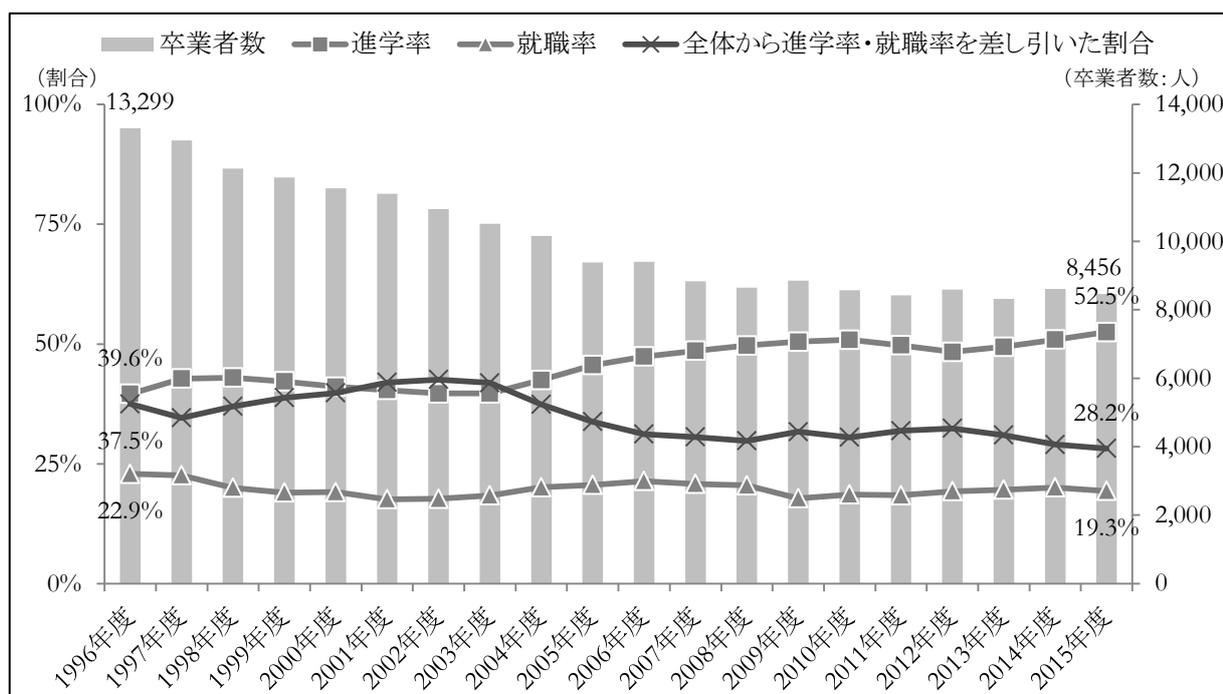


	小学校	中学校	高等学校
1996年度	63,001	36,613	40,118
1997年度	60,238	35,825	38,825
1998年度	58,416	34,884	37,439
1999年度	56,672	33,484	36,659
2000年度	55,622	31,637	35,751
2001年度	54,867	30,388	34,469
2002年度	54,297	29,079	32,980
2003年度	54,206	28,331	31,099
2004年度	53,794	27,831	29,909
2005年度	53,899	27,516	28,467
2006年度	53,757	27,325	27,683
2007年度	53,514	26,961	27,025
2008年度	53,504	26,818	26,727
2009年度	53,050	27,025	26,384
2010年度	52,317	27,053	26,035
2011年度	51,550	27,312	25,845
2012年度	51,061	26,999	25,989
2013年度	50,464	26,793	25,914
2014年度	49,867	26,561	25,735
2015年度	49,523	26,497	25,569

資料:教育委員会企画課, 福岡県調査統計課, 教育庁総務部総務課

1996年度から2015年度までの20年間で、北九州市内の高等学校の生徒の卒業生数は、1996年度の13,299人から2015年度の8,456人へと減少している。1996年度を100%とすると、2015年度は63.6%で、20年間で36.4%の減少となっている。

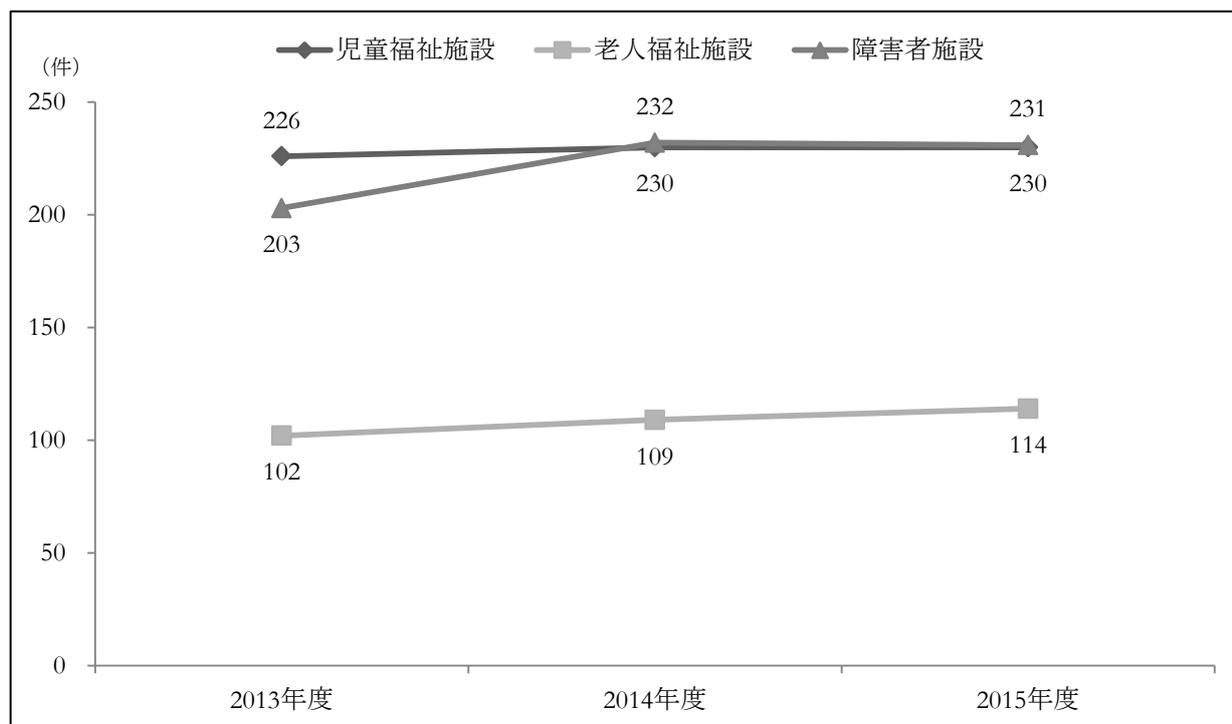
20年間の卒業後の状況を見ると、進学率は1996年度の39.6%から2015年度の52.5%まで増加し、就職率は22.9%から19.3%に減少している。全体から進学率・就職率を差し引いた割合を算出したところ、1996年度は37.5%、2015年度は28.2%、増減の変化が小さいことがわかる。



	卒業生数	進学率	就職率	全体から進学率・就職率を差し引いた割合
1996年度	13,299	39.6%	22.9%	37.5%
1997年度	12,951	42.8%	22.6%	34.6%
1998年度	12,131	43.0%	20.0%	37.0%
1999年度	11,871	42.2%	19.0%	38.8%
2000年度	11,546	41.1%	19.1%	39.8%
2001年度	11,393	40.4%	17.6%	42.0%
2002年度	10,946	39.7%	17.7%	42.6%
2003年度	10,514	39.7%	18.4%	41.9%
2004年度	10,163	42.5%	20.1%	37.4%
2005年度	9,380	45.6%	20.6%	33.8%
2006年度	9,402	47.4%	21.4%	31.2%
2007年度	8,832	48.6%	20.8%	30.6%
2008年度	8,646	49.7%	20.5%	29.8%
2009年度	8,855	50.5%	17.8%	31.7%
2010年度	8,571	50.9%	18.6%	30.5%
2011年度	8,421	49.7%	18.4%	31.9%
2012年度	8,591	48.4%	19.3%	32.4%
2013年度	8,321	49.4%	19.6%	31.0%
2014年度	8,610	50.9%	20.1%	29.0%
2015年度	8,456	52.5%	19.3%	28.2%

資料:教育委員会企画課, 福岡県調査統計課

北九州市の社会福祉事業施設数について、2013年度、2014年度、2015年度の推移を見ると、児童福祉施設は226→230→230件、障害福祉施設は203→232→231件、老人福祉施設は102→109→114件となっている。

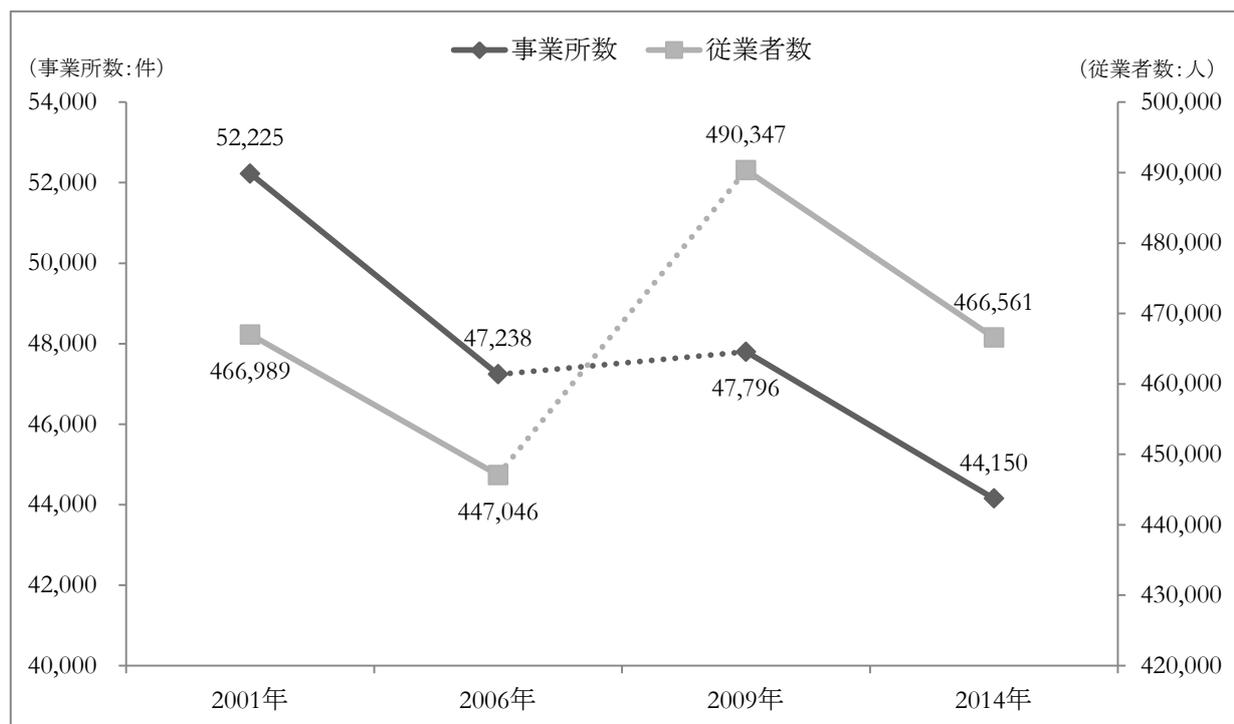


	児童福祉施設	老人福祉施設	障害者施設
2013年度	226	102	203
2014年度	230	109	232
2015年度	230	114	231

資料: 保健福祉局総務課, 子ども家庭局子育て支援課, 保育課, 産業経済局雇用政策課

(10) 北九州市における事業所数及び従業者数の推移

北九州市における事業所数及び従業者数について、2001年と2006年の事業所・企業統計調査、2009年と2014年の経済センサスから数値を抽出した(ただし、事業所・企業統計調査と経済センサスでは調査の対象は同様だが、調査手法が異なることから、時系列での比較はできない)。北九州市では、2001年では52,225件の事業所で466,989人の従業者、2014年は44,150件の事業所で466,561人の従業者となっている。



	事業所数	従業者数
2001年	52,225	466,989
2006年	47,238	447,046
2009年	47,796	490,347
2014年	44,150	466,561

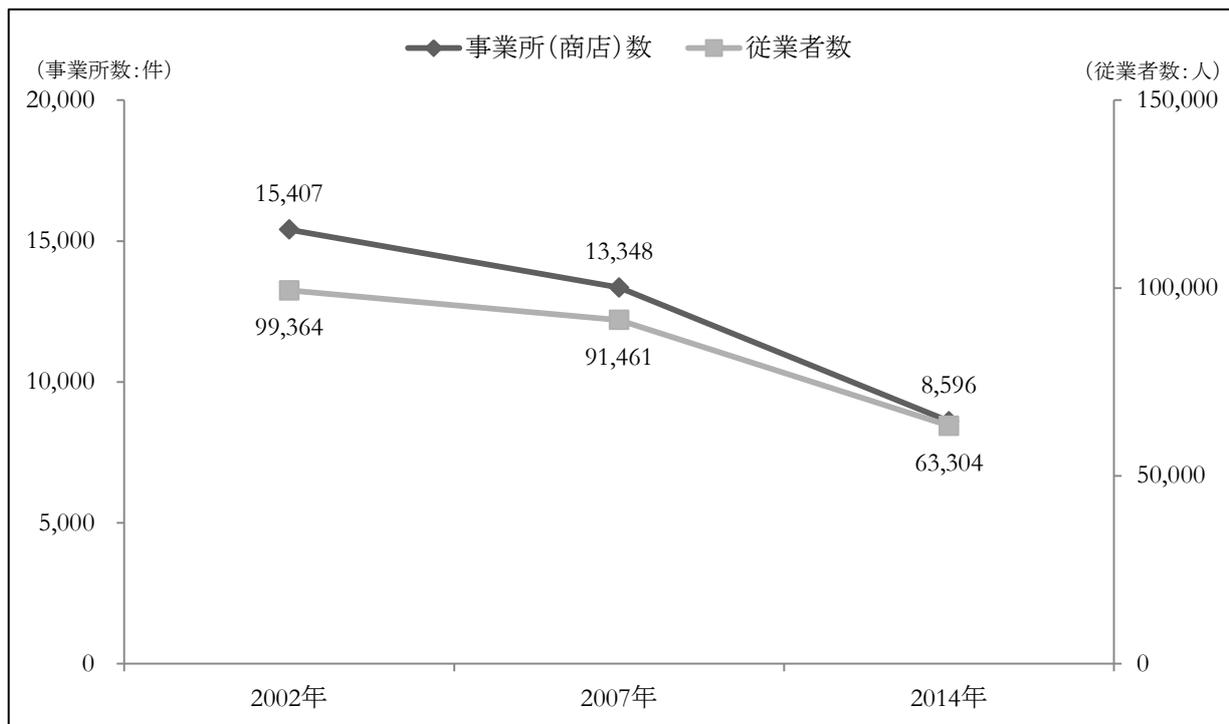
資料:2001年・2006年「事業所・企業統計調査」、2009年・2014年「経済センサス」

(11) 北九州市における商店数及び従業者数の推移

北九州市における事業所(商店)数※及び従業者数の推移について、2002年、2007年、2014年の商業統計調査から数値を抽出した。事業所(商店)数は15,407→13,348→8,596件、従業者数は99,364→91,461→63,304人といずれも減少している。

事業所(商店)数と従業者数の2002年を100%とすると、2014年の事業所(商店)数は55.8%、従業者数は63.7%と、12年間で大きく減少している。

※ここでの事業所(商店)数は、商業(卸売業・小売業)を営む事業所及び企業が調査の対象となっている。



	事業所(商店)数	従業者数
2002年	15,407	99,364
2007年	13,348	91,461
2014年	8,596	63,304

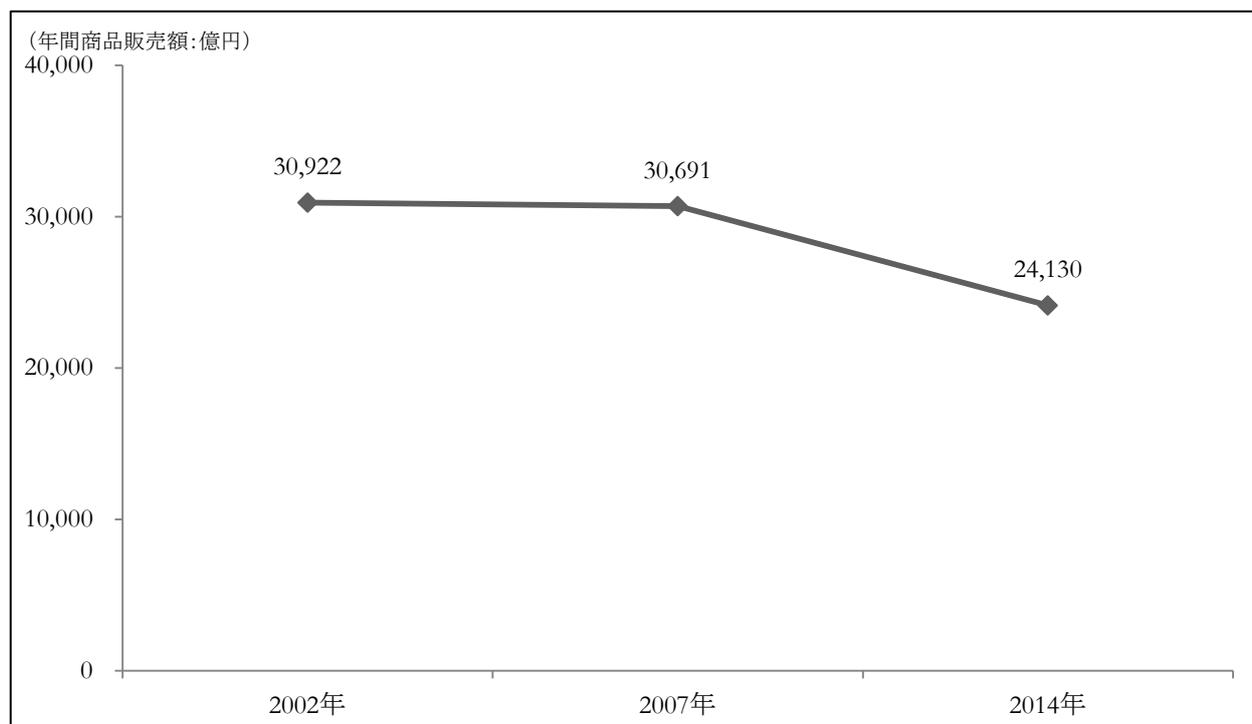
資料:総務企画局企画課「商業統計調査」

(12) 北九州市における事業所(商店)の年間商品販売額の推移

北九州市における事業所(商店)※の年間商品販売額について、2002年、2007年、2014年の商業統計調査から数値を抽出したところ、3兆922億→3兆691億→2兆4,139億円と減少している。

2002年を100%とすると、2014年の年間商品販売額は78.0%と、12年間で22.0%の減少となっている。

※ここでの事業所(商店)数は、商業(卸売業・小売業)を営む事業所及び企業が調査の対象となっている。



	年間商品販売額(億円)
2002年	30,922
2007年	30,691
2014年	24,130

資料:総務企画局企画課「商業統計調査」

2. 「まちづくりや地域経済と北九州芸術劇場との関わり」に関するグループインタビュー調査の概要

(1) グループインタビューの実施概要

① 調査の対象

- 北九州芸術劇場の劇場内で行われる公演事業や、劇場外で行われる事業(例えば学芸事業のアウトリーチや北九州芸術工業地帯など)の関係者から、北九州芸術劇場と協議のうえ候補者を抽出し、日程の調整が可能だった以下の7団体・8名を調査対象とした。

	団体種別	関連事業	グループ
【まちづくり】の観点から			
A	高等学校	学芸事業(高等学校との連携事業)	①
B	障害者福祉	学芸事業(アーティスト往来プログラム)	①
C	子ども・若者支援	学芸事業(アーティスト往来プログラム)	②
D	大道具製作	舞台管理全般、創造事業	①
【地域経済】の観点から			
A	宿泊業	自主事業全般	①
B	航空業	学芸事業(地域のアートレパートリー創造事業)	②
C			
D	公共交通	北九州舞台芸術フェスティバル(北九州芸術工業地帯)	②

② 実施時期

- 2018年1月29日10:30～11:30(グループ①)、30日10:30～11:30(グループ②)

(2) 主な調査項目

- 導入(自己紹介:氏名、所属、お仕事の内容など)
- 北九州芸術劇場(の事業)に関わったきっかけ、動機
- 北九州芸術劇場(の事業)で記憶に残っていること
- まちづくりや地域経済面における北九州芸術劇場の成果、波及効果
- まちづくりや地域経済において北九州芸術劇場に期待すること など

(3) ヒアリング調査の意見概要

①北九州芸術劇場(の事業)に関わったきっかけ、動機

【まちづくり】の観点から	【地域経済】の観点から
<ul style="list-style-type: none"> ● 32年前に演劇類型コースを立ち上げたが、生徒が集まらず、募集停止の検討があった時期に、以前からお付き合いのあった劇場から「芸術鑑賞でお芝居を見に来ませんか」というお誘いがあった。「学校に来て授業を直接教えることもできますよ」、「ワークショップに生徒を参加していただくこともできますよ」というお話からスタートをして、年々、活動が広がっていきながら、今現在がある(高等学校)。 ● 2013年から劇場とのつながりの中で、ダンスワークショップをさせていただくことになった。初めは劇場が私たちの団体のほうに来られて、「何か一緒にできることはありませんか」という話を頂き、そこからのスタートだった。どのような形で取り組めばよいのかが全く分からない状態の中で、ダンスワークショップをやることで、楽しいことから入って、障害を理解していきながら、どう接したらよいのかを、その都度考えていく新しい事業の取り組みができた(障害者福祉)。 ● 学生時代のアルバイトがきっかけで大道具の仕事に興味を持ち、大道具製作専門の会社を起業した。北九州芸術劇場が開館し、出入りしはじめて、プロデュース公演に「参加してみないか」という話が劇場からあった。劇場の技術課の業務委託を受けるに当たって、北九州市舞台事業協会がある。協会は北九州市内に本支店がある6社で、6社を合わせると100名近い規模になる(大道具製作)。 ● 団体が発足して間もない時期に、若者にとってメリットのあるプログラムを劇場に相談をした。その年か翌年に、ワークショップでアーティストを呼んでいただき、それで演劇やダンスをやった。はじめはこちらから劇場に「何かないか」と声を掛けて、若者にプラスになるものは何かないだろうかと幾つか探していた上で、劇場とマッチした(子ども・若者支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 紫川再開発事業の中で私どものホテルが1997年に建てられ、その後、リバーウォークに芸術劇場が建設された。劇場での公演のスタッフやキャストの方々の宿泊が、立地上で近いためにお仕事の話の頂くといい流れがある。事業所にとって劇場はトップ3に入るくらいの契約法人で、非常に大きなセグメントになっている。観劇でお越しになる県外からのお客さまもいらっしゃる(宿泊業)。 ● 劇場とは、公演の関係で、出演者やスタッフが多数東京と北九州を往來するので、営業面でのお付き合いはあった。今回の劇場からの声掛けがあり、「そらダン」というかたちでコラボレーションが実現した。提案自体は全て劇場からお話をいただいた。それまでは当社も宣伝効果を考えて、例えばどこかの商品とタイアップし、共同で販促するという営業面が多かったが、営業的なものではないという話になった。北九州市の企業であるという認識が、劇場と連携する強い要因だった(航空業) ● 劇場と会社の関わりはそれほど濃くなく、それまではモノレールの駅のポスターの掲示等での関わりはあったが、広告のお客さまという関わり方で、一緒に何かやろうという関わりは全くなかった。6年前くらいに劇場から「モノレールの車内で魔女がいたずらをしている写真を撮りたい」という、前例のない注文が入った。社内で何度も協議し、会社のPR面が、どうしても堅いイメージがある公共交通に対し、少し柔らかい面を見せられるのではないかと話があり、撮影を受けることになった。これを機にいろいろなことができればという考え方もあった(公共交通)。

②北九州芸術劇場(の事業)で記憶に残っていること

【まちづくり】の観点から	【地域経済】の観点から
<ul style="list-style-type: none"> ● 東京から大きなカンパニーが来る場合、技術も知識も経験も、全てにおいて目新しいものばかりだったが、今では東京に行っても遜色はないと思う。15年前の開館当初に比べると、圧倒的な底上げがあって、全国的に見ても北九州芸術劇場は、一目置かれる劇場として認知してもらえている自信や自負がある。最近では東京の舞台監督や大道具の会社から「京都の劇場で公演があるので来てもらえないか」、「交通費と宿泊費は当然出すので、来てくれないか」という依頼もある(大道具製作)。 ● 劇場を中心に若い劇団が北九州の中にはたくさんできてきた。若者が演劇をやってみたいと思えるきっかけ、ないし、それを表現することに対するお手伝いのできていることを誇らしく思っているし、やりがいのある仕事だと思っている。舞台技術の人間も若い人間が増えて、10年前に比べると、平均年齢も下がってきていると思う。(大道具製作)。 ● 劇場からアーティストとスタッフの方々が学校に来てくださって、3週間で生徒とともにお芝居をつくり、学校の教室で発表する取り組みをした。生徒が見違えるくらい成長した。演劇のレベルも確実に上に行けた気がする。生徒たちはそれを自信に思って、それからの学校生活、学校での授業が全く変わり、自信を持って卒業して社会人になっていった(高等学校)。 ● 大体、障害がある方が描く絵などに対しては、福祉的な要素でしか見ていただけなかった。しかし、劇場と一緒にダンスワークショップをやってみて、障害のある方だからではなくて、個人の個性が全面的に出ていたと思っている。新しいものを生み出す力を持っているのがアーティストと考えたときに、障害のある方は、もしかしたらすごいアーティストではないかと、気付かされた(障害者福祉)。 ● 3年前にダンスをつくったが、そのダンスはまだずっと残っている。その時に教えていただいた講師をお呼びして、若者たちに教えるという機会を毎年1回設けていて、毎年どこかで披露している。若者たちが自主的に、「いつやるのか」、「今年はやるのか」と言う。劇場の手を離れて、独立して歩いている感じである。思いもしない人までがステージに上って、人前で踊る。恥ずかしくないのかと聞くと、「いや、みんなで踊るので、大丈夫だ」と言う(子ども・若者支援)。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 劇場の公演に出演する芸能関係の方々を多く対応してきている。劇場のスタッフの方々が下支えをしっかり対応していらっしゃるのを見て感慨深い思いをしたことがある。そうした中で、安心して芸能関係の方が泊まれるホテルのハウツーは自然に身に付いていると思う。その後、大手のプロモーターなど主催者からの宿泊の依頼が増えてきている(宿泊業)。 ● 劇場との「そらダン」というプロジェクトで会社のいろいろな施設でいろいろな職種の人が踊り、映像を作った。会社でダンスができる事業に携わらせていただき、仕事のモチベーションも上がった。またお客さまからも声を掛けてもらえた。一緒に参加した社員から「ダンスがあるおかげで、仕事が楽しくなった」という声や、社内の仲間たちのモチベーションも上がり、お客さまからもいい声をいただいている(航空業)。 ● 会社の10周年のイベントを格納庫で行ったが、その時に「そらダン」がきっかけで、ダンスチームを別でつくり、披露させていただいた。それからずっと今も活動している。きっかけをいただいたおかげで、本当に今自分たちが楽しくやれており、会社も応援してくれているという状況である(航空業)。 ● 写真撮影とは別に、モノレール演劇にしても、やはり今まではそのような使い方をしていないので、かなりいろいろな問題が出てきた。それを一個ずつ解決していかなければいけないのだが、モノレールの車内を使ったリハーサルを見ると、一生懸命に取り組んでいて、逆に、それを見た社員が「それならこういう使い方もできるのではないかとアイデアが挙がった。それがやはり一番印象に残っている。劇場のおかげで会社としてもレベルアップではないが、いろいろなことができるようになったのではないかとと思う(公共交通)。

③まちづくりや地域経済面における北九州芸術劇場の成果、波及効果

【まちづくり】の観点から	【地域経済】の観点から
<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉というと、入所あるいは通所する施設と自宅が生活の中心となり、社会と接する機会が限られるが、劇場とのワークショップでは、1、2年目は福祉会館の中でやっていたが、3年目には劇場で多くのワークショップを実施した。いつもの使い慣れた場所を変えることは、チャレンジだったが、劇場に行くために、「自分で行くためにどうすればよいか」、「ヘルパーさんを探してみようか」、「知り合いに頼んでみようか」などと社会に出る手法を、本人も支援者も考えるようになる(障害者福祉)。 ● 学校現場では、卒業した生徒が北九州に残り、まちづくりや地域を元気にするために、生徒を通じた人材育成という関わり方ができると思う。北九州をいかに元気なまちにしていくかという点で、劇場と学校と私の目指している部分は、一致していると思う。私どもの学校で演劇を学んで卒業した生徒が地域に残り、演劇活動をしている生徒も出てきている。それを通じて地域が活性化していければよいと思う。北九州市が福岡市に負けていない部分はどこかと言えば、「福岡市には博多座はあるけれども北九州芸術劇場はない」ということだ(高等学校)。 ● 小劇場で舞台美術をやった時、その公演をご覧になったお客様で CM などを製作しているような方から、「今度 CM をつくるので、美術を担当してもらえませんか」と電話がかかってきた。劇場の経済波及効果というのは、未知数だと思う。劇場に来るということは、リバーウォークに来て、食事をし、駐車場なども使う。その方が遠方から友達を呼べば、宿泊もする。だから演劇を通して活動すること自体が何かしらを生むのだという体感が、実体験としてある(大道具製作)。 ● 最初はあいさつもできなかった若者が、演劇を5年も続けると後輩に指導やアドバイスするような立場になったりもする。積み重なると、舞台に立つという自信だけでなく、社会で活動することの自信にもつながる。劇場のポテンシャルは、経済的にも内面的にもすごいものがあると思う(大道具製作)。 ● 経済効果といえば、おそらく若者たちが働き始めるので、地域経済にしっかり税金が落ちていくというスタイルができてくると思う。納税者でなかった人が、納税者になるというかたちの経済効果があると思う。2015年度は十数人が参加して、そのうち8名くらいはその年に就職に結び付いている。演劇・ダンスの効果だけではないと思うが、それでも効果は上がっていると思う(子ども・若者支援)。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼少期の頃の紫川は、とてもきれいなものではなかった。紫川再開発計画を発端に、県外から来られたお客さまが、この川沿いの景色の中で、劇場が芸術文化の発信事業をすることは、よい意味で県外のお客さまの北九州のイメージを裏切ってくれる場所になっていると感じている。最近、宝島社の「住みたいまちランキング」のシニア世代部門で北九州市が1位で選ばれたという報道を聞いて、まちの魅力、活性化、人材の育成の成果が、少しずつ出ているのではないかという気もした(宿泊業)。 ● 私たちの経済面というと、やはり運輸収入というのがメインになる。イベントを通し、劇場の演劇を通して1回やるごとに全部で300～400人くらいの乗車があるので、その運賃自体がうちとしての経済活動というかたちになる。当然それもあるが、演劇を見て「少し身近に思えてきた」という声がかなり多かった。今まで来ていなかった人が来ていただけとなると、やはり経済活動、波及効果を含めて上がってきているのではないか(公共交通)。 ● 最初に当社が参加したのは、社員をもっと元気にしようというところがあった。また、会社の中の縦横の垣根、会社的・部署的に縦割りになっているので、この事業をきっかけに横の連携や交流をつくり、社内文化をよくしたいところがあった。そういった会社の風通しをよくするという面で、すごく効果があったと思っている。ダンスを通じて、そういった風土を変えていくようなところは劇場も考えていたと思っている。航空会社はお高く見えてしまうところもあるので、社会に対して柔らかい面も見せるとか、違った姿で親しみを感じてもらおうとか、そのようなところはあった。だが最終的に、どちらのほうの効果が大きかったかを考えると、社内のほうが大きかったような気がする(航空業)。 ● 羽田空港でも当社の名前を、ダンスを通して知ってもらうことができた。また、新聞の取材も何社か来ていただき、そういう意味では始まりがこの「そらダン」で、そこからダンスチームに発展していき、それがこの波及効果、会社を宣伝できるように成長したのではないかと思っている(航空業)。

④まちづくりや地域経済において北九州芸術劇場に期待すること

【まちづくり】の観点から	【地域経済】の観点から
<ul style="list-style-type: none"> ● 卒業生と私どもの学校とで、職員と卒業生とで係わりを持てるようになってきた。それはやはり3年間の中で学べたという生徒の充実感だと思う。今年の3年生は18名いるが、進路先で「スタッフや演劇関係の専門の勉強をしたい」と言う生徒が、4、5人出てきていて増えている。そういった卒業生が北九州で仕事を始めて、学校とも地域ともつながっていくとい(高等学校)。 ● 「演劇や芸術というのは、こんなにすごいのだよ」というのを、一般の人々にどうやって見せるのか。そこを劇場はいろいろなことを考えられている。今がゴールではないと思う。このような活動をもっと広げていくことが、北九州が元気になっていく道である。何を建てたからではなくて、人間をどう育てていくのかというところで、劇場の役割は非常に大きいと思う。その中心基地のような、発信地のような役割を、今後も期待していきたい(高等学校)。 ● 今も人材育成に取り組んでいるが、まだ足りない部分、急務な部分も抱えている。北九州市舞台事業協会で業務委託を受けているが、徐々に委託金は下がっている。演劇に携わる人材育成等もそうだが、お金がかかる。経営努力もやっている。10年、15年後を長期的に見ていくと、経営者としてすごく不安がある。現状のような人材の状況を15年後も提供できる保証はできない。今は全国的に見てもスキルも持った若い優秀な人材がいる。劇場で仕事することにも誇りを持てるような若い人間を育成していくことが大事だと思う(大道具製作)。 ● 北九州を盛り上げる方法は、芸術文化を発信して、楽しいまちにする。楽しいまちにすれば、お客さんが来て、ホテルに泊まる方も多くなり、市民は楽しくなる。老後を過ごす皆さんが「来たけれども、つまらないまちだった」と言って出ていくのではなくて、もっとよいまちにしていく。そのような流れが何かできると、一番面白いのではないかと思った。福祉や教育を理論的に講演会や授業で教えても知識として習得はできるが、心からその必要性を伝えることは難しい。音楽、演劇、ダンスを通じて伝えていくほうが楽しい。そういった流れをつくっていくキーステーションに芸術劇場がなるとよい(障害者福祉)。 ● 北九州の地元の資源をもっと生かしてもらえるといい。劇場があることでつながれることは本当にたくさんあるので、劇場をハブ役としていろいろなところがつながっていくと、それは北九州市の一つの財産となるだろうと思う(子ども・若者支援) 	<ul style="list-style-type: none"> ● MICE という側面で、学会、大会、イベントの動員数になると、ホテル業でここ数年、非常に効果が高いと思っているものが、アニメの声優の催し物が一番波及効果が今は高いだろうと見ている。今は舞台芸術としては高尚なものが多いと思うが、年間の計画の中で、ポップカルチャー的なものを入れても、地域の活性化という意味ではつながってくるのではない(宿泊業)。 ● この5年前、私が劇場と一緒に企画をするまでは、正直、全く知らない文化だった。地元にもいろいろな劇団があり、活動していたことを知った。まだ知らない人が他にも結構いると思う。それが目に入るような環境づくりをするには、劇場が主導するのが一番効果があるのではないか。そうすると、さらに北九州市のブランドになっていくのではないかと思う。ブランド化すると、またさらに活動しやすくなる。例えば小倉駅の JAM 広場のマルチビジョンにモノレール演劇の映像が流れているようなことがあれば、さらに広がっていくのではない(公共交通)。 ● 今日、せっかくお会いできたので、北九州芸術劇場とコラボした企業同士と一緒に何かできたら、それはまたすごく楽しいのではないかと思った(航空業)。 ● どうしても北九州は柄の良くないイメージがある中で、このようなイメージアップやにぎわいづくり、他の地域とは少し違うことをやっているような、北九州のキーワードに劇場の活動も入ってくるようになるというと思う。観光で人の往来が増えたと、当社も波及的などころもあるので、もちろん当社も東京から人を連れてくるように、東京でのプロモーションを頑張ろうというところで、うまく合うものがあればと思う(航空業)。

北九州芸術劇場事業評価調査(その14) 報告書

調査・発行 | 公益財団法人北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1丁目1-1-11
tel. 093-562-2655 fax. 093-562-2588

調査委託 | 株式会社ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室
〒100-0073 千代田区九段北4-1-7
tel. 03-3512-1883 fax. 03-5211-1084

発行日 | 2018年3月

©(公財)北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場
(株)ニッセイ基礎研究所
無断転載・複写を禁じます。